北杜市埋蔵文化財調査報告　第 37 集

山 梨 県 北 杜 市

山崎第 4 遺跡

2011
北杜市役所建設部
北杜市教育委員会

北杜市埋蔵文化財調査報告　第 37 集

山 梨 県 北 杜 市

やまざきだいよん　いせき

山崎第４遺跡

2011
北杜市役所建設部
北杜市教育委員会

例　　言

1. 本書は北杜市教育委員会が公営住宅整備事業に伴い平成21年度に実施した山崎第4遺跡発掘調査報告書である。
2. 調査地点は山梨県北杜市大泉町西井出3000-2番地ほかで、調査面積は4,940㎡である。
3. 山崎第4遺跡は、遺跡番号5-045、集落跡、縄文時代･平安時代として北杜市遺跡台帳に記載され、周知されている。
4. 調査は、北杜市役所建設部建築住宅課が所管する公営住宅整備事業市営山崎団地増築工事に伴い、平成21年度に北杜市教育委員会が記録保存のために実施した。
5. 調査期間は現地調査が平成21年4月20日から平成21年11月27日までの79日間に実施した。整理作業は現地調査終了後、平成23年3月31日まで発掘調査報告書作成のための調査記録、出土品の整理作業を実施した。
6. 本調査は、北杜市が山梨県地域住宅交付金の交付を受けて調査経費を負担し、北杜市教育委員会が実施した。
7. 調査組織は以下のとおりである。
   調査主体　　北杜市教育委員会教育長　井出武男
   調査担当　　北杜市教育委員会生涯学習課文化財担当　佐野隆・千葉毅
   調査事務局　北杜市教育委員会生涯学習課
8. 本書の執筆、編集は、佐野があたった。
9. 調査において、石器実測業務を株式会社アルカ、空中写真撮影を株式会社スカイサーベイに委託した。
10. 本調査に係る調査記録および出土品は、北杜市埋蔵文化財センターが保管している。
11. 調査参加者（五十音順）
    厚芝金夫、浅野好生、粟澤美香、石渡節子、板倉良広、井上町子、大網信良、大橋晴子、小澤久恵、長田重子、小野一英、片山和江、柏木恵美、風間まゆみ、金井紋子、岸上学、窪田信一、小泉かおる、小松原俊一、小松原千津、佐野菜津子、清水和彦、清水さゆり、清水洋江、清水ヤス子、清水泰倫、鈴木節夫、鈴木照香、高木聡美、高田京子、田中彰、土橋清成、西川大、野口昭政、畠山己幸、長谷川規愛、藤原喜美子、三井照平、三井喜満、皆川禮子、森脇つや子、矢ケ崎重浩、矢ケ崎初、八巻五月、八巻まさ子、八巻久子、山田雅子、山路理恵、山中森男、渡辺陽子

凡　　例

1. 報告書中の地図は、国土地理院発行2万5千分の一数値地図『甲府』、北杜市役所発行『北杜市全図』、旧大泉町発行『大泉町全図』、北杜市役所地理情報システム収録図を用いた。
2. 報告書中の土壌および土器胎土の色調は、『新版標準土色帖』財団法人日本色彩研究所に拠った。
3. 報告書中の遺構図面および遺物実測図の縮尺は、各図版に付した。
4. 報告書中の遺構図面中のトーンは、焼土範囲を示す。
5. 報告書中の石器実測図中のトーンは、敲き痕を示す。
6. 上記以外のトーンに関しては、各図面に個別に凡例を付した。
7. 付録CD-Rには、「土坑観察表」「ピット観察表」「土器観察表」「石器観察表」「遺物集計表」が収録される。

例言

凡例

目次

第１章　調査の経過と遺跡の概要…… 1
第１節　調査の経過…… 1
第２節　遺跡の概要…… 1
第３節　調査の方法…… 2
第２章　調査された遺構と遺物……10
第１節　竪穴住居跡……10
第２節　土坑……23
第３章　山崎第４遺跡出土石器の分析…… 145
第１節　対象資料と所見の記載方法…… 145
第２節　使用痕分析…… 145
第４章　調査の成果と総括…… 155

写真図版

抄録

図版目次

第１図　周辺の遺跡 …… 4
第２図　遺跡の位置図 …… 9
第３図　調査区位置図 …… 9
第４図　遺構配置図（竪穴住居跡）…… 27
第５図　遺構配置図（土坑・ピット (1)）…… 28
第６図　遺構配置図（土坑・ピット (2)）…… 29
第７図　1 号・2 号・3 号住居跡 …… 30
第８図　1 号住居跡炉、出土遺物 …… 31
第９図　1 号住居跡出土遺物 (1) …… 32
第 10 図　1 号住居跡出土遺物 (2) …… 33
第 11 図　1 号住居跡出土遺物 (3) …… 34
第 12 図　1 号住居跡出土遺物 (4) …… 35
第 13 図　1 号住居跡出土遺物 (5) …… 36
第 14 図　1 号・2 号住居跡出土遺物 …… 37
第 15 図　3 号住居跡・71 号土坑出土遺物 …… 38
第 16 図　4 号住居跡、4 号住居跡炉、出土遺物 …… 39
第 17 図　5 号住居跡 …… 40
第 18 図　5 号住居跡出土遺物 (1) …… 41
第 19 図　5 号住居跡出土遺物 (2) …… 42
第 20 図　5 号住居跡出土遺物 (3) …… 43
第 21 図　5 号住居跡出土遺物 (4) …… 44
第 22 図　5 号住居跡出土遺物 (5) …… 45
第 23 図　6 号・13 号・39 号・40 号住居跡 …… 46
第 24 図　6 号住居跡 …… 47
第 25 図　6 号住居跡断面図、6a 号住居跡出土遺物 …… 48
第 26 図　6a 号住居跡出土遺物 …… 49
第 27 図　6 号住居跡出土遺物 (1) …… 50
第 28 図　6 号住居跡出土遺物 (2) …… 51
第 29 図　6 号住居跡出土遺物 (3)、39・40 号住居跡 …… 52
第 30 図　39 号住居跡出土遺物 …… 53
第 31 図　13 号住居跡、13 号住居跡炉 …… 54
第 32 図　13 号住居跡埋甕、焼土・炭化材検出状況、出土遺物 …… 55
第 33 図　9 号住居跡、9 号住居跡炉 …… 56
第 34 図　9 号住居跡出土遺物 (1) …… 57
第 35 図　9 号住居跡出土遺物 (2) …… 58
第 36 図　9 号住居跡出土遺物 (3) …… 59
第 37 図　9 号住居跡出土遺物 (4) …… 60
第 38 図　9 号住居跡出土遺物 (5)、10 号住居跡、出土遺物 …… 61
第 39 図　12 号住居跡、12 号住居跡炉 …… 62
第 40 図　12 号住居跡出土遺物 (1) …… 63

第 41 図　12 号住居跡出土遺物 (2) …… 64
第 42 図　17 号住居跡 …… 65
第 43 図　17 号住居跡炉 …… 66
第 44 図　17 号住居跡出土遺物 (1) …… 67
第 45 図　17 号住居跡出土遺物 (2) …… 68
第 46 図　17 号住居跡出土遺物 (3) …… 69
第 47 図　17 号住居跡出土遺物 (4) …… 70
第 48 図　18 号住居跡、18 号住居跡炉 …… 71
第 49 図　18 号住居跡出土遺物 (1) …… 72
第 50 図　18 号住居跡出土遺物 (2) …… 73
第 51 図　20 号住居跡 …… 74
第 52 図　20 号住居跡炉、柱穴、出土遺物 (1) …… 75
第 53 図　20 号住居跡出土遺物 (2)、21 号住居跡 …… 76
第 54 図　21 号住居跡炉、埋甕、出土遺物 (1) …… 77
第 55 図　21 号住居跡出土遺物 (2) …… 78
第 56 図　21 号住居跡出土遺物 (3)、22 号住居跡、炉、出土遺物 …… 79
第 57 図　24 号住居跡 …… 80
第 58 図　24 号住居跡炉、埋甕、柱穴 …… 81
第 59 図　24 号住居跡出土遺物 (1) …… 82
第 60 図　24 号住居跡出土遺物 (2) …… 83
第 61 図　24 号住居跡出土遺物 (3)、25 号住居跡 …… 84
第 62 図　25 号住居跡柱穴、出土遺物 (1) …… 85
第 63 図　25 号住居跡出土遺物 (2) …… 86
第 64 図　26 号住居跡 …… 87
第 65 図　36 号・37 号住居跡 …… 88
第 66 図　34 号住居跡 …… 89
第 67 図　34 号住居跡炉 …… 90
第 68 図　26 号住居跡出土遺物 …… 91
第 69 図　36 号・37 号住居跡出土遺物 …… 92
第 70 図　34 号住居跡出土遺物 …… 93
第 71 図　27 号・35 号住居跡 …… 94
第 72 図　27 号住居跡炉、柱穴 …… 95
第 73 図　27 号・35 住居跡・73 号土坑出土遺物 …… 96
第 74 図　28 号住居跡、柱穴、出土遺物 …… 97
第 75 図　29 号・30 号住居跡 …… 98
第 76 図　29 号・30 号住居跡炉、出土遺物 …… 99
第 77 図　31 号住居跡 …… 100
第 78 図　31 号住居跡出土遺物 (1) …… 101
第 79 図　31 号住居跡出土遺物 (2) …… 102
第 80 図　32 号住居跡、出土遺物 (1) …… 103
第 81 図　32 号住居跡出土遺物 (2)、33 号住居跡 …… 104
第 82 図　33 号住居跡出土遺物 (1) …… 105
第 83 図　33 号住居跡出土遺物 (2) …… 106
第 84 図　33 号住居跡出土遺物 (3) …… 107
第 85 図　33 号住居跡出土遺物 (4) …… 108
第 86 図　33 号住居跡出土遺物 (5) …… 109
第 87 図　33 号住居跡出土遺物 (6) …… 110
第 88 図　38 号住居跡、出土遺物 …… 111
第 89 図　41 号・42 号住居跡、42 号住居跡出土遺物 …… 112
第 90 図　43 号住居跡、出土遺物 …… 113
第 91 図　44 号・45 号住居跡、出土遺物 …… 114
第 92 図　46 号住居跡、46 号住居跡炉 …… 115
第 93 図　46 号住居跡出土遺物 (1) …… 116
第 94 図　46 号住居跡出土遺物 (2) …… 117
第 95 図　46 号住居跡出土遺物 (3) …… 118
第 96 図　46 号住居跡出土遺物 (4)(1/2)、47 号住居跡、出土遺物 …… 119
第 97 図　48 号住居跡、出土遺物 …… 120
第 98 図　1 号・2 号土坑、出土遺物 …… 121
第 99 図　4 号・5 号土坑、出土遺物 …… 122
第 100 図　8 号土坑、出土遺物 …… 123
第 101 図　39 号・44 号・62 号土坑、出土遺物 …… 124
第 102 図　72 号・97 号・112 号土坑、出土遺物 …… 125
第 103 図　77 号土坑、出土遺物 …… 126
第 104 図　113 号・119 号・123 号土坑、出土遺物 …… 127
第 105 図　127 号・130 号土坑、出土遺物 …… 128
第 106 図　135 号土坑、出土遺物 …… 129
第 107 図　137 号・147 号土坑、出土遺物 …… 130
第 108 図　151 号土坑、出土遺物 …… 131
第 109 図　151 号土坑出土遺物、183 号・187 号・200 号土坑、出土遺物 …… 132
第 110 図　205 号・207 号・209 号土坑、出土遺物 …… 133
第 111 図　213 号・214 号土坑、213 号土坑出土遺物 …… 134
第 112 図　214 号土坑出土遺物、217 号土坑、出土遺物 …… 135
第 113 図　229 号・235 号・243 号・245 号土坑、出土遺物 …… 136
第 114 図　252 号土坑、出土遺物 …… 137
第 115 図　その他の土坑出土遺物 (1) …… 138
第 116 図　その他の土坑出土遺物 (2) …… 139
第 117 図　その他の土坑出土遺物 (3) …… 140
第 118 図　その他の土坑出土遺物 (4) …… 141
第 119 図　その他の土坑出土遺物 (5) …… 142
第 120 図　ピット出土遺物 …… 143
第 121 図　その他の遺構・試掘溝・遺構外出土遺物 …… 144
図版 1　PJ33- 中越式期 …… 148
図版 2　PJ01- 諸磯 a から b2 式期 …… 149
図版 3　PJ17- 曽利 I・II 式期 (1) …… 149
図版 4　PJ17- 曽利 I・II 式期 (2) …… 150
図版 5　その他 (1) …… 150
図版 6　その他 (2) …… 151
図版 7　その他 (3) …… 152

表目次

第 1 表　周辺の遺跡地名表 …… 5
表 1　石器器種別集計表 …… 153
表 2　石器石材別集計表 …… 154
表 3　石器器種別集計表 (土坑) …… 154

第１章　調査の経過と遺跡の概要

第１節　調査の経過

平成 16 年度に 8 町村が合併して発足した北杜市では、老朽化した公営住宅の整理統合と再整備を進めており、平成 21 年度には大泉町西井出 3000-2 番地ほかで市営山崎団地の増築と住宅のための市道工事が計画された。市営山崎団地では、それまでに住宅建設に伴い旧大泉村教育委員会が平成元年と平成 4 年に発掘調査を実施し、縄文時代と平安時代の集落跡が調査されていた。新しい団地の増築用地は平成 4 年調査地点の南に隣接するため縄文時代等の集落跡が連続することが明らかであった。そこで公営住宅整備を担当する北杜市役所建設部建築住宅課と市教育委員会生涯学習課とで工事計画と遺跡の保護措置との調整協議を重ねたが、遺構の検出深度が浅いうえに、計画された住宅棟は木造 2 階建が 3 棟、計 20 戸分と規模の大きな建築物であること、入居者用駐車場の必要性から用地全体の 3 段造成が必要なこと、交通の便を図るための延長 320m、幅 4.5m の市道新設も必要なことなどの理由により、遺跡の現地保存は困難であると判断し、着工前に埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査を実施することとした。

調査は平成 21 年 4 月 20 日に重機により荒廃した用地の除草作業から着手した。事前の試掘調査を実施していないため、住宅と市道用地に 19 本の試掘溝を重機を用いて発掘し、遺構の分布範囲と密度、時代を確認した。その結果、用地のほぼ全面に遺構が分布することを確認し、調査区域 4,940 ㎡を設定した。
開発事業者と調査者がともに北杜市役所（教育委員会）であることから、調査に際して協定書等は作成せず、調査に必要な予算を市教育委員会が計上し、建築住宅課は調査費財源として地域住宅交付金を計上し調査費に充当する予算措置を講じた。調査対象としたのは大泉町西井出 3000-2 番地ほかの用地 5,560 ㎡（うち住宅部分 4,120 ㎡、道路部分 1,440 ㎡）で、実際に発掘調査を実施した面積は、遺構が検出されない急傾斜地を除く 4,940 ㎡である。調査は平成 21 年 11 月 27 日に完了した。調査経費は平成 21 年度の現地調査 11,612,571 円、平成 22 年度に実施した整理作業費が 6,360,706 円、計 17,973,277 円で、北杜市が 55% を支出し、山梨県地域住宅交付金 45% を充当した。

本調査に係る公文書等を以下に挙げる。

北杜建住第 111 号　平成 21 年 4 月 17 日　埋蔵文化財発掘の通知について
北杜生学第 117 号　平成 21 年 4 月 21 日　埋蔵文化財発掘調査の報告について
教学文第 337 号　　平成 21 年 5 月 15 日　周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について
北杜生学第 725 号　平成 21 年 11 月 30 日　埋蔵文化財調査終了報告
北杜生学第 726 号　平成 21 年 11 月 30 日　埋蔵文化財保管証
北杜生学第 727 号　平成 21 年 11 月 30 日　埋蔵物発見届
北杜生学第 728 号　平成 21 年 11 月 30 日　埋蔵文化財保管請証

第２節　遺跡の概要

調査対象となった周知の埋蔵文化財「山崎第 4 遺跡（やまざきだい 4 いせき）」は北杜市遺跡台帳に遺跡番号 5-045、集落跡、縄文時代・平安時代として登録され周知されている。

本格的な発掘調査は、昭和 53 年度に旧大泉村教育委員会が県営圃場整備事業に伴い、東に隣接する山崎第 1 遺跡（現在は寺所第 2 遺跡として周知）で実施した試掘調査と昭和 54 年度の山梨史学研究会による発掘調査が最初である。このときには縄文時代中期藤内式期の住居跡 3 軒、土坑 2 基が検出されている。

先述したとおり平成元年と平成 4 年には、村営山崎団地建設に伴い旧大泉村教育委員会が 3 次にわたる発掘調査を 2,269 ㎡において実施し、縄文時代前期前葉の住居跡 3 軒、前期後葉の住居跡 7 軒、平安時代の住居跡 2 軒、土坑 75 基、集石遺構 9 基を調査している。

本書に報告する平成 21 年度実施の発掘調査は、第 4 次調査となるが、4,940 ㎡の調査面積において、縄

文時代前期の住居跡 20 軒、中期の住居跡 15 軒、土坑 250 基、平安時代の住居跡 1 軒が検出され、コンテナ 57 箱分の主に縄文時代の土器と石器が出土している。

山崎第 4 遺跡は、八ヶ岳南麓の標高 830m から 805m 付近に位置している。八ヶ岳南麓には八ヶ岳の湧水を水源とする小河川が南流し、大小の河谷を形成している。本遺跡の西方 50m には東衣川が流れ、東方 350m には泉川が流れる。遺跡はこの両河川にはさまれた緩く南に傾斜する山麓台地に展開している。遺跡のすぐ東側には泉川の旧河道と思われる谷地形が入り、この谷の西側を山崎第 4 遺跡、東側を天神遺跡、寺所第 2 遺跡と呼んでいる。

大泉町は大規模な縄文時代遺跡が濃密に分布することで知られる。縄文時代前期には八ヶ岳南麓の拠点的な地域として大規模な集落遺跡が形成され、晩期の国指定史跡金生遺跡にまで連綿と土地利用されている。山崎第 4 遺跡はこれらの大規模集落遺跡のなかにあっては短期間、小規模な遺跡であるが、東側の谷地形の先には大規模集落遺跡があり、それらと一体となった集落跡とみるべきであろう。

周辺の遺跡を概観しておく。

遺跡の北東 280m には縄文時代前期後葉から中期初頭の集落跡、天神遺跡がある。昭和 56 年と 57 年に山梨県教育委員会が県営圃場整備事業に伴い発掘調査し、諸磯 b 式から c 式期の住居跡 49 軒、五領ヶ台式期の住居跡 12 軒、曽利式期の住居跡 5 軒、平安時代の住居跡 8 軒、土坑 500 基以上を検出している。諸磯式期には直径 150m にもおよぶ環状集落を形成し、諏訪湖地域からの黒曜石流通の拠点としても注目されている。

遺跡の南東 250m には寺所第 2 遺跡がある。県営圃場整備事業に伴い平成 7 年度に旧大泉村教育委員会が発掘調査し、9,652 ㎡の調査範囲で縄文時代中期初頭から末葉の住居跡 93 軒、平安時代の住居跡 37 軒、土坑 250 基などが検出されている。

遺跡の南東 1.2km には縄文時代前期前葉から中期末葉に及ぶ大規模な集落跡、甲ッ原遺跡がある。平成元年から平成 9 年にかけて県道建設等に伴い山梨県教育委員会と旧大泉村教育委員会が繰り返し発掘調査を実施し、100 軒を超える住居跡と多数の土坑を検出している。時期が異なる複数の環状集落跡が重複しているとみられ、長坂町酒呑場遺跡とともに八ヶ岳南麓の最大規模の集落跡と目される。

遺跡の北東 1km には縄文時代中期中葉の集落跡、古林第 4 遺跡がある。平成 4 年度に県営圃場整備事業に伴い旧大泉村教育委員会が発掘調査し、中期中葉の住居跡 20 軒、土坑 177 基などを検出している。

国史跡に指定された縄文時代後期から晩期の集落跡、金生遺跡は、本遺跡から南南西 0.9km 地点にある。石棺墓を中心とする配石群と住居跡から構成される晩期の集落跡は、八ヶ岳山麓中、最大規模であり、昭和 58 年に史跡指定されている。

このほかにも大泉町には多数の縄文時代遺跡が知られており、遺跡が多い北杜市域でも特に重要な地域となっている。雄大な八ヶ岳の景観、広大な南麓の豊かな自然環境、八ヶ岳西麓経由で黒曜石原産地につながる地理環境が、こうした特異な状況の背景にあるものと思われる。

第 3 節　調査の方法

調査の方法を記しておく。住宅増築用地は、荒廃した畑であった。0.7t 重機を用いて除草し、表土を剥ぎ取った。長年の荒廃で雑木が繁茂した箇所もあり、雑木の根を慎重に抜根し、あるいは残しながら表土を剥ぎ取った。浅いところでは地表から 20cm 程度で縄文時代の土器と石器が出土し始める。これらを取り上げながら、撹乱が少なく遺構が確認できる深さまで慎重に掘り下げた。

表土剥作業と併行して、調査に伴う測量の基準点を設置した。基準点は住宅建設の測量のために設置された世界測地系第Ⅷ系に基づく基準点を用い、必要に応じて下位基準点を設置した。遺構の形状、遺物の出土位置などは光波測量器を用いて、公共座標系により測量、記録した。調査の記録写真は中判カラーネガフィルムと 35mm 判デジタルカメラにより撮影した。

出土遺物は、作業の能率を勘案し、概ね 3cm 大以上の土器破片、石器、石材は全点を光波測量器をもっ

て出土位置を記録した。3cm未満の土器破片、黒曜石などの微小な剥片は、遺構一括、遺跡一括として取り上げた。

測量の都合上、遺構と遺物の出土位置は以下の略記号をもって表現した。遺物は以下の遺構記号の下位に遺物番号を付した。遺物の注記には注記専用プリンターを用い、山崎第4遺跡のコード番号「5-045」に、遺構略記号と番号、さらに遺物番号を記載した。「5-45　PJ-001　0001」は、山崎第4遺跡1号住居　取り上げ番号1を意味する。

PJ-000 縄文時代の住居跡
DK-000　土坑
PT-000　ピット
IG-000　遺構外出土遺物

必要に応じ遺構の微細図を作成した。作図は1/10、1/20を基本とし、作図原点は光波測量器をもちいて測量記録した。

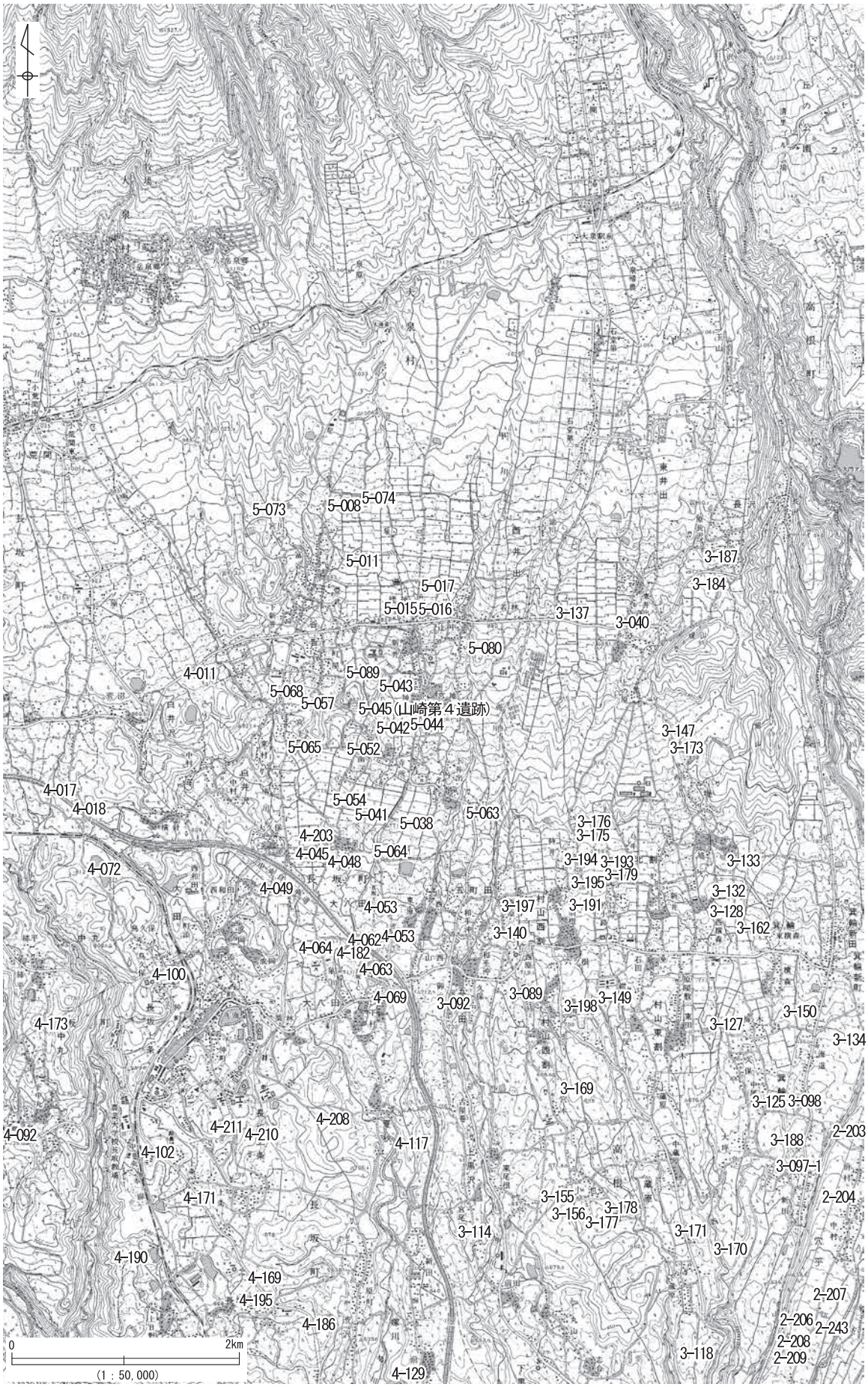
整理作業では、遺構図面、土器および石器等の実測図を作成した。遺構図面は光波測量器を用いて作図した測量原図をAdobe社製Illustratorで編集加工し作成した。作業員による遺構微細図、遺物実測図も同じソフトを用いてデジタルトレースし、報告書原稿とした。

報告書中の遺構、遺物の時期については、山梨県史に従った（山梨県1999）。

報告書に掲載した遺物は、図版番号順に整理し、市埋蔵文化財センターが収蔵保管している。

参考文献

伊藤公明　1996 「寺所第2遺跡」『年報　平成7年度』北巨摩市町村文化財担当者会
大泉村　2002 『古林第4遺跡Ⅱ　大泉村埋蔵文化財調査報告書第16集』
山梨県　1998 『山梨県史資料編1　原始・古代1　考古(遺跡)』
山梨県　1999 『山梨県史資料編2　原始・古代2　考古(遺構・遺物)』



第１図　周辺の遺跡（1/50,000）

第１表　周辺の遺跡地名表

縄文前期初頭

遺跡番号	遺跡名	遺構数
5-045	山崎第4	竪穴住居6軒(前期初頭～前期中葉)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)
3-184	薬師堂	時期不明の土坑63基(縄文早期～中世)。
4-064	小屋敷	竪穴住居2軒。竪穴遺構2基。縄文と平安の土坑30基(木島式 1・前期初頭以前 1を含む)とピット55基。
4-102	酒呑場	竪穴住居(前期初頭 2・前期後葉38・中期初頭 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・縄文 3・中期前～中葉1・井戸尻～曽利1)。約5850基の土坑(諸磯～曽利ｖ)。
5-054	金生	竪穴住居1軒。
5-063	甲ッ原	縄文前期初頭～平安までの住居113軒(前期初頭 1・諸磯 22・五領ケ台 7・狢沢新道 9・藤内井戸尻 31・井戸尻～曽利 1・曽利 22・中期 6・中期末～後期初頭 1・平安 4・不明 9)。掘立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曽利 3・不明 2)。諸磯～曽利までの土坑669基(諸磯 29・五領ヶ台 2・狢沢,新道 3　藤内、井戸尻 21・曽利 50・中期 7)。

縄文前期前葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-089	西ノ原B	竪穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
4-190	池之平北	竪穴住居3軒。土坑群(縄文～中世)。
5-042	寺所第2	竪穴住居1軒。
5-063	甲ッ原	竪穴住居1軒。

縄文前期中葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
5-063	甲ッ原	前期中葉～中期後葉の土坑94基(前期中葉 1・前期後葉 2・中期後葉の土坑群)。
5-042	寺所第2	竪穴住居2軒。土坑1基。
5-045	山崎第4	竪穴住居6軒(前期初頭～前期中葉)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)

縄文前期後葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-175	米田	竪穴住居10軒。時期不明の土坑5基(縄文)。
3-176	米田北	竪穴住居1軒。土坑17基(中世3基・時期不明)。
3-194	持井北	土坑1基。
4-069	石原田北	竪穴住居(諸磯 1・中期前葉 6・中葉 9・前葉～中葉 1・平安 19・中世 1・平安～中世 1・不明 2)。縄文～中世の土坑・ピット289基(早期～前期 1・諸磯 2・前期後葉～中期前葉 1・中期前葉 13・藤内 1・縄文中期 1・中世 2・近世 1)。
4-102	酒呑場	竪穴住居(前期初頭 2・前期後葉38・中期初頭 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・縄文 3・中期前～中葉1・井戸尻～曽利1)。約5850基の土坑(諸磯～曽利ｖ)。
4-173	健康村	竪穴住居1軒。諸磯期の土坑11基。時期不明の焼土坑2。時期不明の野外炉9基・溝1条。
5-017	東原	縄文時代の黒曜石原石埋納土坑1基。
5-038	原田	前期後葉～中期前葉の土坑5基(前期後葉～中期前葉)。
5-041	寺所	竪穴住居2軒。縄文前期～弥生の生活用水に使用された湧き水跡。
5-043	天神	竪穴住居49軒。土坑488基(うち中期初頭の6基を除くほとんどの土坑が諸磯で329基以上)
5-045	山崎第4	竪穴住居4軒。土坑257基(前期初頭～中期後葉)
5-057	御所	竪穴住居4軒(諸磯 3・縄文1)。竪穴遺構1基。集石1基。土坑8基。
5-063	甲ッ原	縄文前期初頭～平安までの住居127軒(前期初頭 1・諸磯 23・五領ケ台 8・狢沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曽利 1・曽利 24・中期 6・中期末～後期初頭 1・縄文5・平安 4・不明 10)。掘立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曽利 3・不明 2)。諸磯～曽利までの土坑859基(前期中葉1・諸磯 35・五領ヶ台 2・狢沢,新道 9・藤内、井戸尻 23・曽利 54・中期 7)。

縄文前期末葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-089	西ノ原B	竪穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
4-092	清春白樺美術館南	土坑181基(うち前期末葉13基)。溝1条。
5-045	山崎第4	竪穴住居2軒(前期末葉～中期初頭)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)

縄文中期初頭

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-089	西ノ原B	竪穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
3-169	日影田	竪穴住居(五領ヶ台 3・曽利 1・不明1)。縄文中期～中近世までの土坑113基。竪穴遺構4基(うち五領ヶ台 1)・ピット群(縄文中期～中近世)。
3-195	持井	竪穴住居1軒。縄文と中世の土坑11基(中世 1・時期不明 10)と溝1条。
4-017	西下屋敷	土坑7基(五領ケ台 1・時期不明 6)。ピット10基(縄文後期 4・晩期 1・時期不明)。時期不明の溝4条。
4-062	柳坪	竪穴住居1軒。14基の土坑(中期後葉 1・中期後葉～後期初頭1基・縄文 5)。
4-064	小屋敷	竪穴住居1軒。土坑30基(縄文～中世)。竪穴状遺構2基(縄文～中世)。溝状遺構4基(縄文～中世)。
4-100	高松	竪穴住居(縄文中期初頭～後葉8)。土坑13基・溝1条(縄文中期初頭～後葉)。
4-102	酒呑場	竪穴住居(前期初頭 2・前期後葉38・中期初頭 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・縄文 3・中期前～中葉1・井戸尻～曽利1)。約5850基の土坑(諸磯～曽利ｖ)。
4-173	健康村	埋甕1基。土坑1基。時期不明の野外炉9基・溝1条。
4-182	柳坪北	竪穴住居3軒。土坑7基(中期初頭～後葉)。屋外埋甕2基(中期初頭～後葉)。
5-017	東原	縄文時代の黒曜石原石埋納土坑1基。
5-042	寺所第2	竪穴住居7軒。屋外埋甕2基。土坑約19基。
5-043	天神 C	竪穴住居9軒。土坑6基(五領ヶ台3、十三菩提混在3)

5-044	天神 A	竪穴住居3軒。土坑(曽利 1を含む時期不明の16基)(A・B区)。
5-045	山崎第4	竪穴住居2軒(前期末葉～中期初頭)。土坑257基(前期初頭～中期後葉)
5-063	甲ッ原	縄文前期初頭～平安までの住居127軒(前期初頭 1・諸磯 23・五領ヶ台 8・狢沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曽利 1・曽利 24・中期 6・中期末～後期初頭 1・縄文5・平安 4・不明 10)。掘立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曽利 3・不明 2)。諸磯～曽利までの土坑669基。諸磯～曽利までの土坑765基(諸磯 33・五領ヶ台 2・狢沢,新道 9 藤内、井戸尻 23・曽利 54・中期 7)。
5-068	谷戸氏館跡	縄文住居2軒。縄文～近世の土坑114基(中期初頭 1・中世～近世 16・近世以降 7)。
5-073	小坂	竪穴住居3軒。縄文時代の23基の土坑(中期初頭 15)。
4-102	酒呑場	竪穴住居(前期初頭 2・前期後葉38・中期初頭 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・縄文 3・中期前～中葉1・井戸尻～曽利1)。約5850基の土坑(諸磯～曽利ｖ)。
4-211	上条宮久保	集石土坑1基。土坑18基(井戸尻 2・曽利 6・時期不明)。

縄文中期前葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
3-089	西ノ原B	竪穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
3-127	梅の木	竪穴住居1軒。
3-162	社口	竪穴住居1軒。土坑・ピット約300基(うち中期前葉 1・中期後葉 23・堀之内 19・加曽利B 1 ・後期 26・平安 6)。
3-195	持井	埋甕2基。縄文と中世の土坑11基(中世 1・時期不明 10)と溝1条。
4-049	小和田館跡	竪穴住居(中期前葉 2・平安 19・時期不明 1)。時期不明の土坑・ピット多数。
4-069	石原田北	竪穴住居(諸磯 1・中期前葉 6・中葉 9・前葉～中葉 1・平安 19・中世 1・平安～中世 1・不明 2)。縄文～中世の土坑・ピット289基(早期～前期 1・諸磯 2・前期後葉～中期前葉 1・中期前葉 13・藤内 1・縄文中期 1・中世 2・近世 1)。
4-100	高松	竪穴住居(縄文中期初頭～後葉8)。土坑13基・溝1条(縄文中期初頭～後葉)。
4-102	酒呑場	竪穴住居(前期初頭 2・前期後葉38・中期初頭 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・縄文 3・中期前～中葉1・井戸尻～曽利1)。約5850基の土坑(諸磯～曽利ｖ)。
4-182	柳坪北	竪穴住居2軒。土坑7基(中期初頭～後葉)。屋外埋甕2基(中期初頭～後葉)。
5-042	寺所第2	竪穴住居18軒。土坑6基。
5-063	甲ッ原	縄文前期初頭～平安までの住居127軒(前期初頭 1・諸磯 23・五領ヶ台 8・狢沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曽利 1・曽利 24・中期 6・中期末～後期初頭 1・縄文5・平安 4・不明 10)。掘立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曽利 3・不明 2)。諸磯～曽利までの土坑669基。諸磯～曽利までの土坑765基(諸磯 33・五領ヶ台 2・狢沢,新道 9 藤内、井戸尻 23・曽利 54・中期 7)。
4-211	上条宮久保	竪穴住居2軒。土坑18基(井戸尻 2・曽利 6・時期不明)。
5-038	原田	前期後葉～中期前葉の土坑5基(前期後葉～中期前葉)。
5-068	谷戸氏館跡	竪穴住居2軒。

縄文中期中葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
2-203	西川	竪穴住居1軒。時期不明の焼土遺構・L型溝状遺構・中世を中心とした時期不明の土坑(中世2基)・ピット数十基。
3-040	野添	竪穴住居1軒。時期不明の土坑多数。
3-089	西ノ原B	竪穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
3-098	海道前C	竪穴住居(縄文中期中葉 9・後葉 8・時期不明 4)。縄文中期～後葉の土坑68基(うち中期後葉 10・中葉 2)。
3-114	宮尾根C	竪穴住居1軒。土坑群。
3-162	社口	竪穴住居1軒。土坑88基(縄文中期中葉～後葉)。単独埋甕2基・溝1条(縄文中期中葉～後葉)。
3-170	上の原	竪穴住居1軒。土坑約200基(井戸尻～称名寺)。単独埋甕2基(井戸尻～称名寺)。
3-171	蔵原東久保	縄文時代の住居30軒(縄文中期中葉～後葉)。土坑50基以上。
4-069	石原田北	竪穴住居(諸磯 1・中期前葉 6・中葉 9・前葉～中葉 1・平安 19・中世 1・平安～中世 1・不明 2)。縄文～中世の土坑・ピット289基(早期～前期 1・諸磯 2・前期後葉～中期前葉 1・中期前葉 13・藤内 1・縄文中期 1・中世 2・近世 1)。
4-092	清春白樺美術館南	竪穴住居3軒。土坑181基(うち前期末葉13基)。
4-100	高松	竪穴住居(縄文中期初頭～後葉8)。土坑13基・溝1条(縄文中期初頭～後葉)。
4-102	酒呑場	竪穴住居(前期初頭 2・前期後葉38・中期初頭 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・縄文 3・中期前～中葉1・井戸尻～曽利1)。約5850基の土坑(諸磯～曽利ｖ)。
4-182	柳坪北	竪穴住居3軒。土坑7基(中期初頭～後葉)。屋外埋甕2基(中期初頭～後葉)。
4-195	紺屋	竪穴住居2軒。土坑25基(藤内 1・縄文 4・中世10・時期不明 10)。縄文～中世までの時期不明の竪穴状遺構1基・溝1条・ピット7基
4-211	上条宮久保	中期中葉～後葉の住居6軒・土坑10基・集石土坑1基・屋外埋甕1基。
5-042	寺所第2	竪穴住居37軒。土坑12基。埋設土器3基。
5-054	金生	集石 1基。
5-080	古林第4	竪穴住居20軒。土坑約200基(半分は中近世)。小ピット数十基。
4-062	柳坪	竪穴住居(藤内 2・曽利 18・縄文 2・弥生前期 1・古墳前期 1・古墳後期 7・平安 12)。藤内と曽利を含む縄文中期の土坑29基。
4-208	段道	土坑(井戸尻 1・曽利 8を含む52基)。時期不明の溝1条。
5-063	甲ッ原	縄文前期初頭～平安までの住居127軒(前期初頭 1・諸磯 23・五領ヶ台 8・狢沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曽利 1・曽利 24・中期 6・中期末～後期初頭 1・縄文5・平安 4・不明 10)。掘立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曽利 3・不明 2)。諸磯～曽利までの土坑669基。諸磯～曽利までの土坑765基(諸磯 33・五領ヶ台 2・狢沢,新道 9 藤内、井戸尻 23・曽利 54・中期 7)。

縄文中期後葉

遺跡番号	遺跡名	遺構数
2-207	飯米	竪穴住居4軒。中期後葉と思われる石囲炉10基。時期不明の(竪穴遺構49基・土坑74基・集石遺構2基・溝2条・石積遺構1基)。
3-040	野添	竪穴住居3軒。時期不明の土坑多数。
3-089	西ノ原B	竪穴住居(縄文前期前葉6・前期末葉1・前期1・中期初頭3・中期前葉1・中期中葉4・中期後葉1・中期2・縄文3)
3-098	海道前C	竪穴住居(縄文中期中葉 9・後葉 8・時期不明 4)。縄文中期～後葉の土坑68基(うち中期後葉 1基・中葉 2)。屋外埋甕1基。焼土跡1基。

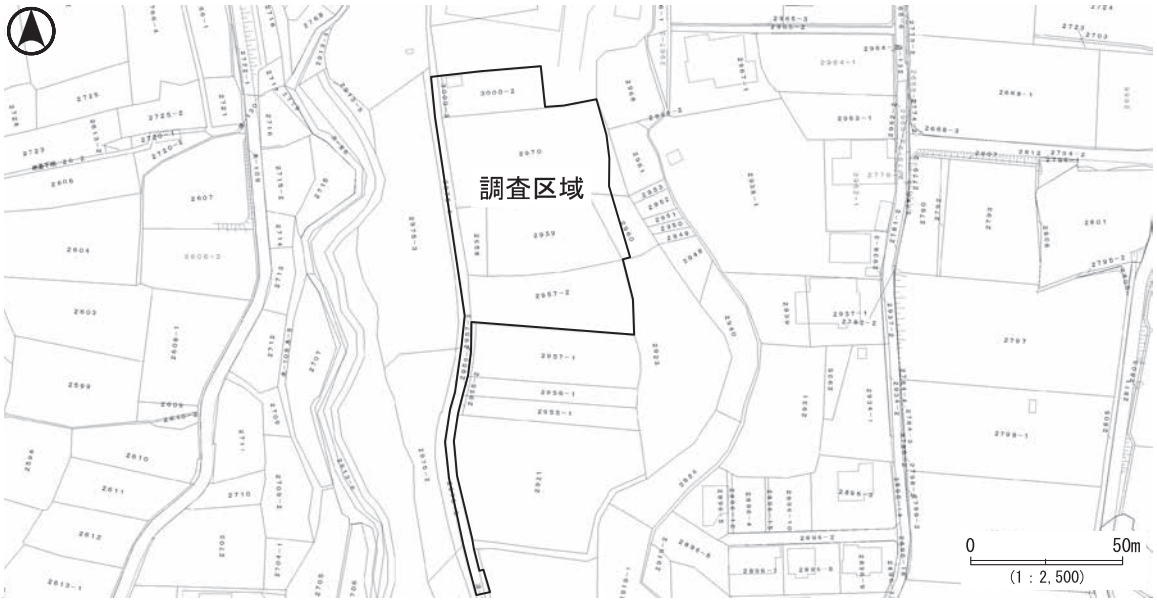
3-114	宮尾根C	竪穴住居23軒。
3-118	新井	竪穴住居2軒。時期不明土坑2基。集石土坑1基。
3-155	小池神の前	縄文中期の円形竪穴遺構24基。
3-170	上の原	竪穴住居6軒。石囲い炉3基。土坑約200基(井戸尻～称名寺)。単独埋甕2基(井戸尻～称名寺)。
3-171	蔵原東久保	縄文時代の住居30軒(縄文中期中葉～後葉)。土坑50基以上。
3-175	米田	竪穴住居1軒。時期不明の土坑5基(縄文)。
3-176	米田北	竪穴住居1軒。土坑17基(中世3基・時期不明)。
3-187	原家の前	縄文と中近世の土坑173基(縄文中期後葉、後期初頭を含む)。
3-188	宮の前	竪穴住居(縄文中期後葉 1・平安 2・縄文 1)。時期不明の土坑53基・ピット103基・焼土跡16基・集石2基・溝21条。
4-018	新田森	竪穴住居(縄文中期後葉 1・中期後葉～後期初頭 2・後期前葉 4)。土坑18基(加曽利E 2 ・称名寺 2・堀ノ内 1)。
4-072	越中久保	竪穴住居4軒。加曽利Eの掘立柱建物2棟。土坑30基(うち曽利 5・中期末 1・称名寺 3)と時期不明のピット202基。
4-211	上条宮久保	竪穴住居4軒。屋外埋甕1基。土坑18基(井戸尻 2・曽利 6・時期不明)。
5-008	大和田	竪穴住居7軒。縄文と中近世の土坑68基(うち曽利 3・中近世 1)。
5-011	方城第1	竪穴住居7軒。縄文時代の配石3基(うち曽利 2)。縄文時代の土坑106基(うち曽利 13)。縄文時代の集石3基。
5-015	姥神	竪穴住居12軒。中期後葉～後期中葉の土坑30基(うち曽利 4・称名寺 1・堀之内 2・加曽利B 3)。単独埋甕2基(曽利 1・後期 1)。
5-016	東姥神B	竪穴住居(縄文中期後半1・平安 8・不明 1)。縄文・平安・中世の土坑66基(うち中期後葉 1・加曽利Eまたは堀之内 1・平安 3・中世 14)。
5-042	寺所第2	竪穴住居22軒。土坑18基。単独埋甕2基。配石。伏甕。方形石囲状遺構。
5-045	山崎第4	竪穴住居7軒。土坑257基(前期初頭～中期後葉)
5-063	甲ッ原	前期中葉～中期後葉の土坑94基(前期中葉 1・前期後葉 2・中期後葉の土坑群)。
5-074	大和田第2	旧河道付近に中期後葉の遺物含有層。
2-208	宮田・笠張	竪穴住居2軒。時期不明の土坑群3ヶ所。
3-134	川又坂上	竪穴住居(中期後葉 2・後期初頭 4・古墳後期 1・平安 2)。土坑(中期後葉 4・中期中葉～後葉 4・後期初頭 4・中期～後期 1・不明 6)
3-137	石堂B	縄文中期後葉～晩期前半の竪穴住居8軒(うち敷石住居 3)。集石遺構4基。祭壇状遺構9基。石棺状遺構14基。階段状遺構1基。土坑18基。
3-140	西原	竪穴住居1軒。土坑5基(近世 2・時期不明)と溝1条。
3-147	西の入	土坑1基.。時期不明の溝1条。
3-149	下風呂	竪穴住居2軒。
3-162	社口	竪穴住居27軒。土坑88基(縄文中期中葉～後葉)。単独埋甕2基・溝1条(縄文中期中葉～後葉)。
3-169	日影田	竪穴住居(五領ヶ台 3・曽利 1・不明1)。縄文中期～中近世までの土坑113基。竪穴遺構4基(うち五領ヶ台 1)ピット群(縄文中期～中近世)。
4-011	糀屋敷	竪穴住居1軒。
4-017	西下屋敷	竪穴住居(縄文中期末～後期初頭 1)。土坑7基(五領ケ台 1・時期不明)。ピット10基(縄文後期 4・晩期 1・時期不明)。時期不明の溝4条。
4-062	柳坪	竪穴住居8軒。14基の土坑(中期後葉 1・中期後葉～後期初頭 1・縄文5)。
4-064	小屋敷	中期終末の約150基の土坑群。土坑30基(縄文～中世)。竪穴状遺構2基(縄文～中世)。溝状遺構4基(縄文～中世)。
4-092	清春白樺美術館南	竪穴住居4軒。土坑181基(うち前期末葉13基)。
4-100	高松	竪穴住居(縄文中期初頭～後葉8)。土坑13基・溝1条(縄文中期初頭～後葉)。
4-102	酒呑場	竪穴住居(前期初頭 2・前期後葉38・中期初頭 29・中期前葉 38・中期中葉 84・中期後葉 39・後期初頭 1・古墳前期 14・縄文中期 3・縄文 3・中期前～中葉1・井戸尻～曽利1)。約5850基の土坑(諸磯～曽利ｖ)。
4-117	頭無A	竪穴住居21軒。炉跡1基。土坑(中期後葉11・弥生中期1・時期不明55)。ピット(中期後葉1・不明129)。時期不明の溝7条と竪穴遺構1基、集石遺構。
4-129	宮久保	竪穴住居(縄文中期末～後期初頭が2軒)。土坑101基(うち中期末～後期初頭 1・堀之内 2・後期 2)。時期不明のピット921基(堀之内 5)。
4-173	健康村	竪穴住居1軒。埋甕1基。時期不明の野外炉9基・溝1条。
4-182	柳坪北	竪穴住居3軒。掘立柱建物1棟。埋甕1基。土坑1基。
		竪穴住居2軒。土坑7基(中期初頭～後葉)。屋外埋甕2基(中期初頭～後葉)。
4-186	山本	土坑3基。時期不明の溝3条。
4-208	段道	竪穴住居6軒。配石遺構1基。土坑(井戸尻 1・曽利 8を含む52基)。室外埋甕1基。時期不明の溝1条。
4-211	上条宮久保	中期中葉～後葉の住居6軒・土坑10基・集石土坑1基・屋外埋甕1基。
5-017	東原	縄文時代の黒曜石原石埋納土坑1基。
5-041	寺所	竪穴住居1軒。縄文前期～弥生の生活用水に使用された湧き水跡。
5-044	天神	竪穴住居5軒(A区)。埋甕4基(A区)。土坑(曽利 1を含む時期不明の16基)(A・B区)。
5-052	城下	土坑2基(曽利 1)。
5-054	金生	竪穴住居2軒。中期後葉～晩期後半の土坑7基。
5-063	甲ッ原	縄文前期初頭～平安までの住居127軒(前期初頭 1・諸磯 23・五領ケ台 8・狢沢新道 10・藤内井戸尻 34・井戸尻～曽利 1・曽利 24・中期 6・中期末～後期初頭 1・縄文5・平安 4・不明 10)。掘立柱建物6棟(藤内井戸尻 1・曽利 3・不明 2)。諸磯～曽利までの土坑669基。諸磯～曽利までの土坑765基(諸磯 33・五領ヶ台 2・狢沢,新道 9 藤内、井戸尻 23・曽利 54・中期 7)。

平安時代

遺跡番号	遺跡名	遺構数
2-206	蟹坂	竪穴住居3軒。時期不明の掘立柱建物1基。
2-243	蟹坂東	竪穴住居2軒と時期不明の竪穴遺構2基・土坑20基・石組遺構3基・溝13条・小ピット多数。
3-089	西ノ原B	竪穴住居6軒。掘立柱建物3棟。
3-097-1	大林上	竪穴住居5軒。土坑126基。集石土坑1基。溝。畦状遺構。
3-098	海道前C	焼土跡1基。
3-173	妻の神	竪穴住居1軒。時期不明の土坑2基。
3-188	宮の前	竪穴住居(縄文中期後葉 1・平安 2・縄文 1)。掘立柱建物10棟。時期不明の土坑53基・ピット103基・焼土跡16基・集石2基・溝21条。
2-203	西川	竪穴住居15軒。竪穴遺構 1基。水田跡。時期不明の焼土遺構・L型溝状遺構。中世を中心とした時期不明の土坑(中世2基)・ピット数十基。掘立柱建物3棟・溝1条。
2-204	夏目原	竪穴住居2軒。時期不明の石列・溝・ピット群。

2-207	飯米	竪穴住居7軒。時期不明の（竪穴遺構49基・土坑74基・集石遺構2基・溝2条・石積遺構1基）。
2-208	宮田・笠張	竪穴住居2軒。時期不明の土坑群3ヶ所。
3-092	御所	竪穴遺構1基。土坑2基。時期不明の溝1条。
		竪穴住居1軒。竪穴遺構1基。掘立柱建物1棟。土坑2基。
3-125	海道前	竪穴住居3軒。土坑1基。
3-128	青木北	竪穴住居12軒。掘立柱建物5棟。土坑約10基。
3-132	東久保	竪穴住居33軒（鍛冶工房1または2を含む）。掘立柱建物7棟。土坑160基。溝2条。
3-133	旭東久保	竪穴住居1軒。中世を主とした土坑68基。
3-134	川又坂上	竪穴住居（中期後葉 2・後期初頭 4・古墳後期 1・平安 2）。土坑（中期後葉 4・中期中葉～後葉 4・後期初頭 4・中期～後期 1・不明 6）
3-140	西原	竪穴住居2軒。土坑5基（近世 2・時期不明）と溝1条。
3-150	横森赤台(東下)	竪穴遺構1基。
3-155	小池神の前	竪穴住居1軒。
3-162	社口	竪穴住居13軒。ピット1基と時期不明の土坑329基。土坑・ピット約300基（うち中期前葉 1・中期後葉 23・堀之内 19・加曽利B 1 ・後期 26・平安 6）。鍛冶関連土坑2基。
3-169	日影田	竪穴住居（五領ヶ台 3・曽利 1・不明1）。縄文中期～中近世までの土坑113基。竪穴遺構4基（うち五領ヶ台 1）平安以降の掘立柱建物2棟。
3-179	八ッ牛	竪穴住居3軒。時期不明の土坑9基。
3-184	薬師堂	竪穴住居6軒(うち1軒は焼失住居)。時期不明の土坑63基（縄文早期～中世）。
3-191	藤林寺	竪穴住居3軒。掘立柱建物1棟。
3-193	八ッ牛北	竪穴住居1軒。土坑10基。
3-197	西原北	竪穴住居2軒。
3-198	高内	竪穴住居7軒。時期不明の竪穴遺構2基と掘立柱建物。
4-045	小和田	竪穴住居（平安 1・時期不明 2）。時期不明の掘立柱建物1棟とピット群。
4-048	南新井西	竪穴住居6軒。
4-049	小和田館跡	竪穴住居（中期前葉 2・平安 22・時期不明 1）。掘立柱建物10棟（平安 3・時期不明）。時期不明の土坑・ピット多数。
4-053	窪田	竪穴住居10軒。掘立柱建物1棟。土坑1基。ピット16基。
4-062	柳坪	竪穴住居（藤内 1・曽利 18・縄文 2・弥生前期 1・古墳前期 1・古墳後期 7・平安 50・平安以降2）。藤内と曽利を含む縄文中期の土坑29基。
4-064	小屋敷	竪穴住居9軒。溝3条。縄文と平安の土坑30基（木島式 1・前期初頭以前 1を含む）とピット55基。
4-069	石原田北	竪穴住居（諸磯 1・中期前葉 6・中葉 9・前葉か中葉 1・平安 20・中世 4・平安～中世 1・不明 3）。縄文～中世の土坑・ピット289基（早期～前期 1・諸磯 2・前期後葉～中期前葉 1・中期前葉 13・藤内 1・縄文中期 1・中世 2・近世 1）。時期不明の掘立柱建物3棟。
4-117	頭無A	竪穴住居（弥生末～古墳初頭 1・古墳前期 1・平安9）。時期不明の竪穴遺構1基、土坑102基（縄文～中世）とピット132基・溝24条。
4-129	宮久保	竪穴住居4軒。掘立柱建物1棟。縄文でない集石遺構2基。土坑101基（うち中期末～後期初頭 1・堀之内 2・後期 2）。時期不明のピット921基（うち堀之内 5）。
4-169	竜角西	竪穴住居7軒。掘立柱建物3棟。土坑（うち曽利 1・縄文 4・弥生 1・古墳前期 1を含む252基）。時期不明のピット629基。溝14条（中世 3・古墳以降 2）。
4-171	長坂上条	竪穴住居4軒。
4-173	健康村	竪穴住居14軒。時期不明の溝1条。
4-190	池之平北	竪穴住居18軒。掘立柱建物1棟。土坑群（縄文～中世）。
4-195	紺屋	竪穴住居10軒。土坑70基（藤内 1・縄文 4・平安と中世で45・時期不明 16）。縄文～中世までの時期不明の竪穴状遺構1基・溝1条・ピット約70基。小鍛冶遺構1基。
4-203	深草	竪穴住居1軒。時期不明の土坑17基。
4-210	蟻塚	竪穴住居6軒。掘立柱建物1棟。土坑1基。ピット16基。平安以降の溝1条。
5-016	東姥神B	竪穴住居（縄文中期後半1・平安 8・不明 1）。平安と中世の掘立柱建物9棟（平安2・中世1）。縄文・平安・中世の土坑66基（うち中期後葉 1・加曽利Eまたは堀之内 1・平安 3・中世 14）。
5-017	東原	竪穴住居12軒。小鍛冶遺構1基。掘立柱建物2棟。土坑（縄文 1・平安 9・平安～中世 2）。溝3条。小ピット群2群。特殊遺構1基。
5-038	原田	竪穴住居5軒。掘立柱建物1棟。
5-041	寺所	竪穴住居13軒。土坑7基（中世 3・時期不明 4）。
		竪穴住居34軒。掘立柱建物3棟。土坑12基。溝4条。
5-042	寺所第2	竪穴住居37軒。掘立柱建物。
5-043	天神 C	竪穴住居3軒
5-044	天神 A	竪穴住5軒(A区1軒、B区4軒)。土坑（曽利 1を含む時期不明の18基）(A・B区)。
5-052	城下	竪穴住居26軒。掘立柱建物10棟。平安以降の溝5条。
5-054	金生	竪穴住居6軒。
5-063	甲ッ原	縄文前期初頭～平安までの住居115軒（前期初頭 1・諸磯 22・五領ヶ台 7・狢沢新道 9・藤内井戸尻 31・井戸尻～曽利 1・曽利 22・中期6・中期末～後期初頭 1・平安 6・不明 9）。掘立柱建物6棟（藤内井戸尻 1・曽利 3・不明 2）。諸磯～曽利までの土坑669基(諸磯 29・五領ヶ台 2・狢沢,新道 3 藤内、井戸尻 21・曽利 50・中期 7）。
5-064	木ノ下・大坪	竪穴住居8軒。掘立柱建物1棟。時期不明の土坑8基。溝3条（平安 1条・時期不明）。
5-065	豆生田第3	竪穴住居8軒。掘立柱建物 2棟・縄文～中近世の土坑16基（堀之内 2・後期の石棺墓 1・縄文後期 1・縄文 1・平安 8・中近世 2）。
5-068	谷戸氏館跡	竪穴住居1軒。
5-089	史跡谷戸城跡周辺	竪穴住居4軒。掘立柱建物2棟。縄文時代を主とする時期不明の土坑33基。時期不明の集石1基・溝跡6条。

第２図　遺跡の位置図（1/10,000）



第３図　調査区位置図（1/2,500）

第 2 章　調査された遺構と遺物

前章に触れたとおり、縄文時代前期の住居跡 20 軒、中期の住居跡 15 軒、土坑 250 基、平安時代の住居跡 1 軒が検出されている。遺構番号順に調査所見を報告する。土坑は付属 CD-R 収録の第 2 表に調査所見を報告し、報文中では主要なものに触れる。報告文中の土器細分型式は山梨県史（山梨県 1999）に従った。

第 1 節　竪穴住居跡

1 号住居跡（第 7 ～ 14 図、写真図版 2）

調査区北西隅に位置する。2 号、3 号、4 号住居と重複する。4 号住居に切られ、2 号、3 号住居を切る。住居中央部分を大きく深く撹乱されている。本住居は 1 号と命名したが、調査の過程で規模、深さが異なる 3 軒の住居が同一地点に重複していることが判明した。以下 1a 号、1b 号、1c 号住居と区別して報告する。

1a 号住居はもっとも大きなプランで、竪穴の深さは 20cm と浅い。削平と撹乱により上部はかなり失われていて、埋土下層部がかろうじて残る程度である。埋土断面図の第 1 層と第 2 層が本住居の埋土下層に該当する。1 層、2 層直下、28 層、29 層上面に本住居の床面があるはずだが、軟弱で明確に検出できなかった。炉跡、焼土跡は検出されておらず、撹乱により破壊されたものと思われる。

柱穴は、168 号、170 号、173 号、187 号ピットなどが該当すると思われるが、やや少ない感がある。1b 号住居の暗褐色の埋土にまぎれて検出できなかった柱穴もあろう。

1b 号住居は 1a 号より一回り小さく、やや深い遺構である。埋土断面図の 5 層、28 層、29 層、39 層以下、9 層、32 層上面までが本住居の埋土である。28 層から 30 層には多量の炭化材断片を含んでおり、焼失住居であった可能性がある。床面は 1c 号住居の埋土上にあったはずだが、やはり軟弱で明確に検出できない。住居の中央から相当に南西に偏った地点で埋甕炉と焼土跡を検出した。1c 号住居床面から 15cm ほど上方にあたる。第 8 図 1 の埋甕炉は諸磯 b 式である。柱穴は 105 号ピットが該当すると思われるが、それ以外には検出できなかった。浅いピットである場合には 1c 号住居の埋土にまぎれて検出できなかった可能性がある。

1c 号住居は最も小型で深い遺構である。地山が床面で明瞭に検出された。炉跡は撹乱により失われている。壁沿いに周溝が検出された。柱穴は 106 号、105 号、102 号、172 号、174 号ピットなど壁沿いに並ぶ浅い小ピットと思われる。床面で第 10 図 20 の深鉢破片が出土した。

出土遺物を第 8 図から第 14 図に示す。第 8 図 1 は 1b 号住居の炉体土器で、諸磯 b2 古から中段階と思われる。第 10 図 20 は 1c 号住居床面で出土した土器で、細分型式はよく分からないが器形から新しい段階ではないと思われる。第 9 図 4、第 10 図 3 ～ 7 などは諸磯 a 古から中段階、第 9 図 1・2 は諸磯 a 新段階で、1 号住居全体で出土した土器のなかで古い段階に位置づけられる。これらが 1c 号住居に伴う遺物と思われる。

幅広の爪形文充填の平行沈線文の第 9 図 11、炉体土器は諸磯 b2 古から中段階で、1b 号住居の時期を示す遺物である。結節浮線文による第 9 図 8・10 などは諸磯 b2 古段階から中段階で、b2 新段階の細い浮線文はみられないから、1a 号住居は 1b 号住居と大きな時期差はないとみてよい。

石器では石鏃 5 点、石錐 1 点、磨石類 4 点などが出土している。

以上の調査所見から本住居は諸磯 a 式から b 式期に位置づけられる。

2 号住居跡（第 7・14 図、写真図版 2）

調査区北西隅に位置する。1a 号住居に切られるが、1b 号、1c 号住居との新旧関係は確認できなかった。71 号土坑を切る。埋土断面図の 2 層、6 層までが本住居の埋土で、18 層、21 層以下は 71 号土坑埋土である。壁沿いの床面で浅い小ピットが検出されており、柱穴と思われる。71 号土坑は本住居より古い、住居とは別個の遺構と判断し命名したが、土坑底面は 1c 号住居とほぼ同じである。2 号住居と 1 号住居の西壁沿いには大きな地山の礫が露出しており、想像をたくましくすれば、当初深い住居を建設しようと試みたが、これらの大きな地山礫に阻

まれ、埋め戻して浅い2号住居を建設したとみることもできようか。

出土遺物は第14図5～21である。18・19の浅鉢は諸磯b2式中段階に位置づけられよう。石器では使用痕のある剥片5点、黒曜石剥片40点ほど、珪質頁岩剥片1点が出土した。

以上の調査所見から本住居は諸磯b2式期に位置づけられる。

3号住居跡（第7・15図、写真図版2）

調査区北西隅に位置する。1a号住居に切られる。1b号、1c号住居との新旧関係は埋土から確認できない。出土土器から1c号住居より新しいと判断される。3号住居は1a号住居との重複で西半分が失われている。残る東半分の床面には僅かな段差があり、3号住居と1号住居にまたがってさらに別の住居跡1軒が存在したことを示唆する。埋土断面図の36層が想定される住居の埋土であるから、1a号住居と2号住居に切られることとなる。1b号住居の東壁の可能性もあるが1b号住居の西壁沿いの床面高よりは、2号住居側の床面がやや高い。2号住居で検出されたピットが柱穴と思われる。

出土土器を第15図に示す。3・10は諸磯b2式古段階から中段階に位置づけられる。

石器はスリガラス状の礫面が残る44gの黒曜石残核1点、使用痕剥片4点、磨石類2点が出土した。

以上の調査所見から本住居は諸磯b2式期に位置づけられる。1号住居、2号住居と本住居との関係は必ずしも明らかでないが、土器細分型式では分離できないほどの時間幅のなかで同一地点に繰り返し、少なくとも5回、住居を構築していることが分かる。頻繁な移動と回帰による土地利用が想定されよう。

4号住居跡（第16図、写真図版2）

調査区北西隅に位置する。1号住居を切る。57号土坑に切られる。58号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。遺構の東側に新しい時代の溝状遺構が走り、床面が削平されている。保存状態の悪い住居跡で壁面は検出されず、炉跡、柱穴が確認されたのみである。炉跡は浅いくぼみを囲うように扁平礫を床面に並べた形状である。炉底は強く焼土化している。柱穴は北側から185号、183号、182号、186号、181号ピットの5基で、59号土坑と60号土坑が南側の柱穴になる場合は7基となる。炉の形状から曽利Ⅰ式頃の遺構と思われるから、南北に楕円形プランを想定し、59号土坑と60号土坑まで柱穴とみてもよいかもしれない。

本住居の東側の溝跡に重複して石囲炉のような石組みが検出されている。184号、197号ピットはこの石組みに伴う柱穴であろう。なおこの石組みは現地調査の段階で住居と認定して測量することなく調査を終了した。遺物も出土していないが、曽利Ⅱ式期以降の曽利式期住居の可能性がある。

出土遺物はほとんどない。わずかに曽利Ⅰ式かⅡ式と思われる土器の小破片1点と黒曜石の使用痕剥片1点、石錐1点、黒曜石剥片30点、磨石類1点が出土したのみである。

以上の調査所見から、本住居は曽利Ⅰ式からⅡ式期と推測されるが、曽利Ⅱ式期には炉石を垂直に埋め込むやや細長い石囲炉が一般的になるから、曽利Ⅰ式期に位置づけておきたい。

5号住居跡（第17～22図、写真図版2・3）

調査区北端に位置する。円形の住居跡で、200号土坑と201号土坑に切られる。周溝、柱穴、炉跡が検出された。東壁はやや掘り過ぎた可能性があり、本来は周溝に沿った形状であるかもしれない。南壁と北壁沿いに2本の周溝が検出されているが、建替、拡張の形跡は他に検出されていない。柱穴は440号、441号、444号、445号、447号ピットの5基である。26cmとやや浅い446号ピットは、柱痕が検出されたことから柱穴である。対になるピットが201号土坑に切られて失われているとすれば、446号ピットともう1基のピットをあわせて7基の柱穴配置となる。炉跡は炉石が抜かれたくぼみと焼土跡が検出されたのみである。炉のくぼみはごく浅く、炉石を垂直に立てて埋める曽利Ⅱ式以降の構造ではない。

遺物は住居中央の埋土下層を中心に比較的多く出土した。これらは住居廃絶後の竪穴に投棄された遺物と考え

られる。床面上に遺棄された遺物は出土していない。投棄された深鉢のひとつには磨石が収められていた。出土した土器は曽利Ⅰ式にまとまる。第18図9は脚付の有孔鍔付土器で珍しい器形である。5の曽利Ⅰ式土器は、内部に磨石が納められていた。

石器も多量に出土している。頁岩製横型石匙1、珪質頁岩製の縦型石匙1、ホルンフェルス製打製石斧1、ホルンフェルス製の粗製縦型石匙1、黒曜石製の石鏃1、未成品2、安山岩の打製石斧素材と思われる剥片1、頁岩製打製石斧2、砂岩製打製石斧2、頁岩製の石槍1、ハンマー破片1、緑色岩の磨製石斧破片1、安山岩製の磨石類3、黒曜石の使用痕剥片12などである。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅰ式期に位置づけられる。

6号住居跡（第23～29図、写真図版3・4）

調査区中央南東寄りに位置する。39号住居と重複する。6号住居と39号住居はともに同一地点で建替え、拡張を繰り返し、両者の新旧関係は検出時点では全く確認できなかった。6号住居は4重の周溝が検出され、最低3回の建替え・拡張を経ていることが想定される。以下、最も新しく大きな住居を6a号住居、最も古く小型で竪穴も深い住居を6b号住居、6a号住居と6b号住居の中間に位置する住居を6c号住居として報告する。6c号住居は東壁沿いに残された周溝からその存在が想定される住居で、床面高は6a号住居より5cmほど低い。6号住居埋土断面図の11層が6b号住居埋土である。

6a号住居は南北軸6.4m、東西軸5.4mの隅丸長方形プランの住居と思われる。北壁で119号土坑、西壁で131号土坑、東壁で183号土坑に切られる。114号土坑も新しい遺構である。もっとも深い6b号住居の埋土上に床面があるため6b号住居プラン内の床は黒褐色かつ軟弱で明確に床を把握できなかった。柱穴もはっきりせず、6b号住居の黄褐色の地山をそのまま床面としたレベルまで下げてようやくピットを検出した。以下に報告する柱穴はその配置と深さから想定したものである。6a号住居のほぼ中央、6b号住居埋土の暗褐色土中にわずかに焼土跡があり、これが地床炉と思われる。

柱穴は338号、305号、379号、369号ピットの4基と思われる。6号住居全体には多数の小ピットが検出されているが、大半は非常に浅く10cmに満たない。そのなかで、上記の4基のピットは20cmを超える深さがある。6b号、6c号、6a号のいずれもこの4本主柱穴を踏襲しているように思われる。

6c号住居は東壁の周溝から想定されたもので、主柱穴は338号、353号もしくは357号、413号、369号ピットの4基と思われる。6a号住居よりも幾分南壁が北に縮小したプランが想定される。炉跡は検出できなかった。

6b号住居は最も小型で深い住居である。古い時期の住居が小型でもっとも深いのは1号住居でみられた状況に似ている。6a号住居の床面から30cm近く深い。6b号住居とした深い床面でも周溝が二重に検出され1回の建替拡張が想定される。柱穴は337号、401号、410号、411号ピットの4基の組み合わせと177号、179号、360号、382号ピットの4基の組み合わせが想定できる。

6b号住居の壁沿いには周溝が明瞭に検出され、周溝内には浅い小ピットがほぼ等間隔で並んでいる。壁を支持する構造がうかがえる。住居中央から北寄りに342号ピットと命名した浅いくぼみがあり、底部が焼土化している。これが6b号住居の地床炉と思われる。さらに西側、367号ピット周辺もくぼんで焼土化している。これも地床炉であろう。367号ピットは地床炉を切って掘り込まれたピットであるが、6b号住居のなかで何度か柱穴を掘り直し、炉位置を変更したものかもしれない。

以上のように、6号住居は同一地点で建替え・拡張を繰り返した遺構で、埋土を発掘している過程では遺構の全容は皆目把握できなかったため、埋土に包含されている遺物を各住居ごとに分離しきれなかった。6号住居全体では、諸磯a式から諸磯c式、十三菩提式併行、五領ヶ台式土器の破片が出土している。諸磯c式以降の新しい土器型式はごく一部で埋土に混入したものとみてよいと思われるから、本住居は諸磯a式古段階からb1式の時期幅のなかで建替を繰り返したことになる。

光波測量器により測量して取り上げた出土位置が特定できる土器資料を、6a、6b、6c号住居それぞれの想定さ

れる床面高を基準に分離してみた。その結果が第25図から第27図である。第25・26図、第27図1～8までが6a号住居に分類されたもの、第27図9～18が6b号住居に分類されたものである。6c号住居は6a号住居との床面レベル差が小さく、分離しきれなかった。その結果は、第26図10のような後世の混入、第25図1の関山式、第25図9の神ノ木式、第27図9の中越式などの混入もあるものの、6a号、6b号住居ともに諸磯a式古段階から諸磯b1式土器が出土しており、明瞭な時期差を見出すことはできなかった。

出土した石器は6号住居全体で、黒曜石石鏃14、赤チャート石鏃1、珪質頁岩の石鏃1、水晶製石鏃1、黒曜石石錐2、石匙5、石錐1、蛇紋岩製の定角式を含む磨製石斧3、磨石類13、台石3、26gの黒曜石原石などが出土している。黒曜石の原石、石核、剥片類は多い。

以上の調査所見からあえて時期を比定すると、6a号住居は諸磯b1式期、6b号住居は諸磯a式期と思われるが、後述するとおり、本住居は39号住居とも重複しており、正確な時期は絞り込めない。

39号住居跡（第23・29・30図、写真図版4）

調査区中央南東寄りに位置する。13号住居に切られ、6号、40号住居と重複する。6号住居から39号住居を縦断する埋土断面の観察から6号住居に切られることが確認される。39号住居も4重か5重の周溝が検出され、建替え・拡張を繰り返したことが分かる。住居の中央と思われる地点で4ヶ所の焼土跡が検出され、地床炉と考えられる。これらの地床炉のうち145号ピット西側の浅いくぼみを伴う焼土跡が最も新しい段階の地床炉と思われる。この焼土跡の南側、280号ピット東側にも同様のくぼみを伴う焼土跡があり、想定される住居主軸線上に並ぶ。こちらの焼土跡の上には黄褐色の貼床がのっており、一段階古い地床炉と思われる。これらの2基の焼土跡の西側にも2ヵ所で床面が焼土化している。39号住居が主に東壁を拡張して建替えていることから、さらに古い段階の地床炉と考えられよう。

柱穴は6号住居と同様、検出位置と深さから想定した。偶然と思われるが、北側の柱穴は6a号住居の南側の柱穴とほぼ同位置で完全に重複し、あるいは切り合っている。最も新しい段階の柱穴は316号、355号、313号、248号ピットの4基と思われる。建替え・拡張の都度、316号ピットを基点に、北東側の柱穴は328号、306号、355号ピットと掘り直し、南東側の柱穴は387号、292号、313号ピットへと変遷し、南西側の柱穴は281号、282号、248号ピットに掘り直されていると思われる。南側の柱穴は南辺を示す2本の周溝に近く、このような柱穴の配置は37号住居でもみることができる。

出土遺物は一部で6号住居と混在し、分離しきれなかった。そこで6号住居と重複していない範囲から出土した土器資料を中心に第30図に示した。40号住居とも重複するが、本住居と床面高がほとんど変わらず、39号住居の想定範囲から出土した遺物は本住居に帰属するものと判断した。

第30図5と21は釈迦堂Z3式、同図4と20は神ノ木式、同図1・3・18は中越式である。40号住居と重複することから、中越式、神ノ木式は40号住居に帰属するものと思われる。

石器は黒曜石の石鏃19、石錐1、チャート石鏃1、珪質頁岩の削器1、磨石類6、多数の黒曜石剥片などが出土している。

以上の調査所見から本住居は前期中葉の釈迦堂Z3式期に位置づけられると思われるが、建替えに伴う時期幅まではつきとめられなかった。

40号住居跡（第23・29図、写真図版4）

調査区中央南東寄りに位置する。13号、39号住居に切られる。円形プランと思われる南壁を検出し、地床炉と思われる焼土跡2基を検出したのみである。南壁沿いには浅いピットが検出されているが柱穴とするには浅い。13号住居、39号住居の柱穴を差し引いて消去法的に考えても287号ピットのみが34cmと深いだけで、これに対応するピットを見出すことができない。39号住居の柱穴と完全に重複している可能性は否定できないが、柱穴配置は不明とせざるを得ない。

出土遺物はごく少数で図示できる土器は得られていない。39 号住居埋土中に中越式、神ノ木式が含まれていて、これらが本住居に由来する可能性がある。石器類も黒曜石剥片 7 点を数えるのみである。

以上の調査所見から本住居は中越式期に位置づけられる可能性がある。

13 号住居跡（第 23・31・32 図、写真図版 4 ～ 6）

調査区南東端に位置する。39 号、40 号住居を切る。円形住居と思われるが、縄文時代前期の 39 号、40 号住居に重複する。両住居の埋土内に構築された住居であったため、明確に遺構確認ができず、壁を検出できなかった。床面も軟弱で炉跡の検出面と埋甕の高さから床面高を想定した。埋土断面図と遺構断面図中の床面線は本住居の下層の 39 号、40 号住居の床面で、本住居の床面は 11 層、13 層、20 層、24 層直上に相当する。焼土と炭化材、断片的な周溝、柱穴、炉跡を検出した。柱穴は 209 号、210 号、211 号、212 号、217 号ピットの 5 基で、炉は住居中央からやや 212 号ピット寄りに設けられる。炉石は抜かれ、浅いくぼみと炉底の焼土のみが検出された。南壁沿い、210 号ピットの南側で埋甕 1 基を検出した。曽利Ⅴ式土器の胴部下半を打ち欠いて正位で埋設してある。埋甕周辺の床面には大小の礫 5 点が検出されている。

住居壁沿いの埋土下層で焼土と炭化材がまとまって検出された。焼土と炭化材は壁に沿って環状に分布し、一部は住居中央部分でも検出されている。南壁では埋甕を覆うように焼土と炭化材が出土している。焼土中から曽利Ⅴ式土器の大形破片が出土した。焼失住居と思われるが、第 32 図の壁線はこの環状の焼土と炭化材の分布と埋土断面観察から想定したものである。

焼土は炭化材を覆うよう炭化材の上から検出されている。住居竪穴を埋める埋土は、竪穴の中央、埋土の上層にいくほど黒くなり（第 1 層、2 層など）、壁際ではやや色調が明るくなる（第 4 層、21 層、22 層など）。自然埋没した状況を示すと考えられるが、北壁沿いではやや複雑な堆積状況が観察された。

炭化材は、木質繊維の方向を観察すると、壁沿いでは壁に平行に繊維が走り、壁から離れ住居中央寄りでは、住居中心に向かう方向に放射線状に繊維が走っている。このことから検出された炭化材は廃棄された竪穴に乱雑に投棄されたものではなく、垂木と、垂木を壁面部で連結するような横方向の部材が炭化したものと推測することができる。さらに竪穴住居の上屋構造の一部とみなせるこれらの炭化材を覆う焼土は、垂木上にあって屋根葺材を構成した土が焼失過程で焼土化し、炭化した建築部材とともに竪穴内に落ち込んだものと推測される。

ただし、焼土と炭化材、特に焼土は焼失住居とみるにはやや検出量が少なく、壁沿いにまとまっていて不自然である。屋根葺材であれば住居内に万遍なく検出されてもよいように思われる。また床面からやや浮いた位置に検出されている点も気になる。

岩手県一戸町の国史跡、御所野遺跡の史跡整備では土葺屋根構造の復原住居の焼失実験が行われている。それによると屋根葺土と炭化材が落ち込む際に上下が逆転することがあること、意図的に焼かないと上屋がある竪穴住居では酸欠状態になってうまく焼失しないという（一戸町教育委員会 2003）。本住居に意図的に燃やした場合には、あらかじめ屋根葺土を落とすなど準備した可能性もあろう。壁際では土中の垂木尻が燃え残り、結果、垂木が浮いた状態に残ることもあり得よう。御所野遺跡の実験から本住居の焼土と炭化材が土葺屋根構造を示す可能性があることがうかがえる。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅴ式期に位置づけられる。

9 号住居跡（第 33 ～ 38 図、写真図版 6・7・32）

調査区北東隅に位置する円形の住居で、北東隅を深い撹乱で破壊されている。203 号土坑に切られる。保存状態の良い遺構で竪穴埋土から自然埋没したと判断される。周溝、柱穴、炉跡が検出された。柱穴は 450 号、451 号、452 号、453 号、457 号、458 号、459 号ピットの 7 基で、450 号ピットと 453 号ピットに寄り添うようにピットが検出されているから、部分的な建替えを経た可能性がある。461 号ピットは床下で検出された本住居より古い遺構である。炉跡は住居中央から北寄りで検出された。浅いくぼみの周囲に扁平礫を敷いた形状で井戸尻式後半か

ら曽利Ⅰ式期に特徴的な形態である。炉底は弱く焼土化していた。炉石には黒色の煤が付着していた。周溝は全周し、周溝内には小ピットが検出された。

遺物は住居埋土下層に投棄された状態で出土した。投棄された土器に混じってヒスイ大珠が出土した。住居内に遺棄された状況がうかがえる遺物はなかった。出土した土器は井戸尻式3段階から曽利Ⅰ式でまとまる。個々の土器の細分型式上の位置づけは意見が分かれるところであろうが、第34図1・5、第35図11などが混じることから、井戸尻式最終末に位置づけるべきであろう。5号住居出土土器と接合する資料もある。また本住居からは、土偶2個体が出土している。

石器は、ヒスイ大珠1、頁岩製の大型鋸歯縁の石鏃1、珪質頁岩製の鋸歯縁の削器1、黒曜石製石鏃1、頁岩製打製石斧1、頁岩製の鋸歯縁削器1、磨製石斧1、白色の凝灰岩製の垂飾1、黒曜石の使用痕剥片、53.3gの黒曜石原石1、安山岩製磨石類4、ハンマー破片1、石皿1、石柱を思わせる柱状節理の安山岩などが出土している。ヒスイ大珠は投棄された土器破片に混じって床面から3㎝ほど浮いた状態で出土した。周囲に廃屋葬を思わせるような土坑、遺物、礫の配置は確認されず、土器とともに無造作に廃棄されたように感じられた。

以上の調査所見から本住居は井戸尻式3段階から曽利Ⅰ式期に位置づけられる。出土した土器は井戸尻式から曽利式への移行段階に位置づけられよう。

10号住居跡（第38図、写真図版7・8）

調査区北端に位置する平安時代の住居跡である。遺構の北半分は調査区外で、平成4年に旧大泉村教育委員会が実施した調査の南端、7号住居跡と同一遺構である。この平安時代住居の西側に平成4年度調査の10号住居跡の南端が検出されるべきであるが、撹乱のため検出できなかった。

本住居の南半分では周溝が検出され、東壁南寄りにカマドを設けている。カマドは焼土と袖石を埋め立てたくぼみ、カマド構築材と思われる礫3点が出土したのみで原形を留めていない。意図的な破壊か土地の削平に伴い破壊されたかは判断できないが、南東角に焼土がまとまって出土したことから、住居廃絶時にカマドを破壊廃棄したと推測される。

出土遺物は少ない。住居南西隅付近の埋土下層で鉄製鏃が折れて出土した。

以上の調査所見から本住居は平安時代、10世紀前半に位置づけられる。

12号住居跡（第39～41図、写真図版8）

調査区中央北東寄りに位置する円形住居跡である。周溝、柱穴、炉跡が検出された。遺構確認面は撹乱が多く、そのためであろうが北西壁はやや掘りすぎた可能性がある。断片的だが周溝が二重にめぐり、柱穴は計8基が検出され、1回の建替えが想定される。423号、422号、421号、424号、426号の5基が建替え前の柱穴、422号、427号、425号、428号、423号ピットの5基が建替え後の柱穴である。炉跡は住居中央からやや北寄りに設けられる。浅いくぼみを囲うように扁平礫が敷かれる曽利Ⅰ式期に特徴的な形態である。炉底は弱く焼土化している。炉のすぐ南側の床面は強く焼土化しており、地床炉とみられる。

出土遺物は少なく埋土下層と床面に投棄された状態で出土している。住居内に遺棄された状況を示す遺物はない。出土した土器は曽利Ⅰ式にまとまる。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅰ式期に位置づけられる。

17号住居跡（第42～47図、写真図版8・9）

調査区中央北寄りに位置する。100号土坑と102号土坑を切り、196号土坑と208号土坑に切られる。196号土坑は住居を建設する際に地山礫を抜き取ろうと試みた痕跡かもしれない。円形の住居跡で周溝、柱穴、炉跡が検出された。かろうじて竪穴が残る程度の保存状態であったが、住居の全容が良好に把握された。わずかな竪穴埋土から自然埋没したと判断される。床面は軟弱で、炉石が若干浮く程度に掘り下げすぎてしまった。

周溝は北壁沿いと西壁で二重に検出され、柱穴も多数検出されており、2回程度の建替、拡張が想定される。最も外側に広がり大型化した段階の柱穴は北壁側から231号、230号、309号、229号、333号、384号、326号、325号、111号ピットの9基である。先行する段階の柱穴は231号、381号、309号、327号、233号、315号、312号、391号、110号ピットの9基である。もっとも古く小型の段階は231号、310号、314号、308号、412号ピットの5基である。

炉跡は住居中央から北壁に寄った位置に設けられる。浅いくぼみを囲うように扁平な炉石を敷く曽利Ⅰ式期によくみられる形態である。炉底は弱く焼土化している。炉南側の床面が強く焼土化し、地床炉とみられる。炉の状況は12号住居とよく似ている。

出土遺物は少なく、埋土下層に投棄された状態で出土している。住居内に遺棄された状況を示す遺物はない。土器は曽利Ⅰ式でまとまる。匙形土製品が出土した。石器は頁岩製打製石斧1、砂岩製打製石斧未成品1、砂岩の鋸歯縁削器2、ホルンフェルス製削器1、珪質頁岩製削器3、頁岩製打製石斧1、ホルンフェルス製打製石斧1、黒曜石石鏃3、頁岩製石鏃1、頁岩製磨製石斧1、円盤状石製品1、黒曜石の両極石器2、珪質頁岩製石鏃1、黒曜石の使用痕剥片7、緑色岩の磨製石斧破片を転用したハンマー1、安山岩製の台石1、安山岩製の磨石類4などが出土した。

本住居では埋土観察のためのセクションベルトから12ヶ所の埋土コラムサンプルを採取し、自然乾燥の後、フルイにかけて炭化物等の回収を試みた。その結果、クルミ外殻、コナラ・クヌギ類の子葉破片を検出した。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅰ式期に位置づけられる。

18号住居跡（第48～50図、写真図版9）

調査区に中央北寄り位置する。隅丸方形の住居跡で周溝、柱穴が検出された。198号土坑、399号ピット、419号ピットは本遺構より新しい。本住居の柱穴は炉奥側から394号、398号、420号、414号ピットで、おそらく198号土坑に切られて失われた柱穴がもう1基あると思われる。配置上気になるが419号ピットが柱穴となる可能性もある。計5基の柱穴になる。炉は住居中央からやや北西寄りに設けられる。浅いくぼみを囲むように扁平の石を敷いた形態である。

出土遺物は少数で埋土下層からの出土である。住居内に遺棄された遺物はない。土器は曽利Ⅰ式の深鉢が出土している。石器は砂岩素刃削器1、頁岩鋸歯縁削器1、砂岩の板状剥片1、珪質頁岩の石錐未成品2、砂岩打製石斧1、砂岩石匙1、黒曜石の使用痕剥片1、石柱状の柱状節理の安山岩1、安山岩磨石類1が出土した。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅰ式期に位置づけられる。

20号住居跡（第51～53図、写真図版9）

調査区西端に位置する。保存状態が悪い円形住居で周溝、ピット、炉跡が検出された。西壁は撹乱により失われている。東壁沿いで周溝が検出された。炉跡は住居中央に設けられる。くぼみと焼土が検出された。大小のピットが概ね想定される住居の壁沿いに巡り、これらは柱穴であろう。87号土坑は本遺構よりも新しい。

出土遺物は少量で埋土下層から出土している。第52図1は楕円形の鉢形土器である。その他の本住居跡出土土器は、諸磯式の小破片が主体を占める。石器は、178gと大きな礫面を残す黒曜石石核1、黒曜石剥片60点ほど、珪質頁岩の鋸歯縁削器1、頁岩の横型石匙1、石鏃3、石鏃未成品3、磨石類4、台石破片1、黒曜石原石、使用痕剥片などが出土している。

本住居では埋土断面観察のセクションベルトから11ヶ所の埋土コラムサンプルを採取し、炭化物の回収を試みた。サンプルから微小な黒曜石と珪質頁岩の剥片、押圧剥離に伴う微小剥片が多数回収され、石器製作に伴う剥片が本住居に廃棄されたか混入したことがうかがえる。そのほかクルミ外殻が検出された。

以上の調査所見から本住居は諸磯ａ式中段階から新段階に位置づけられる。

21 号住居跡（第 53 ～ 56 図、写真図版 10）

調査区中央東寄りに位置する。楕円形の住居で周溝、柱穴、炉跡、埋甕が検出された。竪穴は深さ 25cmほどが残り、暗褐色の自然堆積した土で埋没していた。壁際に幅広で深い周溝が検出された。床面は樹根による撹乱のためか軟弱で、やや掘り下げすぎてしまった。炉は住居中央からやや北寄りに設けられる。浅いくぼみを囲むように扁平の炉石が敷かれる形態で、炉底は焼土化していた。炉のすぐ南側の床面が強く焼土化していて、地床炉とみられる。柱穴は奥壁側から 389 号、393 号、388 号、319 号、321 号、392 号、317 号ピットの 7 基である。この柱穴の組み合わせ以外にも 415 号、416 号、320 号、417 号ピットの南半側の柱穴の組み合わせ、さらに出入り口部の 404 号と 405 号ピットの組み合わせが認められる。371 号と 385 号ピットはやや浅いが柱穴とみればもっとも初期段階の 5 基柱穴の組み合わせも想定でき、3 回程度の建替え拡張を経ていることがうかがえる。

埋甕は曽利Ⅰ式深鉢の頸部を輪切りにしたものを正位に埋設している。床面を掘り下げすぎたため、検出時には大分浮いてしまっているが、本来は床面と埋甕上端がほぼ同高となっていたと思われる。住居内の埋甕としては出現期の貴重な事例であろう。

住居内から 318 号、322 号、334 号ピットが検出されている。318 号ピットでは石器がまとまって出土しており、これらのピットの大きさと位置から住居内の貯蔵施設の可能性もあろう。

出土遺物はごく少なく、埋甕を図示し得たのみである。石器は黒曜石石鏃 1、玦状耳飾 1、石錐 1、打製石斧 11、素刃削器 1、安山岩の多孔石 1 などが出土している。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅰ式新段階に位置づけられる。

22 号住居跡（第 56 図、写真図版 11）

調査区中央で検出された保存状態の悪い住居跡で、炉跡と柱穴の可能性があるピット 1 基が検出されたのみである。炉は浅いくぼみを囲むように扁平な炉石を敷いた曽利Ⅰ式期によくみられる形態である。遺物はごく少なく、黒曜石石鏃未成品 1、打製石斧 1、頁岩の鋸歯縁削器 1、磨石類 1 が出土したのみである。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅰ式期に位置づけられる可能性があろう。

24 号住居跡（第 57 ～ 61 図、写真図版 11・12）

調査区中央南西寄りに位置する。円形の住居で周溝、柱穴、炉跡、埋甕が検出された。8 号土坑を切る。壁沿いに周溝が巡り、炉は住居中央から北寄りに設けられる。扁平の炉石を垂直に埋め立てたいわゆる掘り炬燵状の石囲炉で、炉底は焼土化している。炉の南側の床面はややくぼみ強く焼土化している。地床炉であろう。この地床炉の西側に浅い落ち込みが検出された。本住居より古い土坑の可能性もあるが、深さ、大きさが地床炉のくぼみによく似ており、地床炉の造り変えも考えられるかもしれない。柱穴は 7 号、8 号、9 号、10 号ピットの 4 基に炉奥、北壁沿いの周溝内で検出されたピットを加え計 5 基である。

住居南端で埋甕を検出した。埋甕の上には安山岩礫 2 個があり、埋甕はその下から検出されている。曽利Ⅳ式の深鉢の底部と口縁部を欠いたものを正位に埋設している。

出土遺物は少なく、埋土下層で出土している。住居内に遺棄された遺物はない。土器は曽利Ⅳ式とⅤ式がみられる。石器は黒曜石石鏃 7、打製石斧 1、ハンマー状の棒状礫 1 などである。本住居で埋土断面観察のためのセクションベルトから 12 ヶ所のコラムサンプルを採取し、炭化物等の回収を試みた。サンプル中には黒曜石、珪質頁岩、チャート、石英の剥片、押圧剥離に伴う微小な剥片が含まれ、本遺跡内での石器製作を示唆する。炭化物ではクルミ殻が検出された。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅳ式期に位置づけられる。

25 号住居跡（第 61 ～ 63 図、写真図版 12）

調査区中央南東寄りに位置する。自然埋没した円形の住居で、周溝、柱穴が検出された。北壁沿いで周溝が検

出されたが、南側では検出できなかった。床面は硬くしまり、容易に確認できた。柱穴は 86 号、88 号、89 号、91 号ピットの 4 基である。住居中央に地山礫が露出し、その脇でわずかながら焼土跡が検出された。地床炉であろう。

出土遺物はごく少量である。第 62 図 1・2 は縄文時代前期前葉の中越式、3 は胎土に繊維を含み、口縁部に箍状隆帯を貼り付けた在地化した下吉井式系統（坂平式）と思われる土器、4 は関山式の可能性がある羽状縄文を施文した土器破片である。石器は黒曜石石鏃 4、打製石斧 1、磨石類 1、黒曜石の石核 1、黒曜石剥片 40 点ほどが出土した。

以上の調査所見から本住居は前期前葉の中越式期に位置づけられる。

26 号住居跡（第 64・68 図、写真図版 12・13）

調査区中央南西寄りに位置する。34 号、37 号住居、26 号土坑に切られ、36 号住居と重複する。36 号住居との新旧関係は判断できなかった。東壁以外の壁面は良好に検出され円形プランであることは明らかである。東西方向の埋土断面図には 34 号住居との重複関係が現れるはずであるが、耕作による撹乱のためか、埋土断面から 34 号住居、あるいは 36 号、37 号住居との重複を読み取ることはできなかった。本住居の柱穴は 65 号、67 号、73 号、77 号ピットの 4 基である。住居中央がややくぼみ焼土が残されている。これが地床炉であろう。当地域の中越式期の住居に一般的な構造である。

出土遺物は少ないが、土器は中越式、神ノ木式、関山式が主で、木島式が僅かに混じる。石器は黒曜石、チャート、珪質頁岩製の石鏃 8、石鏃未成品 1、珪質頁岩の石匙 1、砂岩の素刃削器、珪質頁岩の削器、黒曜石の楔形石器、磨石類 2、磨製石斧破片 1 である。黒曜石の剥片類が 100 点ほどと多い。本住居の埋土断面からコラムサンプル 9 ヵ所を採取し、炭化材等の回収を試みた。黒曜石、石英、珪質頁岩、チャートの微小な剥片、押圧剥離による剥片が回収され、本住居の時期の遺跡内で石器製作が行われていたことが分かる。植物遺体では炭化したクルミ、クリが回収された。

以上の調査所見から本住居は中越式期に位置づけられる。

36 号住居跡（第 65・69 図、写真図版 13）

調査区中央南西寄りに位置する。26 号住居と重複し、34 号住居と 37 号住居に切られる。26 号住居との新旧関係は確認できなかった。26 号、34 号、36 号、37 号住居が重複する部分で、消去法で残った壁とピット、焼土跡を 36 号住居とした。やや東西に長い長楕円プランとなるが、複数の遺構がなお重複している可能性があろう。108 号、128 号、129 号土坑に切られる。37 号住居の南辺の周溝に重複して焼土跡が検出された。117 号ピットの東側である。これが本住居の地床炉と思われる。柱穴となる可能性があるピットには、153 号、125 号、133 号、126 号、127 号、131 号、79 号、142 号ピットなど、焼土跡の周りをめぐるものが考えられるが深さがまちまちである。またこれらとは別にやや大きめで深いピット、140 号、139 号、138 号、154 号、114 号、113 号、143 号、115 号、128 号ピットも柱穴の組み合わせとして想定してもよいように思われる。それぞれが柱穴となるなら 36 号住居は 2 軒の住居の重複ということになる。

出土遺物はこの調査地点で出土した遺物から 34 号住居、37 号住居、26 号住居と差し引いて、36 号住居以外の遺構が重複しない範囲からの出土品のみを本住居の遺物として抽出した。その結果、僅かな土器の小破片が残った。第 69 図 7 の五領ヶ台式を除くと中越式、神ノ木式などがある。石器はホルンフェルス製打製石斧 2、頁岩製打製石斧 1、黒曜石の石鏃未成品 1、磨石類 1 である。

以上の調査所見から本住居は中越式期かと思われるが、当地域の中越式期には打製石斧はさほどに一般的な石器でなく、打製石斧の多さがやや気になる。五領ヶ台式期という可能性もあろうが、29 号住居、30 号住居のような埋甕炉は検出されていない。37 号住居とおなじく曽利Ⅱ式期以前としか判断できないが、住居の構造から前期前葉から後葉に位置づけられよう。

37 号住居跡（第 65・69 図、写真図版 13）

調査区中央南西寄りに位置する。26 号､36 号住居を切り､34 号住居に切られる。複雑に重複しあう住居のなかで、東西 5.5m､南北 3.8m の周溝で囲まれた長方形のプランが検出され､これを 37 号住居とした。北壁の一部が残るが、東、西、南の壁面は他の住居との重複により検出できなかった。周溝は明瞭に検出され、周溝上に貼床は認められなかったことから、26 号、36 号住居よりも新しい遺構と判断した。130 号土坑に切られる。

柱穴は周溝の四隅と周溝上に位置する 68 号、120 号、123 号、118 号、117 号、80 号ピットの 6 基と思われる。71 号、152 号、81 号ピットも該当するかも知れない。34 号住居の焼土層の下には 138 号ピットなどがあるが、それらの柱穴に切られながらも 37 号住居の地床炉が検出された。ほぼ住居の中央に相当する。これら以外に本住居の付属施設は一切検出されなかった。

本住居は他の住居跡と複雑に重複していて当初は一括して 14 号住居として発掘し始めた。37 号住居を認識してからは努めて遺物の帰属先を注意深く判断しながら遺物を取り上げたが、34 号住居に切られるうえに 37 号住居の床面上にも遺物は多くなかった。そのため図示しえた資料は少数である。出土した土器は中越式から諸磯 c 式まで幅広いが､全体の印象では諸磯a式が多い｡曽利Ⅱ式期の 34 号住居に先行する住居であることは明らかだが、他の住居との新旧関係の判断は難しい。石器は黒曜石剥片 3、磨石類 3 点である。

以上の調査所見から本住居の時期を特定するのは難しく、曽利Ⅱ式期以前としか分からない。しかし住居の構造から前期中葉から後葉に位置づけられるものと思われる。

34 号住居跡（第 66 ～ 68・70 図、写真図版 13 ～ 15）

調査区中央南西寄りに位置する。26 号、36 号、37 号住居と重複する。曽利式期の遺構で最も新しいが、周囲の遺構と完全に重複し、一部を除き壁面と床面を検出できなかった。北壁の一部を検出したが、その形状からおそらく円形プランであろう。埋甕、柱穴、炉跡を検出した。当初、本住居と、本住居に重複する遺構全体を一体の遺構と判断して 14 号住居と命名したが、調査の過程で複数の時期の異なる住居跡が複雑に重複することが判明したため、本住居を 34 号住居、他の遺構を 36 号、37 号住居と命名し、個別に調査することとした。

柱穴は炉西側の 72 号、82 号、119 号、156 号、116 号ピットの 5 基と思われる。150 号ピットから曽利式土器が出土しており、120 号ピットとともに柱穴とみて 7 基の組み合わせを想定することも可能であろう。炉は浅いくぼみを囲うように扁平な炉石を立てて埋めた石囲炉で、炉底は僅かに焼土化している。東側の炉石は抜き取られている。136 号土坑は石皿破片などが出土し、貯蔵穴の可能性があろう。

本住居は、特異な遺構である。本住居は古い遺構埋土内に住居を構築しているため床面は軟弱で検出することができなかった。しかし、石囲炉から東へ 2.5m までの間 50cm から 80cm 幅、厚さ 10cm ほどで床面を貼るように焼土が敷かれ、その表面は硬くしまっていた。住居内の装飾的あるいは呪術的効果を狙った施業とも思ったが、石囲炉の炉石を抜き取った後に炉内にまで焼土が敷かれていることから、住居建設時に焼土で床を貼ったとは考えられない。住居の廃絶時に住居を焼却したと解釈することは可能だが、住居主軸線上にのみ厚い焼土が検出されることは不自然であるし、柱穴内には多量の焼土、炭化材は検出されていない。また床面上で火を使用したとしても地中 10cm に焼土化が及ぶのは尋常な被熱ではない。炉石にも埋甕にも相当な被熱の痕跡が認められてよいが、そのような形跡は確認されない。

炉の東側 1.5m ほどで埋甕が検出された。曽利Ⅱ式の深鉢の胴下半部を正位に埋設している。曽利Ⅱ式期の住居で一般化する埋甕であるが、この埋甕は不自然に炉に近く、想定される柱穴配置からみても埋設位置が通例とは異なる。埋甕上端は炉石の高さから想定される床面高よりも明らかに突出しており、貼床のような焼土を切って埋設されている。埋設された深鉢の上半部は、埋甕上面の住居内で出土しており、接合すると口縁部まで復元が可能であった。この点も一般的な埋甕の様子とは明らかに異なる。なおこの埋甕は、偶然であろうが先行する古い住居の柱穴上に埋設されている。

炉石が抜き取られた炉の東辺の厚い焼土層には曽利Ⅰ式ないしⅡ式の小型深鉢が正位で埋め込まれている。注

意深く土器と焼土の関係を観察したが、埋甕のように焼土を切って埋設した形跡は確認されない。土器自体にも強い二次被熱は認められない。焼土を敷き詰めると同時に埋め込まれたと考えるべきであろう。

出土遺物は曽利Ⅱ式の埋甕、曽利Ⅰ式からⅡ式の小型深鉢、ミニチュア土器、鉢形土器などである。石器は黒曜石の石鏃1、石鏃未成品2、石錐1、楔形石器5、頁岩製の石鏃1、打製石斧1、磨石類1などであるが、古い住居に帰属すべきものが混入している可能性がある。

以上、調査所見を報告したが、特異な焼土の評価は難しい。炉跡の形状は曽利Ⅱ式期とみてもよいと思われるから、埋甕など出土品との齟齬はない。住居廃絶時に住居外から多量の焼土を搬入して主軸線上に焼土を敷き詰めながら小型深鉢を埋め込み、その後、大型の深鉢を胴中位で破壊して下半部を埋甕のように埋設したという特異な住居廃絶時の行為を想定するほかない。埋甕が曽利Ⅱ式期の別個の住居に帰属するもので、その住居は削平されて失われている可能性も考慮したが、34号住居の保存状態を踏まえると、想定される別個の住居が埋甕以外に全く痕跡をとどめないと考える方が不自然であろう。

27号・35号住居跡（第71～73図、写真図版15）

調査区南端に位置する。重複しあう2軒の住居跡で、27号住居が新しい。検出時には27号住居が最も新しく、ついで北側に隣接する73号土坑と竪穴遺構、そして35号住居の順にみえた。27号住居では壁と一致しない周溝、ピット、焼土跡が検出された。35号住居はピットのみが検出されたが、27号住居西壁沿いの27号住居床面で検出された焼土跡は35号住居の地床炉と思われる。27号住居の柱穴は1号、2号、3号、4号、5号、6号ピットの6基と北壁沿いの小ピットの計7基が想定される。住居中央の焼土跡が地床炉で、土坑状の掘り込みは地床炉のくぼみである。床面上で検出された小ピットには35号住居の柱穴が含まれようが、多くは樹根の撹乱と思われる。27号住居の柱穴配置、検出された壁面、地床炉の位置を考慮すると、検出された周溝は北壁を除いて評価に苦しむ。

35号住居は西側半分の床面と壁、地床炉と思われる焼土跡が検出されたのみである。柱穴配置はよく分からない。検出されたピットはいずれも浅く柱穴と認めるべきか分からないものばかりである。

27号住居の北側、73号土坑と重複する竪穴状の遺構は小さく浅いピットが検出され住居跡の可能性がある。埋土断面から73号土坑が新しい。

27号住居と35号住居の出土土器は、第73図1と6が木島式、7が中越式、5と8が諸磯c式と、大きく前期前葉段階と前期末葉段階とに分離される。石器は27号住居で黒曜石の石鏃10、珪質頁岩の石鏃1、砂岩の素刃削器1、砂岩の石匙1、磨石類5が出土している。35号住居では砂岩製のミニチュア石匙1、黒曜石、珪質頁岩、頁岩の剥片が出土している。73号土坑では中越式、諸磯式、磨製石斧破片などが出土している。

以上の調査所見による遺構の新旧関係を踏まえると、27号住居が諸磯c式期、35号住居が中越式期に位置づけられると推測される。

28号住居跡（第74図、写真図版16）

調査区中央南東寄りに位置する。楕円形のプランで、断片的な周溝と柱穴らしい小ピットを検出した。炉跡は検出されなかった。8基のピットが検出されたが、柱穴らしい配置になるのは92号、94号、95号、96号ピットの4基である。出土土器は第74図3が内外面条痕調整で外面爪形列が施文される早期末の粕畑式、同図1が前期初頭の坂平式、2と4は縄文施文の土器である。このほか諸磯式、曽利式土器の小破片も出土している。石器は黒曜石の石鏃未成品1、石鏃2、磨石類1などが出土している。

遺物が少なく判断に迷うところだが、中越式期の住居と比較すると柱穴配置、炉跡が不明瞭であり、出土土器に従い、早期末から前期初頭段階に位置づけておきたい。

29 号・30 号住居跡（第 75 ～ 76 図、写真図版 16）

調査区西端から南に細く延びる市道用地に位置する。2 軒以上の住居が重複していると思われる。個々の住居は円形プランと思われるが全容は不明である。地床炉、柱穴と思われる小ピットを検出した。深耕作物用のトレンチャーによる撹乱が調査範囲の真ん中を破壊している。3 基の埋甕炉が検出され、東側の埋甕炉を中心としたピットと壁面を 29 号住居、西側の 2 基の埋甕炉を中心とした遺構を 30 号住居としたが、個々の埋甕炉ごとに 1 軒の住居とみて 3 軒の重複を想定すべきであろう。30 号住居とした 2 基の埋甕炉近くの床面は強く焼土化していて、地床炉と考えられる。11 号、14 号、17 号ピットの 3 基は 40cm から 62cm と深く、中央の埋甕炉に対応する柱穴の可能性があるが、他のピットはいずれも浅い。

第 76 図 1 が 29 号住居とした最も東側の埋甕炉の炉体土器である。7 は中央の炉体土器、8 は最も西側の炉体土器である。土器の細分型式上の位置づけ、炉体土器の設置高の比較でも新旧は付けがたい。石器は 29 号住居で黒曜石の石錐 1、珪質頁岩剥片が出土している。30 号住居では石器は出土していない。

以上の調査所見から 3 軒の住居はいずれも五領ヶ台Ⅰ式期に位置づけられるが、新旧関係は判別しがたい。

31 号住居跡（第 77 ～ 79 図、写真図版 17）

調査区南端に位置する。32 号住居に接するが、新旧関係は確認できなかった。方形プランで壁沿いに 4 重の周溝を検出し、柱穴と思われる小ピット、中央部に焼土跡を検出した。竪穴を埋める埋土は壁際が黄褐色、住居中央部が黒褐色で、自然埋没した状況を示すと思われる。周溝の検出状況から同一地点で 4 回の建築を繰り返したと想定されるが、南半分が調査区外であるため柱穴配置を十分に確認できない。それでも 482 号ピットあるいは 483 号ピットと 484 号ピット、486 号ピットと 491 号ピット、487 号ピットと 489 号ピット、485 号ピットと 490 号ピットと 4 組の北側の柱穴の組み合わせを想定することができる。住居中央から北寄りにかけて複数ヶ所の焼土跡を検出した。いずれも床面が強く焼土化していて地床炉と考えられる。

出土した土器は第 78 図 24、第 79 図 9 が中越式、第 78 図 6・14、第 79 図 2 などが神ノ木式、第 78 図 12・15・16、第 79 図 1 は木島式、第 78 図 5 は関山式、同図 19・20 が釈迦堂 Z3 式、同図 1 が諸磯ａ式と時期幅がある。素直にみれば前期前葉から諸磯ａ式にかけて繰り返し住居を経営したということになろう。石器は黒曜石の石鏃 20、未成品 1、チャート製の横型石匙 1、頁岩製打製石斧 1、黒曜石の石錐 1、磨石類 10 が出土している。

以上の調査所見から 4 軒ほどに想定される本住居は、中越式期から諸磯ａ式期にかけて位置づけられる。

32 号住居跡（第 80・81 図、写真図版 17）

調査区南端に位置する。31 号住居、45 号住居と重複するが、遺構の保存状態が悪く、新旧関係は確認できなかった。212 号土坑、213 号土坑、214 号土坑と重複するが、新旧関係は確認できなかった。本住居は西壁と小ピットが検出されたのみであるが、住居跡と認識して良いと思われる。出土遺物は第 80 図 1 が中越式土器、2 が木島式、3・4 が神ノ木式で、石器では黒曜石の石鏃 1、未成品 1、珪質頁岩の削器 1、石鏃未成品 1、磨石類 2、砂岩のハンマー 1 などである。

以上の調査所見から本住居は中越式期に位置づけられる。

33 号住居跡（第 81 ～ 87 図、写真図版 18）

調査区南端に位置する。方形の住居で周溝、柱穴らしいピット、焼土跡を検出した。周溝は西壁から北壁にかけて検出された。住居中央付近の 2 ヵ所に浅いくぼみがあり、くぼみは焼土化している。地床炉であろう。東壁沿いの 216 号土坑と 217 号土坑は本住居を切る新しい遺構である。462 号、463 号、466 号、480 号ピットの 4 基が柱穴とみられる。

出土遺物は埋土下層と床面で出土したが、住居内に遺棄された遺物はない。第 82 図 3・4 は神ノ木式、8 は貝殻腹縁文が施文される土器、15 は内面に条痕調整があり外面に箍状隆帯がある下吉井系の土器である。19 は関

山式、17・18 は諸磯 a 式と思われる。石器は黒曜石石鏃 5、未成品 2、石錐 1、珪質頁岩の石匙 1、頁岩の削器 2、磨石類 4 が出土している。

諸磯式があるものの出土遺物は前期前葉段階が多くまとまっていることから本住居は、中越式期に位置づけられると思われる。

38 号住居跡（第 88 図、写真図版 18）

調査区中央東寄り、25 号住居の西に隣接して位置する。保存状態が悪い住居跡で柱穴と炉跡と思われる焼土跡が検出されたのみである。周囲には中期中葉段階の土坑群がある。本住居を認定したきっかけは土坑群の調査中、120 号土坑の脇で焼土跡を検出し、その傍らから井戸尻式末から曽利 I 式の土器破片がまとまって出土したことにある。早速に柱穴を探索したところ、浅いながらも 188 号ピット、139 号土坑、448 号ピット、449 号、160 号、184 号土坑、442 号ピットの 7 基を検出した。ピットが浅いのは本住居の竪穴と床面がすでに削平されていたことに加え、周辺の土坑を検出するために遺構確認面を掘り下げたことにもよる。炉と思われる焼土跡と北側の 188 号ピットが近接する点がやや気になるが、本遺跡のほかの曽利 I 式期の住居の柱穴配置に類似した住居構造がうかがえる。

出土遺物は炉周辺の井戸尻式末から曽利 I 式の土器破片のみである。

以上の調査所見から本住居は曽利 I 式期に位置づけられる。

41 号住居跡（第 89 図）

調査区中央南東寄り、6 号、39 号住居東側に位置する。保存状態が悪い遺構で、扁平礫を伴う焼土跡とピットが検出されたのみである。出土遺物もなく時期は不明である。

42 号住居跡（第 89 図、写真図版 18）

調査区中央東寄り、46 号住居南に位置する。保存状態が悪い住居跡で柱穴、炉跡と思われる焼土跡が検出されたのみである。柱穴は 454 号、488 号、494 号、456 号、455 号もしくは 497 号ピットの 5 基である。これらのピットに囲まれた中心に焼土跡が検出された。出土遺物は少なく、曽利式土器の小破片と前期前葉の貝殻腹縁文を施文した土器の小破片のみである。

柱穴配置から本住居は曽利式期に位置づけられると思われる。

43 号住居跡（第 90 図、写真図版 18）

調査区南東端、33 号住居の東側で焼土跡とピット 2 基を検出し、第 90 図 1 の加曽利 E Ⅲ式土器破片がまとまって出土したことから住居跡と認定した。保存状態が悪く、遺構の評価ができないが、住居跡として報告しておく。

44 号・45 住居跡（第 91 図、写真図版 18）

調査区南端に位置する。32 号住居と重複するが、遺構の保存状態が悪く新旧関係は不明である。方形にめぐる周溝と柱穴と思われるピットが検出された。柱穴の可能性があるピットは 6 基あるが、周溝との位置関係が整合せず、評価が難しい。両住居の出土遺物は中越式、木島式、神ノ木式、五領ヶ台式の小破片、珪質頁岩の使用痕剥片 1、黒曜石剥片 4 のみである。

五領ヶ台式土器が僅かながら出土しているものの、29 号、30 号住居のような埋甕炉は確認されていないことから、2 軒の住居は中越式期に位置づけられると推測される。

46 号住居跡（第 92 ～ 96 図、写真図版 19）

調査区中央北東寄りに位置する。保存状態が悪く竪穴はほとんど残っていない。楕円形プランで、周溝、柱穴、

炉跡が検出された。柱穴の数と配置から建替が想定される。炉跡は住居中央から北寄りに位置し、浅いくぼみを囲うように扁平な炉石を敷いている。炉跡の南西側の床面が強く焼土化しており、地床炉と考えられる。

柱穴は北壁沿いから 499 号、513 号、498 号、508 号、511 号、506 号、504 号ピットの 7 基である。また 499 号、500 号、498 号、507 号、510 号、505 号、503 号ピットの 7 基の組み合わせも想定され、建替以前の旧柱穴と思われる。519 号ピットと 520 号ピットは住居の床面を切る新しい遺構だが、その位置から埋甕が埋設されていた可能性も考えられる。後世に発掘されてしまったものかも知れない。

出土した土器は炉内とその周辺の床面から出土していて、曽利Ⅰ式土器である。石器は黒曜石の石鏃 1、未成品 1、磨製石斧 1、頁岩の打製石斧 2、鋸歯縁削器 1、珪質頁岩の両面加工の石槍 1、63g の黒曜石原石、磨石類 4 などが出土している。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅰ式期に位置づけられる。

47 号住居跡（第 96 図、写真図版 19）

調査区南端、39 号住居の南側に位置する遺構である。ぼんやりと円形の落ち込みが検出され、土器破片と安山岩製の台石、扁平な礫が検出されたため 47 号住居と認定した。北壁沿いで周溝を検出したものの炉跡、柱穴らしきピットは検出されず、住居としてよいか不明である。

出土遺物は中越式、木島式、神ノ木式、曽利式土器の小破片と安山岩の台石、黒曜石の石鏃 3、黒曜石の使用痕剥片 1、黒曜石の剥片 40 点ほどである。

住居であるならば中越式期に位置づけられる可能性がある。

48 号住居跡（第 97 図、写真図版 19）

調査区東端に位置する。保存状態が悪い遺構で北西側の壁の一部、柱穴、炉跡と思われる焼土跡を検出した。柱穴の数と配置から建替が想定される。竪穴がほとんど残っていないうえに遺構確認面には撹乱が多く、柱穴を検出するために焼土跡から想定される床面高を超えて掘り下げた。その結果、522 号、523 号、524 号、529 号ピットを検出したが、図示したとおりの遺構断面図となった。この結果、柱穴と想定されるのは北側から 518 号、522 号、524 号、529 号、517 号ピットの 5 基である。これらのピットに囲まれて焼土跡があり、これが炉跡と思われる。出土した遺物は曽利Ⅰ式土器の小破片、黒曜石の剥片 2 点のみである。

以上の調査所見から本住居は曽利Ⅰ式期に位置づけられる。

第 2 節　土坑

1 号土坑（第 98 図、写真図版 20）

24 号住居北東 2m に位置する。黒褐色土で埋まり、土坑底面に安山岩礫が敷かれていた。神ノ木式、諸磯式、曽利Ⅰ式、Ⅱ式土器破片が出土している。

2 号土坑（第 98 図、写真図版 20）

22 号住居南東 2m に位置する。1.5m 径ほどの円形で浅い土坑である。壁沿いから井戸尻式土器、礫がまとまって出土した。

4 号土坑（第 99 図、写真図版 20）

26 号住居西側で検出された浅い保存状態が悪い土坑である。曽利Ⅰ式の同一個体の土器破片がまとまって出土したが、不思議なことに割れ口が丸まるほどに顕著に摩滅した土器破片と、さほどに摩滅していない破片とがある。土器の下から砂利が検出されているが、これは遺構確認面でみられた撹乱によるものであろう。

5 号土坑（第 99 図、写真図版 20）

20 号住居南で検出された浅い土坑で、底面から礫がまとまって検出された。ミニチュア石皿、磨石、井戸尻式と思われる土器破片が出土した。

8 号土坑（第 100 図、写真図版 20）

24 号住居北東にあり、24 号住居に切られる。土坑というより小竪穴状の遺構で、曽利Ⅰ式とⅡ式土器がまとまって出土した。

39 号土坑（第 101 図、写真図版 20）

調査区南西角から南へ延びる道路部分の北端で検出された。被熱した礫と井戸尻式 3 段階の土器がまとまって出土している。

44 号土坑（第 101 図、写真図版 21）

調査区南西の道路部分で検出された浅い円形土坑で、底面から扁平礫と焼土が検出された。井戸尻式土器破片が出土している。

62 号土坑（第 101 図、写真図版 21）

4 号住居南東で検出された円形土坑で、五領ヶ台式土器破片が出土した。

71 号土坑（第 7・15 図、写真図版 21）

2 号住居と重複する土坑で、2 号住居埋土下で検出された。1 号、2 号住居と接合する土器が出土している。底面から人頭大の礫がまとまって出土した。

72 号土坑（第 102 図、写真図版 22）

27 号住居東側で検出された土坑で、土坑の埋土上層で礫がまとまって出土したほか、諸磯 c 式土器破片が出土している。本遺跡では諸磯 c 式土器破片が少量出土しているが、この土坑は当該時期の数少ない遺構のひとつかもしれない。

77 号土坑（第 103 図、写真図版 22）

調査区南端に位置するやや大型の土坑である。特異な構造で底部壁沿いに小ピットがめぐる。石柱状の棒状礫が壁に立てかけられるように検出され、その横から炭化材が出土した。土坑中央の底面には細かい炭化材と滑石製のビーズ状石製品、骨片が検出された。曽利Ⅰ式の把手付深鉢破片が出土している。土坑内にピットがめぐる例は長野県富士見町の居平遺跡にみることができる。

97 号土坑（第 102 図、写真図版 23）

20 号住居北 5m に位置するやや小ぶりの円形土坑で土坑底面に礫がまとまっている。井戸尻式 3 段階と思われる土器破片が出土した。

112 号土坑（第 102 図、写真図版 23）

24 号住居北東で検出された土坑で、埋土上層に人頭大の礫がまとまり、土坑底面で土器破片がばらまいたように出土した。土器は曽利Ⅰ式である。

113 号土坑（第 104 図、写真図版 24）

39 号住居西に隣接する浅い土坑で、底面から礫、磨石、打製石斧、神ノ木式と諸磯式土器破片が出土した。

119 号土坑（第 104 図、写真図版 24）

6 号住居北壁を切る土坑で、井戸尻式の鉢形土器、礫が出土した。

123 号土坑（第 104 図、写真図版 24）

27 号住居北側で検出された円形土坑で、井戸尻式 3 段階から曽利Ⅰ式の深鉢と礫が埋土中で出土した。

127 号土坑（第 105 図、写真図版 25）

24 号住居東で検出された円形土坑で埋土中から礫と土器破片が出土した。土坑中央に人頭大の礫 3 個があり、その下から曽利Ⅴ式土器底部が出土している。壁沿いには諸磯式土器の小破片がまとまって出土した。

130 号土坑（第 105 図、写真図版 25）

37 号住居を切って掘り込まれた土坑で、井戸尻式土器がまとまって出土した。埋土上層には住居の貼床のような粘質でかたくしまった黄褐色土が検出された。当初は 37 号住居より古い土坑で 37 号住居床面が貼られたものかと考えたが、36 号住居の焼土を切って掘り込まれ、かつ出土する土器は 36 号、37 号住居よりも新しい型式であった。34 号住居の床面が本土坑にまで及ぶとも考えられない。すでに削平されて失われた、本土坑よりも新しい時期の住居跡があったのだろうか。

135 号土坑（第 106 図、写真図版 25）

40 号住居南壁に重複して掘り込まれた円形土坑で、礫が出土している。神ノ木式、木島式、関山式土器が出土した。

137 号土坑（第 107 図、写真図版 25）

39 号住居西側で検出された土坑で、埋土から中越式土器破片がまとまって出土している。

147 号土坑（第 107 図、写真図版 26）

24 号住居北東で検出された土坑で、埋土中から井戸尻式深鉢が出土している。深鉢は耕作による撹乱で上半が欠損しているが、本来は完形のまま埋納されていた可能性がある。

151 号土坑（第 108・109 図、写真図版 26）

24 号住居北東で検出された土坑で、埋土上層には人頭礫、中層に石皿、土坑底面近くには割られた曽利Ⅰ式土器が敷かれるように出土した。土器は土坑内で割りながら埋納したと思われる。この土器の下からミニチュアの石皿が出土した。

187 号土坑（第 109 図、写真図版 26）

47 号住居東で検出した円形の土坑で、壁に沿って礫が並んで出土した。磨石類 2 点が出土した。

200 号土坑（第 109 図、写真図版 27）

5 号住居内で検出された土坑で、土坑底面で曽利Ⅰ式かⅡ式の小形深鉢底部が出土した。5 号住居より新しい遺構か、あるいは住居の貯蔵穴の可能性もあろう。

205 号土坑（第 110 図、写真図版 27）

46 号住居南西で検出した土坑で、土坑底面近くで曽利 I 式土器が出土した。土器は縦に割り、内面を上に向けて、口縁部を甕棺のように合わせて埋納されていた。

207 号土坑（第 110 図、写真図版 27・28）

31 号住居を切って掘り込まれた土坑で、埋土上層で多数の焼礫が出土した。礫には 20㎝ 角の大きなものも 1 点含まれるが、大半は拳二つ分程度から卵大である。礫は 340 点ほどである。遺跡周辺で容易に採集できる安山岩の亜角礫が主で、被熱し赤色、黒色に変色している。土坑埋土内に炭化材と焼土粒子が多量に検出されるわけでない。

209 号土坑（第 110 図、写真図版 28）

44 号住居を切って掘り込まれた土坑で、土坑底面から礫がまとまって出土した。中越式、神ノ木式、諸磯 a 式土器破片、台石破片、石皿破片が出土した。

213 号・214 号土坑（第 111・112 図、写真図版 28）

32 号住居を切って掘り込まれた 2 基の土坑で 213 号土坑が新しい。214 号土坑は埋土下層に地山由来の黄褐色土層が入り、堆積状況が特異である。214 号土坑には前期の土器破片のほか曽利式土器破片が混じる。

217 号土坑（第 112 図、写真図版 28）

33 号住居内で検出された土坑で、本土坑が新しい。土坑内から礫がまとまって出土した。神ノ木式、諸磯式と思われる土器破片を伴う。

229 号土坑（第 113 図、写真図版 28）

25 号住居東側で検出した円形土坑で、土坑底面から礫がまとまって出土した。曽利 I 式土器破片が出土している。

235 号土坑（第 113 図、写真図版 28）

47 号住居東側、調査区南東角付近で検出した円形土坑で、土坑内から礫がまとまって出土したほか、井戸尻式 3 段階から曽利 I 式期にかけての土器のやや大き目の破片が出土した。

243 号土坑（第 113 図、写真図版 28）

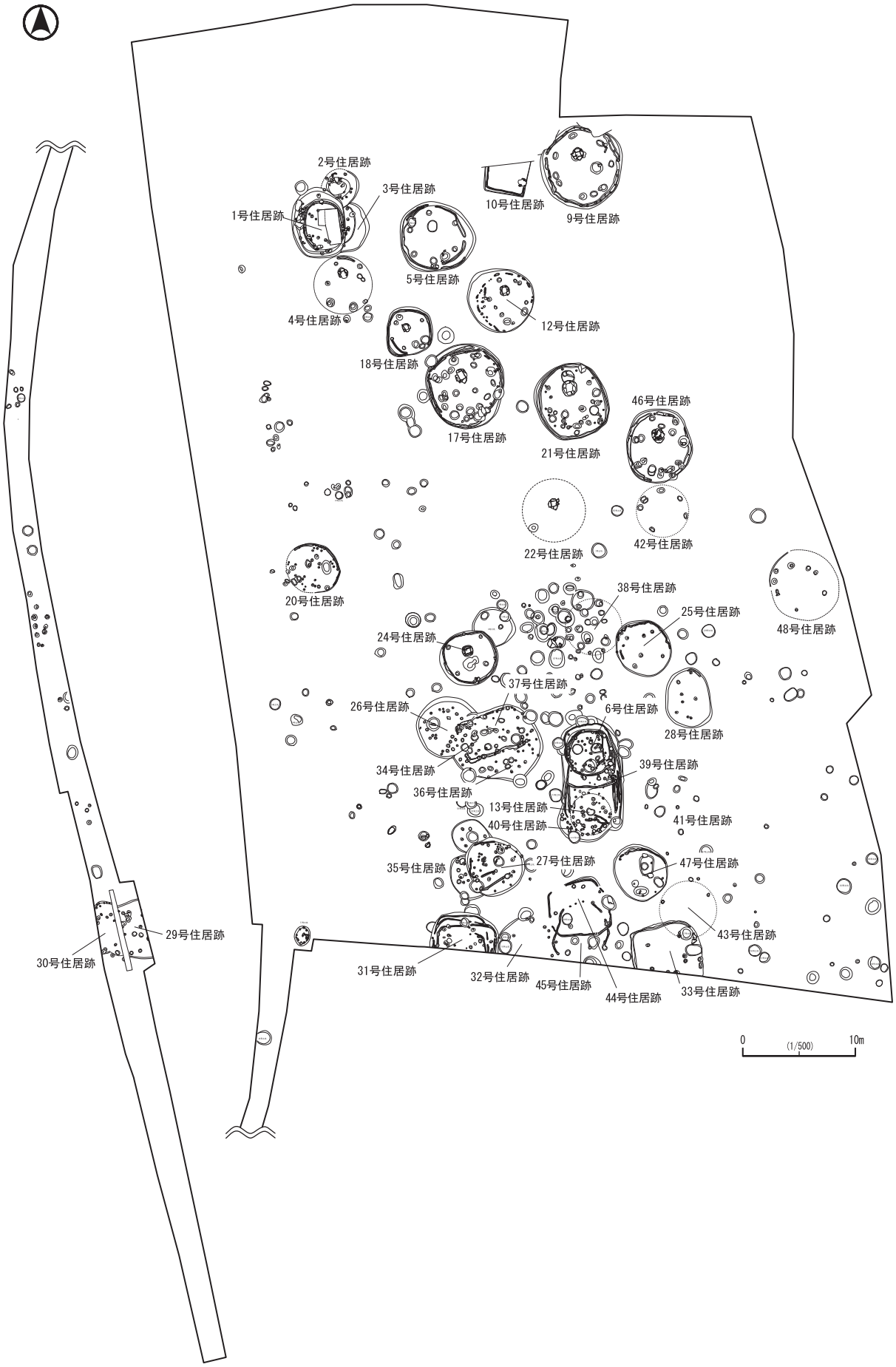
調査区南東角で検出された円形土坑で、底面近くから礫と曽利 I 式土器の大きな破片が出土した。

245 号土坑（第 113 図、写真図版 29）

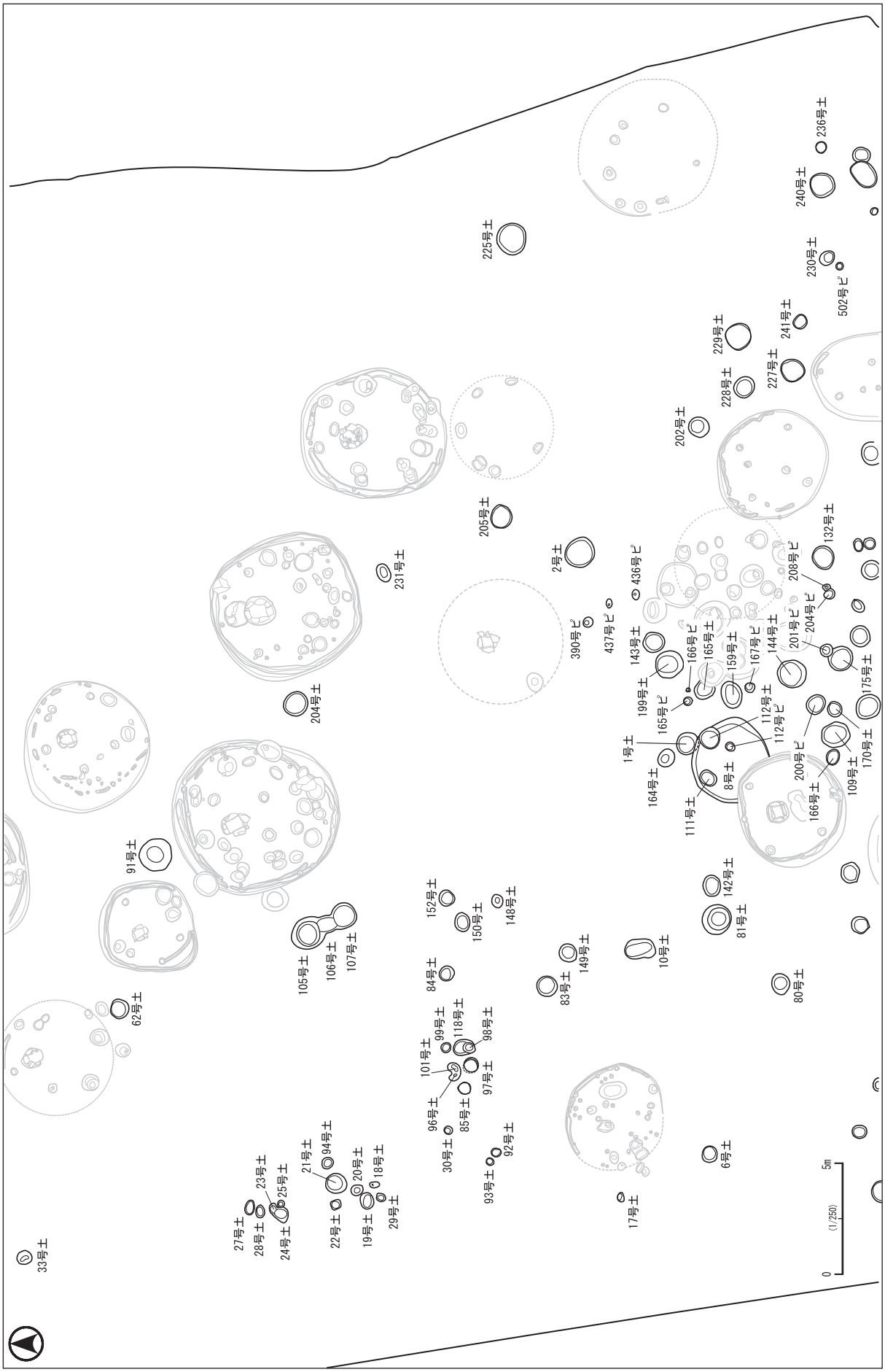
調査南東角で検出された円形土坑で、内部から礫がまとまって検出された。243 号土坑などに類似した土坑で、土器資料から時期を特定できないものの、曽利 I 式期頃と推測される。

252 号土坑（第 114 図、写真図版 29）

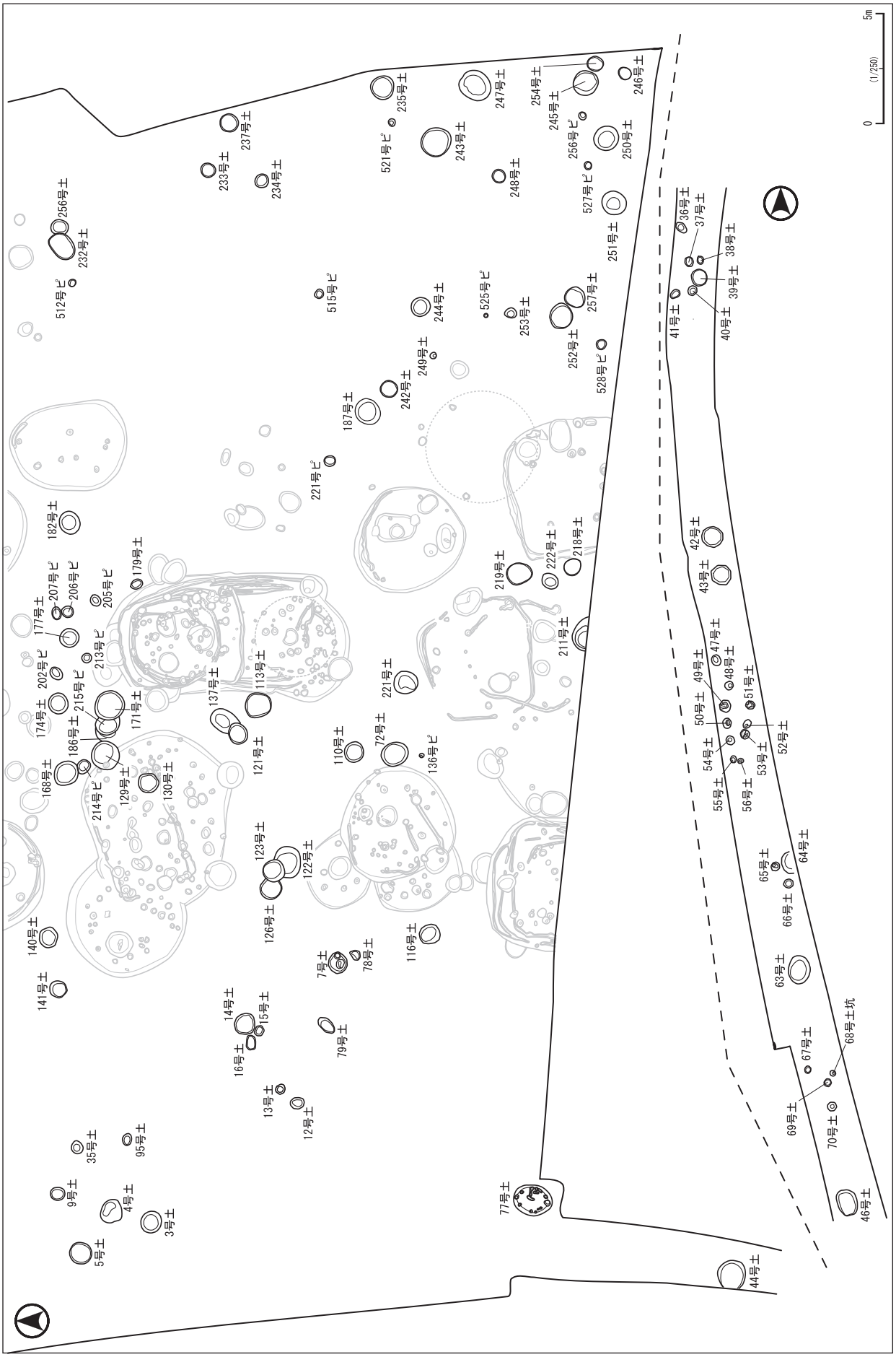
33 号住居東側で検出された円形土坑で、土坑埋土中に人頭大の礫と曽利 I 式の小形深鉢が出土した。



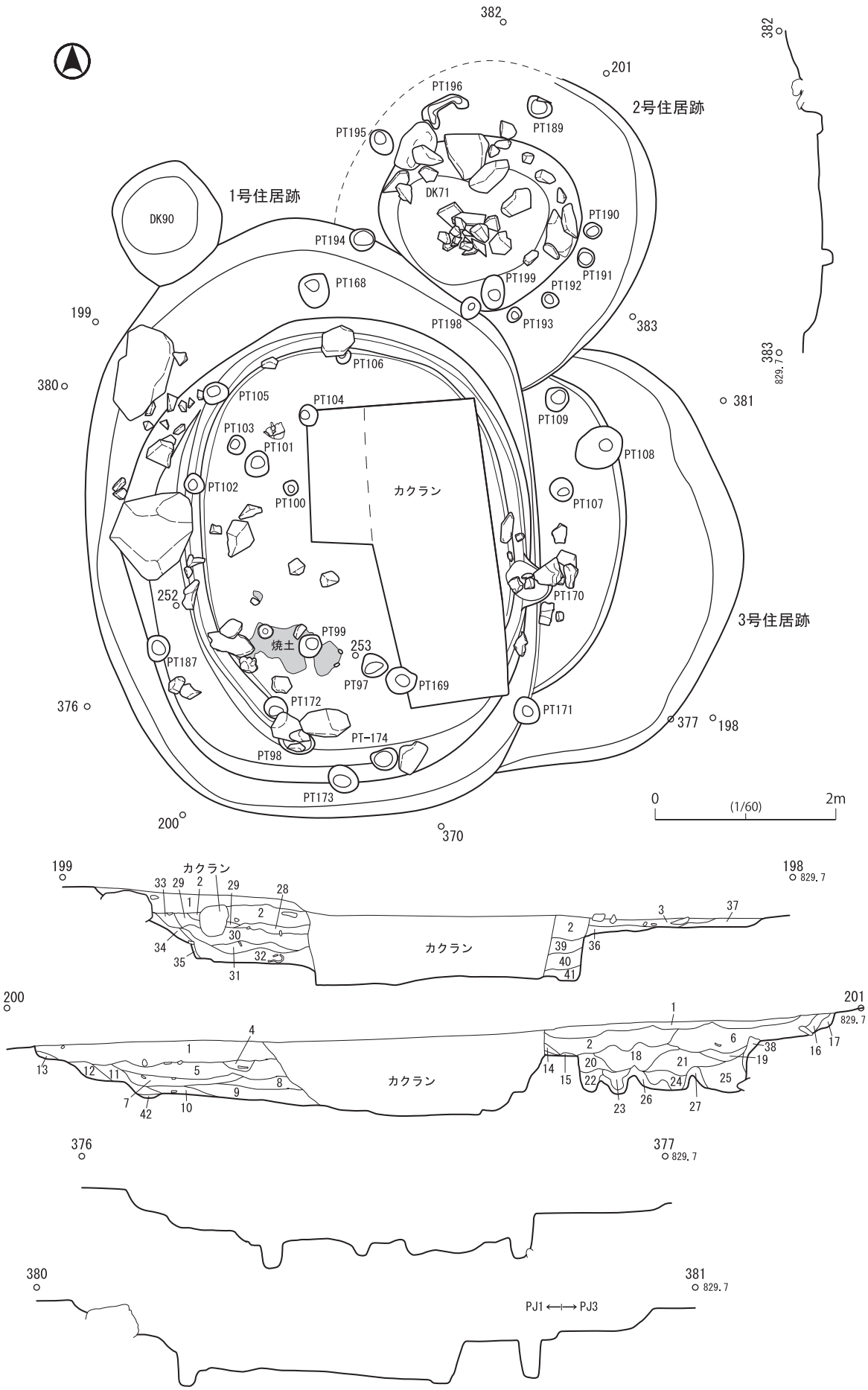
第 4 図　遺構配置図（竪穴住居跡）



第５図　遺構配置図（土坑・ピット(1)）

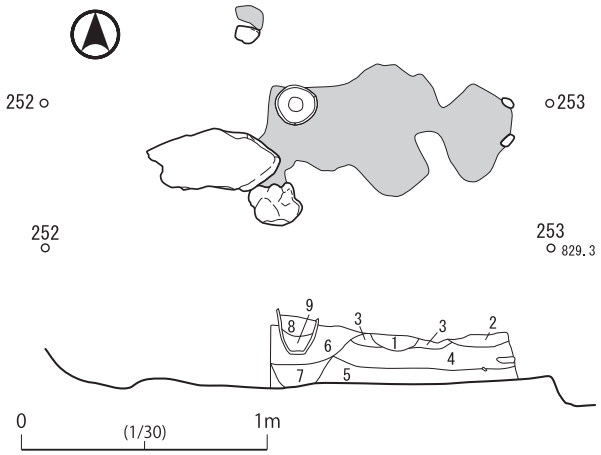


第 6 図　遺構配置図（土坑・ピット (2)）



第７図　１号・２号・３号住居跡

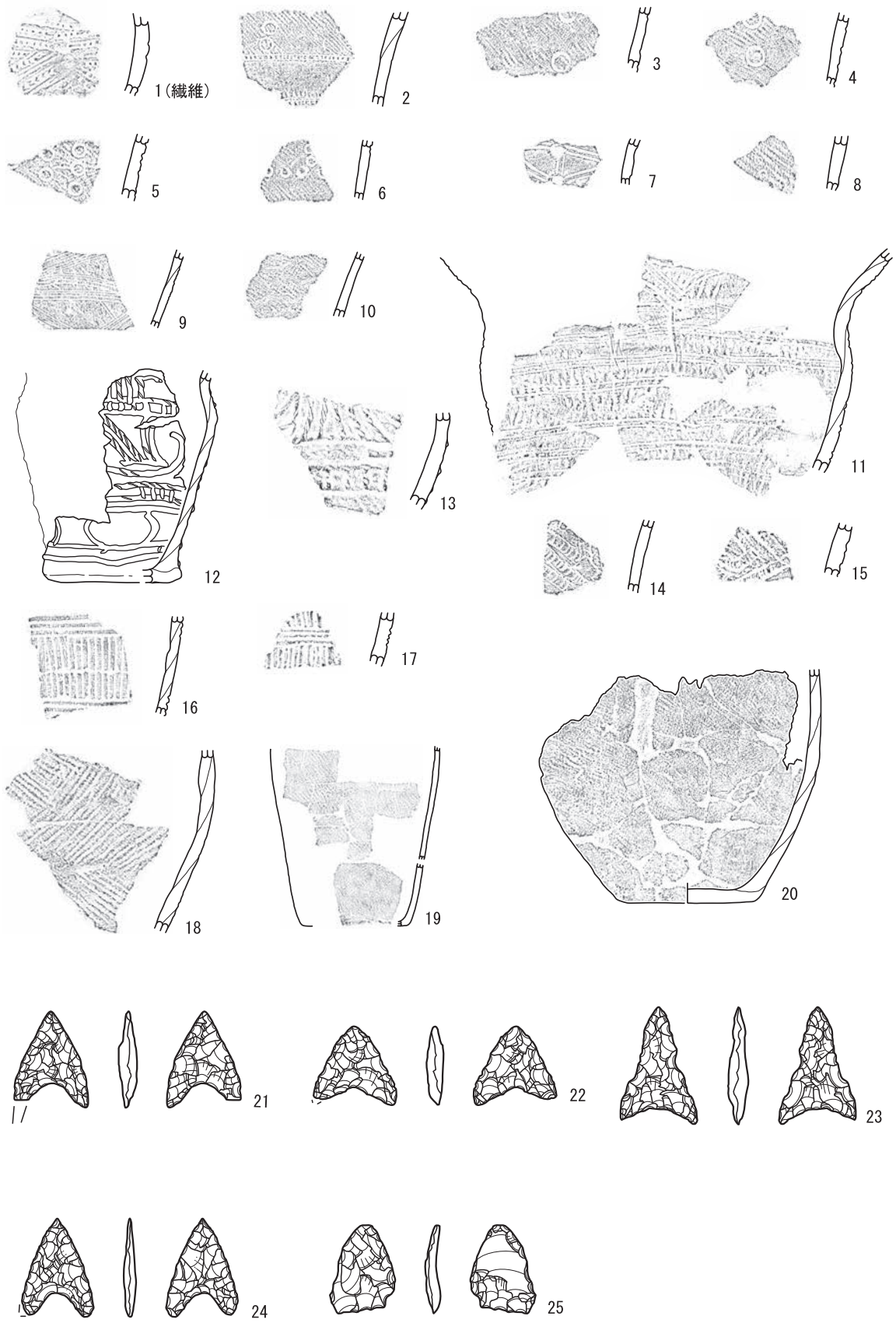
1号住居跡
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR6/6(明黄褐)が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%、焼土が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が3%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
7層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
8層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。
9層　10YR3/4(暗褐)に5mm大のブロック状の10YR5/8(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
10層　10YR3/4(暗褐)に5mm大のブロック状の10YR5/8(黄褐)が5%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
11層　10YR3/4(暗褐)に1cm大のブロック状の10YR5/8(黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
12層　10YR4/4(褐)に1cm大のブロック状の10YR5/8(黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
13層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
14層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/8(黄褐)が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
15層　10YR5/8(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。シルト粒土。固くしまる。
16層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。
17層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。
18層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
19層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
20層　10YR2/3(黒褐)に2cm大のブロック状の10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が3%混じる。シルト粒土。しまる。
21層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
22層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
23層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が3%混じる。シルト粒土。しまる。
24層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
25層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
26層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が20%混じる。シルト粒土。固くしまる。
27層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
28層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
29層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。
30層　10YR2/3(黒褐)に5mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。
31層　10YR3/4(暗褐)に5mm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
32層　10YR3/3(暗褐)に2～3mm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
33層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%混じる。シルト粒土。しまりなし。
34層　10YR4/4(褐)に3cm大のブロック状の10YR5/6(黄褐)が10%混じる。シルト粒土。固くしまる。
35層　10YR4/4(褐)に1cm大のブロック状の10YR5/6(黄褐)が7%混じる。シルト粒土。固くしまる。
36層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が15%混じる。シルト粒土。ややしまる。
37層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
38層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
39層　10YR2/3(黒褐)に5mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐)が3%混じる。シルト粒土。しまる。
40層　10YR2/3(黒褐)に2～3mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。
41層　10YR3/3(暗褐)に1cm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐)が2%混じる。シルト粒土。しまる。
42層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。（周溝）
地山　壁　10YR5/8(黄褐)に10YR4/4(褐)が7%混じる。シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/8(黄褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。シルト粒土。固くしまる。



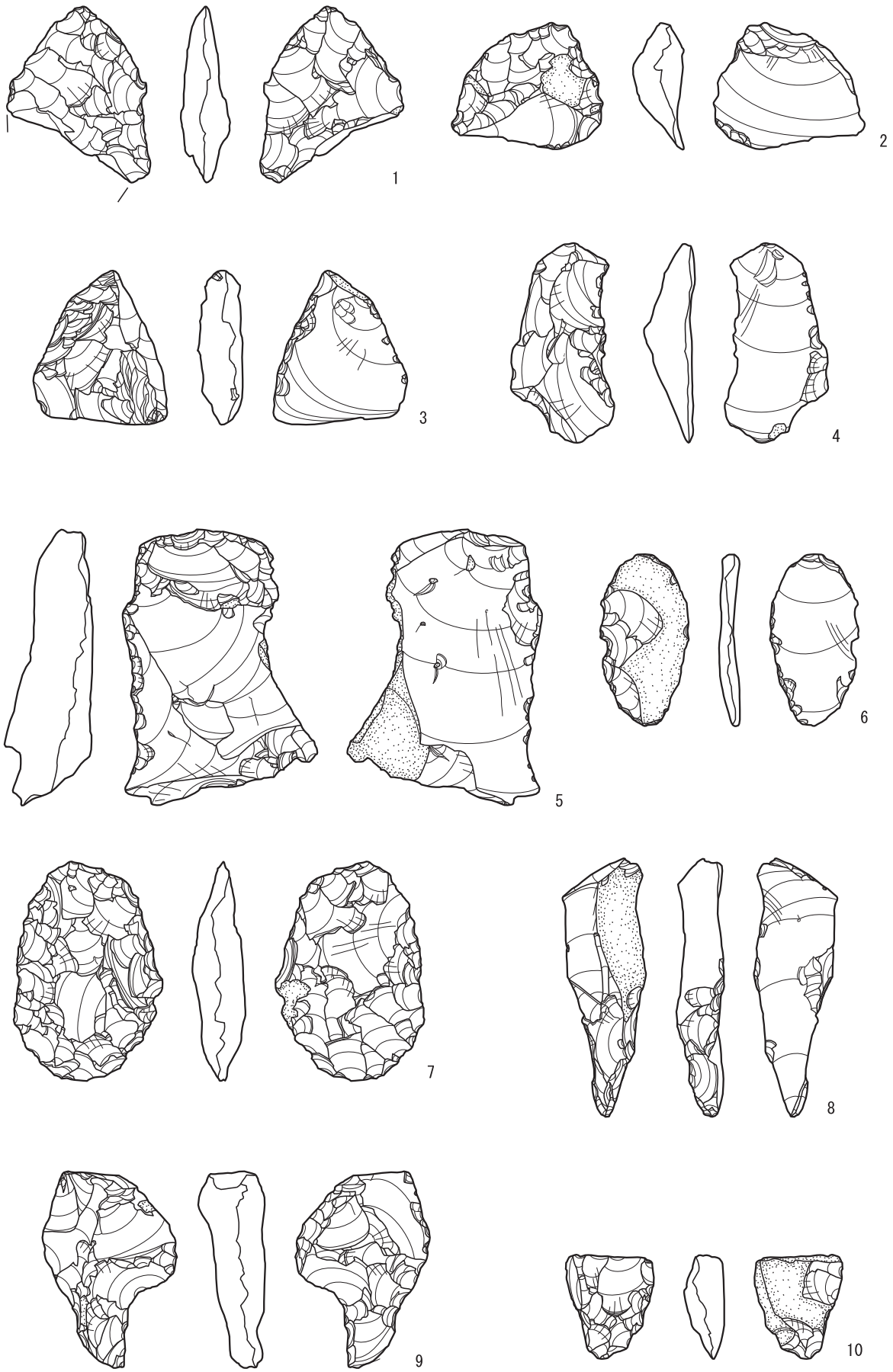
1号住居跡　埋甕炉
1層　5YR4/8(赤褐)に7.5YR4/4(褐)が15%混じる。固くしまる。（焼土層）
2層　5YR4/8(赤褐)に7.5YR4/4(褐)が20%混じる。固くしまる。（焼土層）
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が10%、炭化粒子が1%、焼土5YR4/8(赤褐)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に5～10mm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が2%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR3/4(暗褐)に5mm大のブロック状の10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
6層　10YR3/3(暗褐)に5～10mm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が2%、炭化粒子が1%、焼土が2%混じる。シルト粒土。しまる。（埋甕炉の掘込み）
7層　10YR4/4(暗褐)に10mm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が1%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
8層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/8(黄褐)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。（埋設土器内）
9層　10YR2/3(黒褐)。シルト粒土。ややしまる。（埋設土器内）

第８図　１号住居跡炉、出土遺物（1/4）

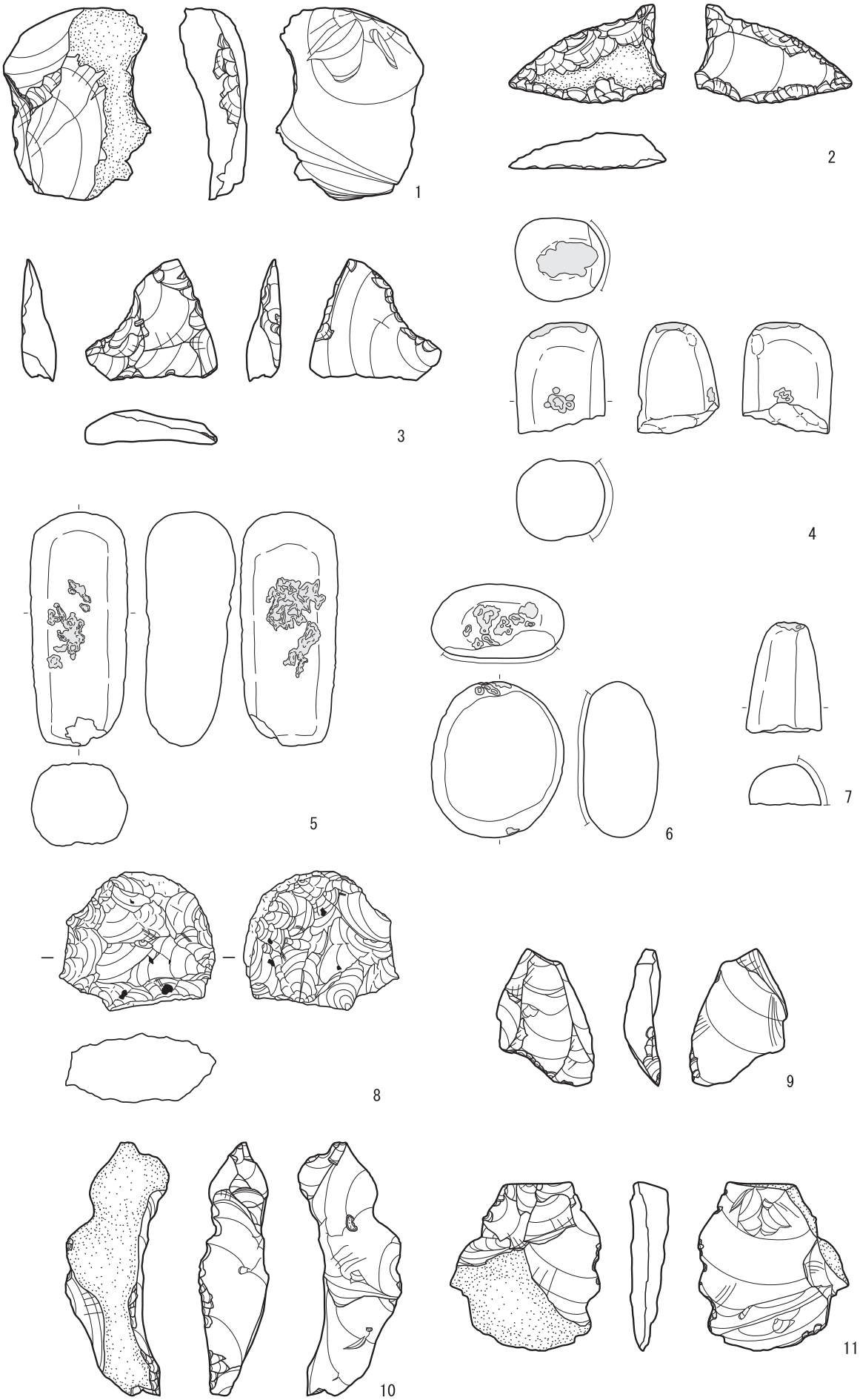
第９図　１号住居跡出土遺物 (1) (1/4)



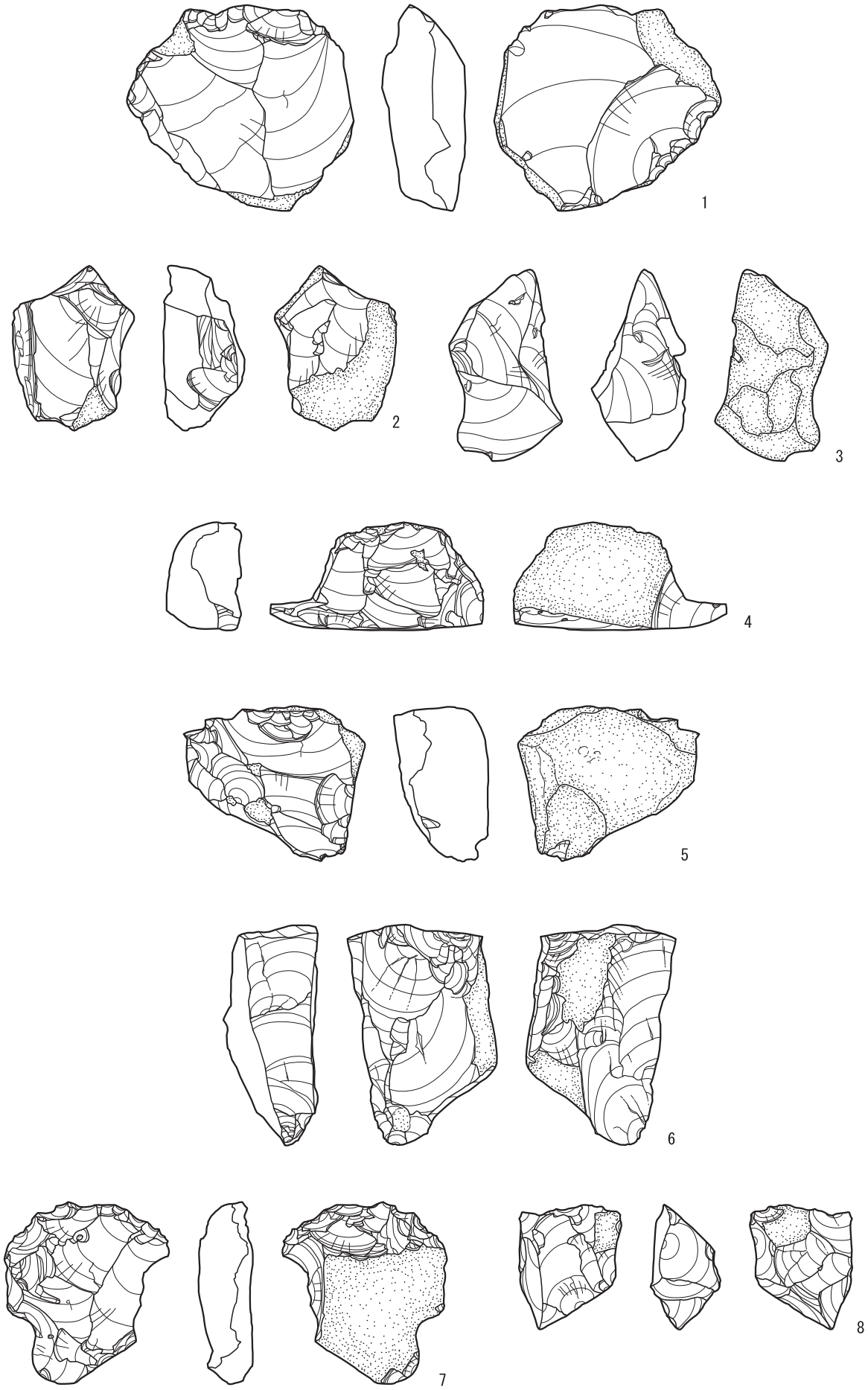
第 10 図　1 号住居跡出土遺物 (2)(1/4、但し 19 は 1/8、21 ～ 25 は 1/1)



第 11 図　1 号住居跡出土遺物 (3) (1/1)

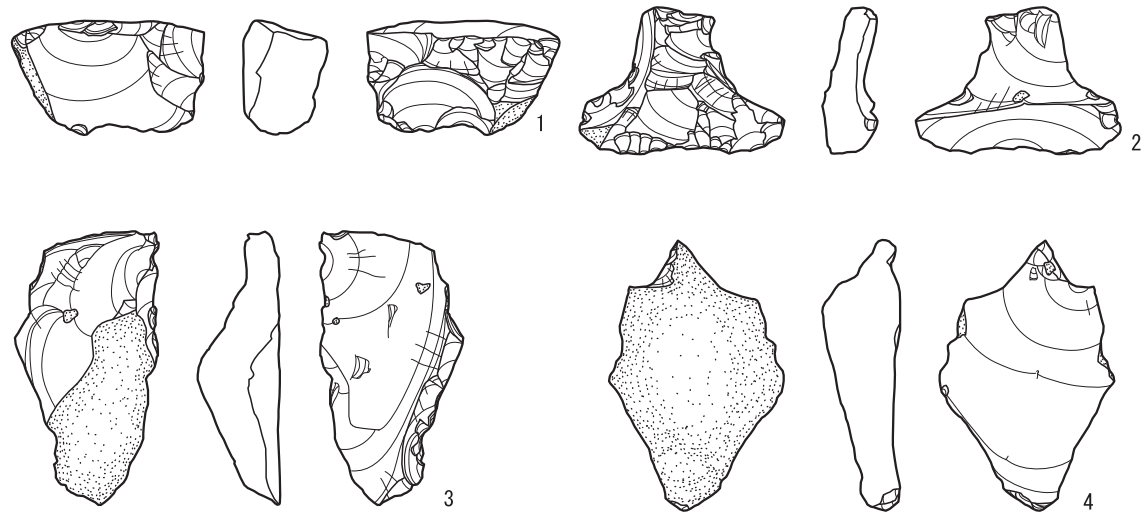


第 12 図　1 号住居跡出土遺物 (4)(1 ～ 3・9 ～ 11 は 1/1、8 は 1/2、4 ～ 7 は 1/4)

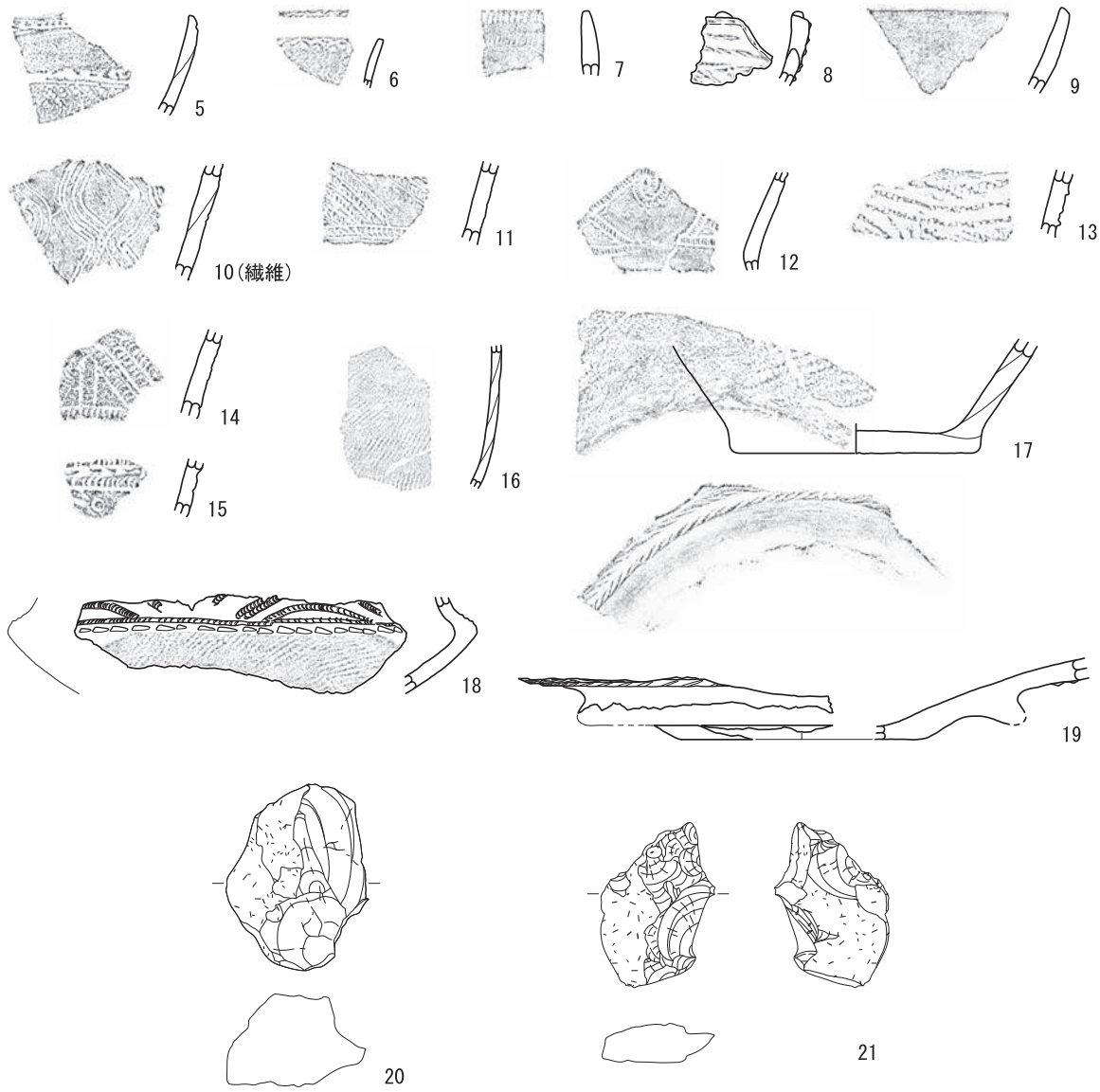


第 13 図　1 号住居跡出土遺物 (5) (1/1)

1号住居跡

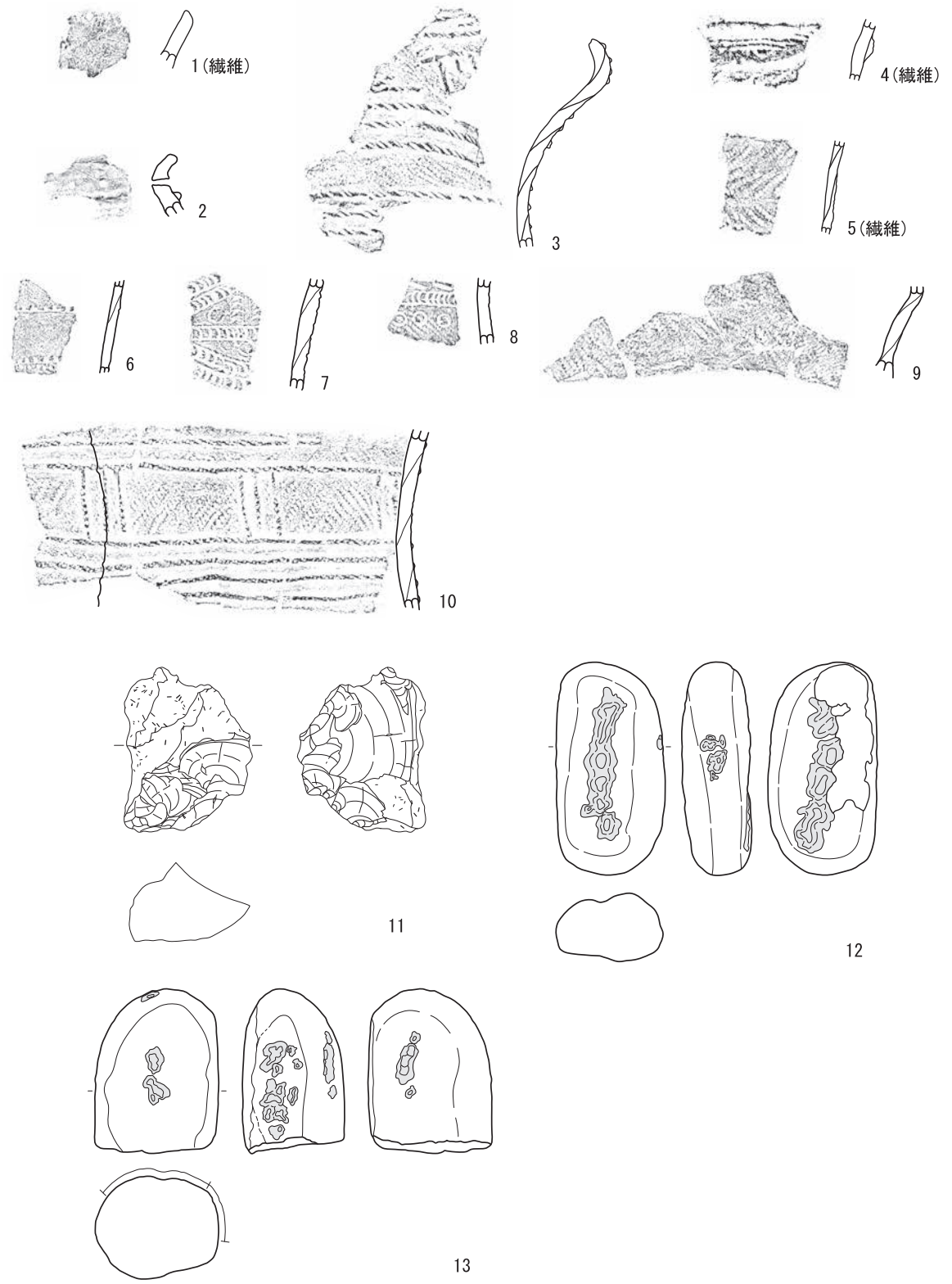


2号住居跡

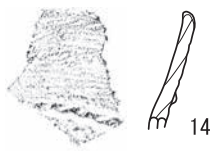


第14図　1号・2号住居跡出土遺物（1～4は1/1、5～15・17～19は1/4、16は1/8、20・21は1/2）

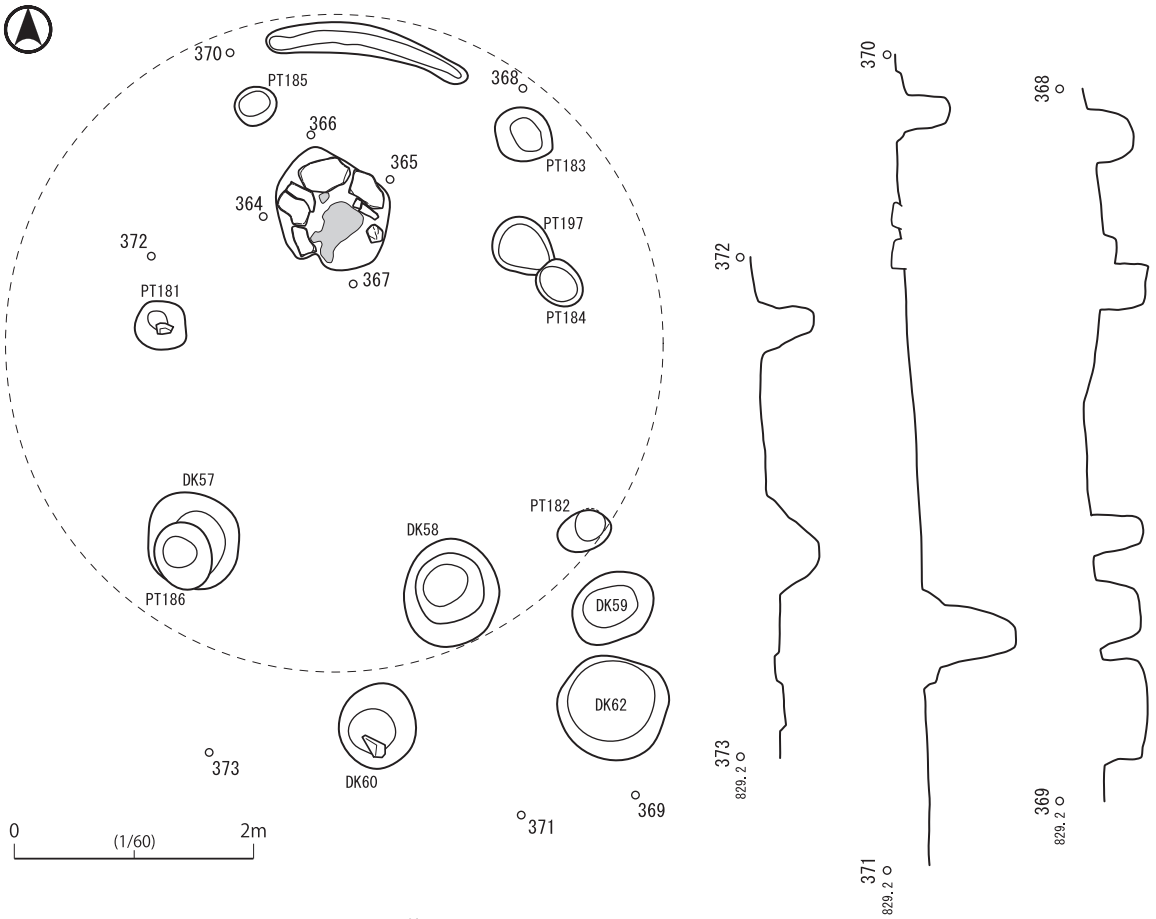
3号住居跡

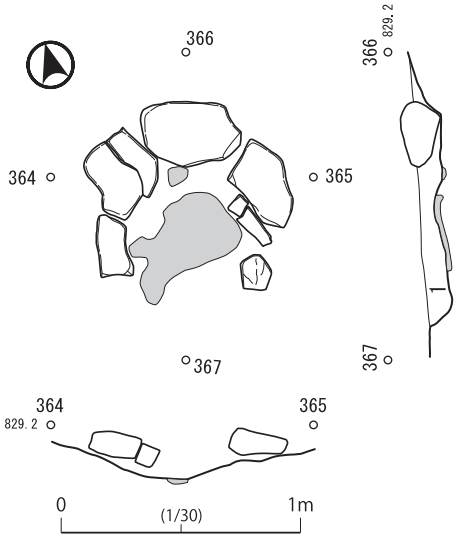


71号土坑

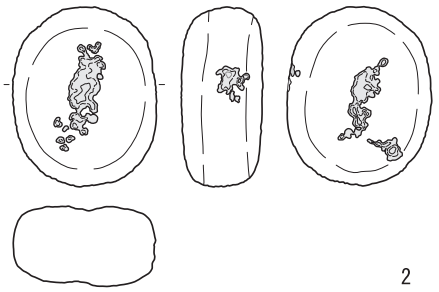


第15図　3号住居跡・71号土坑出土遺物（1/4、但し4・11は1/2）

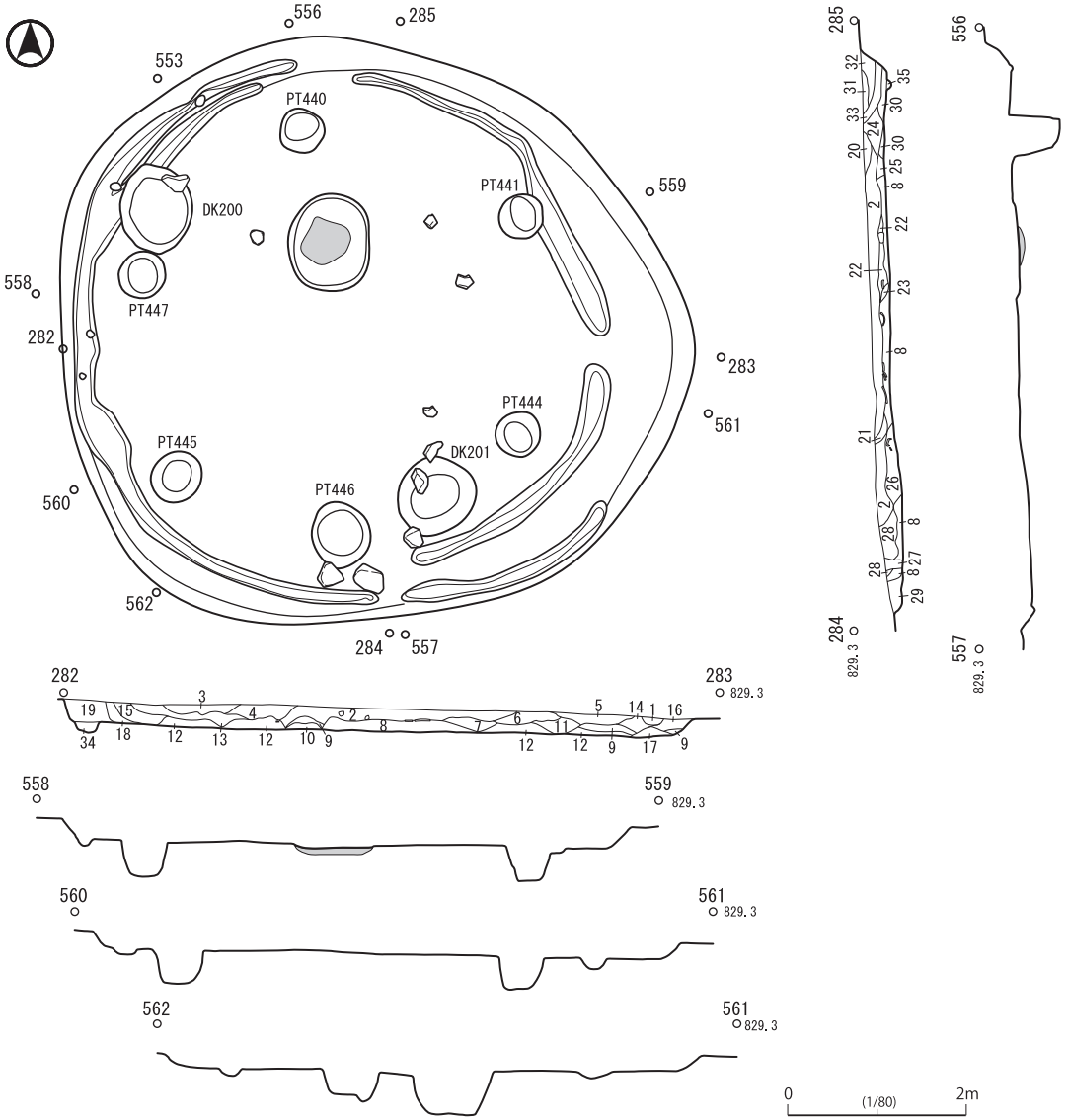




4号住居跡　石囲炉
1層　7.5YR4/6(褐)シルト粒土に7.5YR3/3(暗褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%。焼土粒子5%混じる。ややしまる。



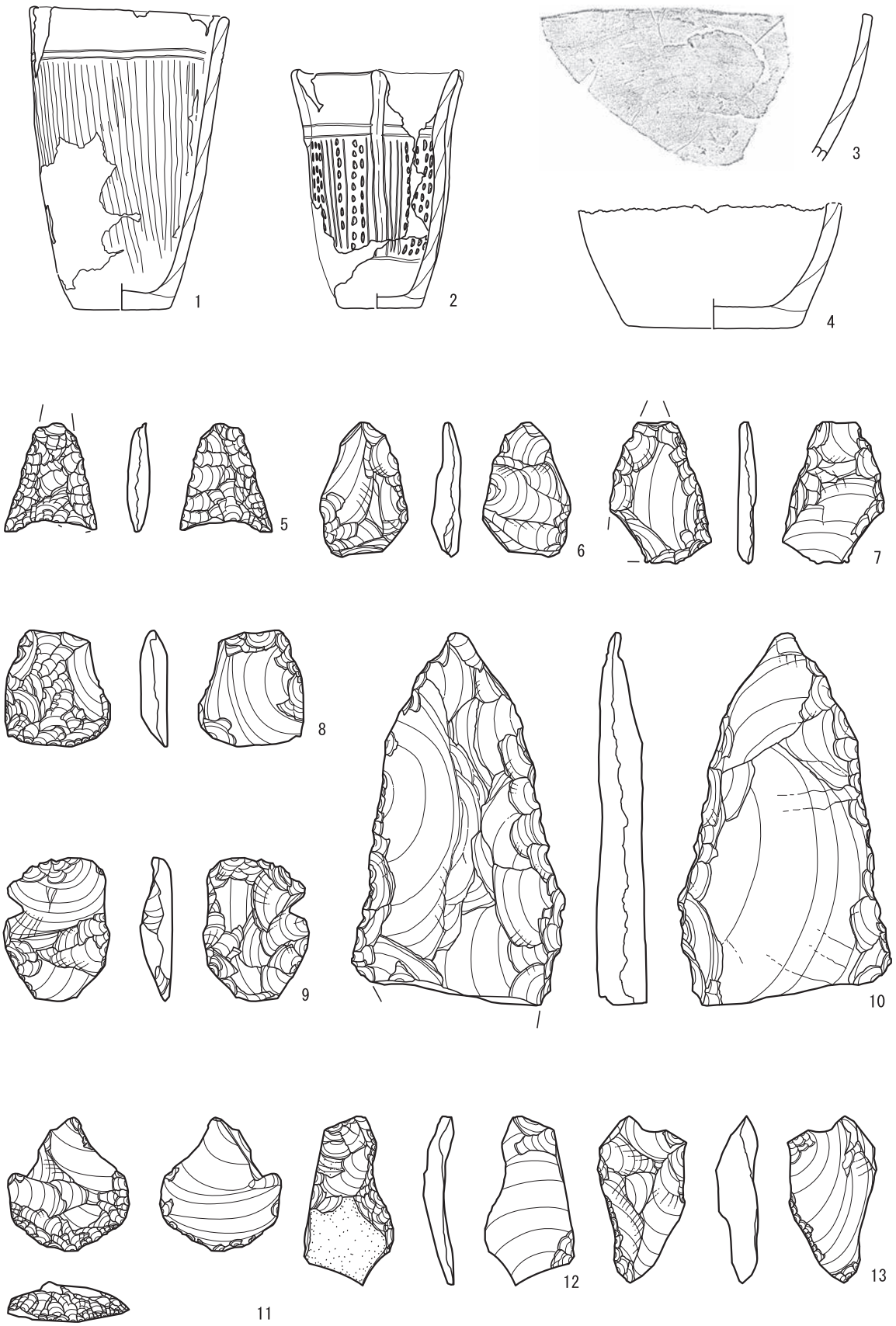
第 16 図　4 号住居跡、4 号住居跡炉、出土遺物 (1/4)



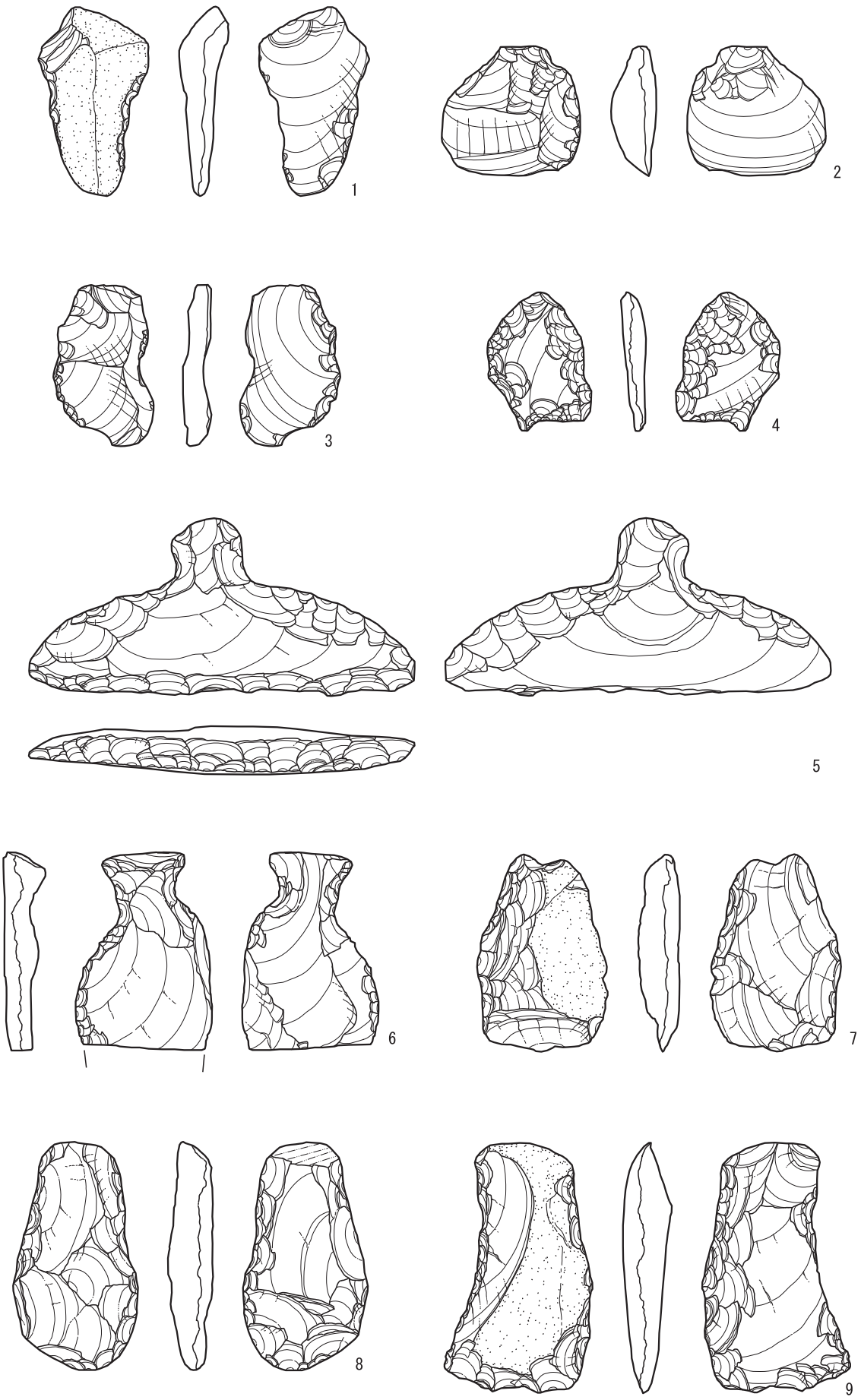
5号住居跡
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。（いも穴）
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
7層　10YR3/4(暗褐)に1cm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
8層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
9層　10YR4/4(褐)に1cm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
10層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が30%混じる。シルト粒土。ややしまる。
11層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
12層　10YR4/4(褐)に10YR6/6(明黄褐)が15%混じる。シルト粒土。しまる。
13層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
14層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。
15層　10YR4/4(褐)に10YR6/6(明黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
16層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が5%混じる。シルト粒土。ややしまる。（14層に同じ）
17層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
18層　10YR4/6(褐)に10YR6/6(明黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
19層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が15%混じる。シルト粒土。しまる。
20層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
21層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
22層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
23層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%まじる。シルト粒土。しまる。
24層　10YR3/4(暗褐)に1cm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
25層　10YR2/3(黒褐)に10YR6/6(明黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
26層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
27層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
28艘　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
29層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
30層　10YR4/6(褐)に10YR6/6(明黄褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
31層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
32層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
33層　10YR3/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が7%混じる。シルト粒土。しまる。
34層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が15%混じる。シルト粒土。しまる。（周溝）
35層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/4(暗褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。（周溝）
地山　壁　10YR5/8(黄褐)に10YR4/4(褐)が7%混じる。シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

第17図　5号住居跡

第 18 図　5 号住居跡出土遺物 (1) (1/6、但し 1・2 は 1/8)

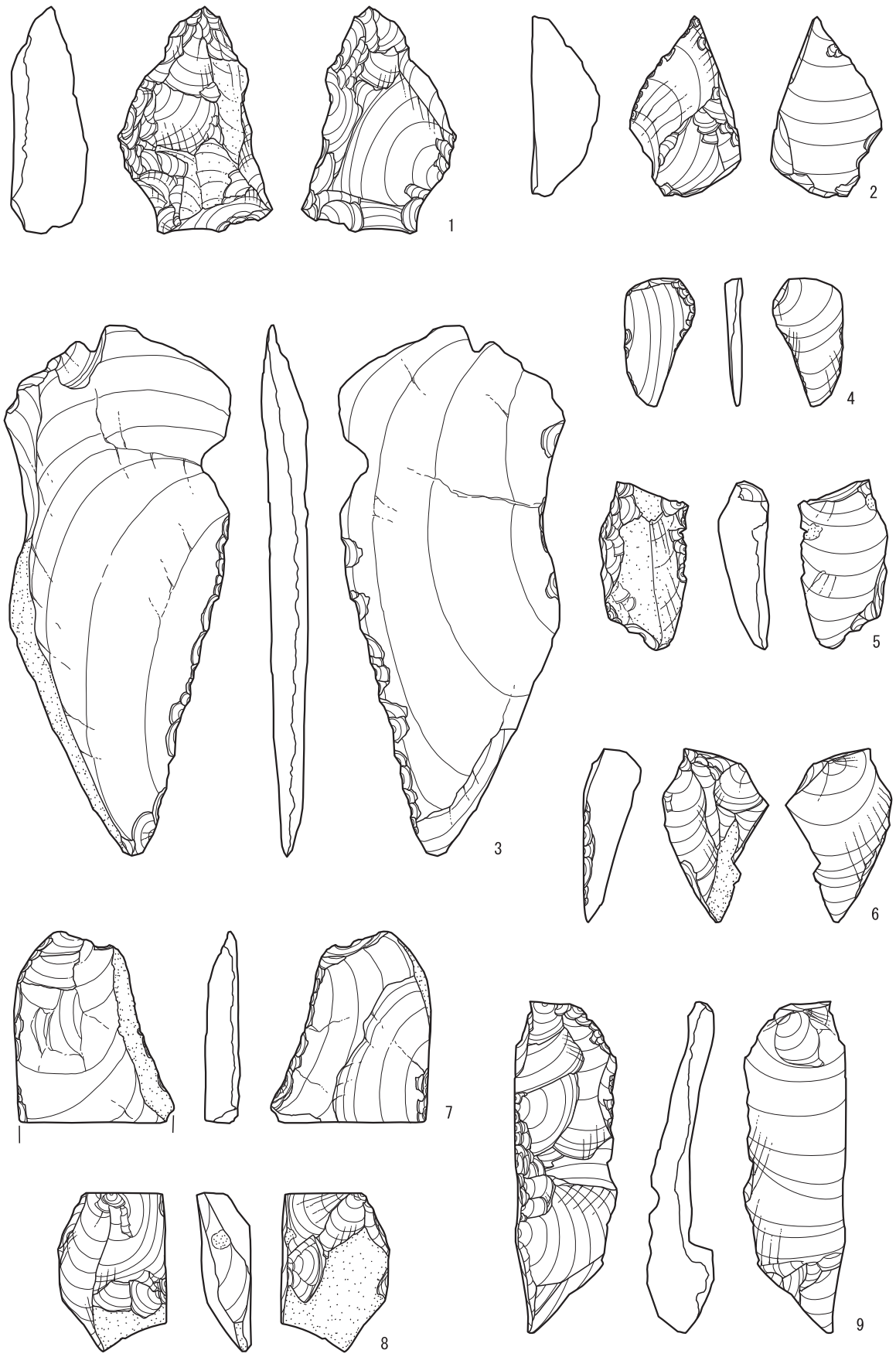


第 19 図　5 号住居跡出土遺物 (2)(1/1、但し 1 ～ 4 は 1/4)

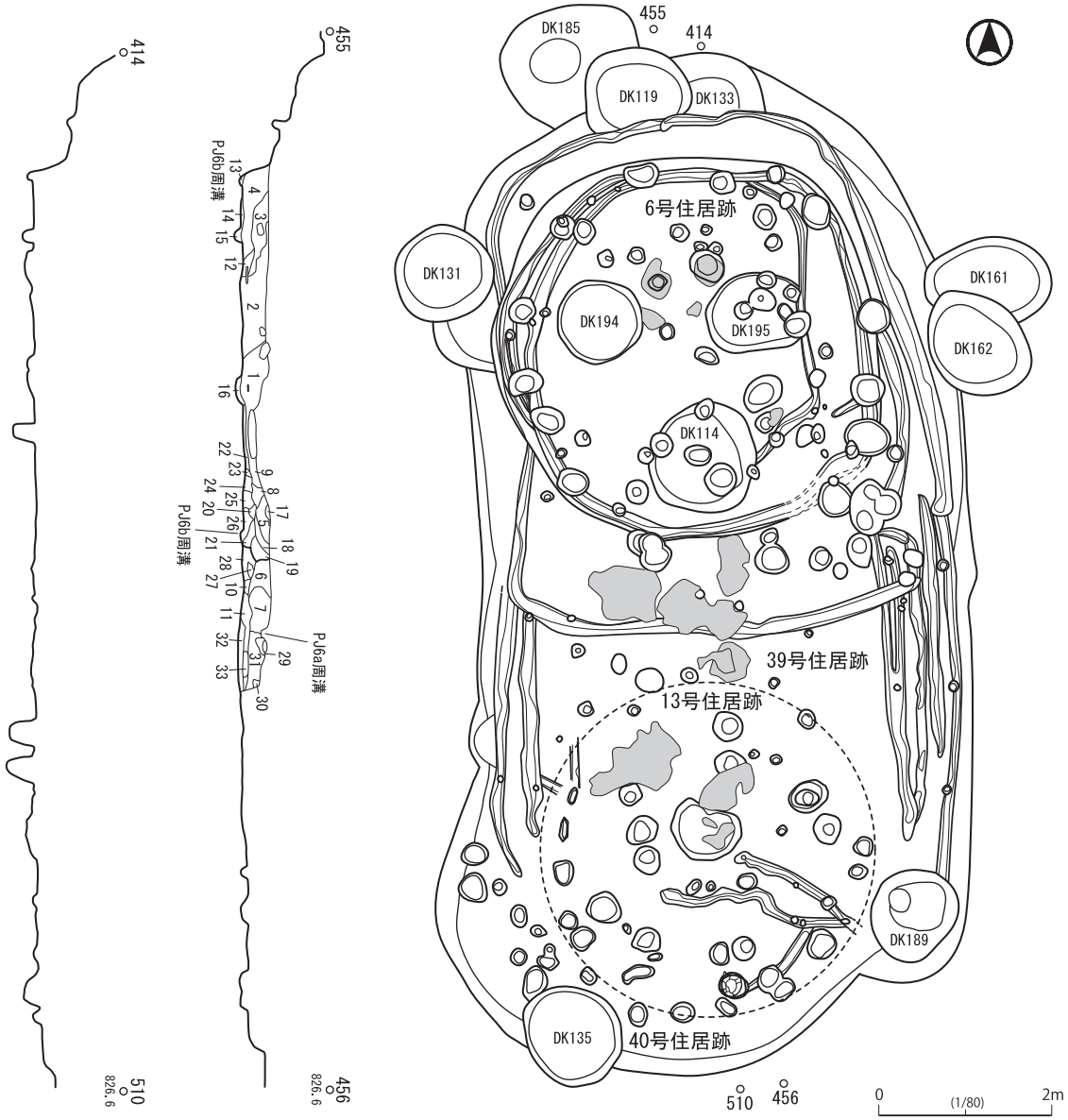


第 20 図　5 号住居跡出土遺物 (3) (1/1、但し 7 ～ 9 は 1/2)

第 21 図　5 号住居跡出土遺物 (4)(1 ～ 3 は 1/2、4 ～ 8 は 1/4、9 は 1/1)

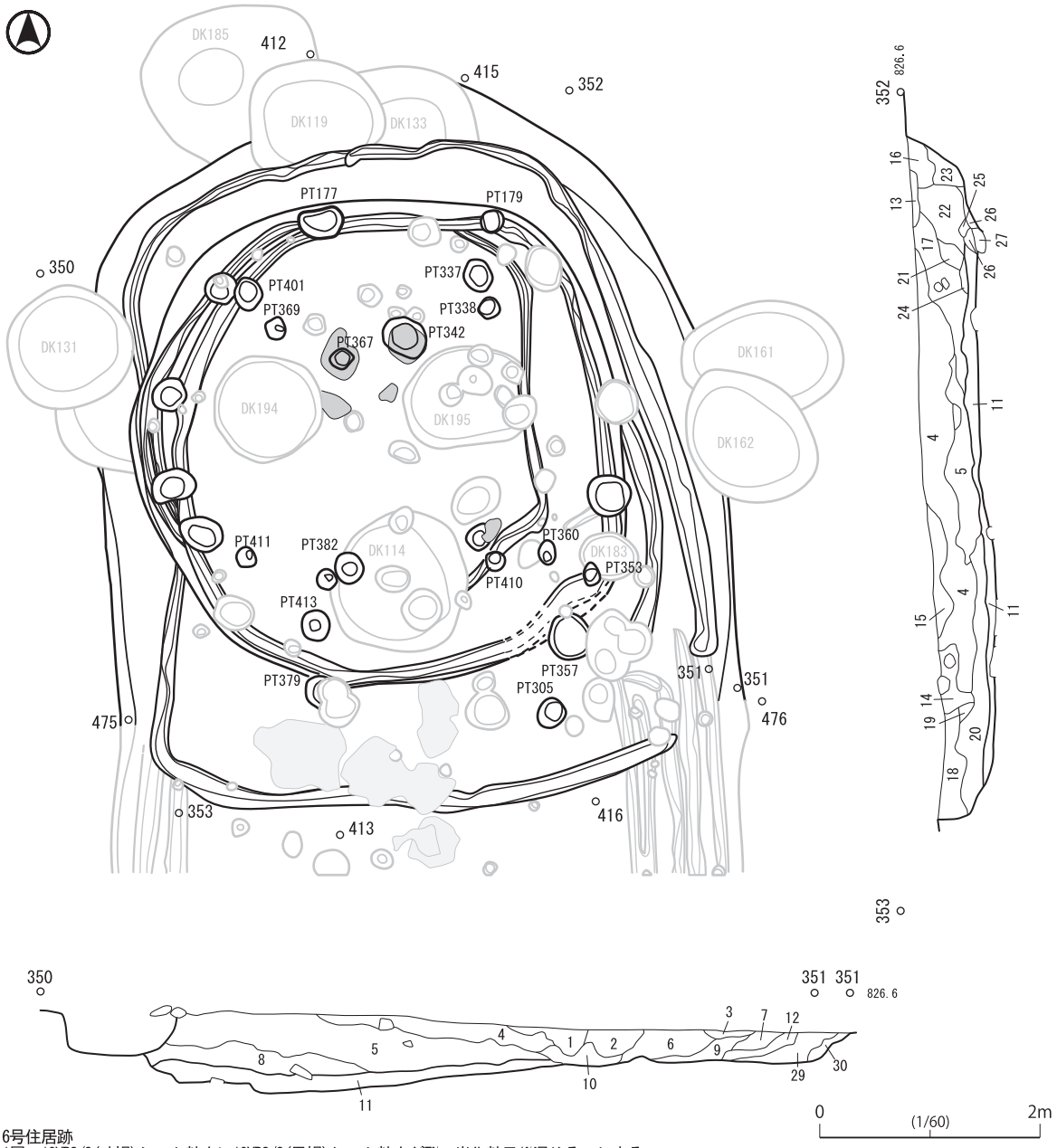


第 22 図　5 号住居跡出土遺物 (5)(1/1、但し 7 は 1/2)



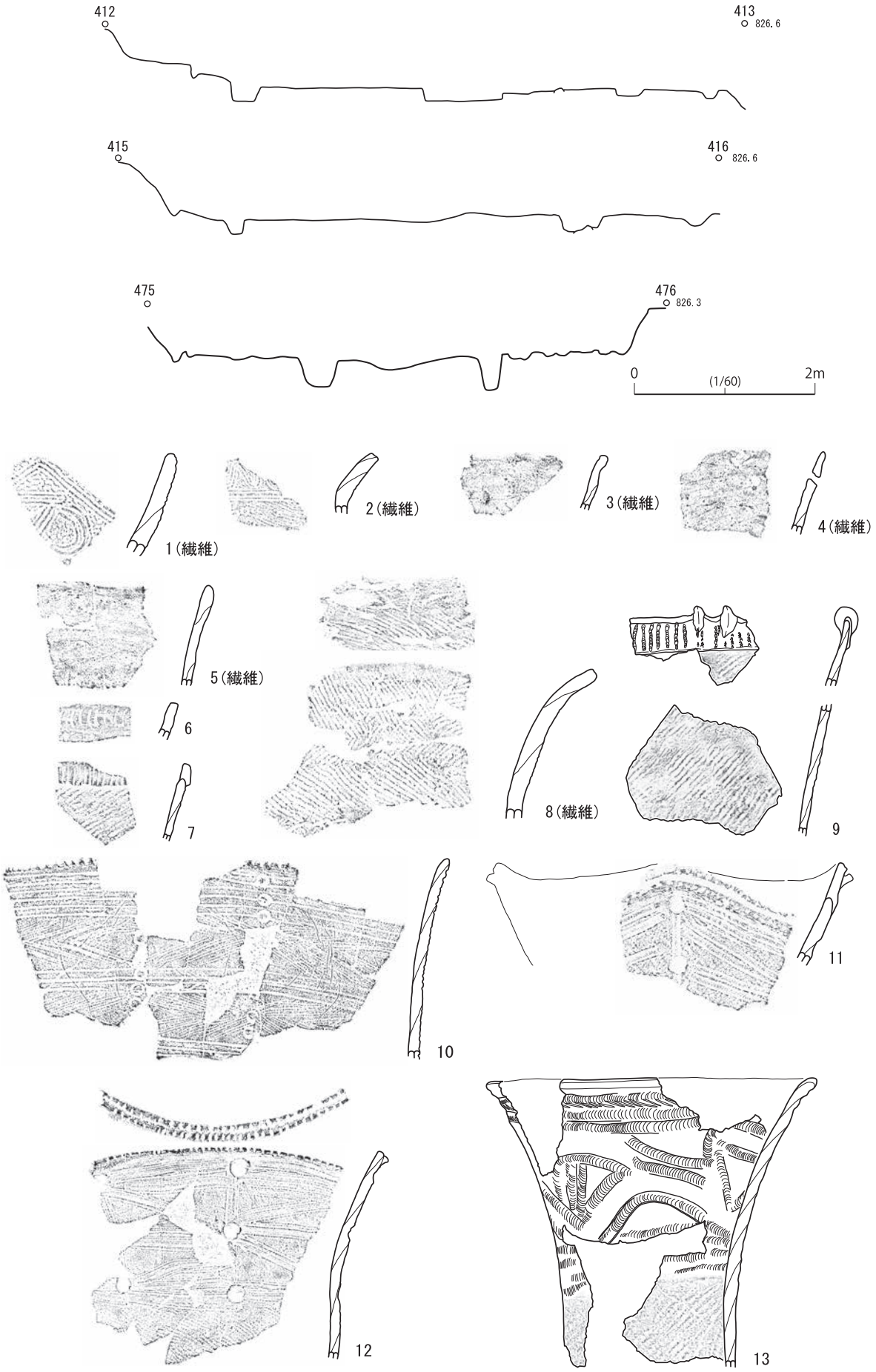
6号住居跡
1層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が径5mmのブロックで3%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が径3mmのブロックで5%、炭化粒子2%混じる。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が径3mmのブロックで7%、炭化粒子1%混じる。しまる。
4層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が径5mmのブロックで7%、炭化粒子1%混じる。しまる。
5層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。しまる。
6層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。
7層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が径10mmで20%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
8層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が7%、炭化粒子1%混じる。しまる。
9層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が5%混じる。ややしまる。
10層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が径5mmで3%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
11層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が径5mmで5%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
12層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
13層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が10%m混じる。固くしまる。
14層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)」シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
15層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。しまる。
16層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
17層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
18層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
19層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
20層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%。焼土粒子11%混じる。ややしまる。
21層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
22層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR6/8(明黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
23層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR6/8(明黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
24層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR6/8(明黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
25層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。24層より明るい。
26層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
27層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。28層より明るい。
28層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
29層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
30層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が7%、炭化粒子1%混じる。しまる。
31層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が径10mmのブロックで10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
32層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
33層　5YR5/8(明赤褐)シルト粒土。固くしまる。39号住の焼土と床面。
地山　壁　10YR5/8(黄褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が7%混じる。固くしまる。
地山　床　10YR5/8(黄褐)シルト粒土。固くしまる。

第23図　6号・13号・39号・40号住居跡

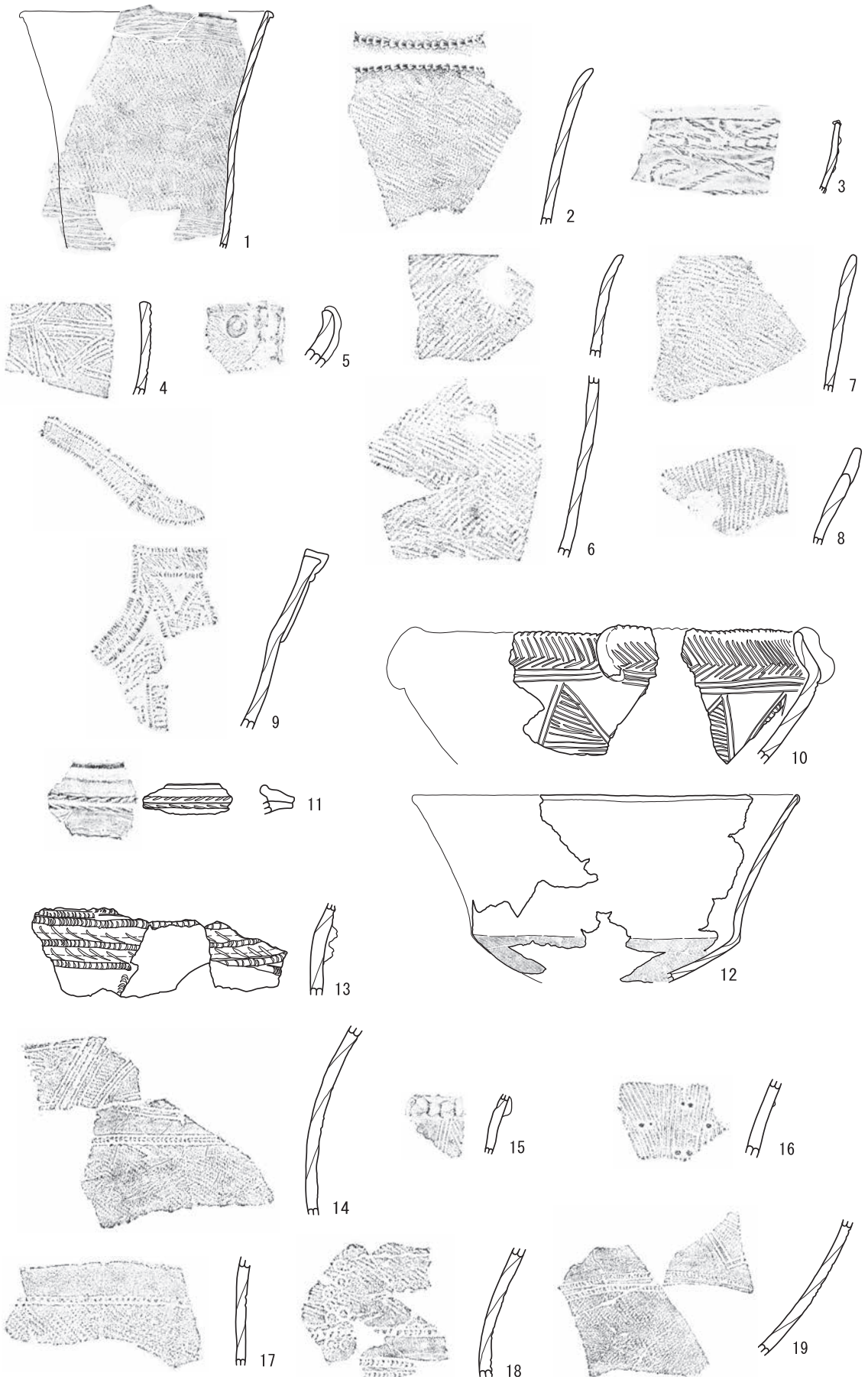


6号住居跡
1層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が7%、炭化粒子1%混じる。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
4層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%、10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が7%、炭化粒子1%混じる。しまる。
5層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
6層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が7%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が11%、炭化粒子1%混じる。しまる。
7層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%混じる。しまる。
8層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
9層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土あ1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
10層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。
11層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR2/1(黒)シルト粒土が30%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
12層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
13層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
14層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
15層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
16層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が7%混じる。しまる。
17層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/2(黒褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
18層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
19層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が3%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。しまる。
20層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR2/2(黒褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
21層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が7%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。しまる。
22層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。しまる。
23層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。しまる。
24層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が3%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
25層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。ややしまる。
26層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
27層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が2%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
28層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。しまる。
29層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
30層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
地山　壁　　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。

第24図　6号住居跡

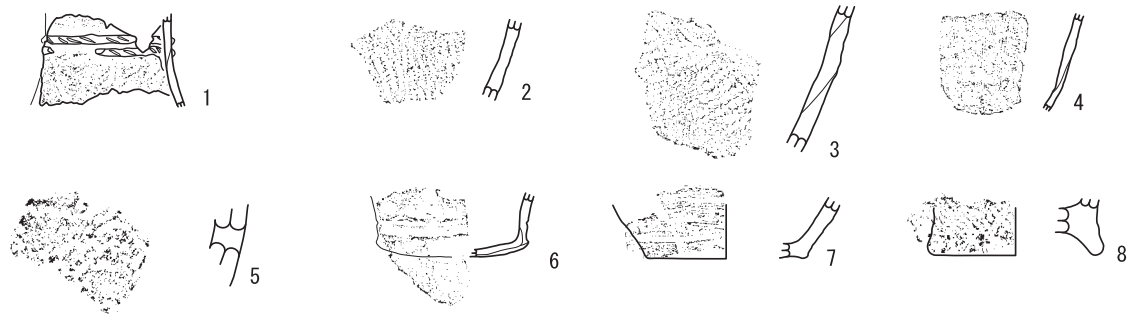


第 25 図　6 号住居跡断面図 、6a 号住居跡出土遺物 (1/4)

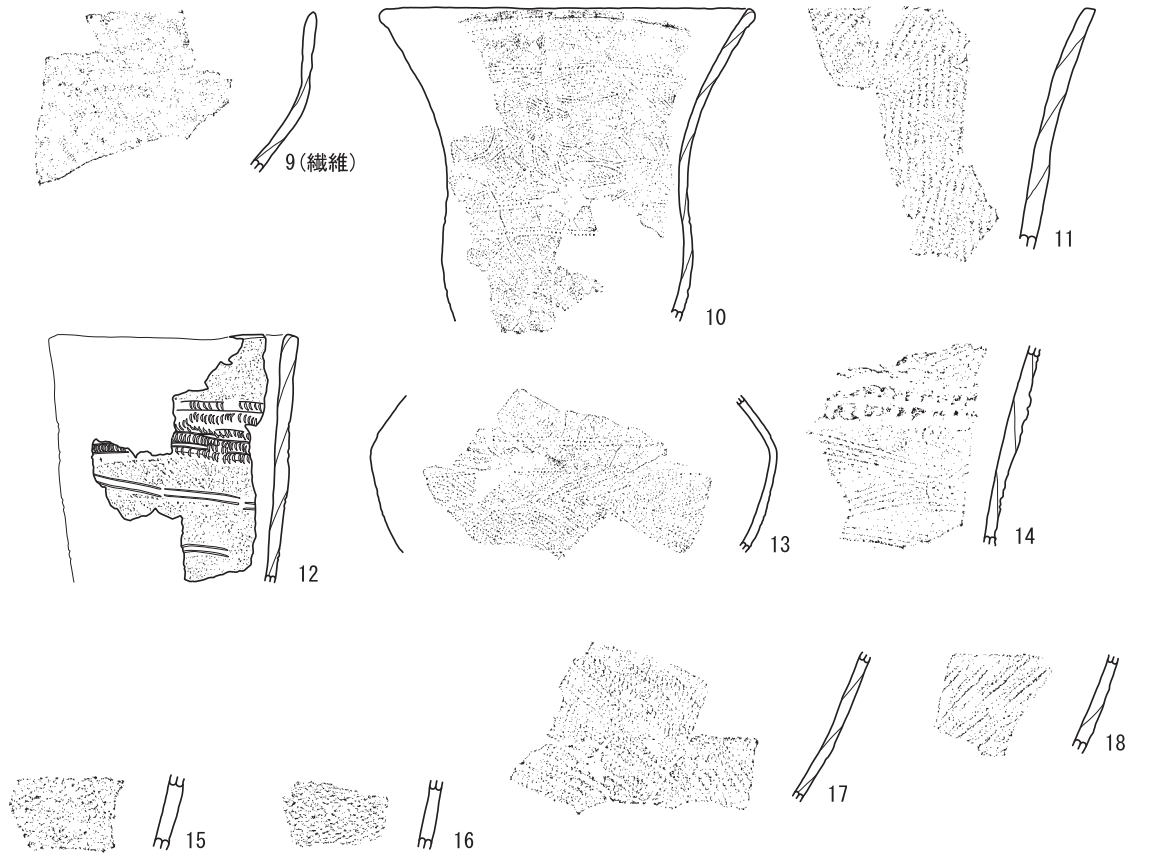


第 26 図　6a 号住居跡出土遺物 (1/4、但し 1・12 は 1/6)

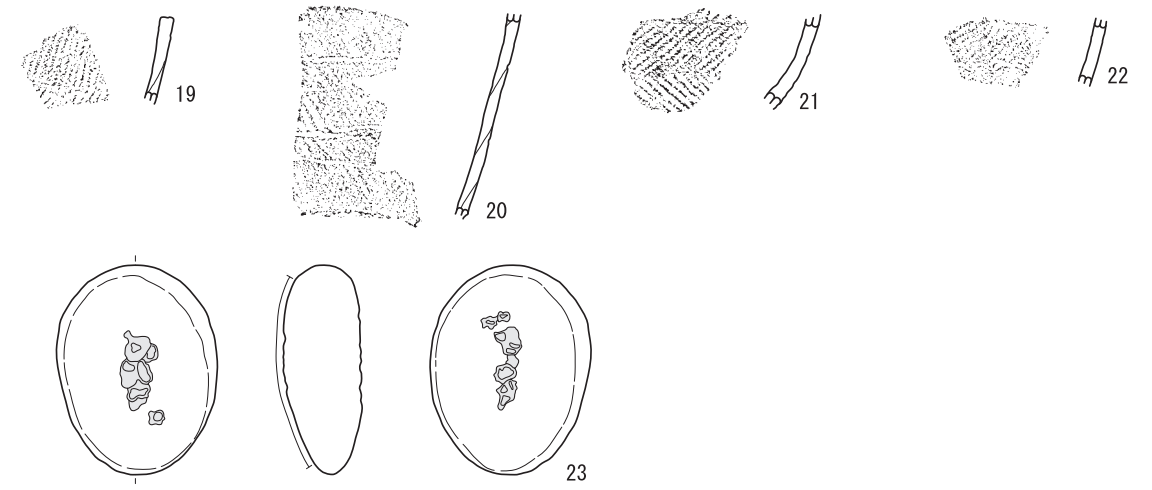
6a号住居跡



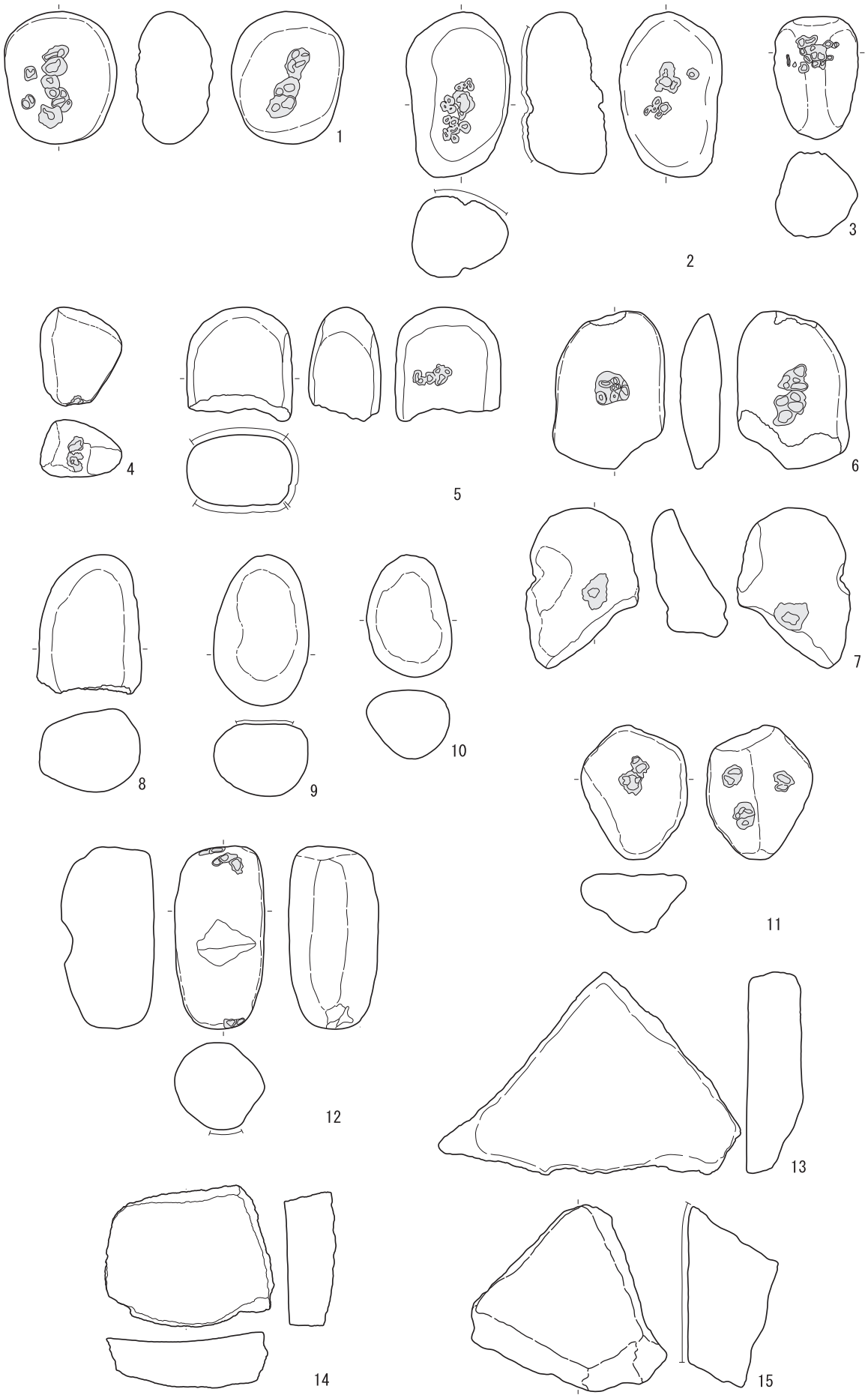
6b号住居跡



6号住居跡

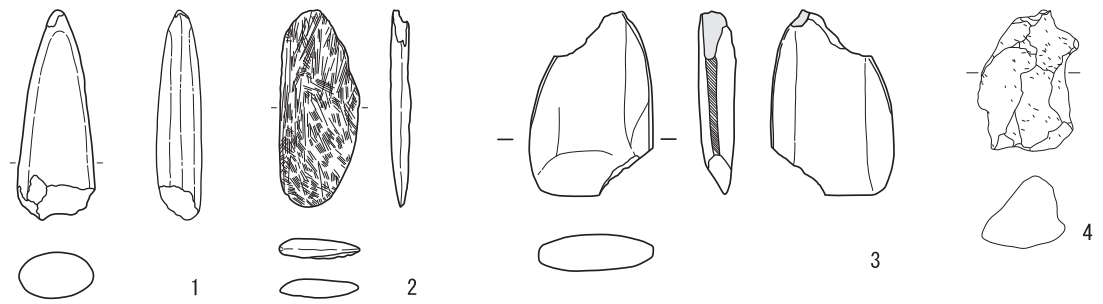


第 27 図　6 号住居跡出土遺物 (1)（1/4、但し 10・13 は 1/6）

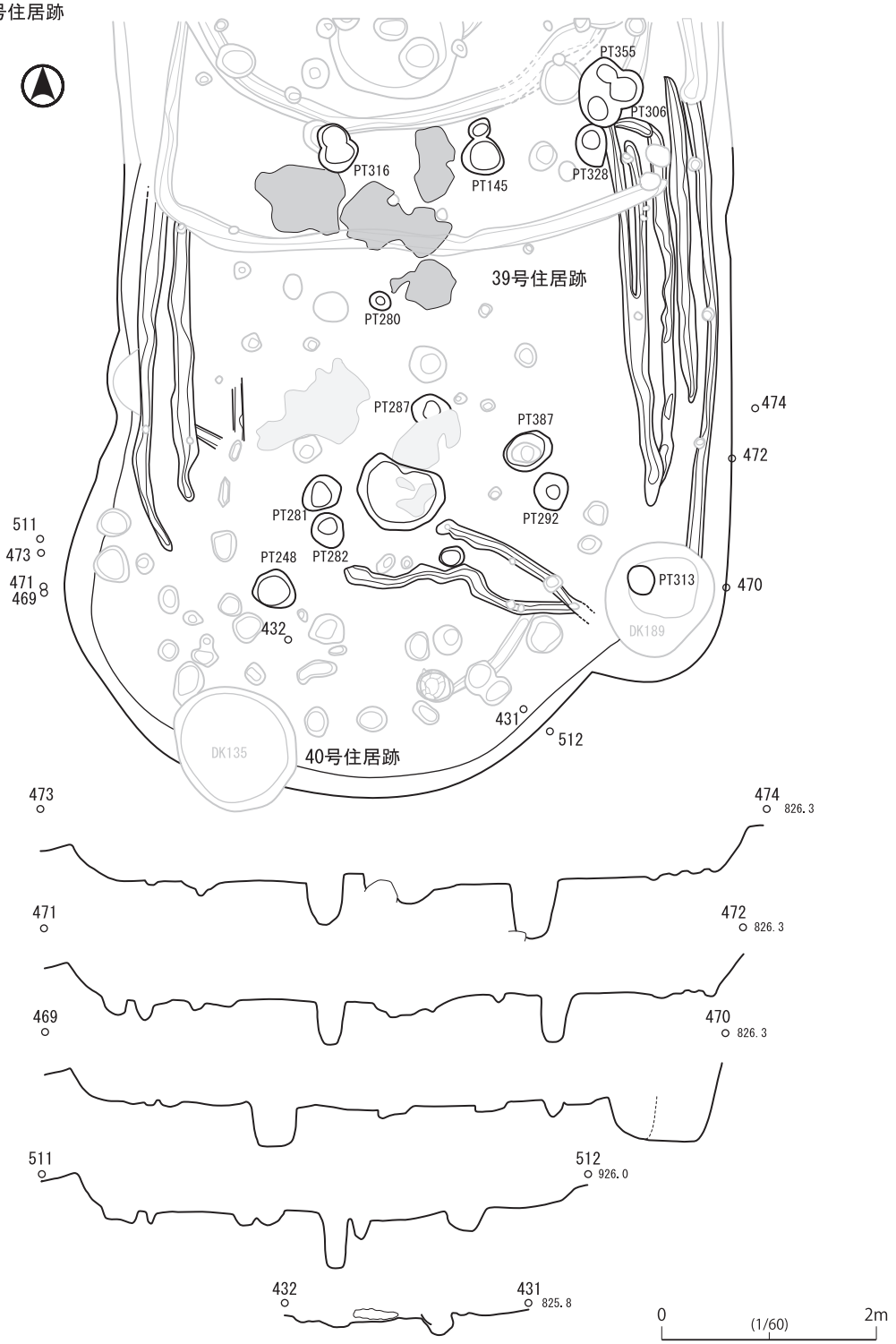


第 28 図　6 号住居跡出土遺物 (2) (1/4、但し 4 は 1/8、13・14 は 1/10)

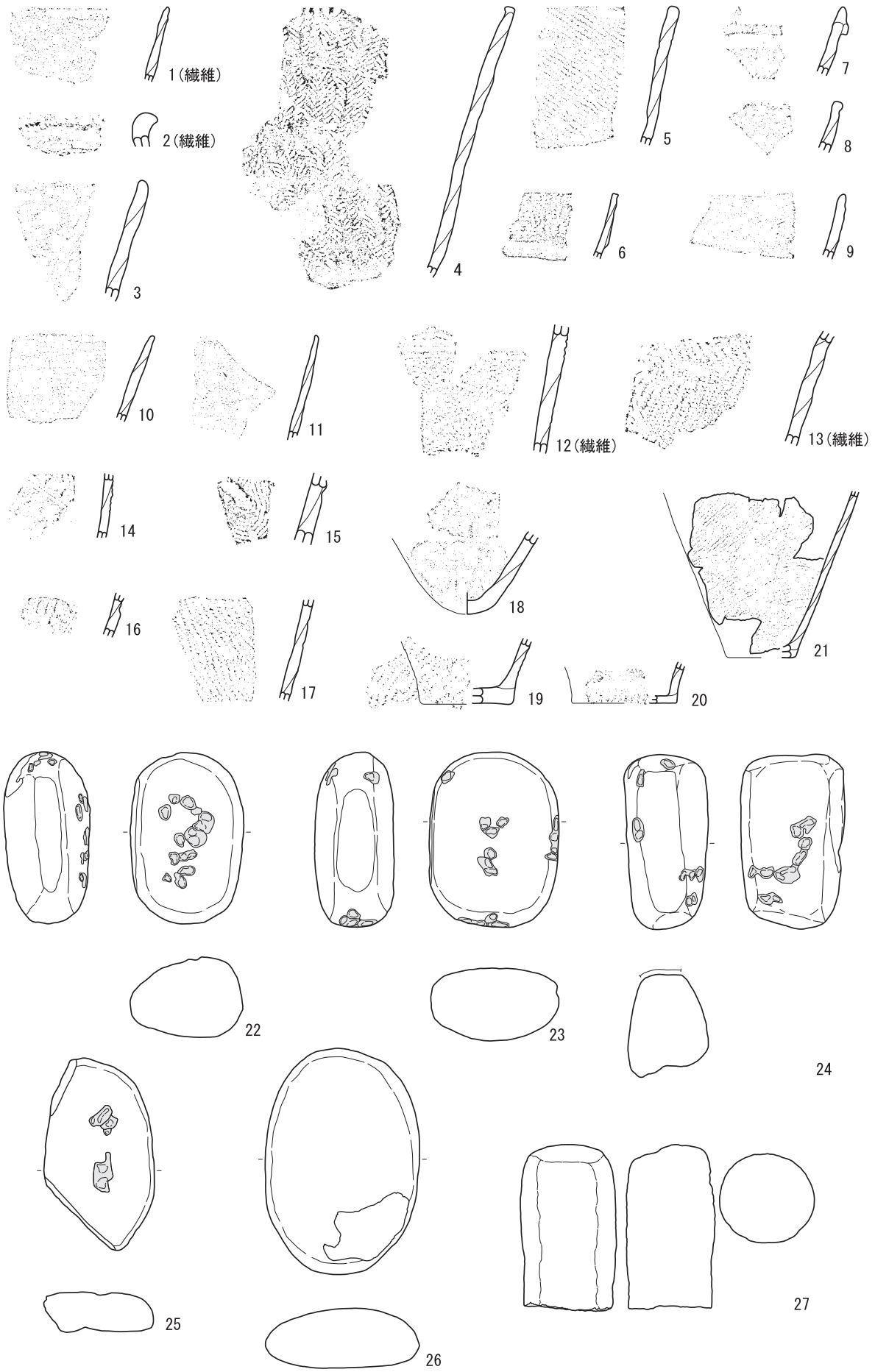
6号住居跡



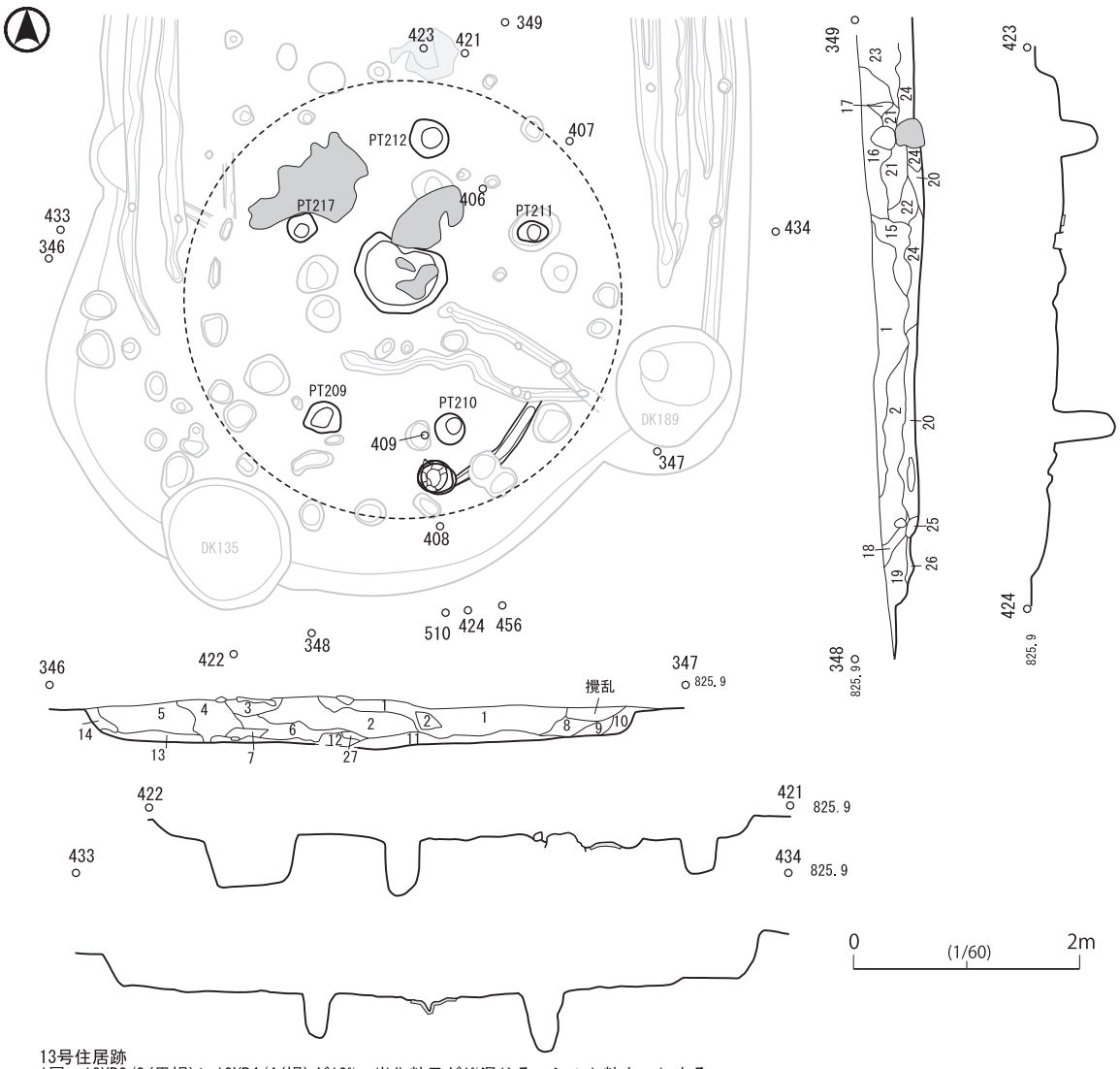
39号・40号住居跡



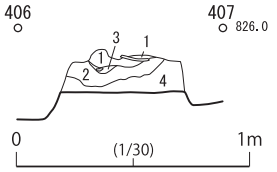
第 29 図　6 号住居跡出土遺物 (3)(1・2 は 1/4、3・4 は 1/2)、39 号・40 号住居跡



第 30 図　39 号住居跡出土遺物 (1/4、但し 15 は 1/2、21 は 1/6、27 は 1/10)

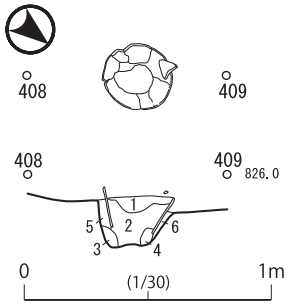


13号住居跡
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が10%、10YR4/4(褐)が7%、炭化粒子が3%、焼土1%が混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が15%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が2%、焼土が2%混じる。シルト粒土。しまる。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR2/1(黒)3%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
6層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/2(黒褐)が10%、炭化粒子が2%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
7層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、炭化粒子が10%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
8層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が7%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
9層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
10層　10YR4/4(褐)に10YR3/1(黒褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
11層　10YR2/1(黒)に10YR2/2(黒褐)が30%、10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が2%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
12層　10YR3/3(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が20%、炭化粒子が7%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
13層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
14層　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
15層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が30%、炭化粒子が7%、10YR5/6(黄褐)が2%混じる。シルト粒土。しまる。
16層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/3に(にぶい黄褐)が20%、炭化粒子が2%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
17層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
18層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、10YR4/6(褐)が3%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
19層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が30%、10YR3/1(黒褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
20層　10YR2/1(黒)に10YR3/1(黒褐)が30%、10YR3/3(暗褐)が7%、炭化粒子が3%、焼土ブロック他が3%混じる。シルト粒土。しまる。
21層　10YR2/1(黒)に10YR3/1(黒褐)が30%、炭化粒子が5%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
22層　10YR3/1(黒褐)に10YR3/2(黒褐)が30%、10YR4/3(にぶい黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
23層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
24層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が5%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
25層　10YR5/6(黄褐)　シルト粒土。固くしまる。
26層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/1(黒褐)が20%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
27層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
28層　10YR3/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、炭化粒子が1%、焼土が1%まじる。シルト粒土。固くしまる。



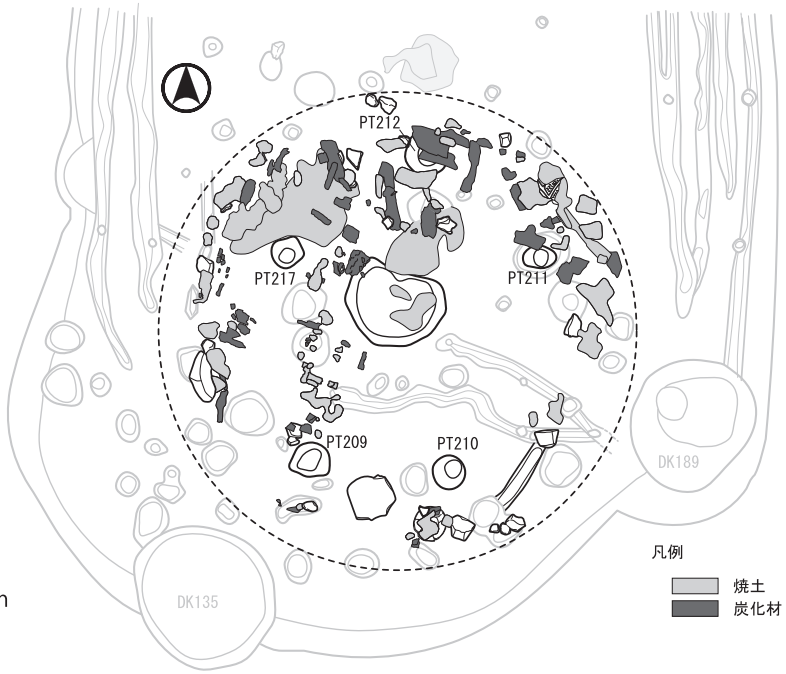
13号住居跡　地床炉
1層　5YR5/6(明赤褐)に炭化粒子が2%混じる。固くしまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が30%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が20%、焼土が7%混じる。シルト粒土。固くしまる。
4層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。

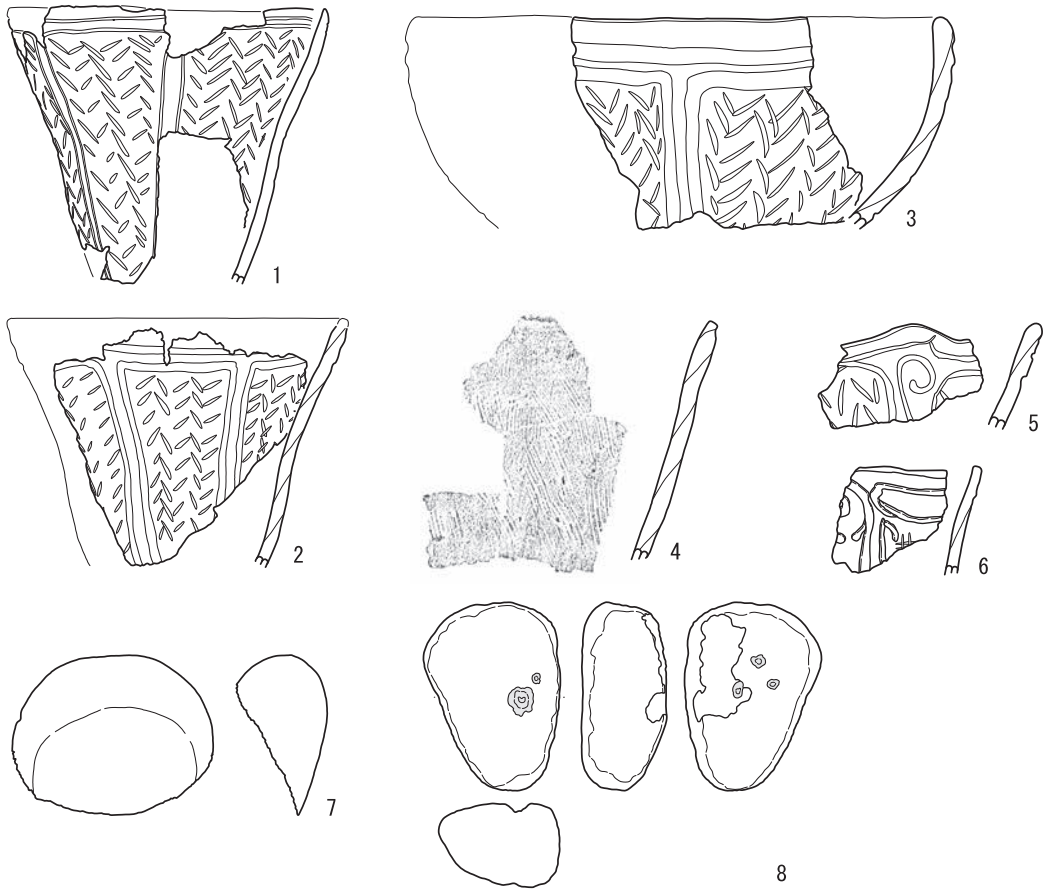
第 31 図　13 号住居跡、13 号住居跡炉



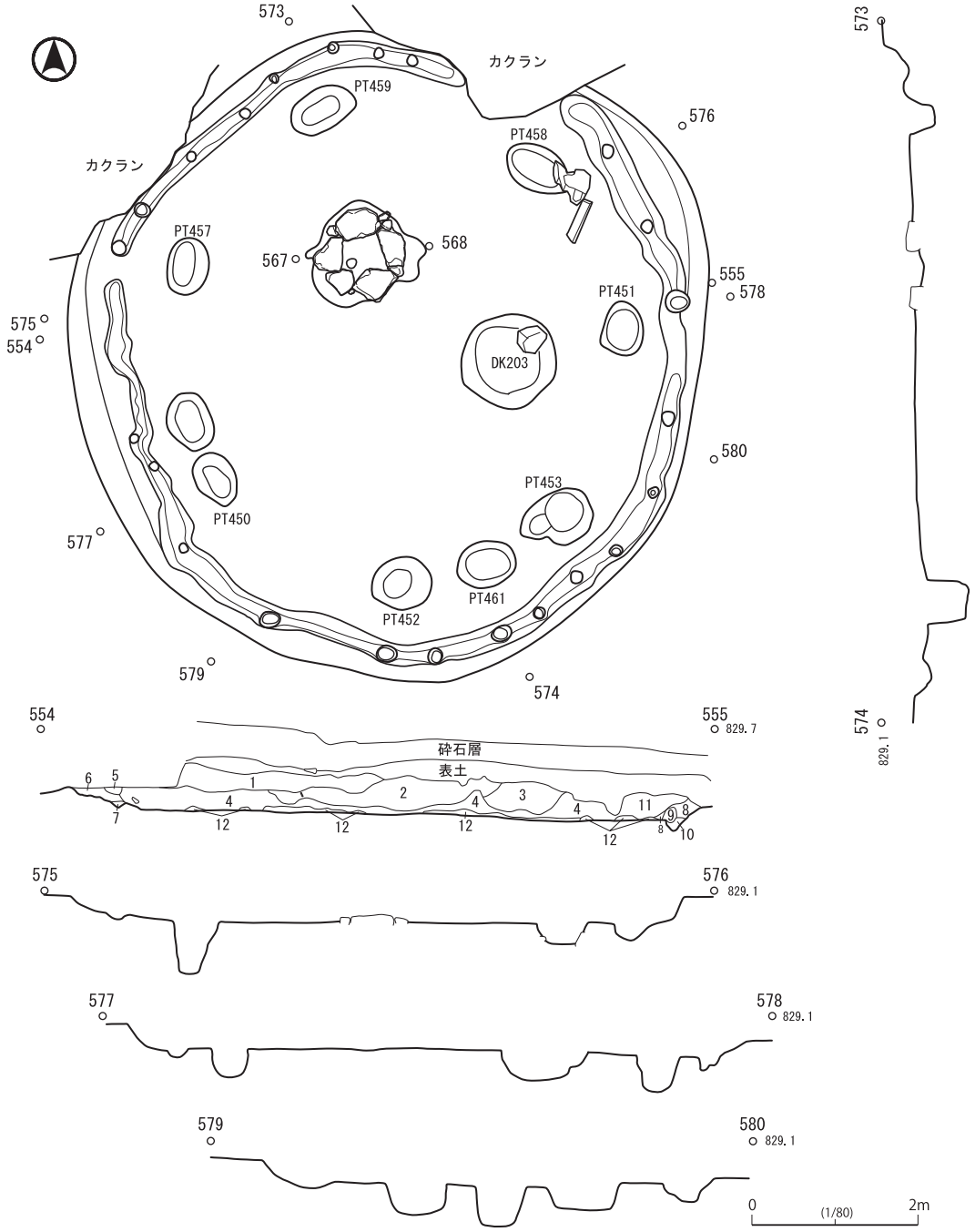
2の上面が旧床面相当
1はPJ13の覆土に類似

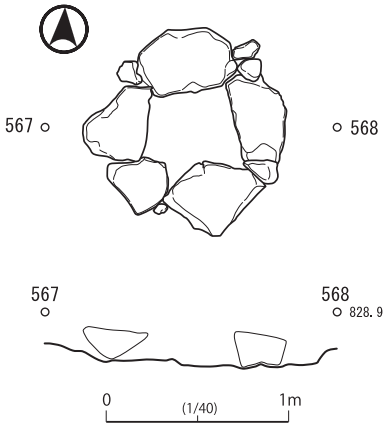
13号住居跡　埋甕
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が2%、焼土が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が7%(径5mmブロック)炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。カクラン。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%まじる。シルト粒土。しまりなし。カクラン。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が2%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR5/8(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR4/6(褐)シルト粒土。固くしまる。





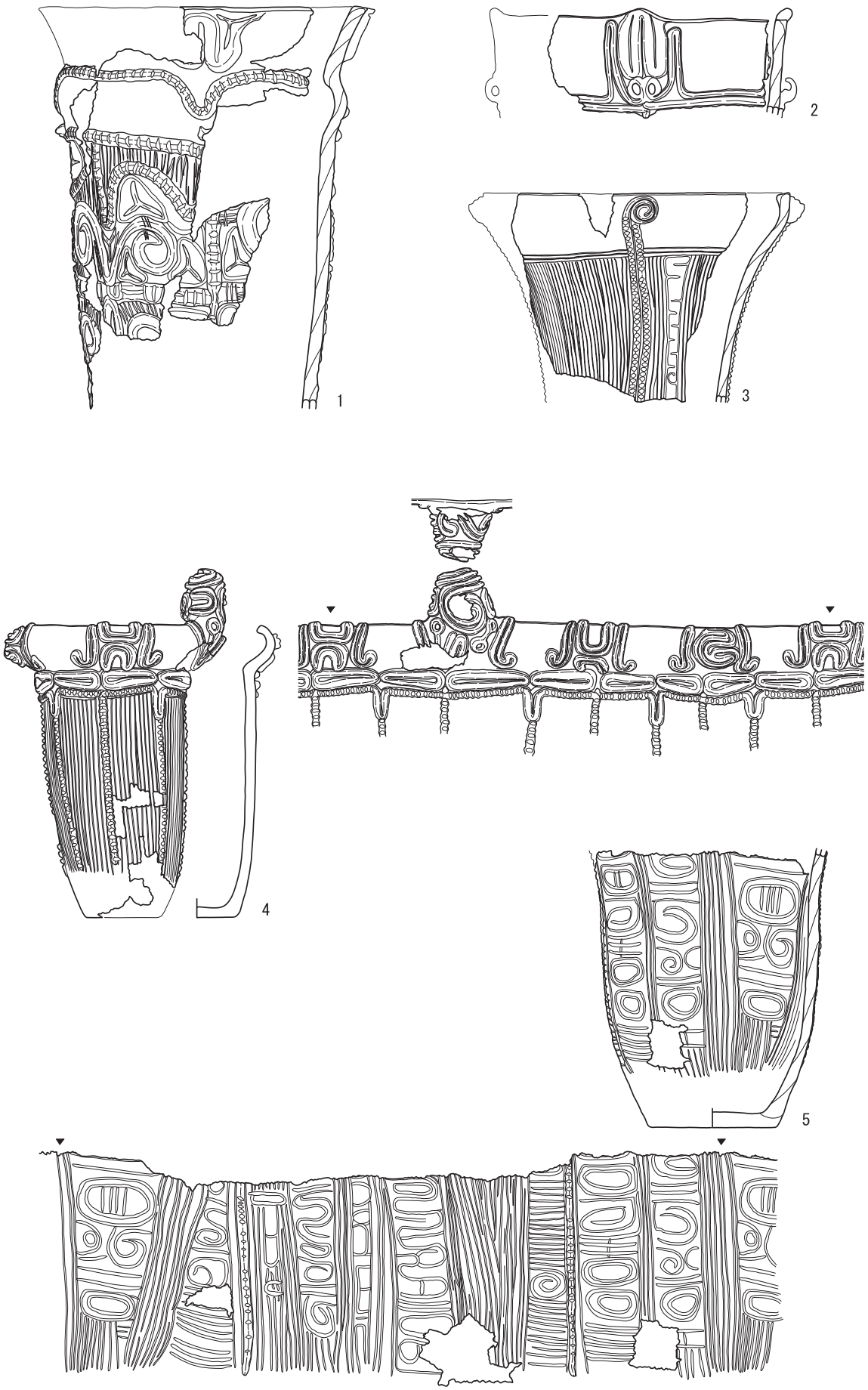
第32図　13号住居跡埋甕、焼土・炭化材検出状況、出土遺物(1/4、但し1・2は1/6、8は1/8)



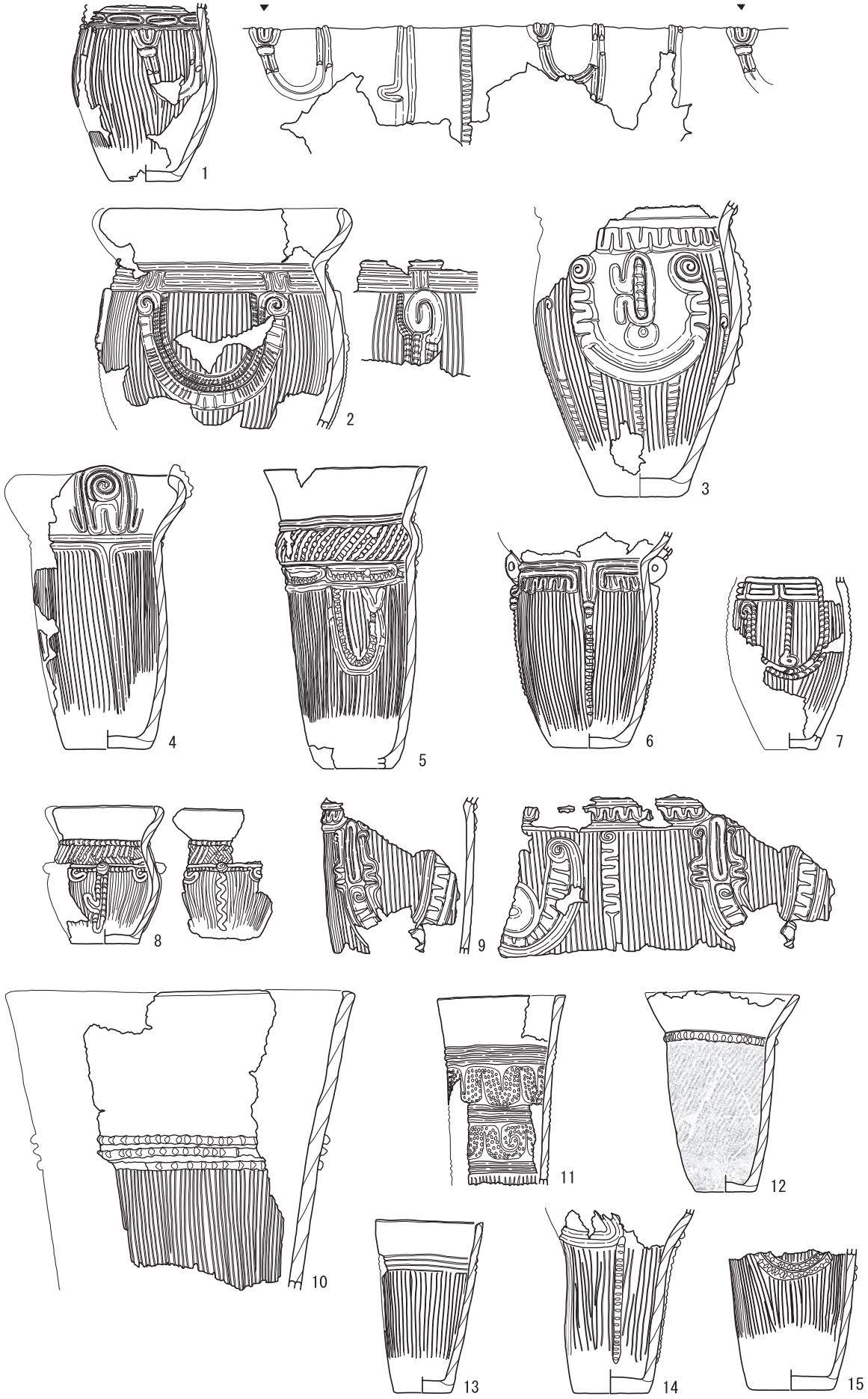


9号住居跡
1層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子2%混じる。しまる。
2層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR2/1(黒)シルト粒土が30%、10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子3%混じる。ややしまる。
3層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
4層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子2%混じる。ややしまる。
5層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%混じる。しまる。
6層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
7層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が30%混じる。しまる。
8層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
9層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
10層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%混じる。ややしまる。
11層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。

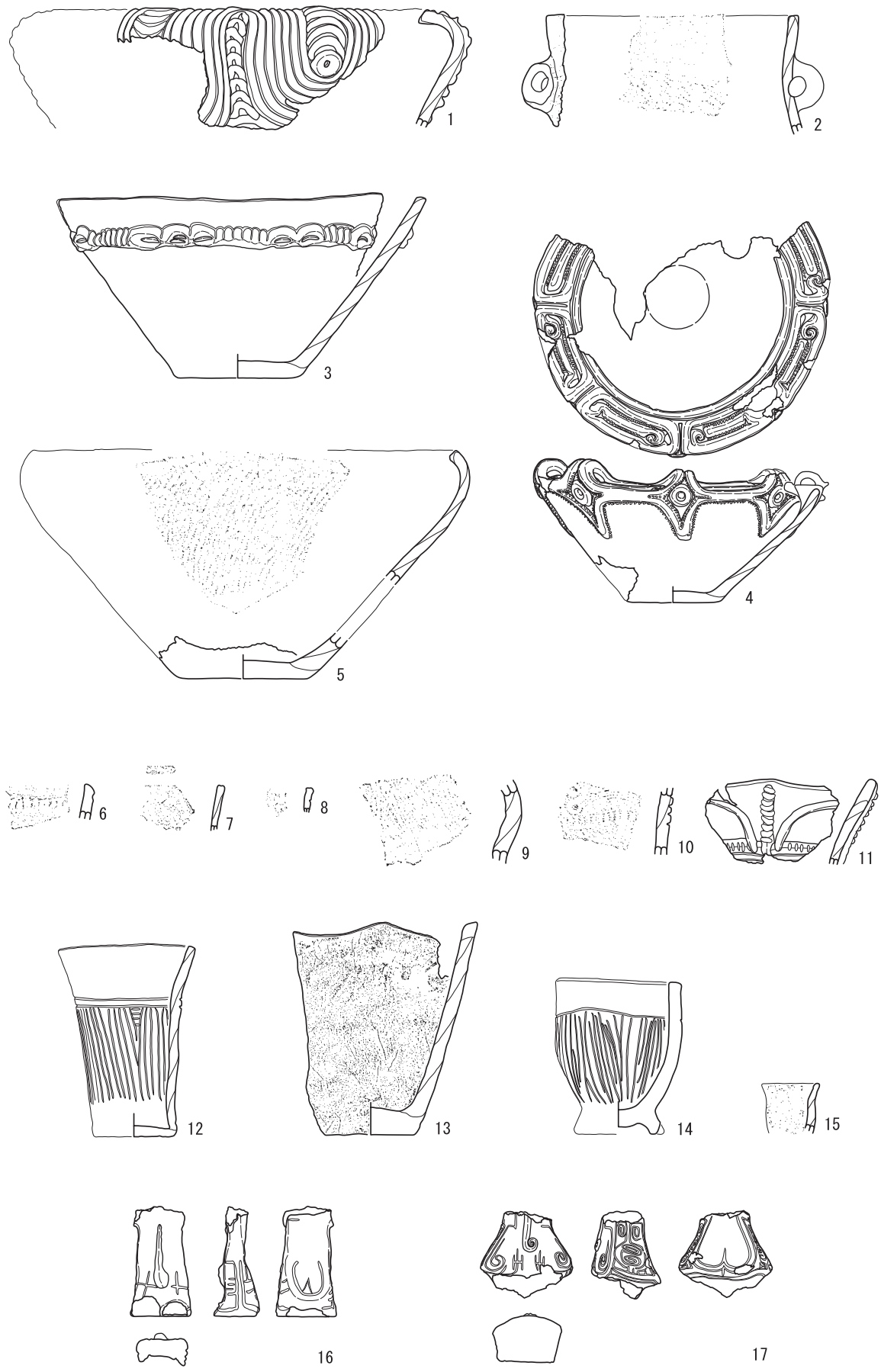
第33図　9号住居跡、9号住居跡炉



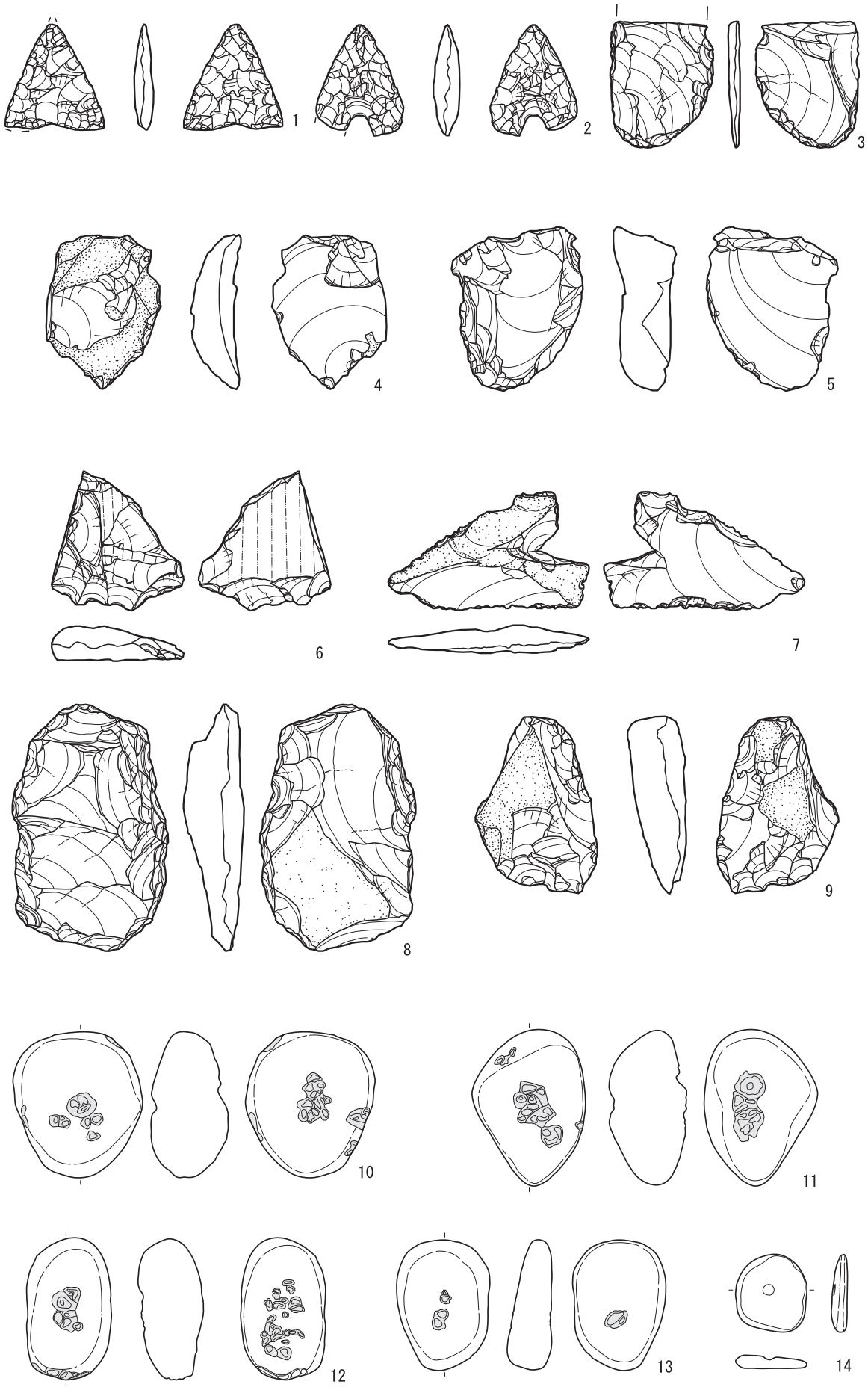
第 34 図　9 号住居跡出土遺物 (1) (1/6)



第 35 図　9 号住居跡出土遺物 (2) (1/6)

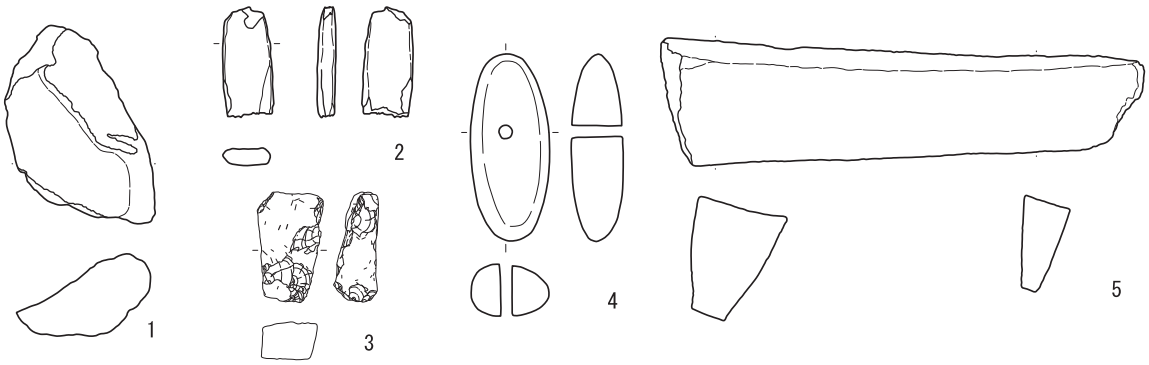


第 36 図　9 号住居跡出土遺物 (3) (1/4、但し 1 ～ 5 は 1/6)

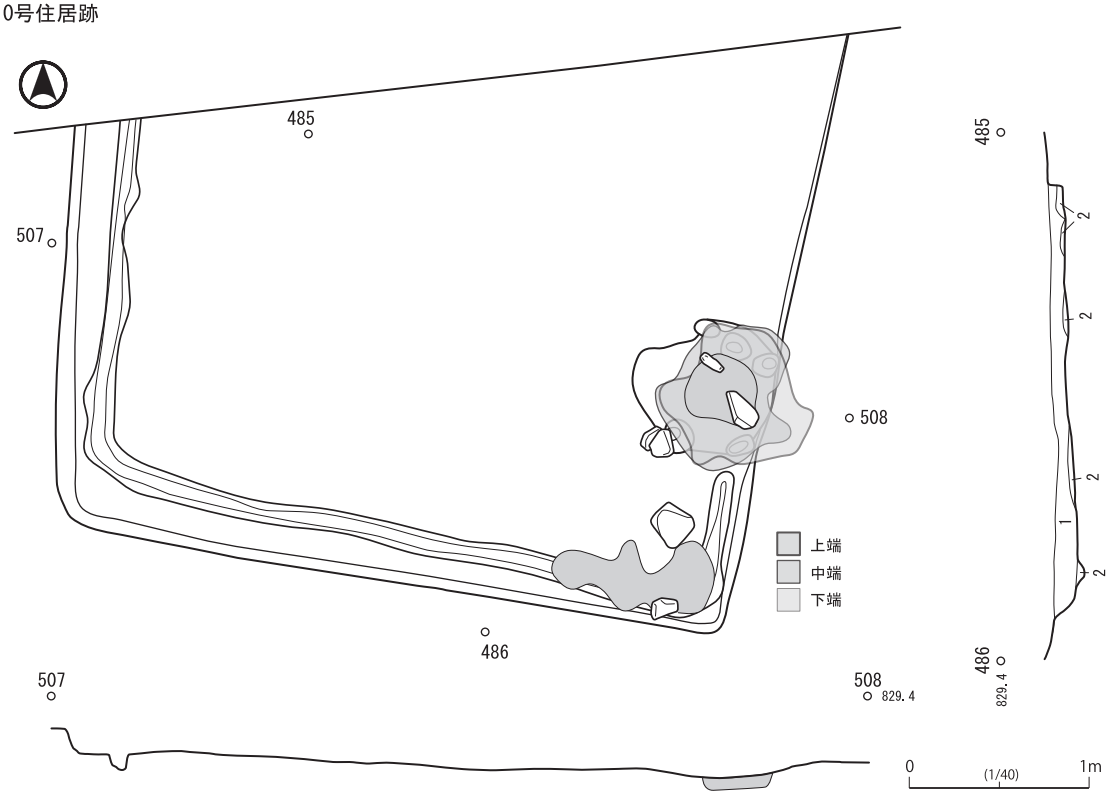


第 37 図　9 号住居跡出土遺物 (4) (1・2・4・5・9 は 1/1、3・6 ～ 8 は 1/2、10 ～ 14 は 1/4)

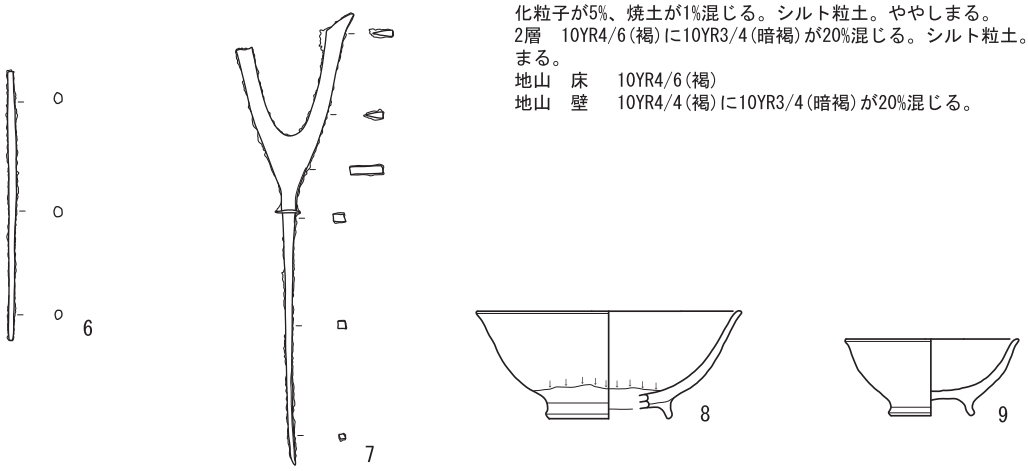
9号住居跡



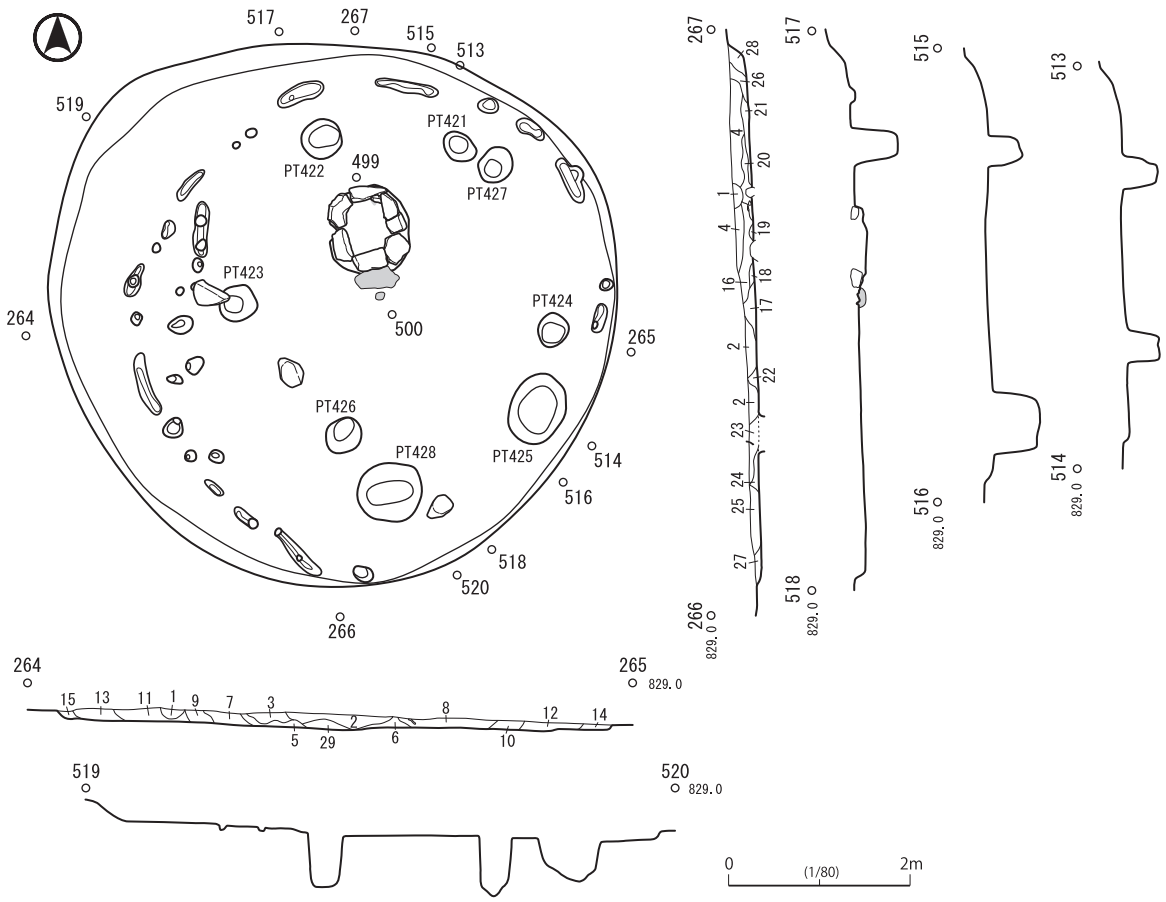
10号住居跡



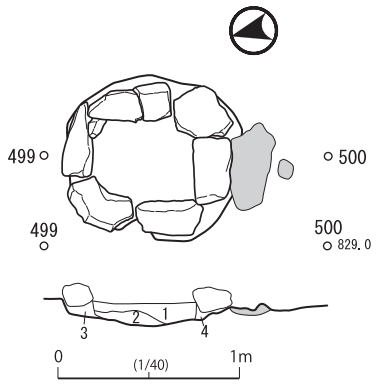
10号住居跡
1層　10YR3/1(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR4/6(褐)が7%、炭化粒子が5%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　床　10YR4/6(褐)
地山　壁　10YR4/4(褐)に10YR3/4(暗褐)が20%混じる。



第38図　9号住居跡出土遺物(5)(1/4、但し1･5は1/8)、10号住居跡、出土遺物(1/4)



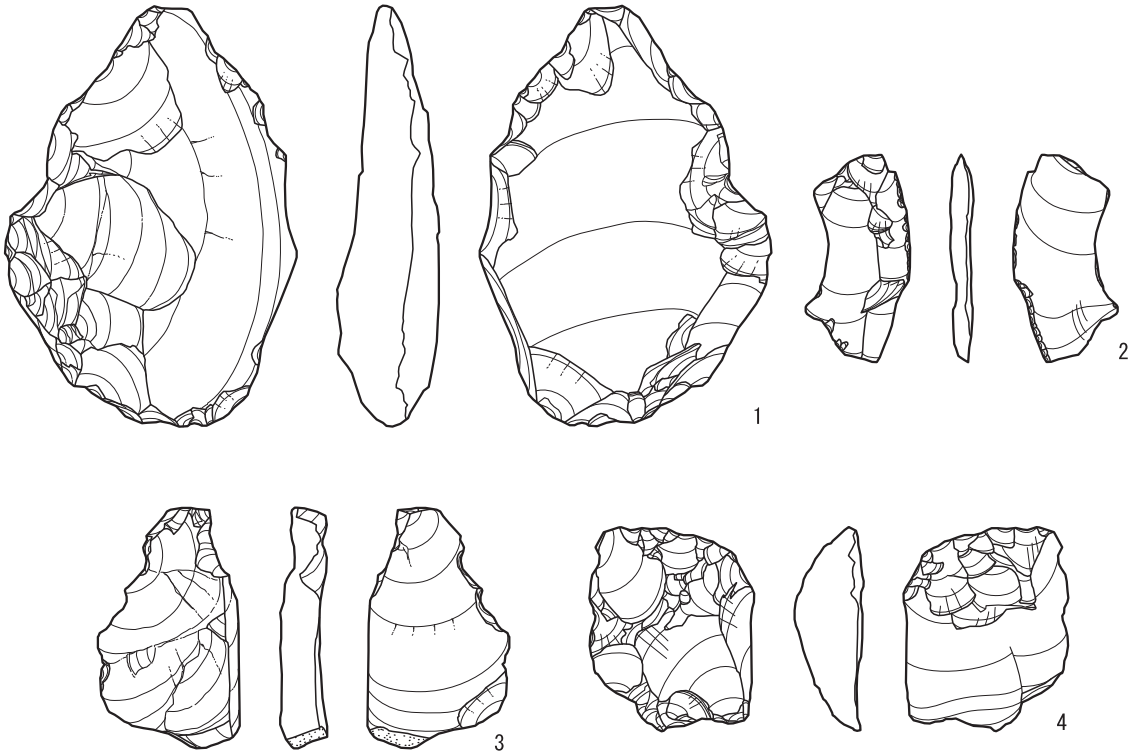
12号住居跡
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。（いも穴）
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。
5層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が15%混じる。シルト粒土。ややしまる。
7層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
8層　10YR3/4(暗褐)に5mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
9層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
10層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
11層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
12層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。
13層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
14層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が15%混じる。シルト粒土。ややしまる。
15層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(明黄褐)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。
16層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
17層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
18層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
19層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が10%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
20層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
21層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
22層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
23層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
24層　10YR4/6(褐)に10YR6/6(明黄褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
25層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
26層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が10%混じる。シルト粒土。ややしまる。
27層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
28層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%混じる。シルト粒土。しまりなし。
29層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が2%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR5/8(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が7%混じる。シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。



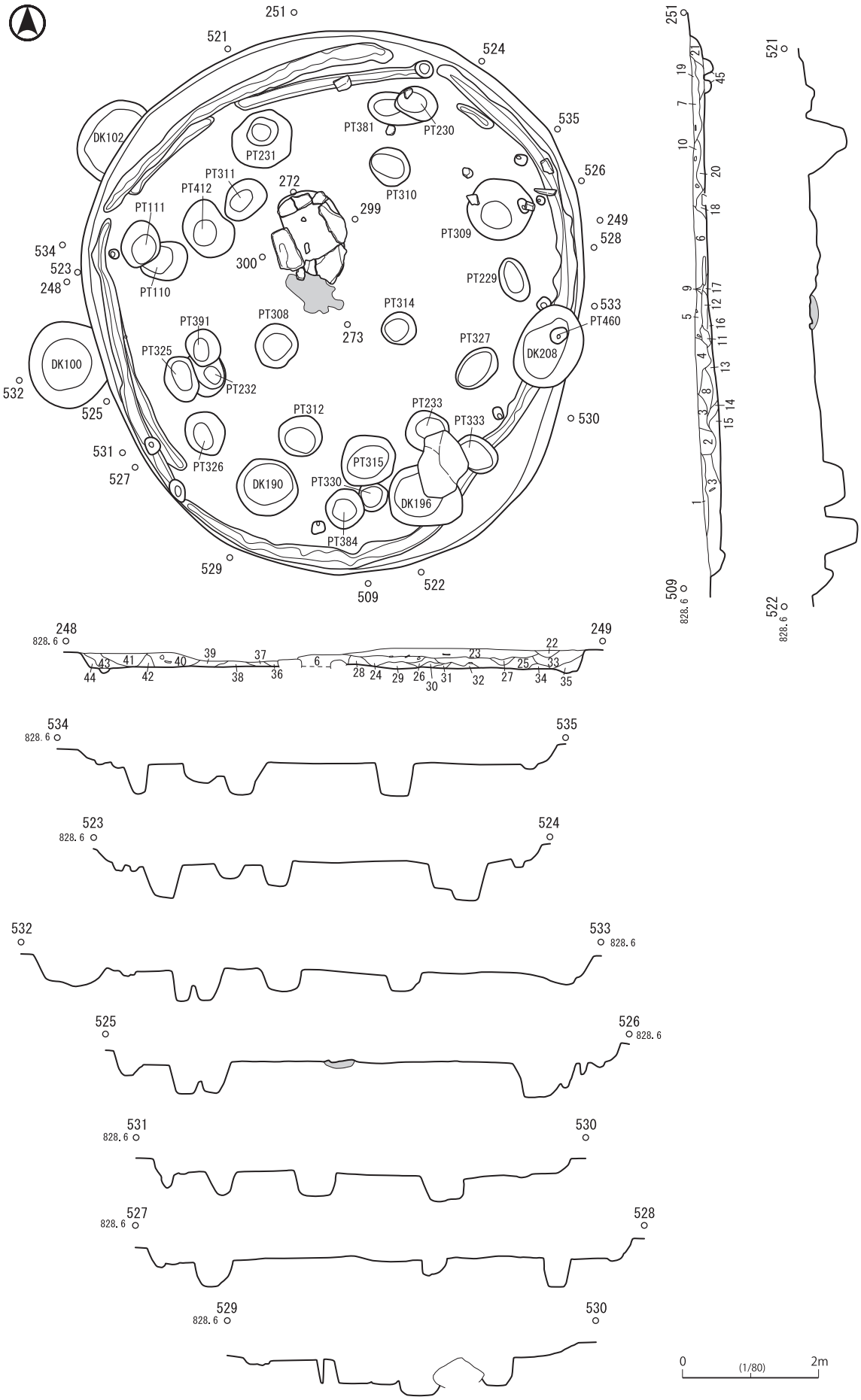
12号住居跡　石囲炉
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が2%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR4/6(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、焼土が10%、炭化粒子が5%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR4/6(褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　7.5YR4/3(褐)に10YR4/4(褐)が5%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
焼土　5YR4/8(赤褐)
地山　底　10YR5/6(黄褐)。固くしまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が7%混じる。シルト粒土。しまる。

第39図　12号住居跡、12号住居跡炉

第 40 図　12 号住居跡出土遺物 (1)(1/4、但し 4 ～ 8 は 1/1)

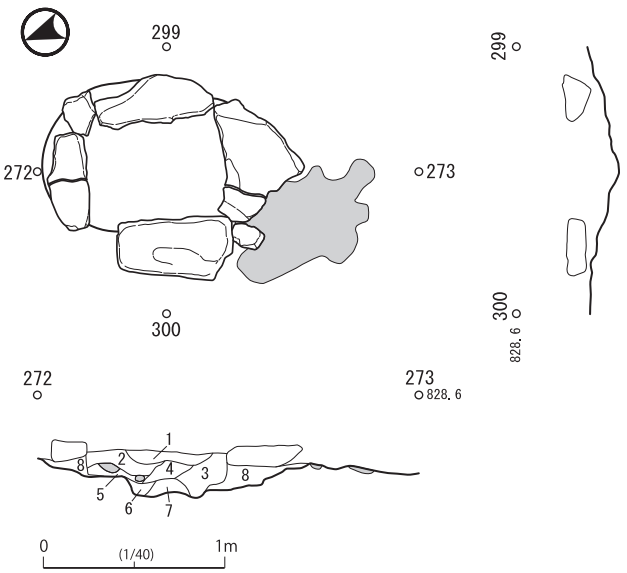


第 41 図　12 号住居跡出土遺物 (2) (1/1)


251
521
524
535
526
249
528
533
PT460
530
525
532
527
531
248
523
534
529
509
522
DK102
DK100
DK208
DK190
DK196
PT231
PT381
PT230
PT310
PT309
PT229
PT314
PT327
PT308
PT391
PT325
PT232
PT312
PT233
PT333
PT315
PT330
PT384
PT326
PT111
PT110
PT412
PT311
272
299
300
273
828.6
0
(1/80)
2m

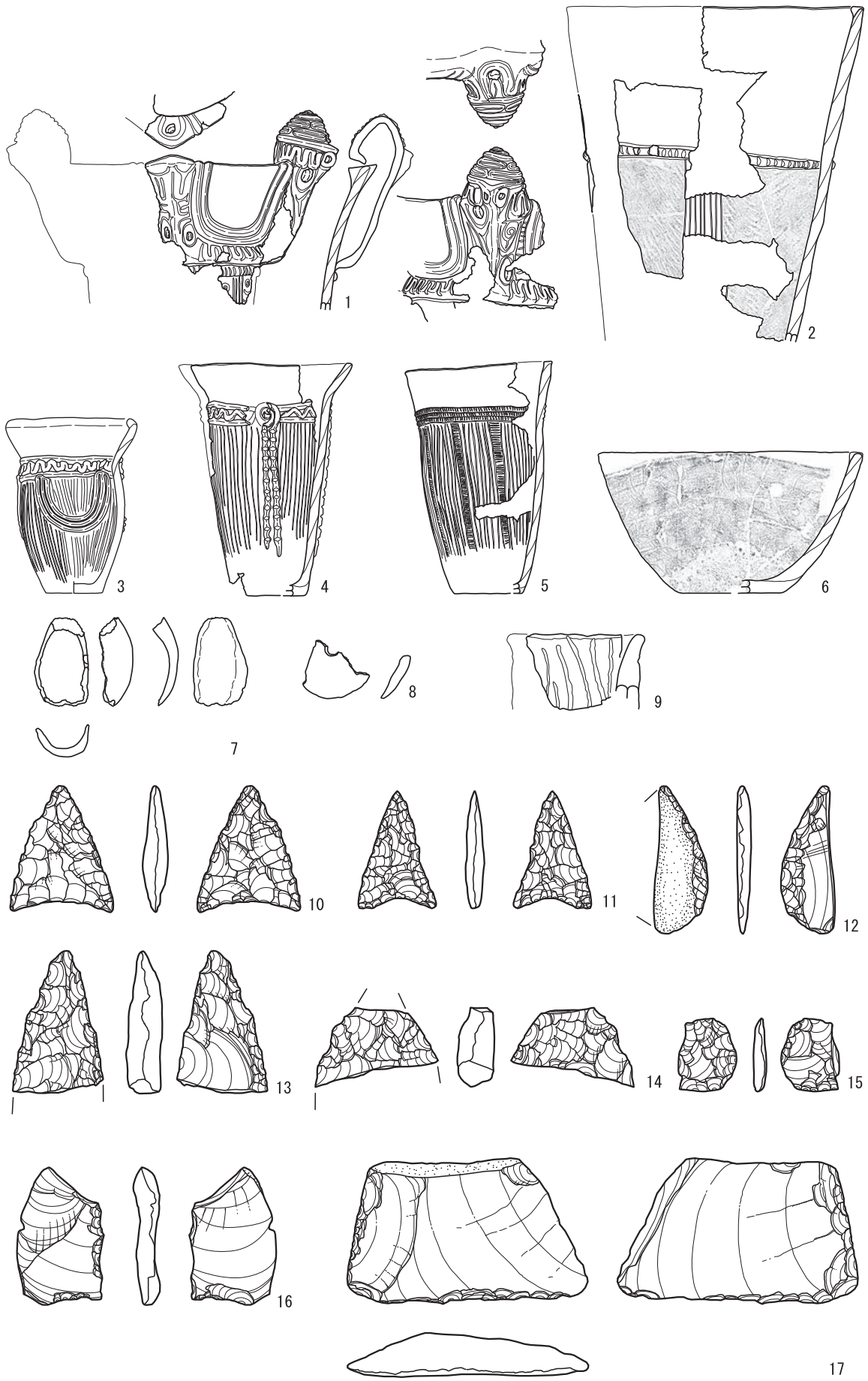
第 42 図　17 号住居跡

17号住居跡
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が2%、炭化粒子が2%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
7層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が1%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
8層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
9層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が30%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
10層　10YR3/4(暗褐)に1cm大のブロック状の10YR5/8(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
11層　10YR3/4(暗褐)に1cm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
12層　10YR3/4(暗褐)に5mm大のブロック状の10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
13層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
14層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
15層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
16層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
17層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
18層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
19層　10YR4/4(褐)に10YR6/6(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
20層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
21層　10YR4/4(褐)に10YR6/6(明黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
22層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/6(褐)が2%混じる。シルト粒土。しまる。（イモの穴）。
23層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
24層　10YR4/4(褐)に10YR6/6(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
25層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
26層　10YR4/4(褐)に10YR6/6(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
27層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
28層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が3%混じる。シルト粒土。ややしまる。
29層　10YR4/6(褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
30層　10YR4/6(褐)に10YR6/6(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
31層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
32層　10YR4/6(褐)に10YR6/6(明黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
33層　10YR4/4(褐)に3cm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
34層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
35層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
36層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が15%混じる。シルト粒土。しまる。
37層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が1%混じる。シルト粒土。しまる。
38層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
39層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
40層　10YR3/4(暗褐)に5mm大のブロック状の10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
41層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
42層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が3%混じる。シルト粒土。しまる。
43層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
44層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が30%混じる。シルト粒土。
45層　10YR5/8(黄褐)に10YR4/4(褐)が3%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が7%混じる。シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

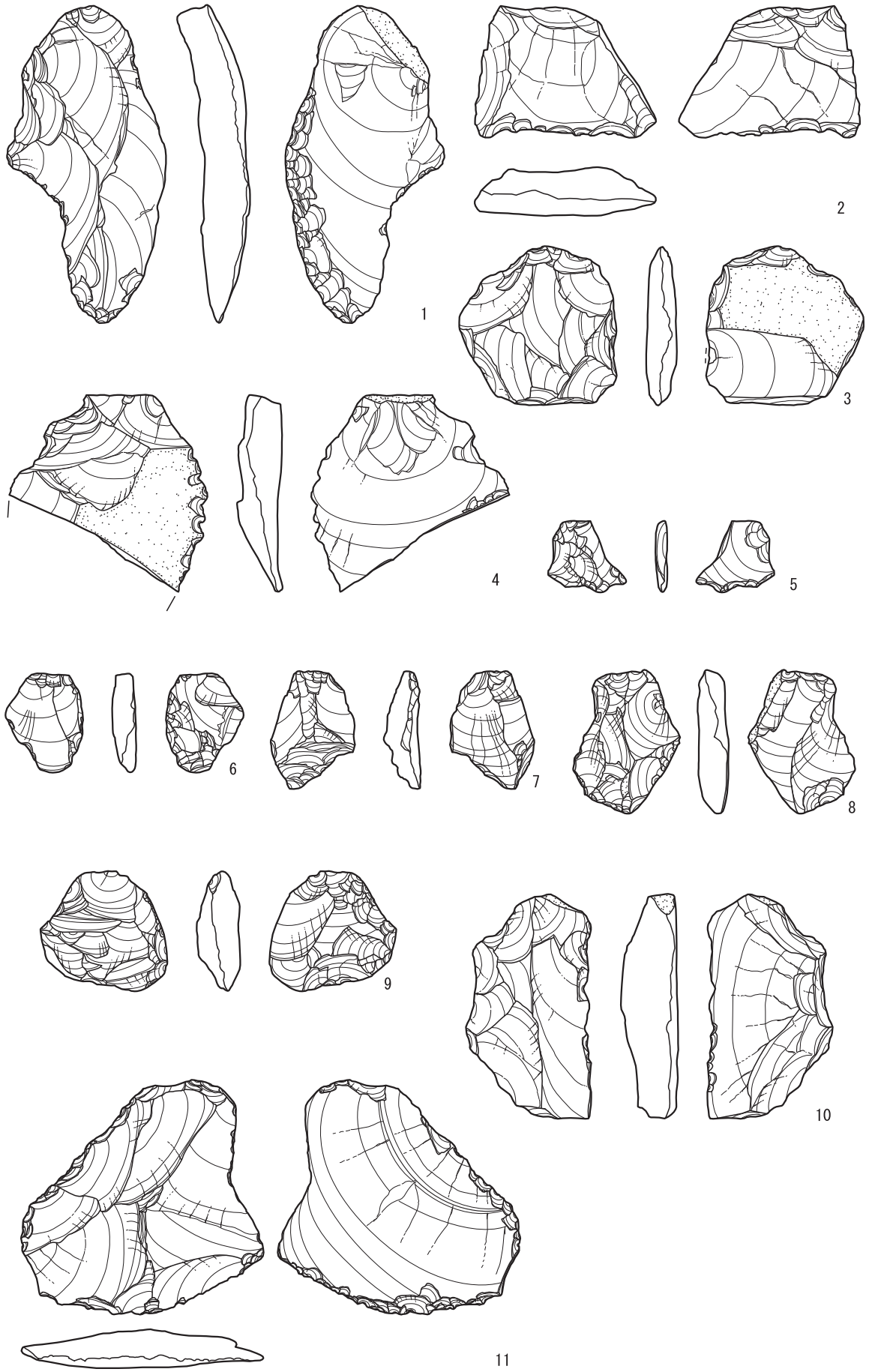


17号住居跡　石囲炉
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が7%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が30%、10YR5/6(黄褐)が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR5/6(黄褐)に焼土5YR4/8(赤褐)が20%混じる。シルト粒土。固くしまる。
6層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
7層　10YR5/4（にぶい黄褐）にブロックを含む10YR5/6(黄褐)が15%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

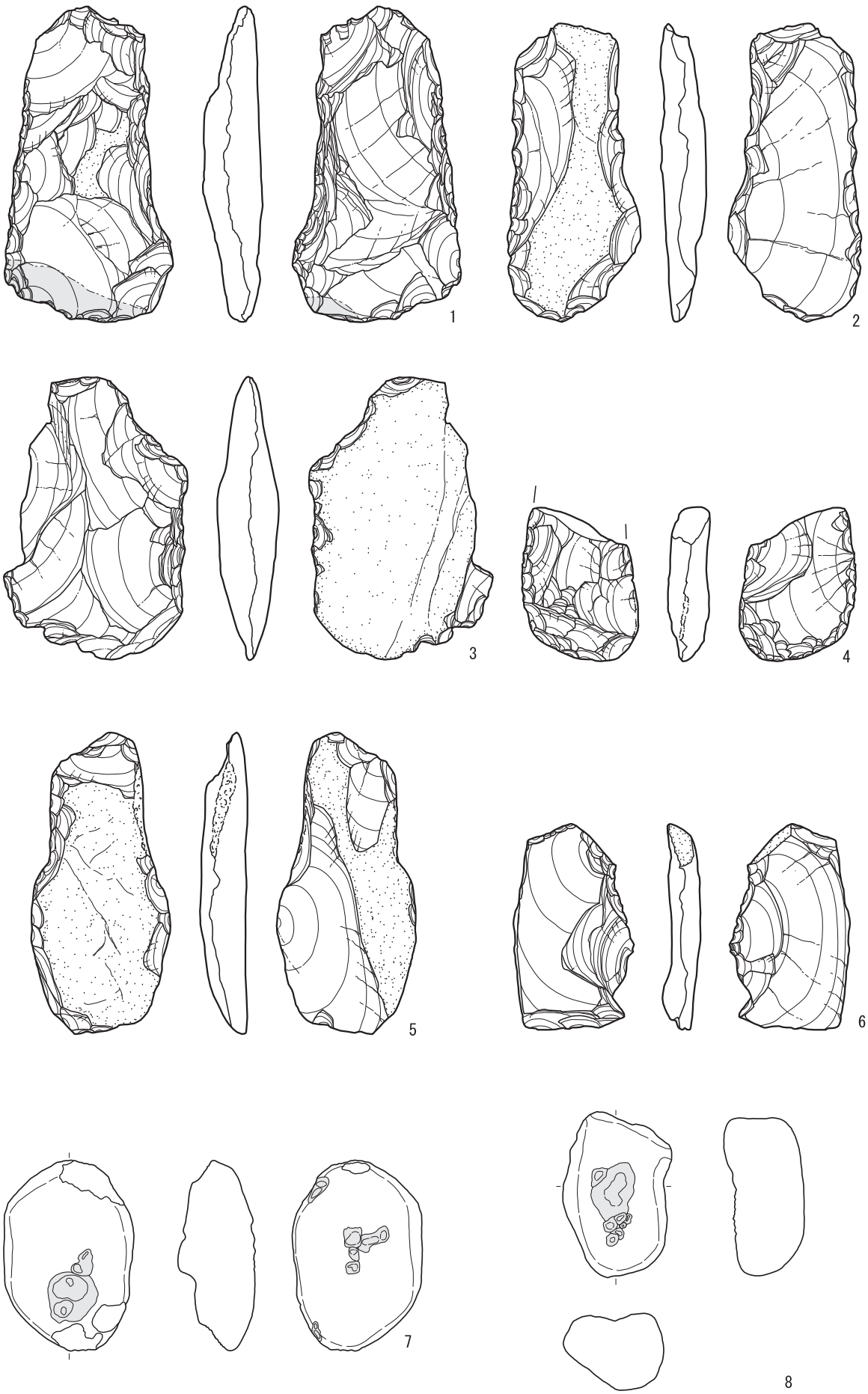
第43図　17号住居跡炉



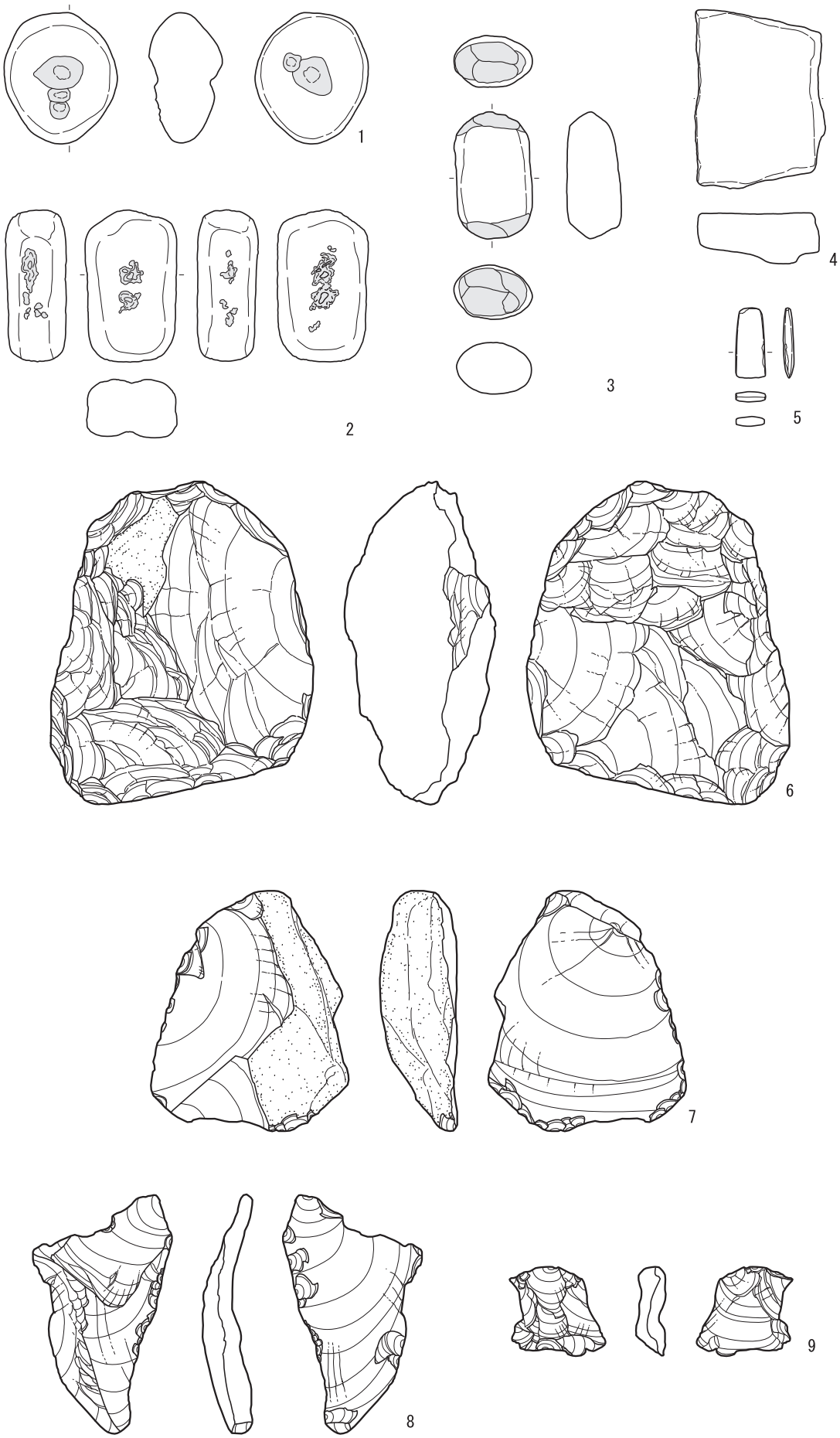
第 44 図　17 号住居跡出土遺物 (1) (1 ～ 6 は 1/6、7・8 は 1/4、9・17 は 1/2、10 ～ 16 は 1/1)



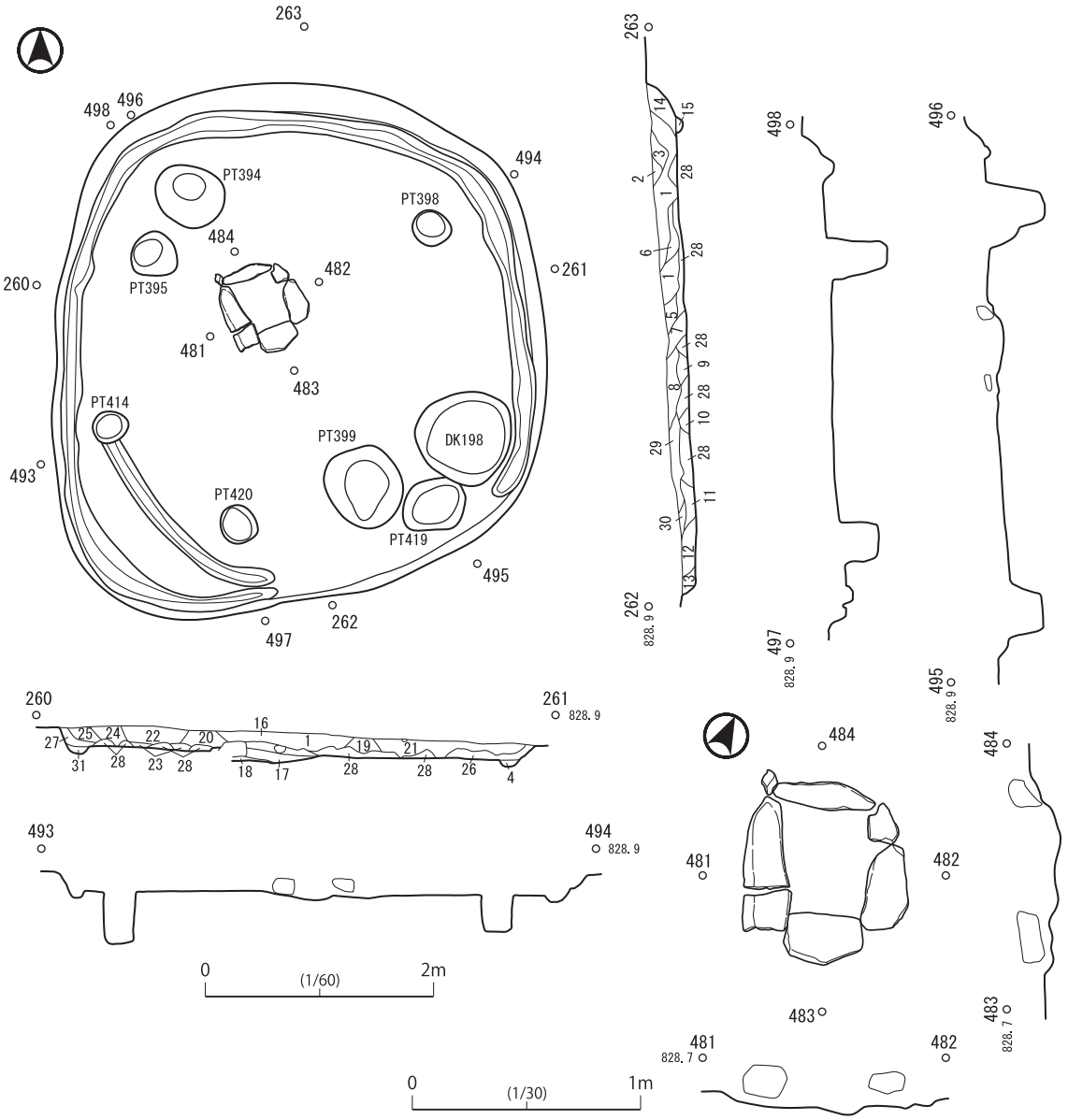
第 45 図　17 号住居跡出土遺物 (2) (1/1、但し 2・3・10・11 は 1/2)



第 46 図　17 号住居跡出土遺物 (3)(1/2、但し 7・8 は 1/4)

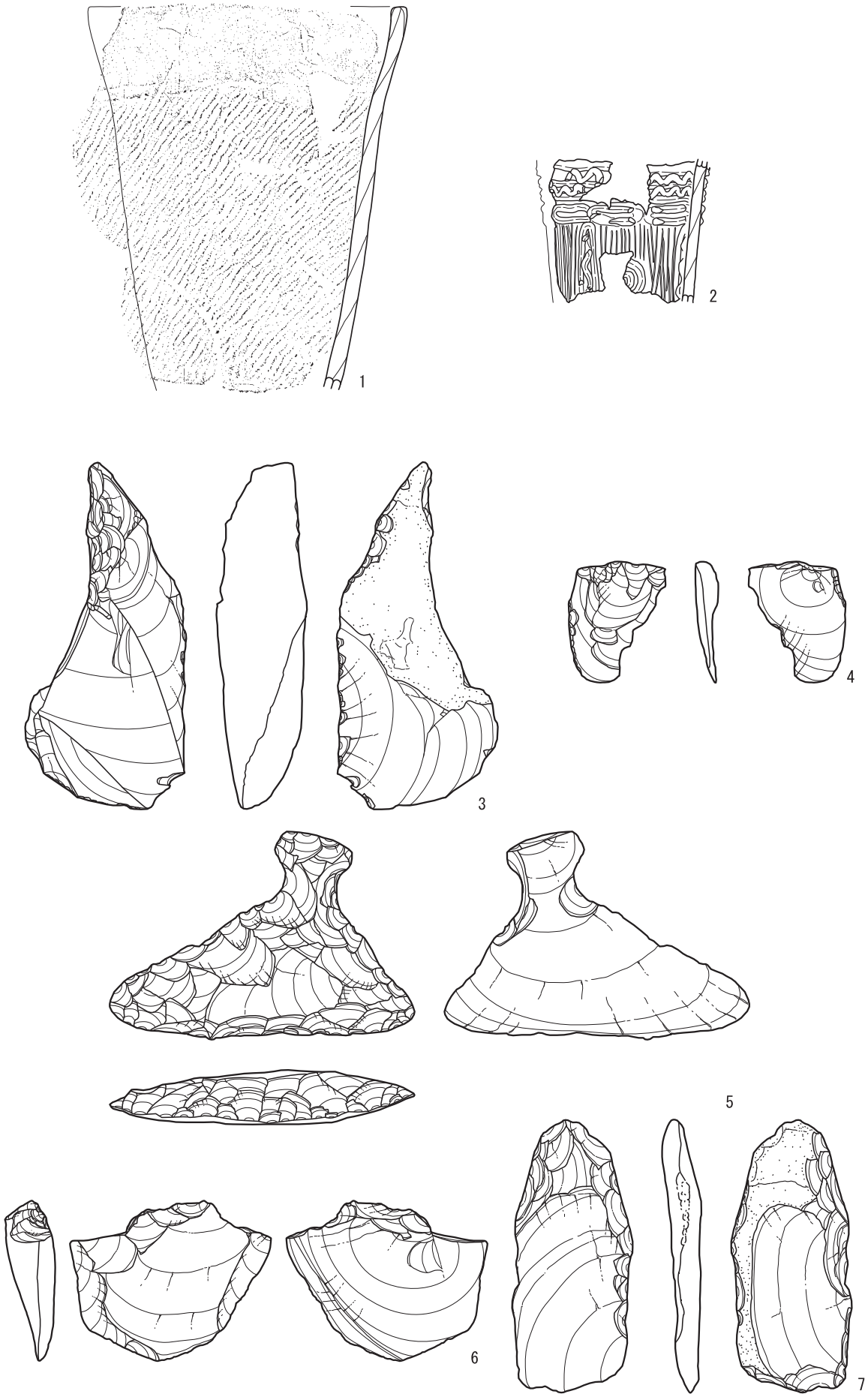


第 47 図　17 号住居跡出土遺物 (4)(1/4、但し 4 は 1/8、6・7 は 1/2、8・9 は 1/1)

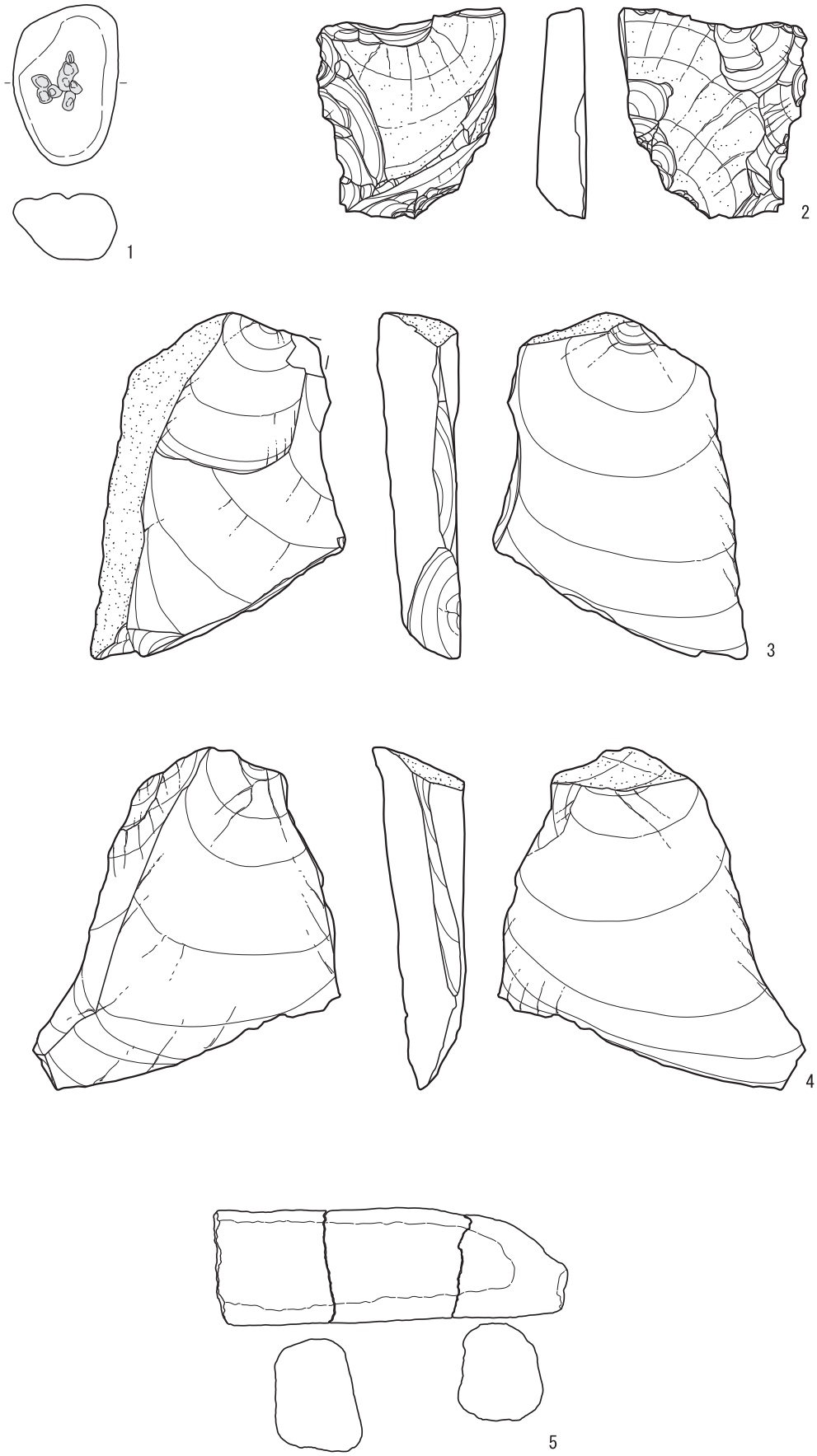


18号住居跡
1層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
2層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が15%混じる。固くしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が50%、炭化粒子3%混じる。固くしまる。
4層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が10%混じる。ややしまる。
5層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。しまる。
6層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)が1%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
7層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
8層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が15%、炭化粒子5%混じる。
9層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が30%、10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
10層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が40%混じる。ややしまる。
11層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が40%、炭化粒子3%混じる。ややしまる。
12層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が30%混じる。しまりなし。
13層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。しまりなし。
14層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子3%混じる。固くしまる。
15層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
16層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子3%混じる。しまる。
17層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が15%、炭化粒子2%混じる。しまる。
18層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が7%、炭化粒子2%混じる。しまる。
19層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
20層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が40%、炭化粒子3%混じる。しまる。
21層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が15%、炭化粒子5%混じる。しまる。
22層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。しまる。
23層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が40%、炭化粒子1%混じる。しまる。
24層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が40%、炭化粒子5%混じる固くしまる。
25層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子3%混じる。固くしまる。
26層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
27層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
28層　10YR6/6(明黄褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、炭化粒子5%混じる。固くしまる。
29層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。しまる。
30層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が30%、炭化粒子3%混じる。しまる。
31層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%混じる。しまる。
地山　壁　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、10YR4/4(褐)シルト粒土が10%混じる。固くしまる。
地山　床　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。

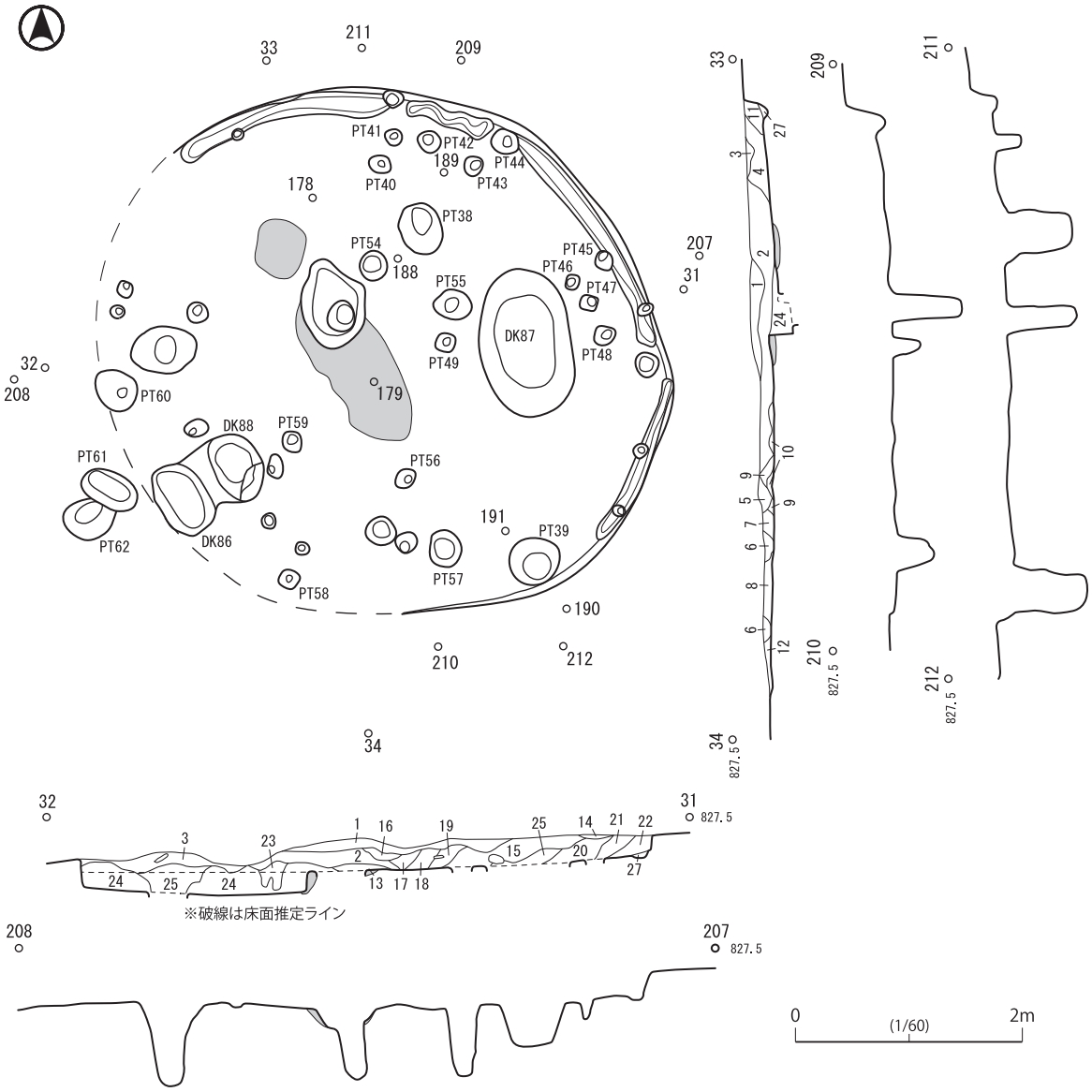
第48図　18号住居跡、18号住居跡炉



第 49 図　18 号住居跡出土遺物 (1)(1・2 は 1/4、3 ～ 5 は 1/1、6・7 は 1/2)

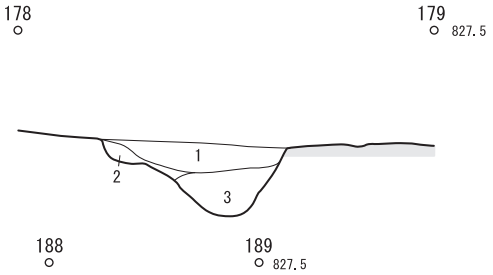


第 50 図　18 号住居跡出土遺物 (2)(1 は 1/4、2 は 1/1、3・4 は 1/2、5 は 1/10)

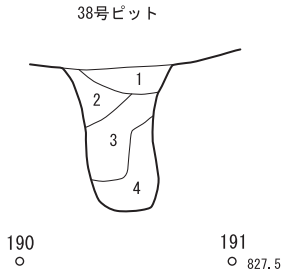


20号住居跡
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、焼土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に5mm以下のローム状の10YR4/6(褐)が10%、10YR3/3(暗褐)が25%、焼土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR5/6(黄褐)(黄褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が20%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR4/6(褐)に10YR4/4(褐)が40%混じる。シルト粒土。しまる。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が30%混じる。シルト粒土。しまる。
7層　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。しまる。
8層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
9層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
10層　10YR5/8(黄褐)に10YR4/4(褐)が5%混じる。固くしまる。
11層　10YR4/6(褐)に10YR4/4(褐)が15%混じる。シルト粒土。しまる。
12層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/6(褐)が5%、焼土が1%、炭化粒子が1%混じる。固くしまる。
13層　10YR5/8(黄褐)に10YR2/3(黒褐)が30%、焼土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
14層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
15層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。
16層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が7%、焼土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
17層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
18層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/6(褐)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
19層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が25%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。しまる。
20層　10YR4/4(褐)に1～2mm大のブロック状の10YR5/6(黄褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
21層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が5%、焼土が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
22層　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
23層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
24層　10YR5/8(黄褐)に10YR5/6(黄褐)の粘質土が5%混じる。固くしまる。
25層　10YR3/4(暗褐)に1cm大のブロック状の10YR5/8(黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
26層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
27層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　床　　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

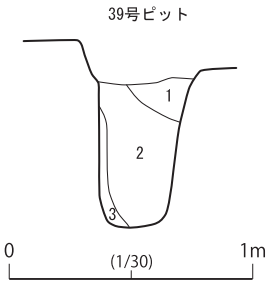
第51図　20号住居跡



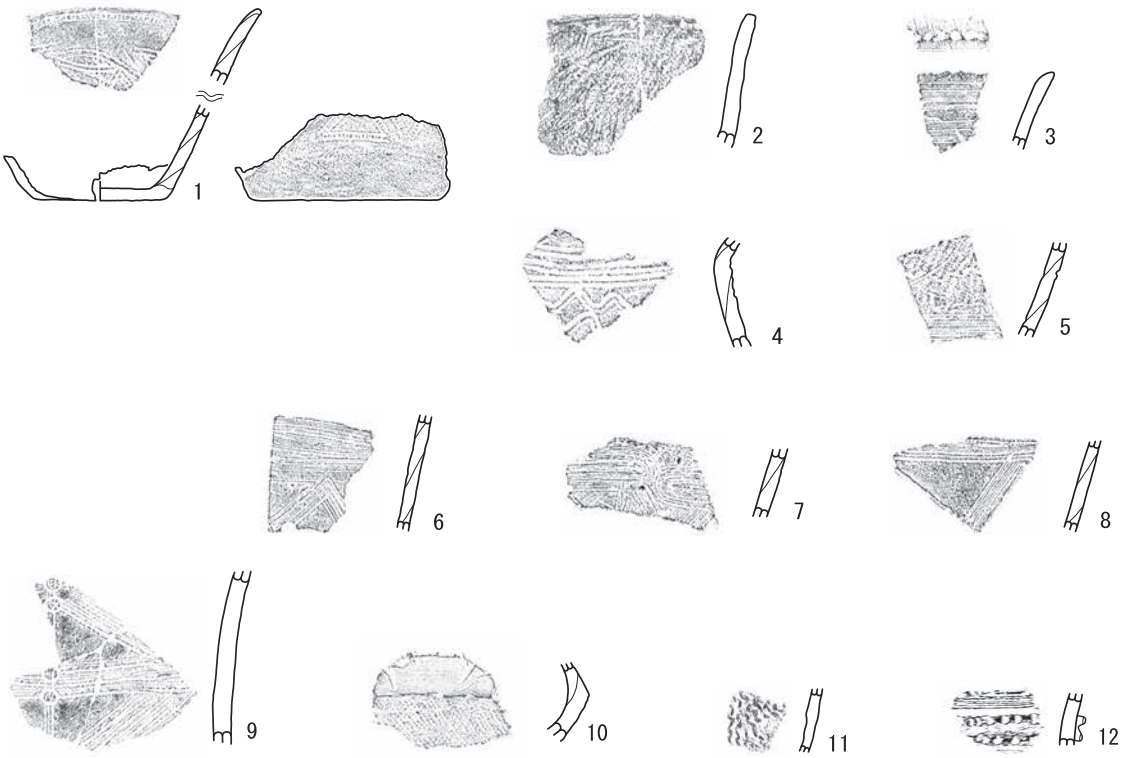
20号住居跡　地床炉
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR2/3(黒褐)に5～10mm大のブロック状の10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR2/2(黒褐)に10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
地山　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。



38号ピット(20号住居跡柱穴)
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR3/3(暗褐)にブロックを含む10YR5/6(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

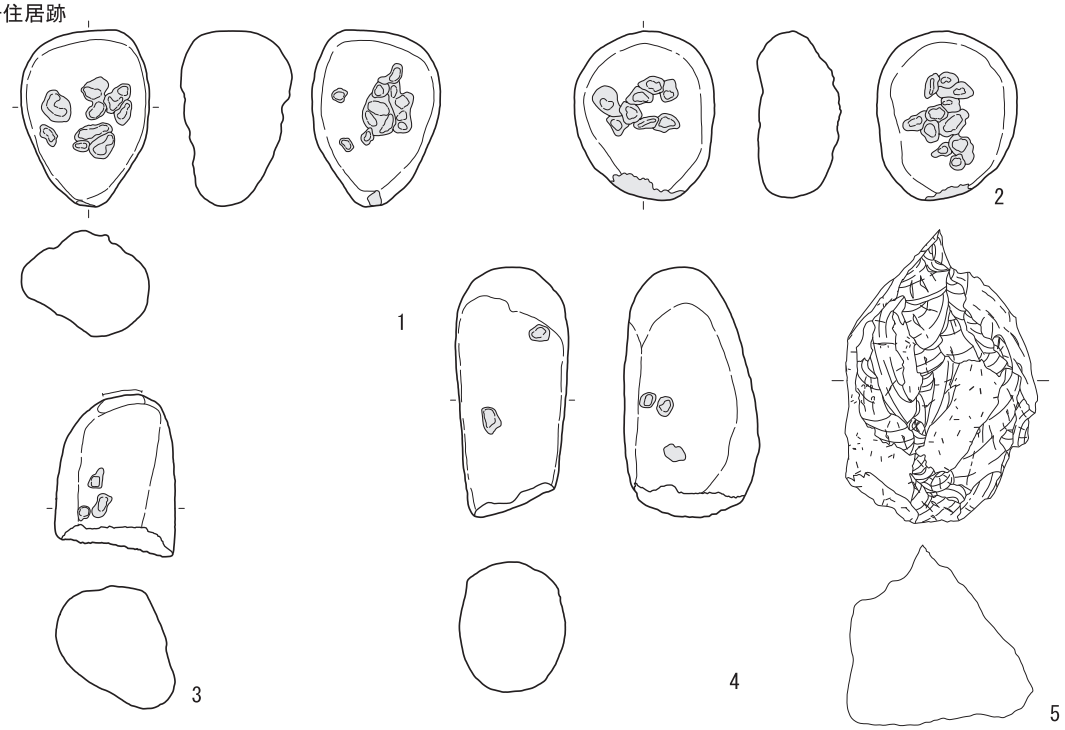


39号ピット(20号住居跡柱穴)
1層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が30%、10YR5/6(黄褐)が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

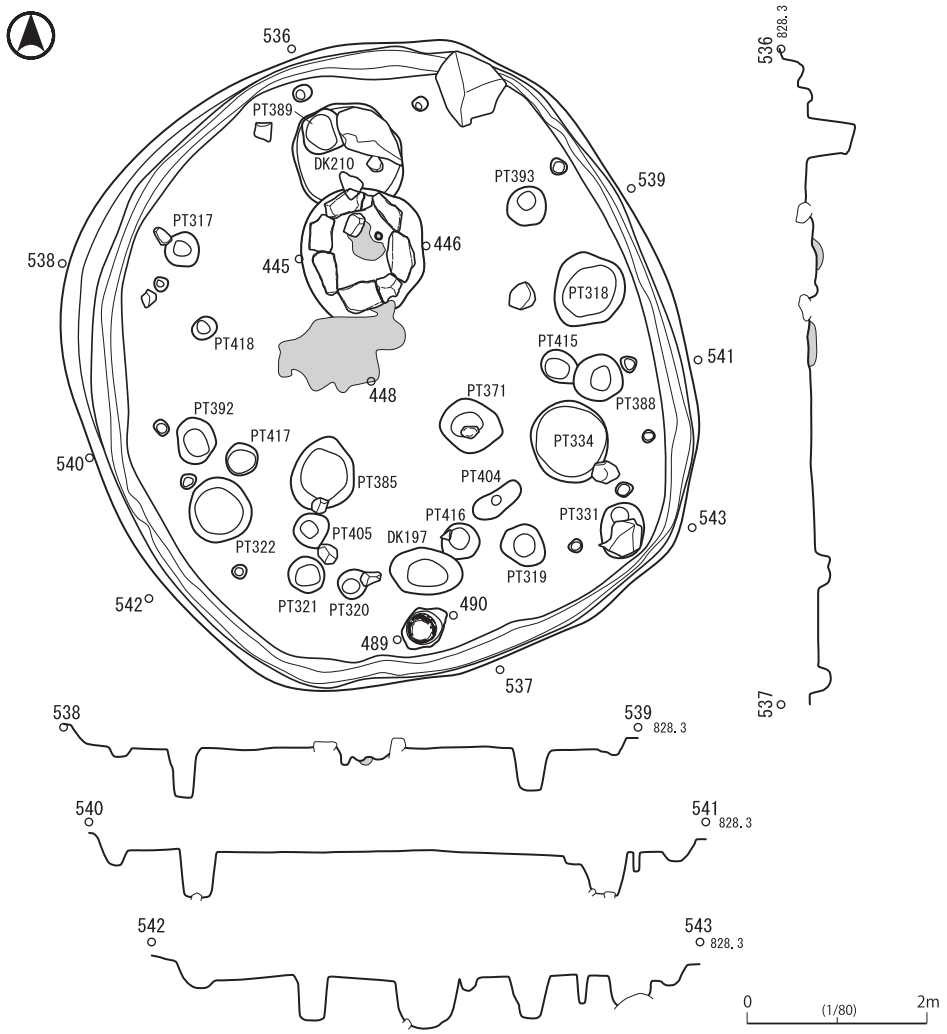


第52図　20号住居跡炉、柱穴、出土遺物(1)(1/4)

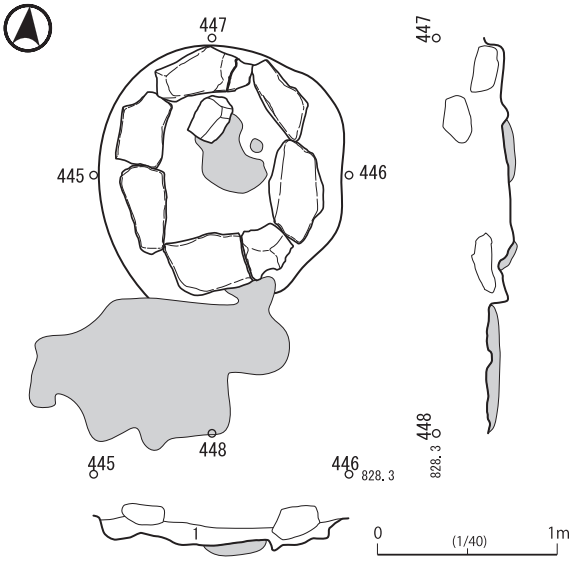
20号住居跡



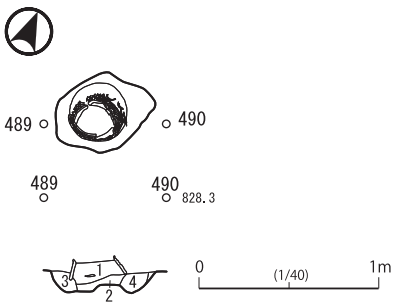
21号住居跡



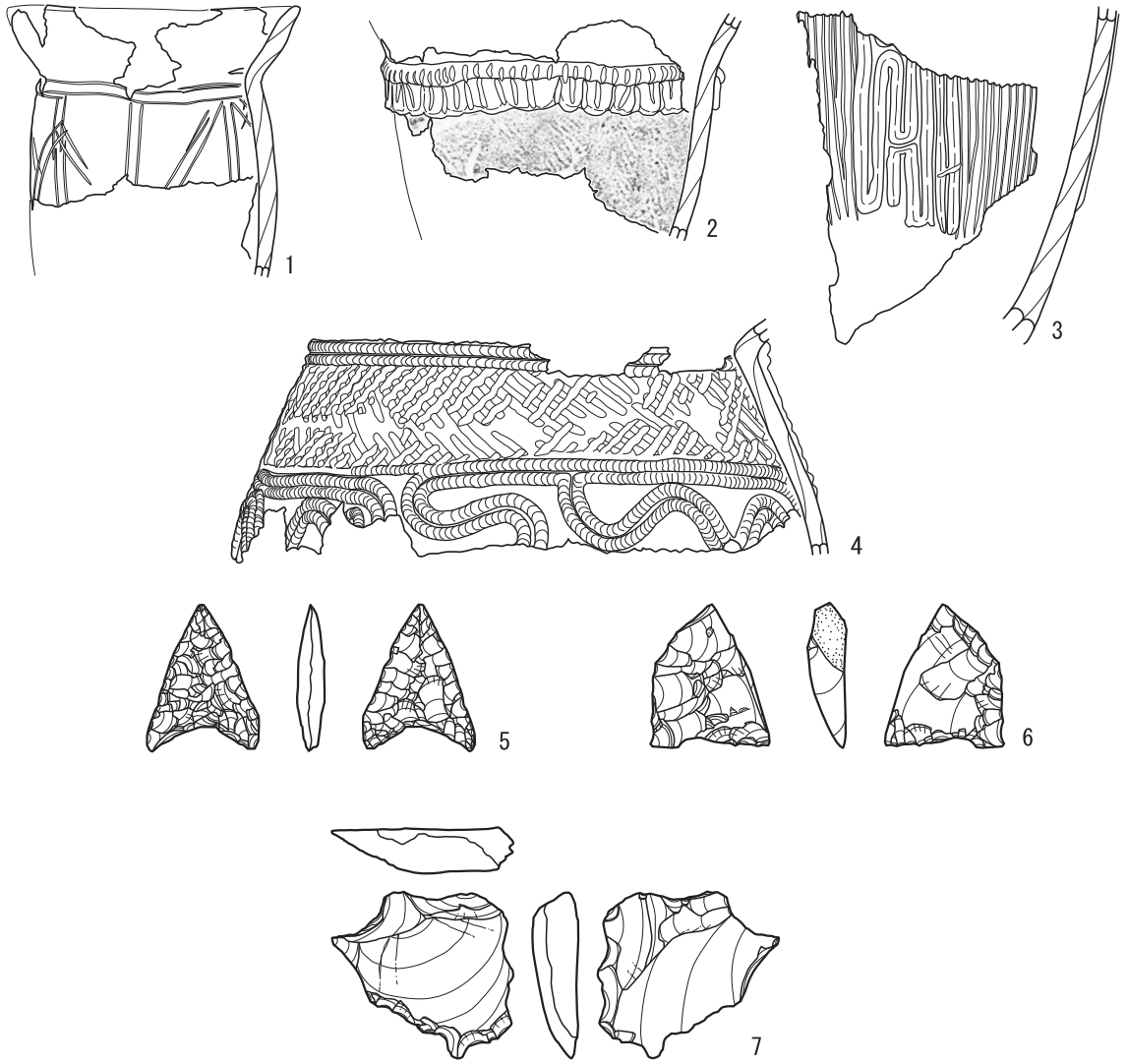
第 53 図　20 号住居跡出土遺物 (2)(1/4、但し 5 は 1/2)、21 号住居跡



21号住居跡　石囲炉
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/2(黒褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が1%、焼土が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　10YR3/4(暗褐)。固くしまる。



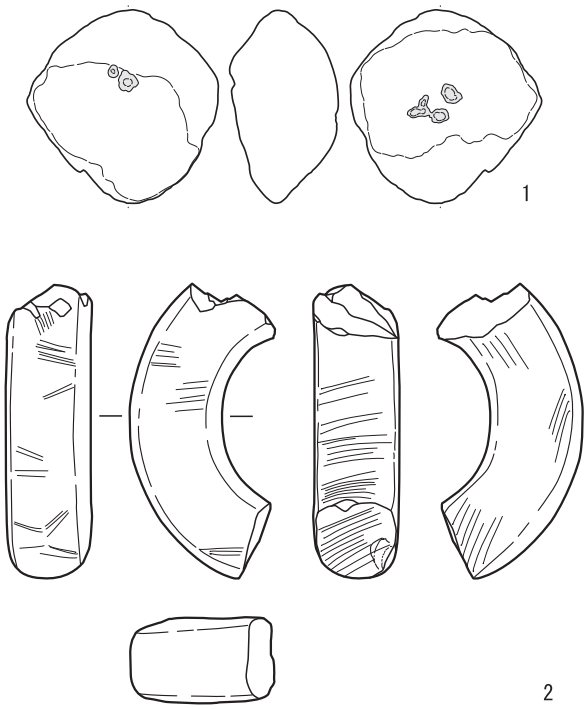
21号住居跡　埋甕
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR2/1(黒)が30%、10YR4/6(褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR2/1(黒)が5%、焼土が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
3層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/4(暗褐)が30%、10YR4/6(褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%、10YR2/2(黒褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　床　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が40%混じる。固くしまる。
地山　壁　10YR2/2(黒褐)に10YR4/6(褐)が30%混じる。固くしまる。



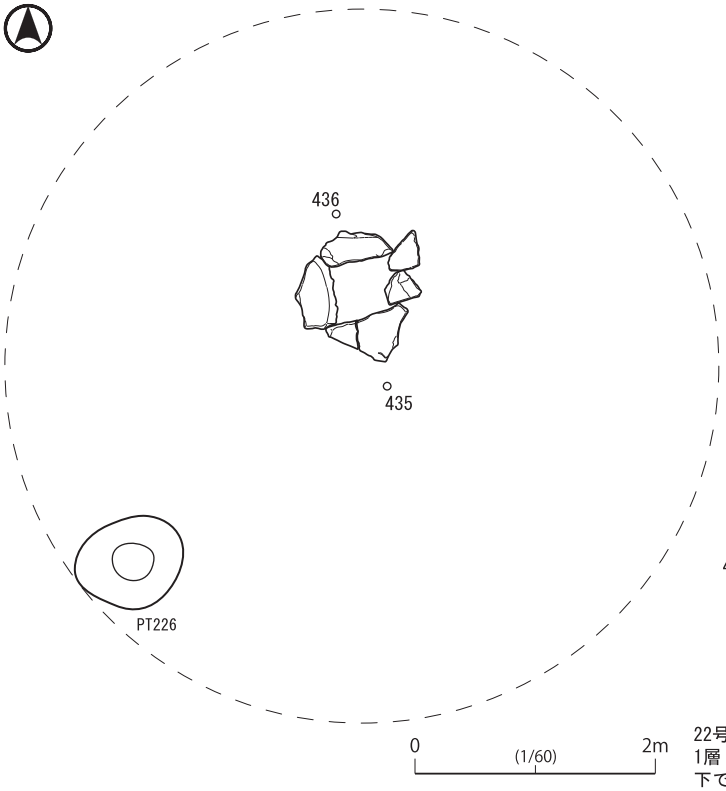
第54図　21号住居跡炉、埋甕、出土遺物(1)(1/4、但し5・6は1/1、7は1/2)

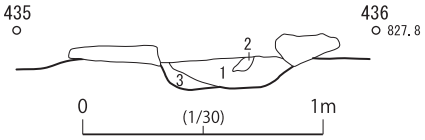
第 55 図　21 号住居跡出土遺物 (2)(1・9・10 は 1/2、2・3・5 ～ 7 は 1/4、4 は 1/8、8・11・12 は 1/1)

21号住居跡



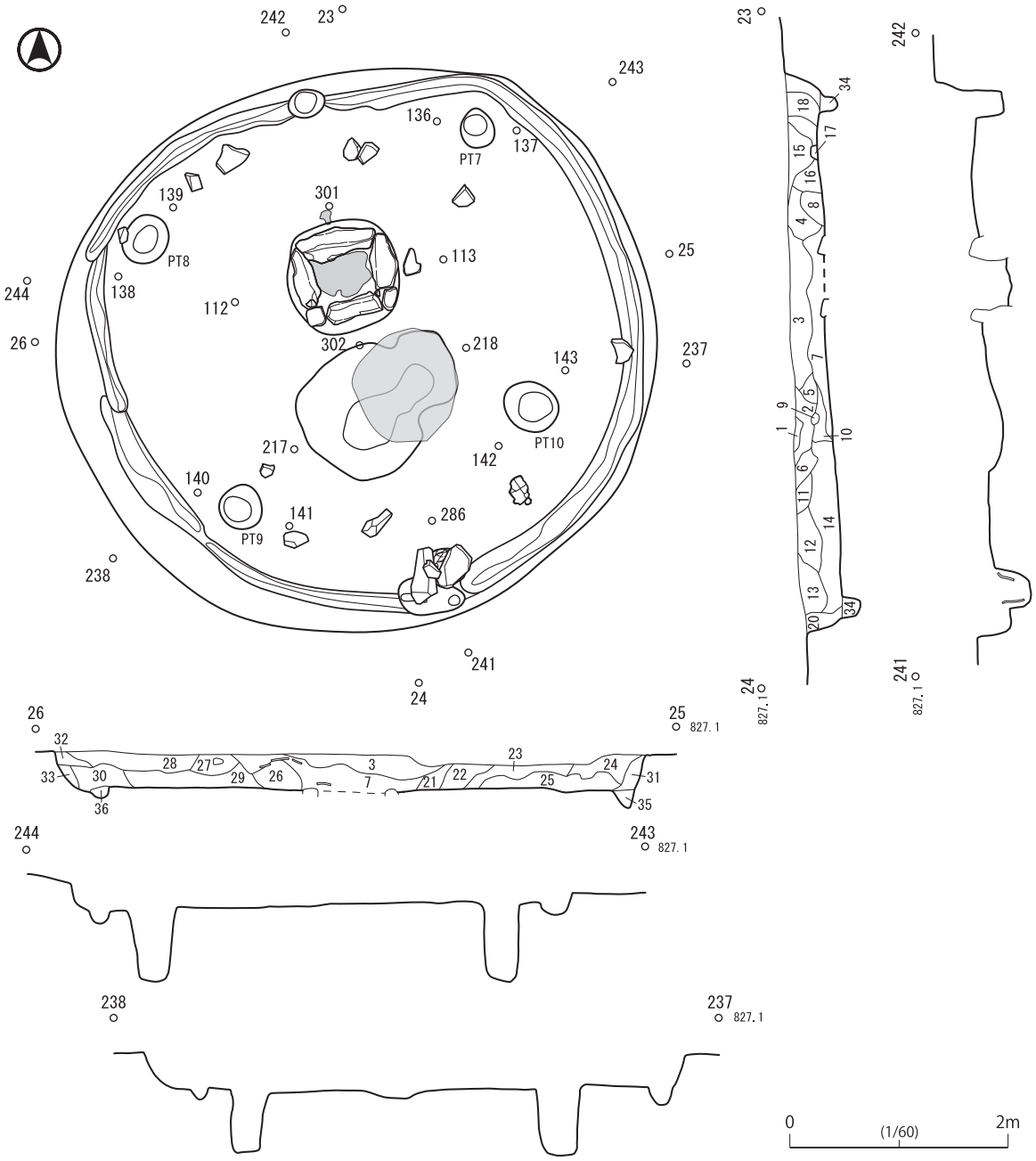
22号住居跡





22号住居跡　石囲炉
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%、焼土が1%以下で、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　5YR5/6(明赤褐)の焼土。しまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が7%、炭化粒子が1%以下で混じる。シルト粒土。しまる。
地山　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。シルト粒土。固くしまる。

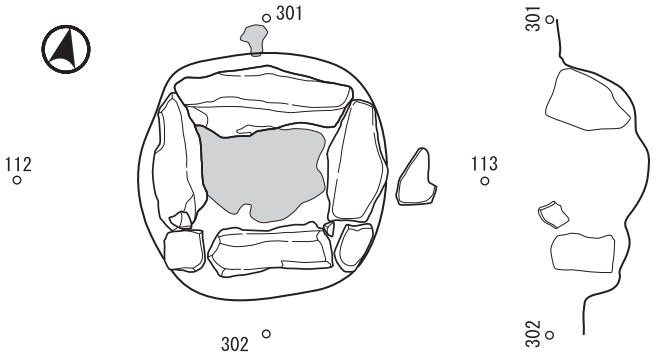
第56図　21号住居跡出土遺物(3)(1は1/8、2は1/1)、22号住居跡、炉、出土遺物(1/4)



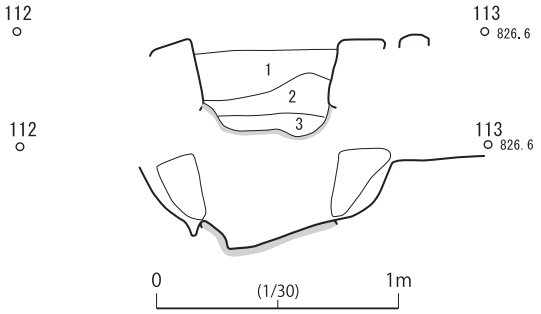
24号住居跡
1層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
2層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が5%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
4層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
5層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が40%、炭化粒子1%混じる。しまる。
6層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
7層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)が2%、焼土粒子3%、炭化粒子2%混じる。しまる。
8層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
9層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土15%、炭化粒子1%混じる。しまる。
10層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土粒子2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
11層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
12層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
13層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
14層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
15層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
16層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。
17層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
18層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
19層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
20層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
21層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
22層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
23層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
24層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
25層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
26層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が15%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
27層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
28層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。

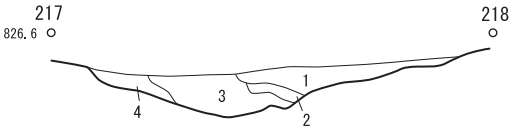
第57図　24号住居跡

29層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
30層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
31層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
32層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に炭化粒子1%混じる。固くしまる。
33層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
34層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%混じる。しまる。
35層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)が5%混じる。しまる。
36層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が10%混じる。しまる。
地山　壁　　10YR5/8(黄褐)のシルト粒土。固くしまる。
地山　床面　10YR5/8(黄褐)のシルト粒土。固くしまる。

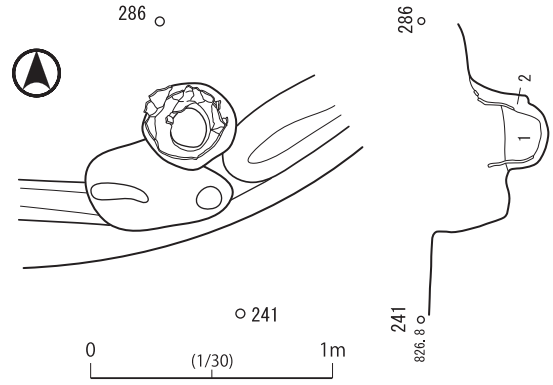


24号住居跡　石囲炉
1層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土1%混じる。
2層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。
3層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、5YR4/8(赤褐)が5%、炭化粒子1%混じる。
掘り方　7.5YR4/3(褐)シルト粒土。固くしまる。

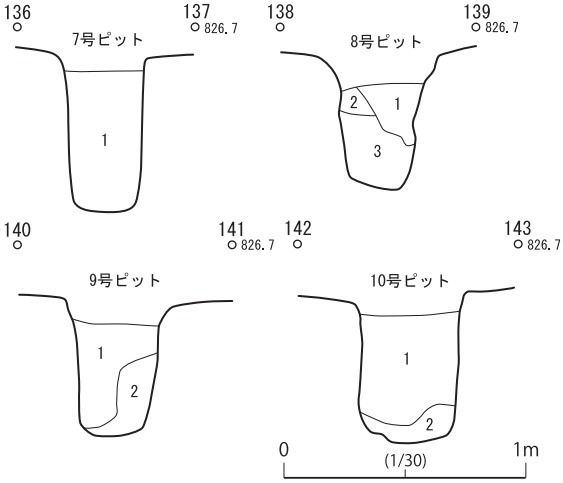




24号住居跡　地床炉
1層　5YR4/8(赤褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が3%混じる。固くしまる。
2層　5YR4/4(にぶい赤褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が7%、焼土10%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR6/8(明黄褐)シルト粒土が径1～3cmのブロックで3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
4層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
地山　壁　　10YR5/8(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　底　　10YR5/8(黄褐)シルト粒土。固くしまる。



24号住居跡　埋甕
1層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
2層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%混じる。ややしまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　底　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。



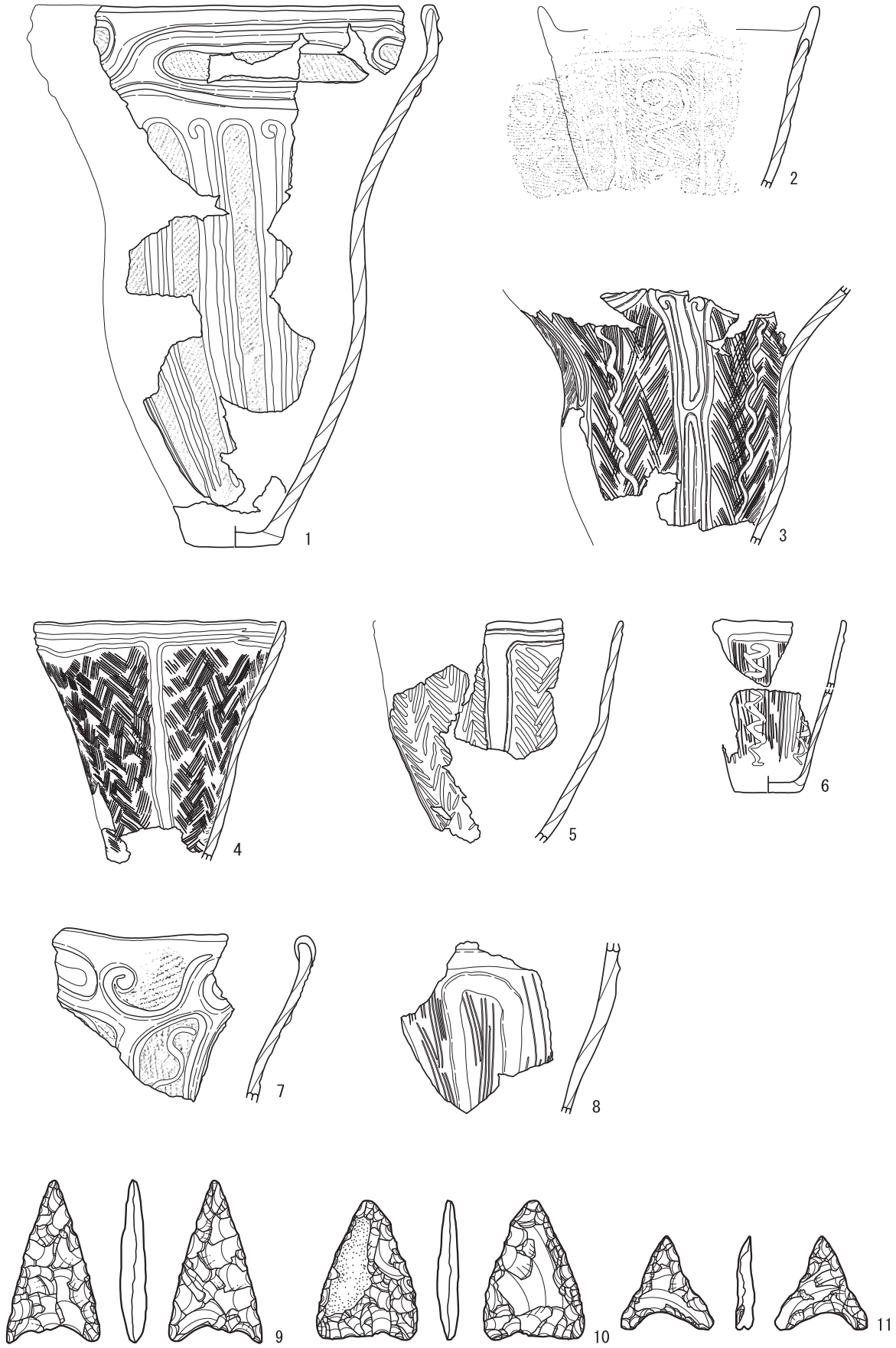
7号ピット(24号住居跡柱穴)
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
地山　壁　　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

8号ピット(24号住居跡柱穴)
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が30%(ブロック状)混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が10%(ブロックを含む)混じる。シルト粒土。ややしまる。
地山　壁　　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

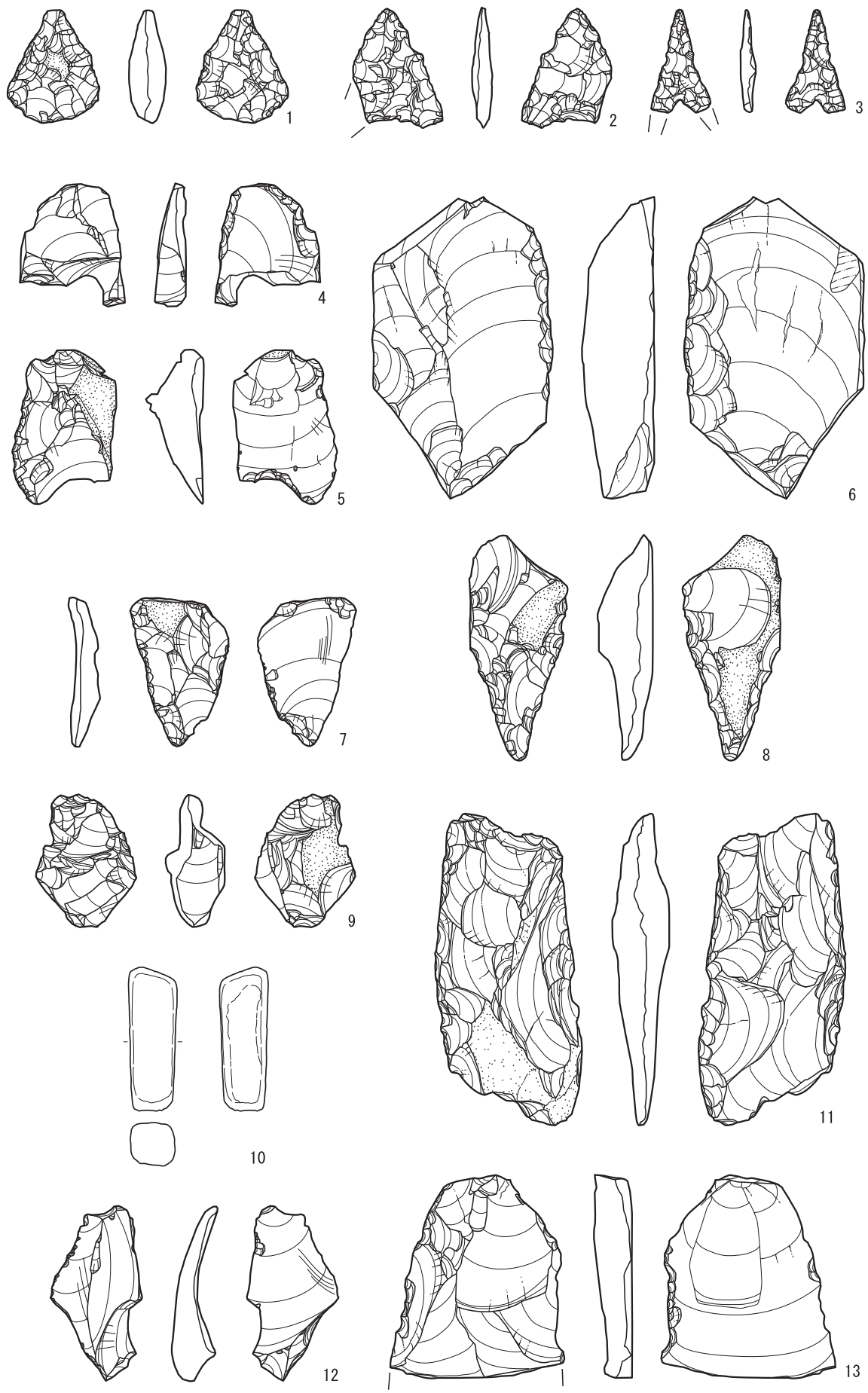
9号ピット(24号住居跡柱穴)
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が7%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
地山　壁　　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

10号ピット(24号住居跡柱穴)
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

第58図　24号住居跡炉、埋甕、柱穴

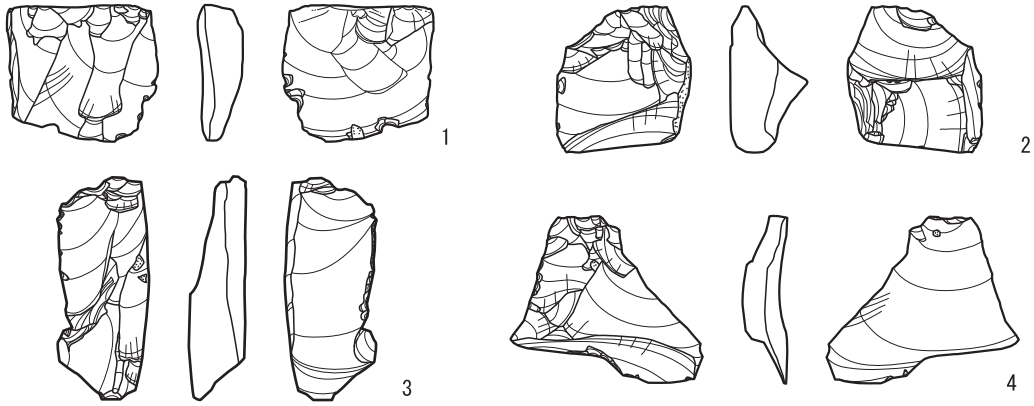


第 59 図　24 号住居跡出土遺物 (1)(1/6、但し 7・8 は 1/4、9 ～ 11 は 1/1)

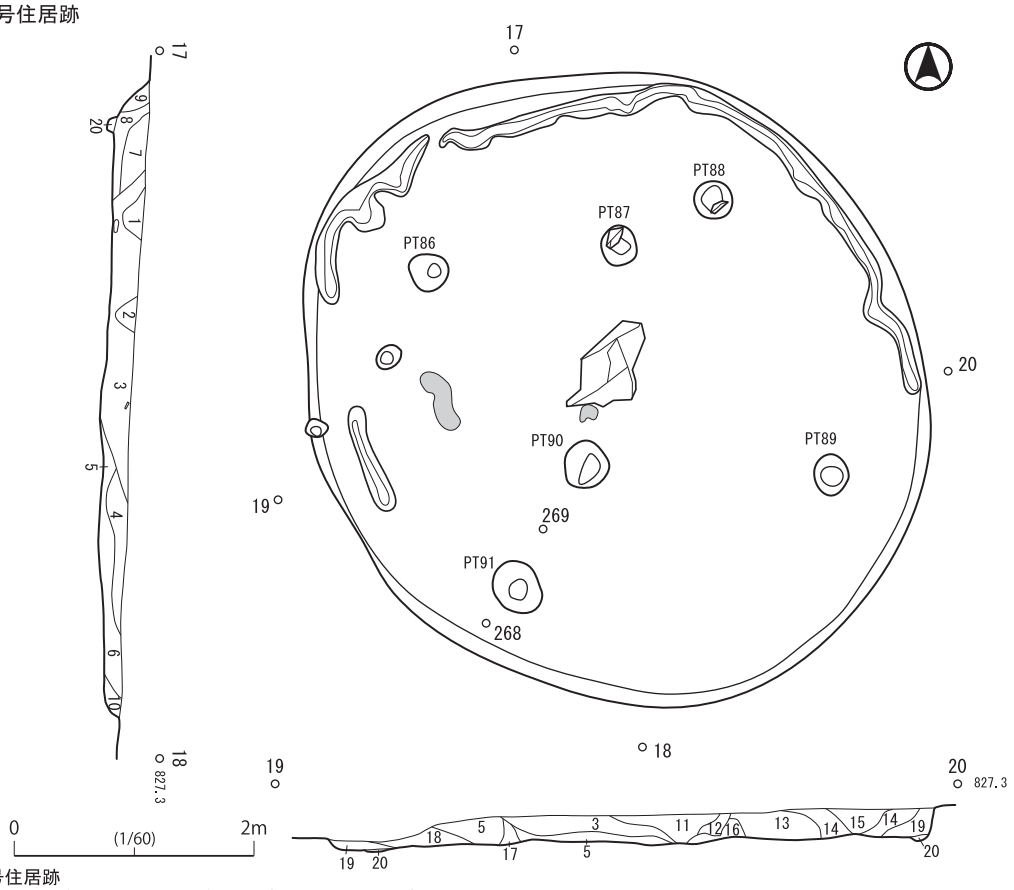


第 60 図　24 号住居跡出土遺物 (2)(1/1、但し 10 は 1/4、11 は 1/2)

24号住居跡

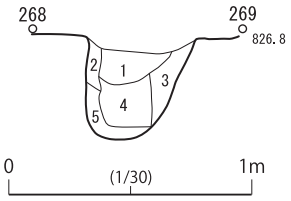


25号住居跡

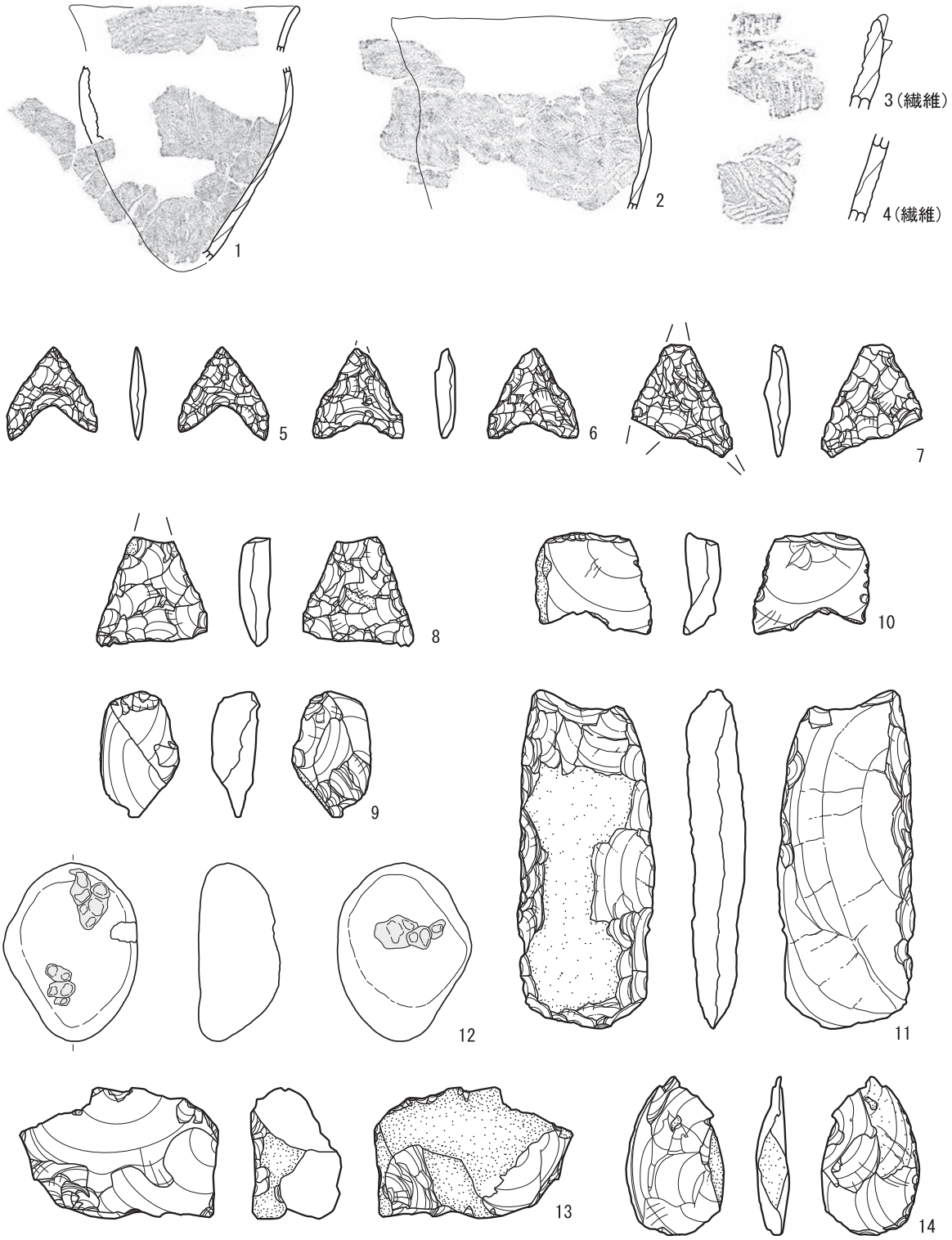


25号住居跡
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR2/3(黒褐)が30%、10YR5/8(黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が30%、炭化粒子が1%混じる。ややしまる。
5層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　10YR4/4(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が20%、10YR5/8(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
7層　10YR4/6(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
8層　10YR4/6(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
9層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
10層　10YR(褐)に10YR5/8(黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
11層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
12層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%まじる。シルト粒土。しまる。
13層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、10YR5/8(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
14層　10YR3/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
15層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が20%、10YR5/8(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
16層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
17層　10YR3/4(暗褐)に炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
18層　10YR4/4(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が15%、炭化粒子が1%、シルト粒土。ややしまる。
19層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
20層　10YR4/6(褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が2%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が30%混じる。シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/6(黄褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が15%混じる。シルト粒土。固くしまる。

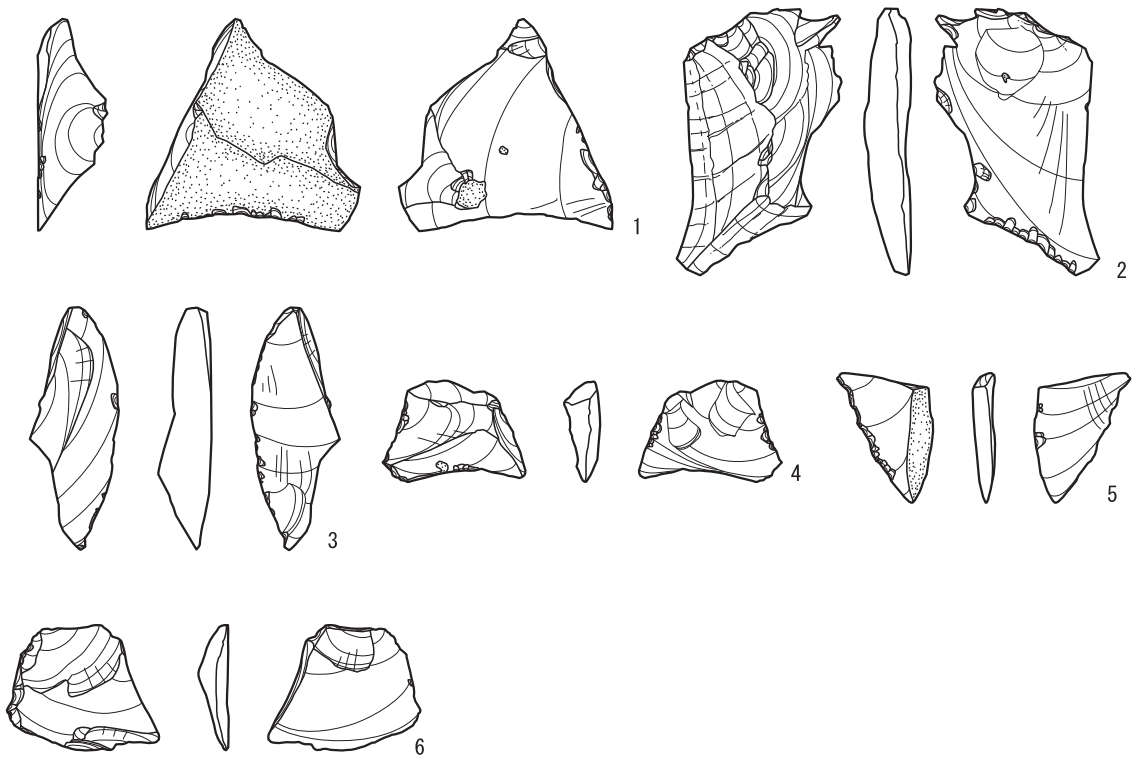
第61図　24号住居跡出土遺物(3)(1/1)、25号住居跡



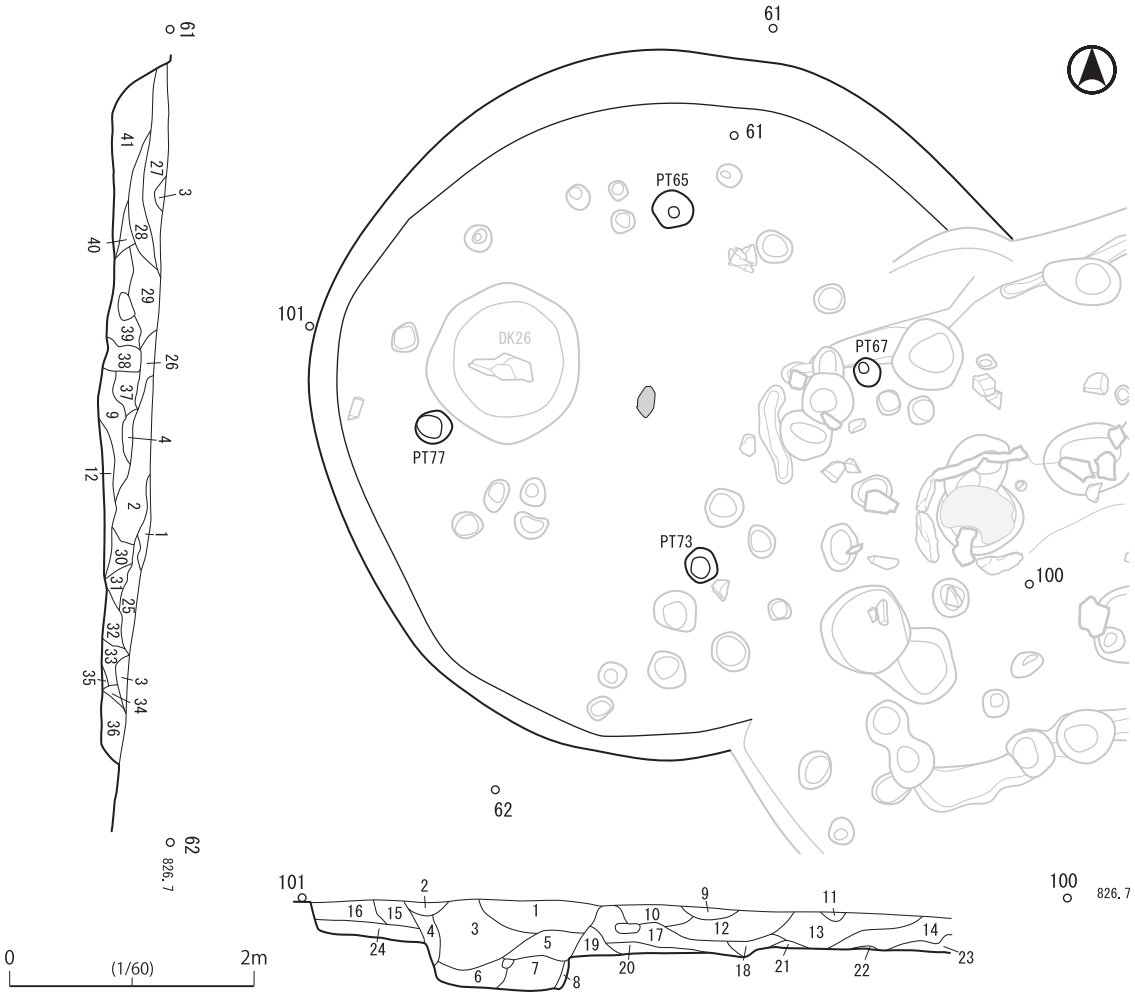
91号ピット(25号住居跡柱穴)
1層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR5/6(黄褐)に炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
3層　10YR4/6(褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が5%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
4層　10YR5/4(にぶい黄褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。炭化物径2cmブロックを含む
5層　10YR5/6(黄褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。炭化物径2cmブロックを含む
地山　壁　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。



第62図　25号住居跡柱穴、出土遺物(1)(1/1、但し1・2は1/6、3・4・12は1/4、11は1/2)

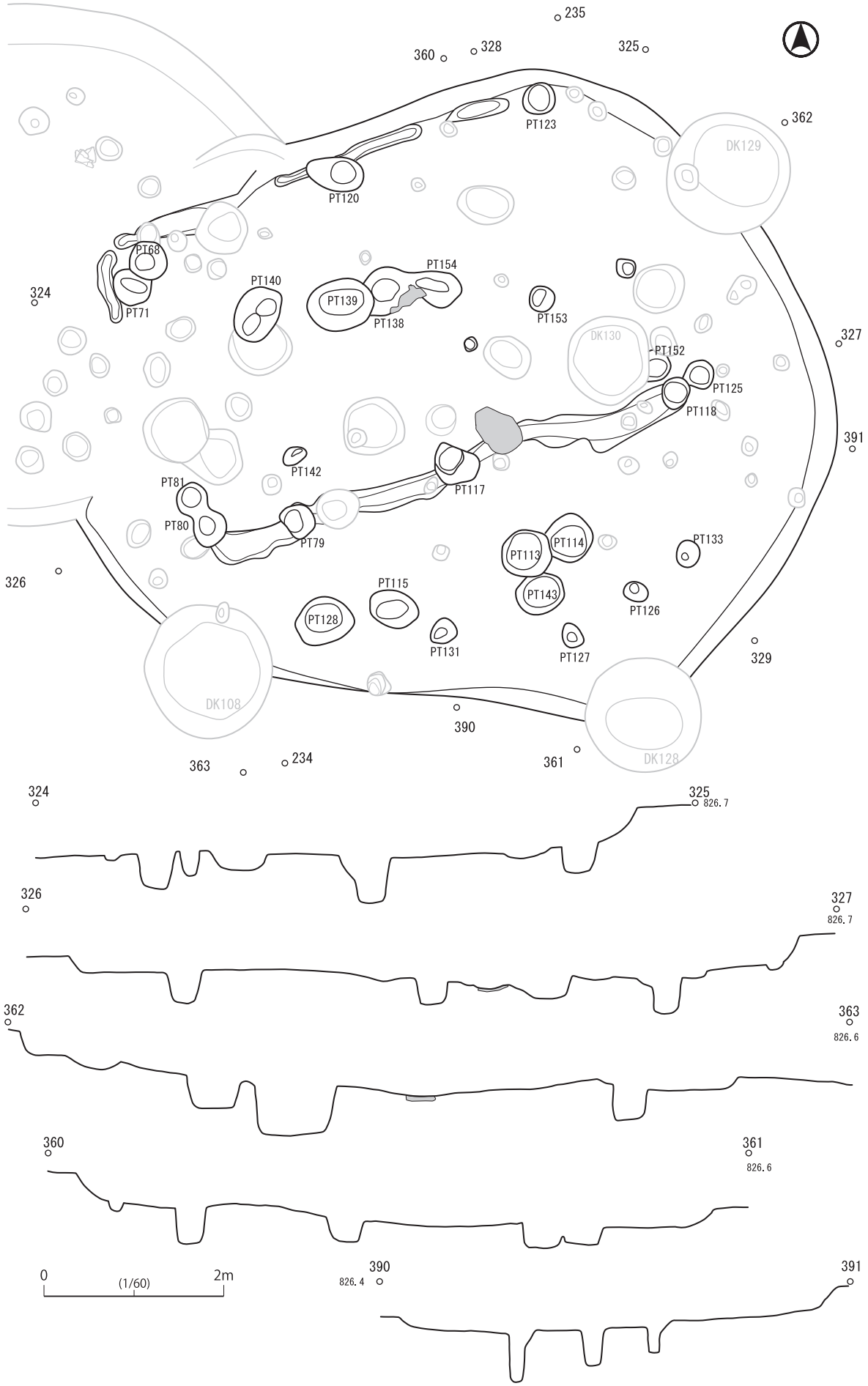


第 63 図　25 号住居跡出土遺物 (2)(1/1)

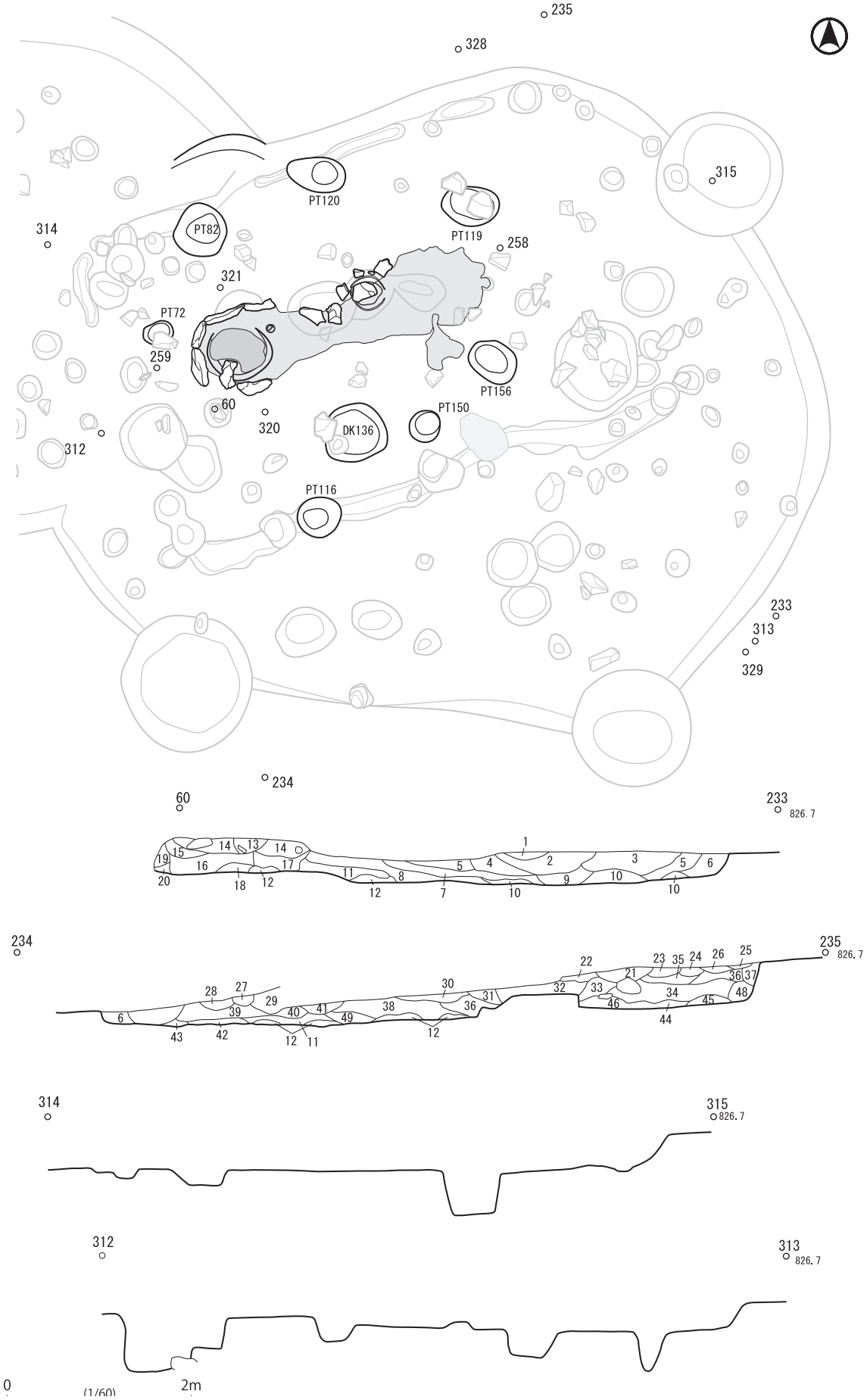


26号住居跡
1層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土粒子1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
3層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土粒子1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
4層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
5層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%、10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土粒子1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
6層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、焼土粒子1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
7層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、焼土粒子1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
8層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が10%混じる。固くしまる。
9層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。
10層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。
11層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が3%混じる。ややしまる。
12層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
13層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%混じる。しまる。
14層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
15層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
16層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
17層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
18層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
19層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
20層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が30%混じる。ややしまる。
21層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
22層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土がブロック状に35%混じる。しまる。
23層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が25%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土がブロック状に10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
24層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土がブロック状に15%、炭化粒子1%混じる。しまる。
25層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が40%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
26層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が40%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
27層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)シルト粒土が30%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が10%、炭化粒子2%混じる。しまる。
28層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が40%、炭化粒子2%混じる。しまる。
29層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が30%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
30層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
31層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。しまる。
32層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が30%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
33層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%、炭化粒子10%混じる。ややしまる。
34層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が10%混じる。しまりなし。
35層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
36層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が40%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
37層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子2%混じる。しまる。
38層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が45%、炭化粒子2%混じる。しまる。
39層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。
40層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が30%、炭化粒子1%混じる。しまる。
41層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR2/2(黒褐)シルト粒土が40%、炭化粒子1%混じる。しまる。
地山　壁　10YR4/6(褐)シルト粒土。しまる。
地山　床　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。しまる。

第64図　26号住居跡

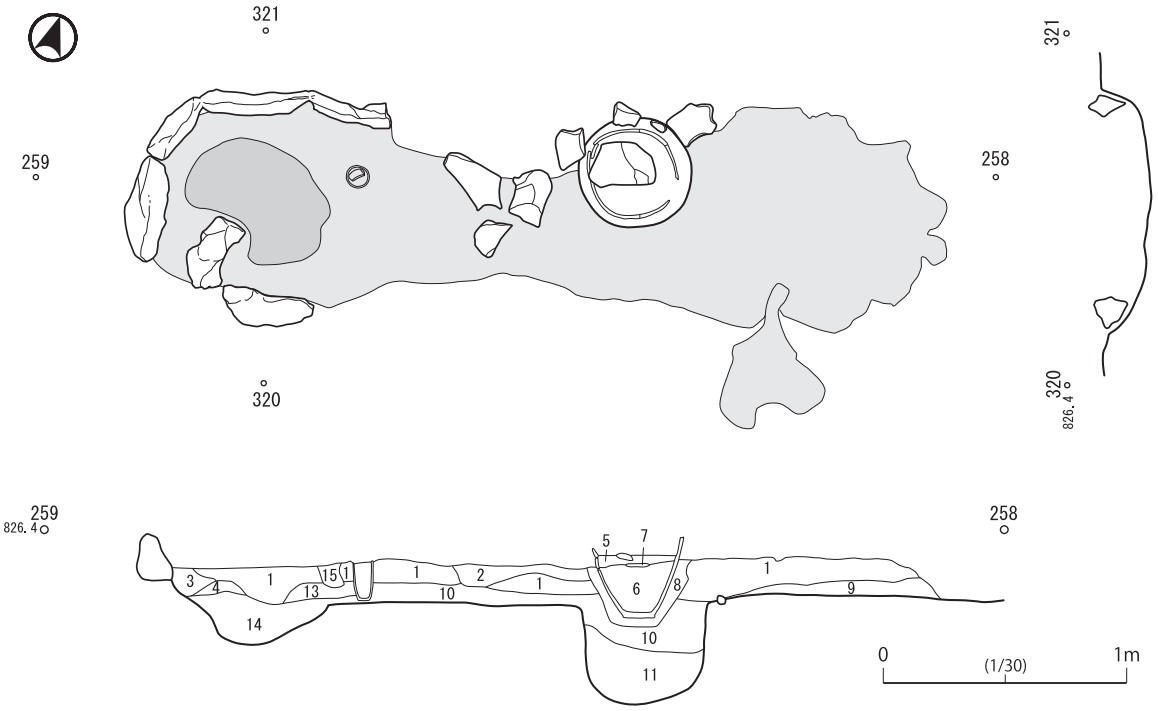


第 65 図　36 号・37 号住居跡


235
328
315
PT120
PT119
258
314
PT82
321
PT72
259
PT156
60
320
DK136
PT150
312
PT116
233
313
329
234
826.7
235
314
315
312
313
0
(1/60)
2m

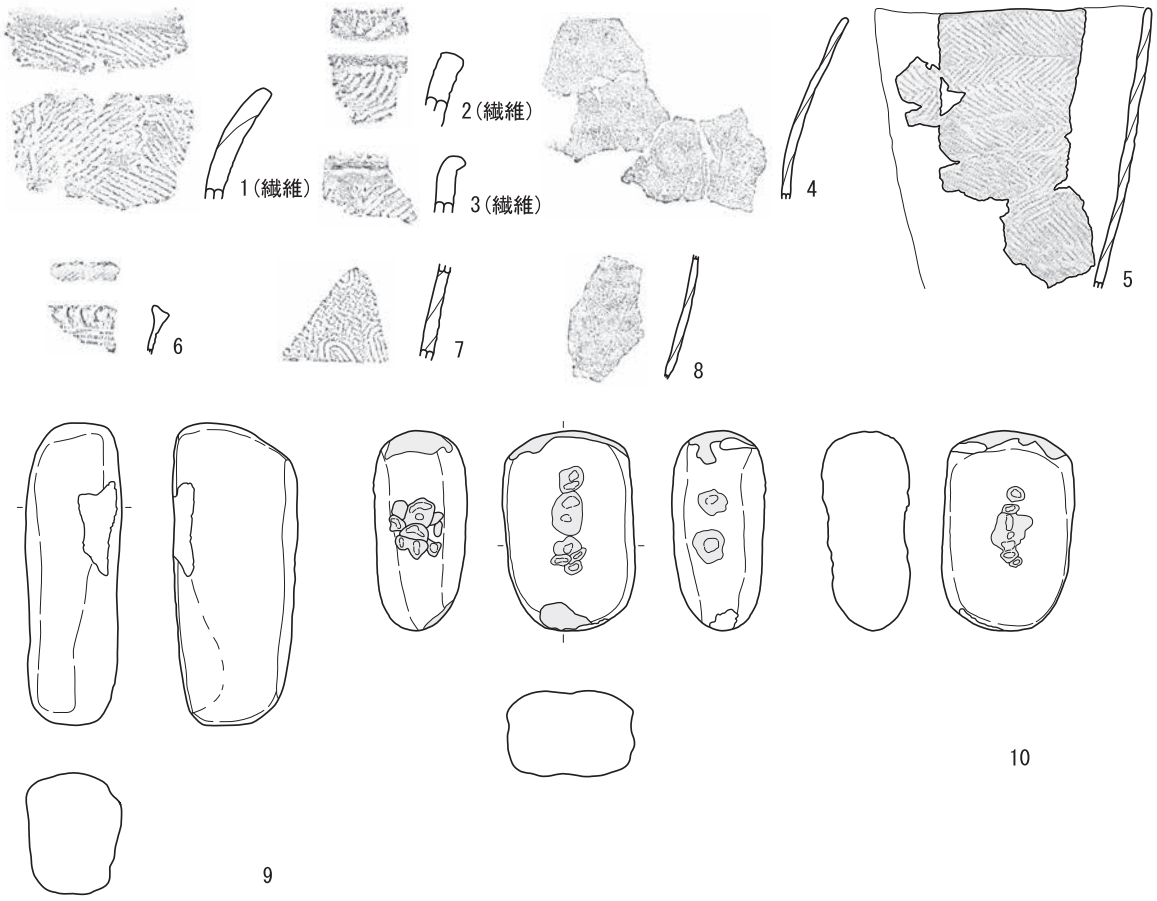
第 66 図　34 号住居跡

34号住居跡
1層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
2層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
3層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が7%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
5層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまりなし。
6層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
7層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
8層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
9層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
10層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。しまる。
11層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
12層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
13層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
14層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子2%混じる。ややしまる。
15層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が15%、炭化粒子2%混じる。しまる。
16層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
17層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
18層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
19層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
20層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が7%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が7%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
21層　5YR4/8(赤褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が30%、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
22層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
23層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
24層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が10%（ブロックを含む）、炭化粒子1%混じる。しまる。
25層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
26層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
27層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が5%混じる。しまりなし。
28層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%混じる。ややしまる。
29層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が7%、10YR2/3(黒褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
30層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
31層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、5YR4/8(赤褐)の焼土ブロックが5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
32層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土あ10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、5YR4/8(赤褐)の焼土と炭化粒子1%が混じる。しまる。
33層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が3%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
34層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
35層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土あ2%、炭化粒子2%混じる。しまる。
36層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が20%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。しまる。
37層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
38層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土あｇ2%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
39層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
40層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が25%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
41層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
42層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。ややしまる。
43層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
44層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
45層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土あ1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
46層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が3%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
47層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土（ブロックを含む）に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が30%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。固くしまる。
48層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土あｇ1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。



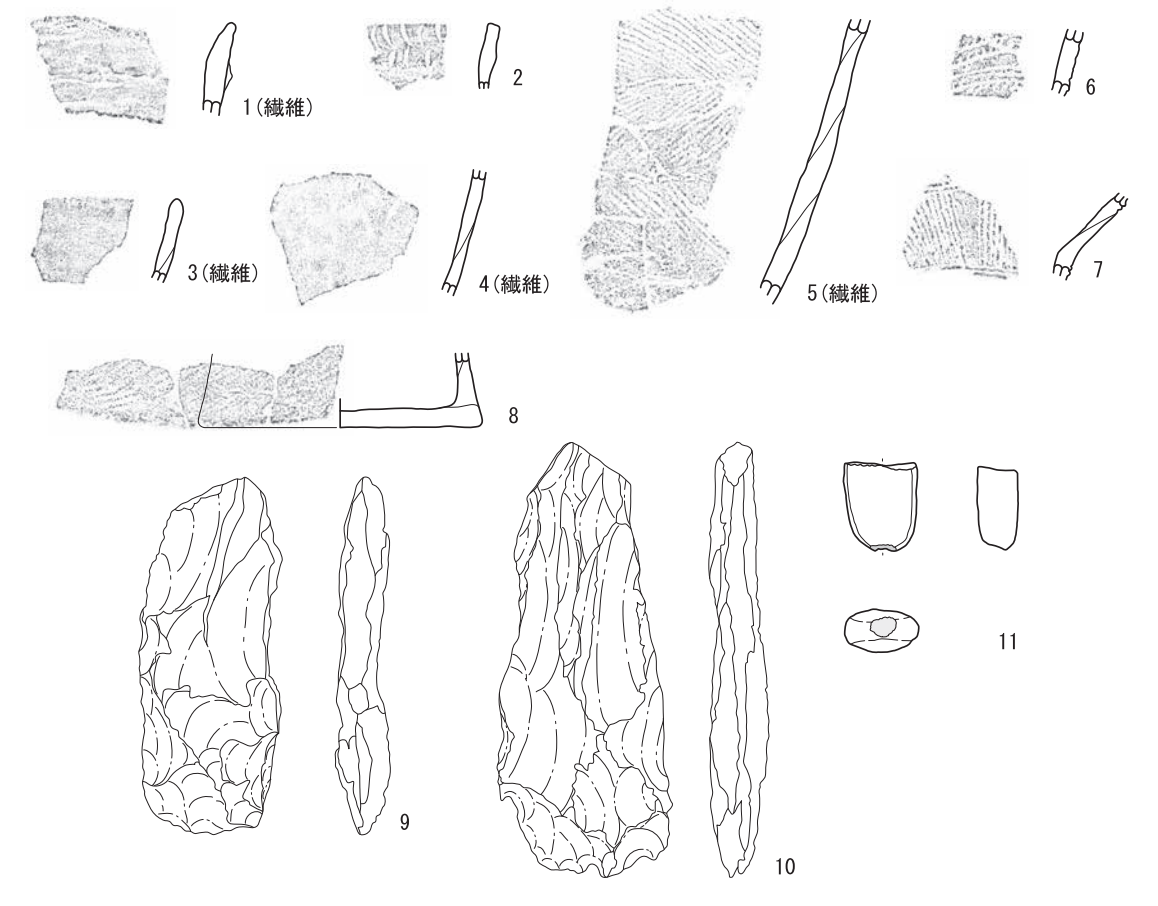
第67図　34号住居跡炉

34号住居跡　炉
1層　34号住の床面。ただし住居廃絶後の廃絶儀礼によるものか。焼土は住居外から搬入したもの。5YR3/6(暗赤褐)に5YR4/8(赤褐)が7%混じる焼土。
2層　5YR2/4(極暗赤褐)シルト粒土に5YR3/6(暗赤褐)シルト粒土が3%、焼土ブロック1%混じる。ややしまる。
3層　7.5YR2/2(黒褐)シルト粒土に7.5YR3/4(暗褐)シルト粒土が10%混じる。ややしまる。
4層　7.5YR3/4(暗褐)シルト粒土に5YR4/8(赤褐)シルト粒土が3%混じる。しまる。
5層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が2%混じる。ややしまる。
6層　7.5YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が30%混じる。ややしまる。
7層　1層と同じく張り床だが焼土ではない。10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土がブロック状になっている。固くしまる。
8層　%YR2/2(黒褐)シルト粒土に5YR3/4(暗赤褐)シルト粒土が15%混じる。固くしまる。
9層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に5YR4/8(赤褐)焼土が5%混じる。固くしまる。
10層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が7%混じる。固くしまる。
11層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が5%混じる。ややしまる。
12層　10YR2/1(黒)シルト粒土。しまりなし。
13層　5YR2/4(極暗褐色)シルト粒土に5YR4/8(赤褐)シルト粒土が15%混じる。固くしまる。
14層　7.5YR2/2(黒褐)シルト粒土に7.5YR4/2(灰褐)シルト粒土が15%混じる。固くしまる。
15層　カクラン。

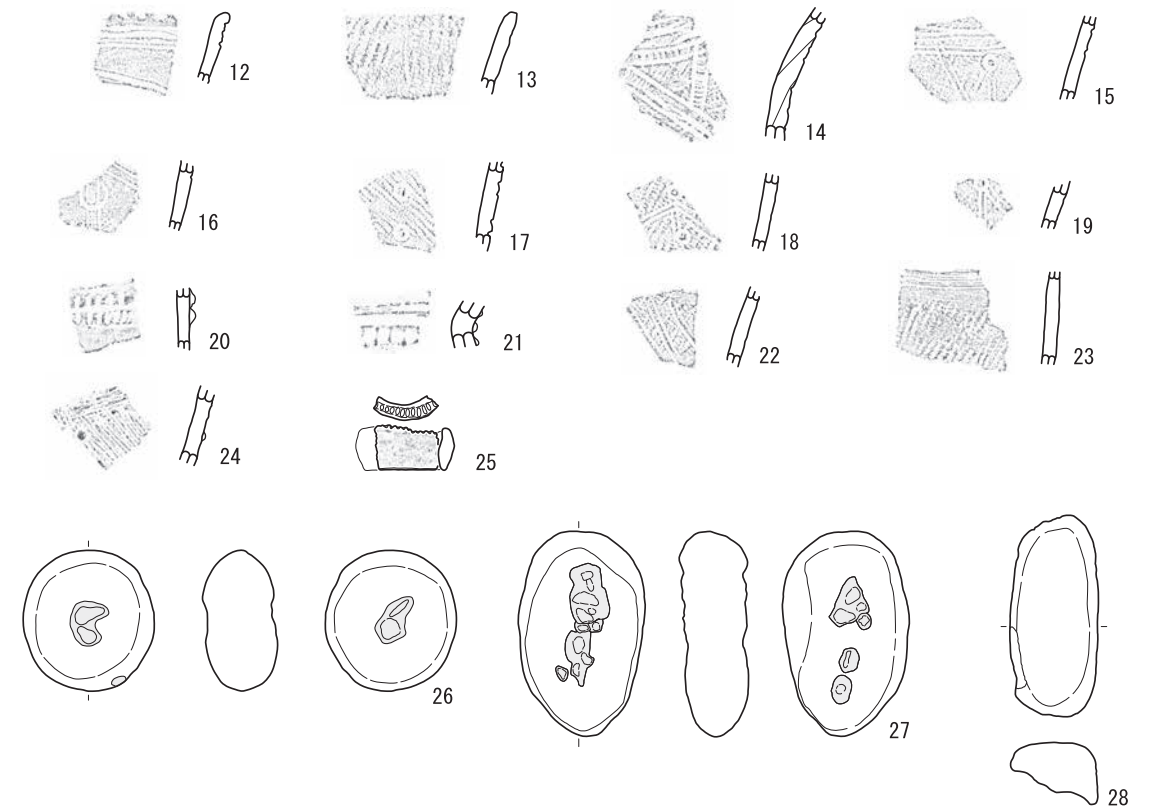


第68図　26号住居跡出土遺物(1/4、但し5は1/8)

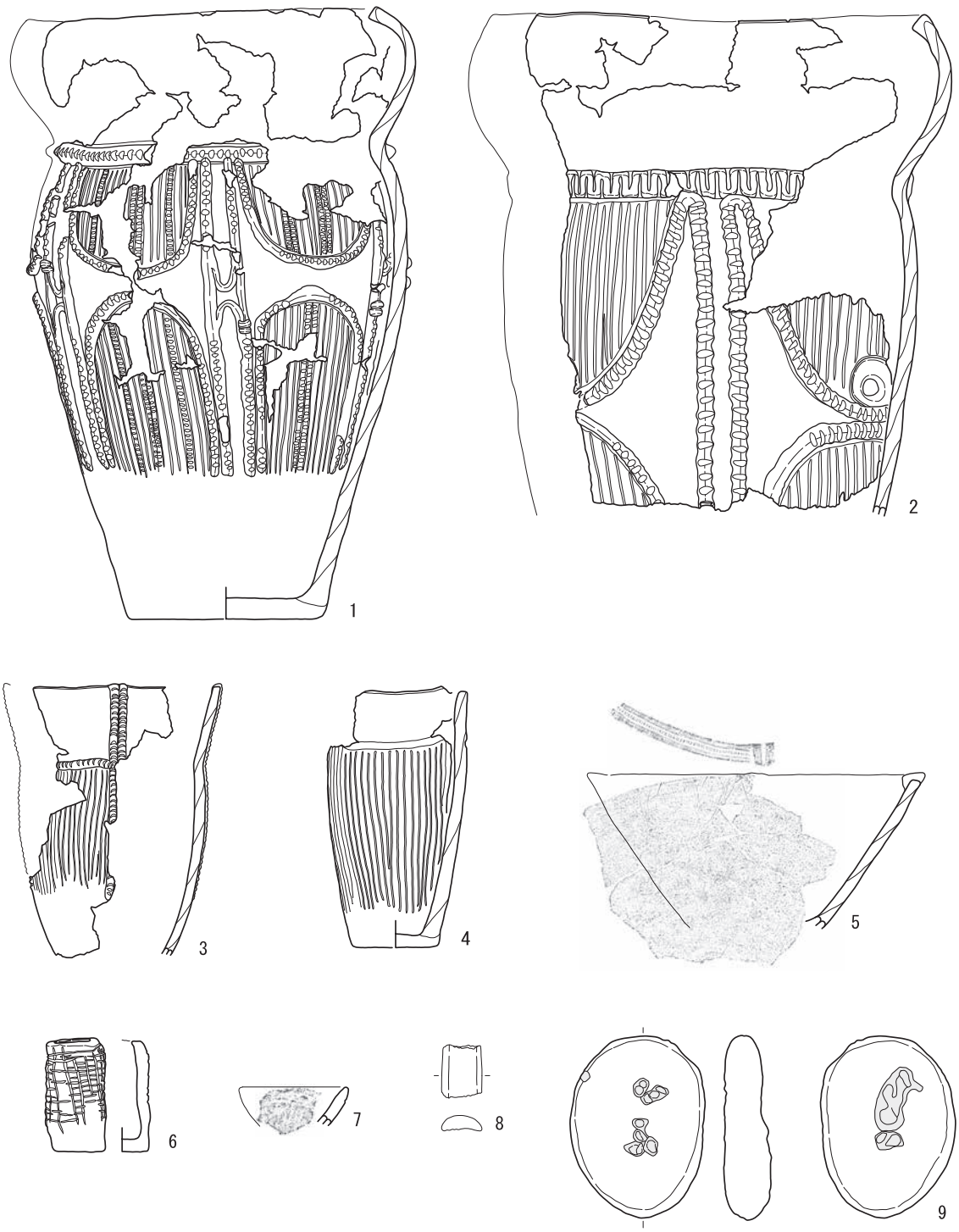
36号住居跡



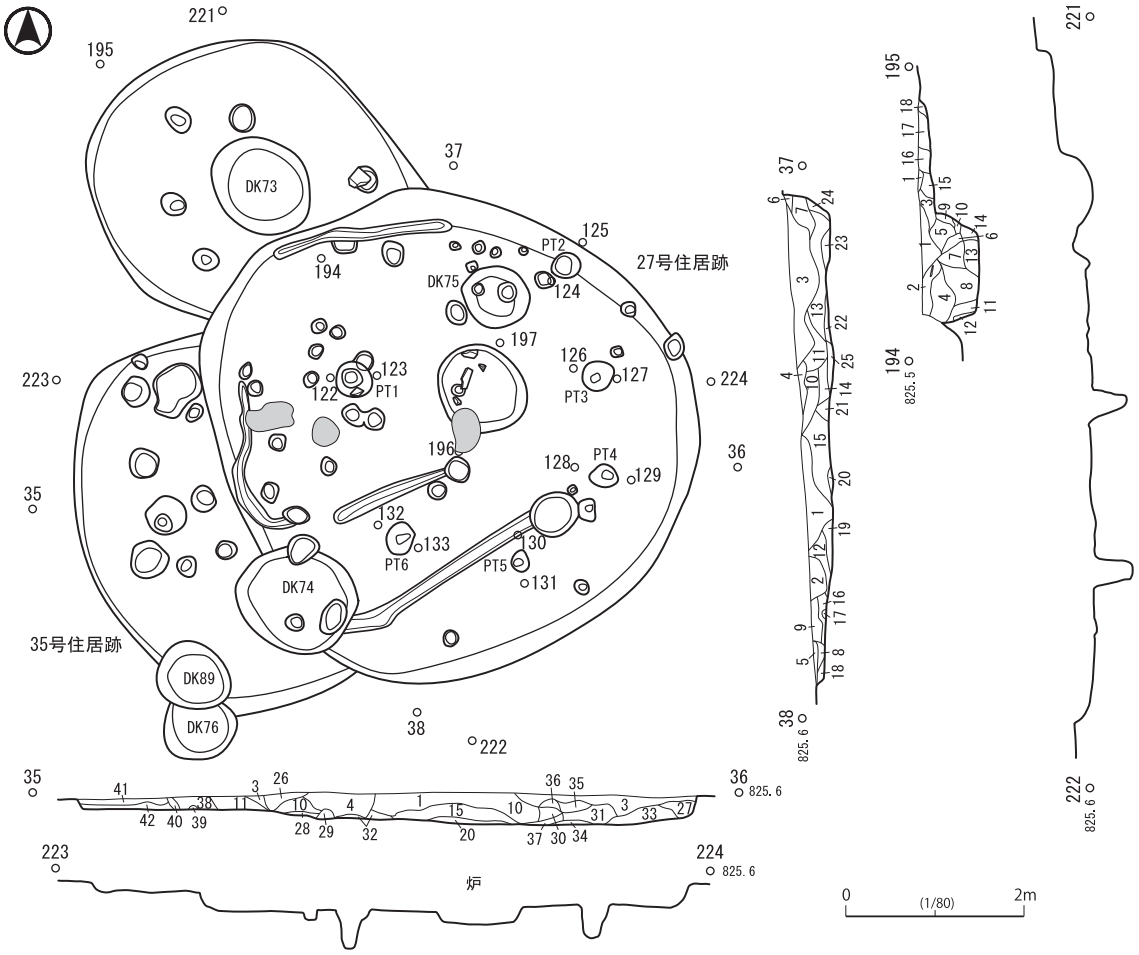
37号住居跡



第 69 図　36 号・37 号住居跡出土遺物 (1/4、但し 9 は 1/2)



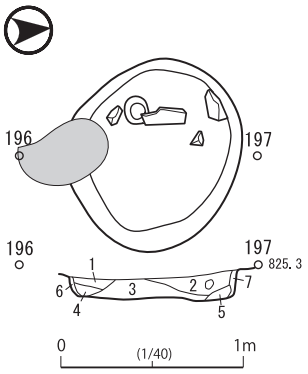
第 70 図　34 号住居跡出土遺物 (1/4、但し 1・2・5 は 1/6)



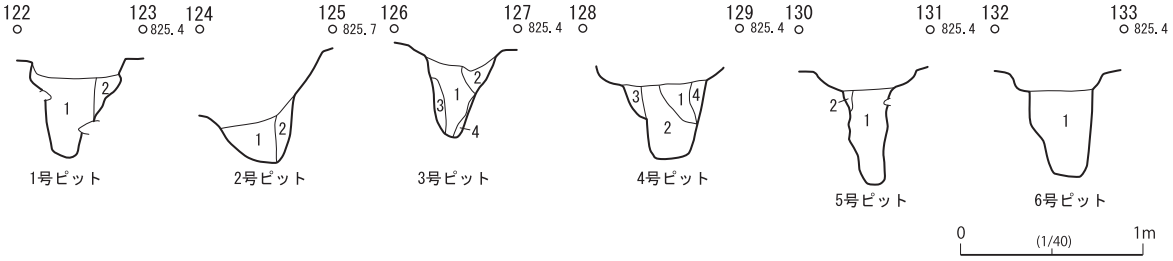
27号住居跡
1層　10YR3/1(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、10YR4/6(褐)シルト粒土がブロック状に1%、焼土粒子が1%混じる。しまる。
2層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/1(黒褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%混じる。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR2/2(黒褐)シルト粒土が15%、10YR5/8(黄褐)シルト粒土が2%混じる。固くしまる。
4層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が20%混じる。しまりなし。
5層　10YR3/1(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%混じる。しまる。
6層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が20%混じる。しまる。
7層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が10%混じる。ややしまる。
8層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR3/1(黒褐)シルト粒土が7%混じる。固くしまる。
9層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が7%、10YR6/8(明黄褐)シルト粒土のブロックが1%混じる。ややしまる。
10層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が20%、10YR5/8(黄褐)シルト粒土がブロック状に3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
11層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、10YR5/8(黄褐)シルト粒土が5%混じる。
12層　10YR3/2(黒褐)しまるシルト粒土に10YR4/4(褐)ややしまるシルト粒土が5%、焼土粒子1%混じる。
13層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土がブロック状に3%混じる。
14層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR4/6(褐)シルト粒土が3%混じる。ややしまる。
15層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に110YR3/3(暗褐)シルト粒土が20、10YR5/8(黄褐)シルト粒土がブロック状に1%混じる。ややしまる。
16層　10YR6/8(明黄褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が30%混じる。ややしまる。
17層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が10%混じる。しまる。
18層　10YR3/1(黒褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が20%混じる。固くしまる。
19層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、10YR4/6(褐)シルト粒土が1%混じる。しまりなし。
20層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土がブロック状に1%混じる。ややしまる。
21層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR4/6(褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
22層　10YR3/1(黒褐)シルト粒土に10YR2/2(黒褐)シルト粒土が15%混じる。固くしまる。
23層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が10%、10YR4/6(褐)シルト粒土が2%混じる。固くしまる。
24層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が25%混じる。固くしまる。
25層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が40%混じる。固くしまる。
26層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、10YR5/8(黄褐)シルト粒土がブロック状で1%混じる。ややしまる。
27層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
28層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。固くしまる。
29層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が5%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。しまる。
30層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が3%混じる。ややしまる。
31層　10YR3/2(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が7%、10YR4/6(褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
32層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が25%混じる。しまりなし。
33層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が20%、10YR5/8(黄褐)シルト粒土が2%混じる。ややしまる。
34層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が40%混じる。しまる。
35層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が7%混じる。ややしまる。
36層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が7%、焼土1%混じる。ややしまる。
37層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。しまりなし。
38層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
39層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
40層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%、10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
41層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に炭化粒子1%混じる。しまる。
42層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が10%　、炭化粒子1%混じる。ややしまる。

第 71 図　27 号・35 号住居跡

73号土坑
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/6(褐)に10YR5/8(黄褐)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR4/4(褐)に10YR6/6(明黄褐)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/8(黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/6(明黄褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
7層　10YR2/3(黒褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
8層　10YR2/2(黒褐)に1cm大のブロック状を含む10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
9層　10YR5/6(黄褐)に10YR3/4(暗褐)が5%混じる。シルト粒土。しまる。
10層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
11層　10YR2/3(黒褐)に5mm大のブロック状を含む10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
12層　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。（掘りすぎ）
13層　10YR2/2(黒褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
14層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が15%混じる。シルト粒土。しまる。
15層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が20%混じる。シルト粒土。ややしまる。
16層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が7%混じる。シルト粒土。ややしまる。
17層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が7%混じる。シルト粒土。しまる。
18層　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が3%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/8(黄褐)にブロック状の10YR5/4(にぶい黄褐)が30%混じる。2～5mm大のレキあり。固くしまる。



27号住居跡　地床炉
1層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、焼土粒子2%混じる。ややしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が1%、焼土粒子、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
3層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が径5mmのブロックで3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
4層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%混じる。しまりなし。
5層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%混じる。ややしまる。
6層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が3%混じる。固くしまる。。
7層　10YR5/6(黄褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が2%混じる。固くしまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　底　10YR5/8(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
焼土　5YR4/8(赤褐)



1号ピット(27号住居跡柱穴)
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が30%、10YR4/6(褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

2号ピット(27号住居跡柱穴)
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/4(褐)に10YR3/23/3(暗褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

3号ピット(27号住居跡柱穴)
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/4(にぶい黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR4/4(褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。やや固い。

4号ピット(27号住居跡柱穴)
1層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR5/8(黄褐)に10YR4/4(褐)が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
4層　10YR5/8(黄褐)に10YR4/4(褐)が3%混じる。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

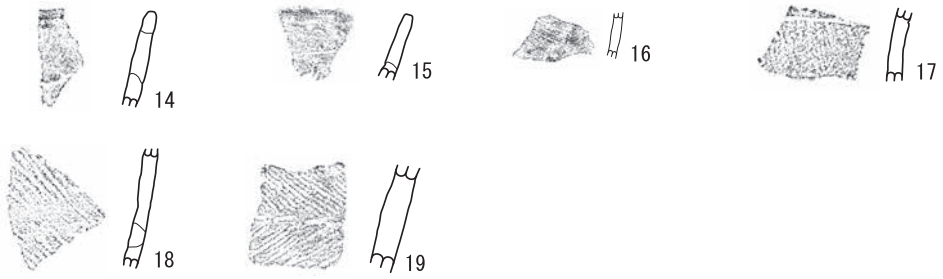
5号ピット(27号住居跡柱穴)
1層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/6(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

6号ピット(27号住居跡柱穴)
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が5%(ブロックを含む)、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

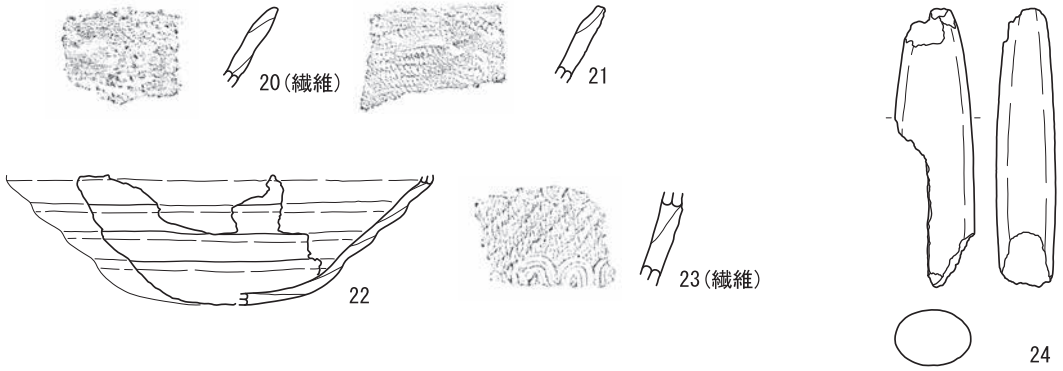
第72図　27号住居跡炉、柱穴

27号住居跡

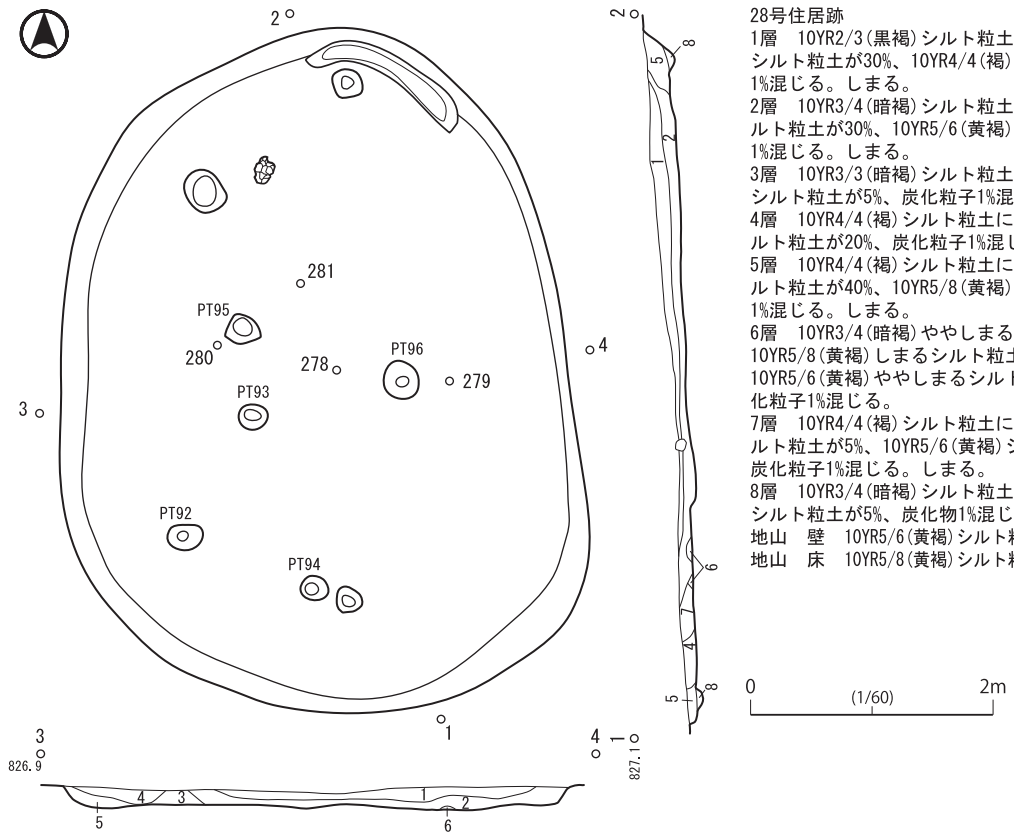
35号住居跡



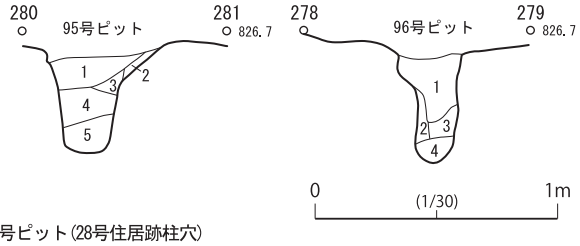
73号土坑



第73図　27号・35号住居跡・73号土坑出土遺物(1/4)

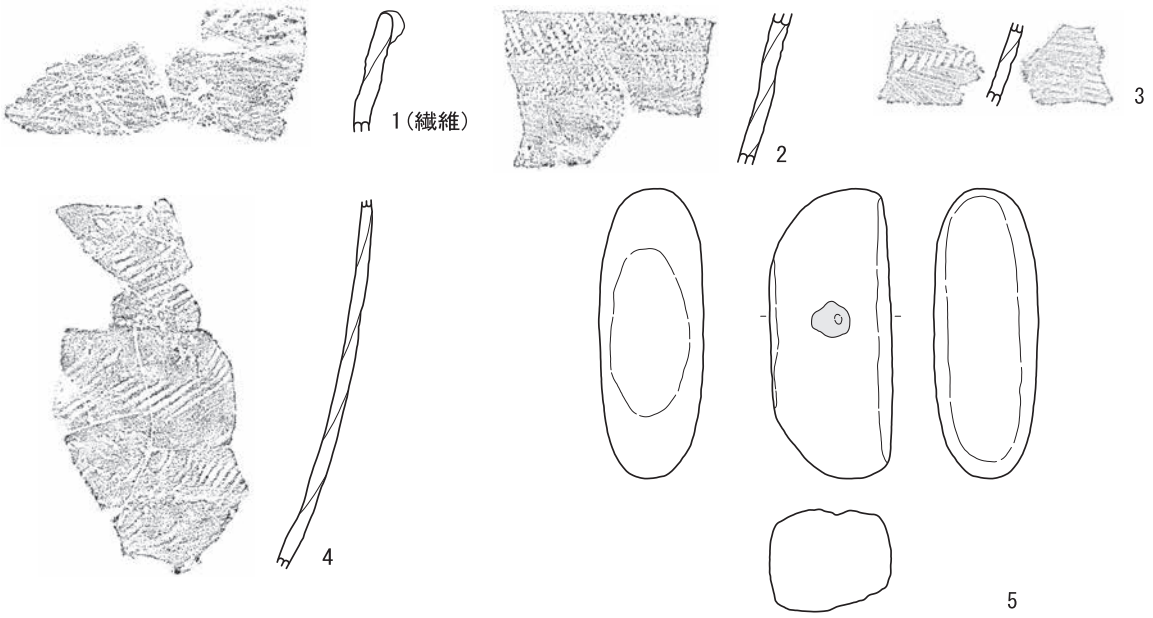


28号住居跡
1層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が30%、10YR4/4(褐)が20%、炭化粒子1%混じる。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が30%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
4層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。しまる。
5層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が40%、10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
6層　10YR3/4(暗褐)ややしまるシルト粒土に10YR5/8(黄褐)しまるシルト粒土が40%、10YR5/6(黄褐)ややしまるシルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。
7層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/1(黒褐)シルト粒土が5%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
8層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化物1%混じる。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/8(黄褐)シルト粒土。固くしまる。



96号ピット(28号住居跡柱穴)
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR4/4(褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が5%、10YR4/6(褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。
4層　10YR2/2(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。

95号ピット(28号住居跡柱穴)
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。径1cmの丸いローム層が入る。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/4(にぶい黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/4(にぶい黄褐)が5%、炭化粒子が1%まじる。シルト粒土。ややしまる。径1cmの丸いローム層が入る。
4層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が10%、10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。

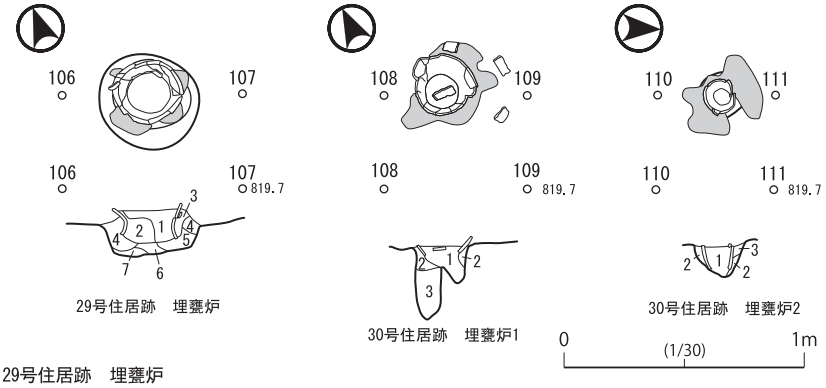


第74図　28号住居跡、柱穴、出土遺物(1/4)

29号住居跡

1層　10YR2/2(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/4(暗褐)シルト粒土が30%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子2%混じる。しまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が30%、10YR5/8(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/2(黒褐)シルト粒土が20%、10YR4/6(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
5層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が30%、炭化粒子1%混じる。しまる。
6層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%炭化粒子1%混じる。ややしまる。
7層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%、10YR4/4(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
8層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR3/2(黒褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
9層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR2/2(黒褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
10層　10YR4/6(褐シルト粒土に10YR2/2(黒褐)シルト粒土が10%、炭化粒子2%混じる。ややしまる。
11層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が40%、炭化粒子2%混じる。ややしまる。
12層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が30%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
13層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。
14層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。しまる。
15層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
16層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が40%、炭化粒子1%混じる。しまる。
17層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。しまる。
18層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が20%、10YR4/6(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。しまる。
19層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が20%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
20層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%、炭化粒子1%混じる。しまる。
21層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。
22層　10YR4/3(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が40%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
23層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が40%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が5%、炭化粒子2%混じる。しまる。

第75図　29号・30号住居跡

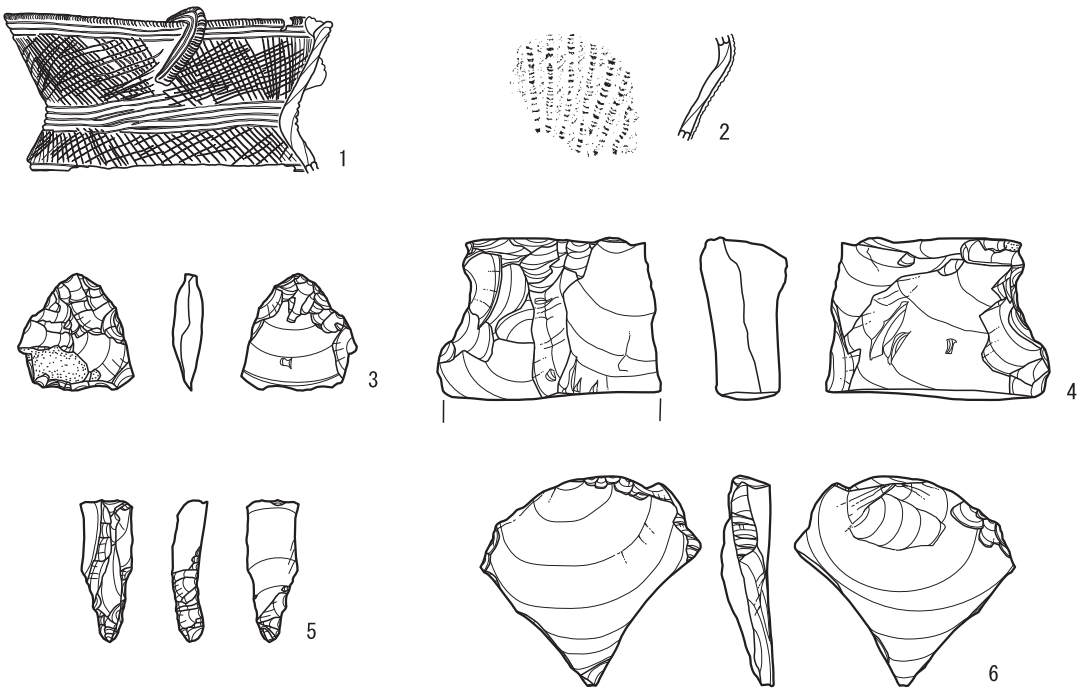


30号住居　埋甕炉2
1層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が3%、焼土粒子1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が3%、焼土粒子1%混じる。
3層　5YR4/8(赤褐)焼土。固くしまる。
地山　壁　10YR5/8(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　底　10YR5/8(黄褐)シルト粒土。固くしまる。

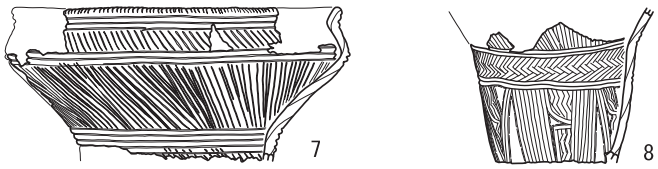
29号住居跡　埋甕炉
1層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%、焼土1%混じる。しまりなし。
2層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR6/6(明黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
3層　5YR4/8(赤褐)焼土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%混じる。固くしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。しまる。
5層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が15%、焼土粒子2%混じる。固くしまる。
6層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が20%、焼土粒子2%混じる。ややしまる。
7層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%混じる。固くしまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　底　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。

30号住居跡　埋甕炉1
1層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
2層　5YR4/8(赤褐)焼土に10YR4/4(褐)シルト粒土が5%混じる。しまる。
3層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR5/8(黄褐)シルト粒土が2%混じる。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　底　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。

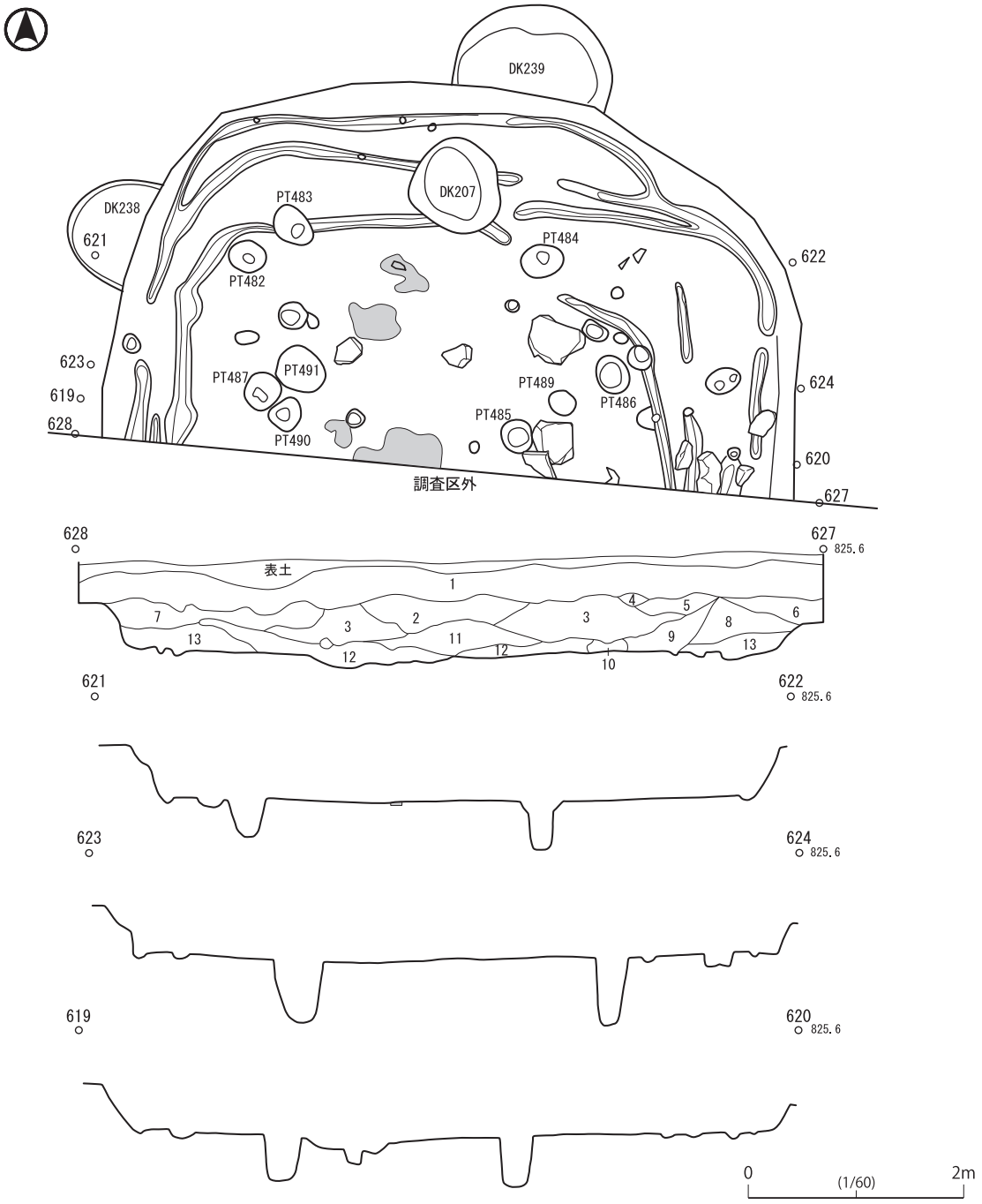
29号住居跡



30号住居跡



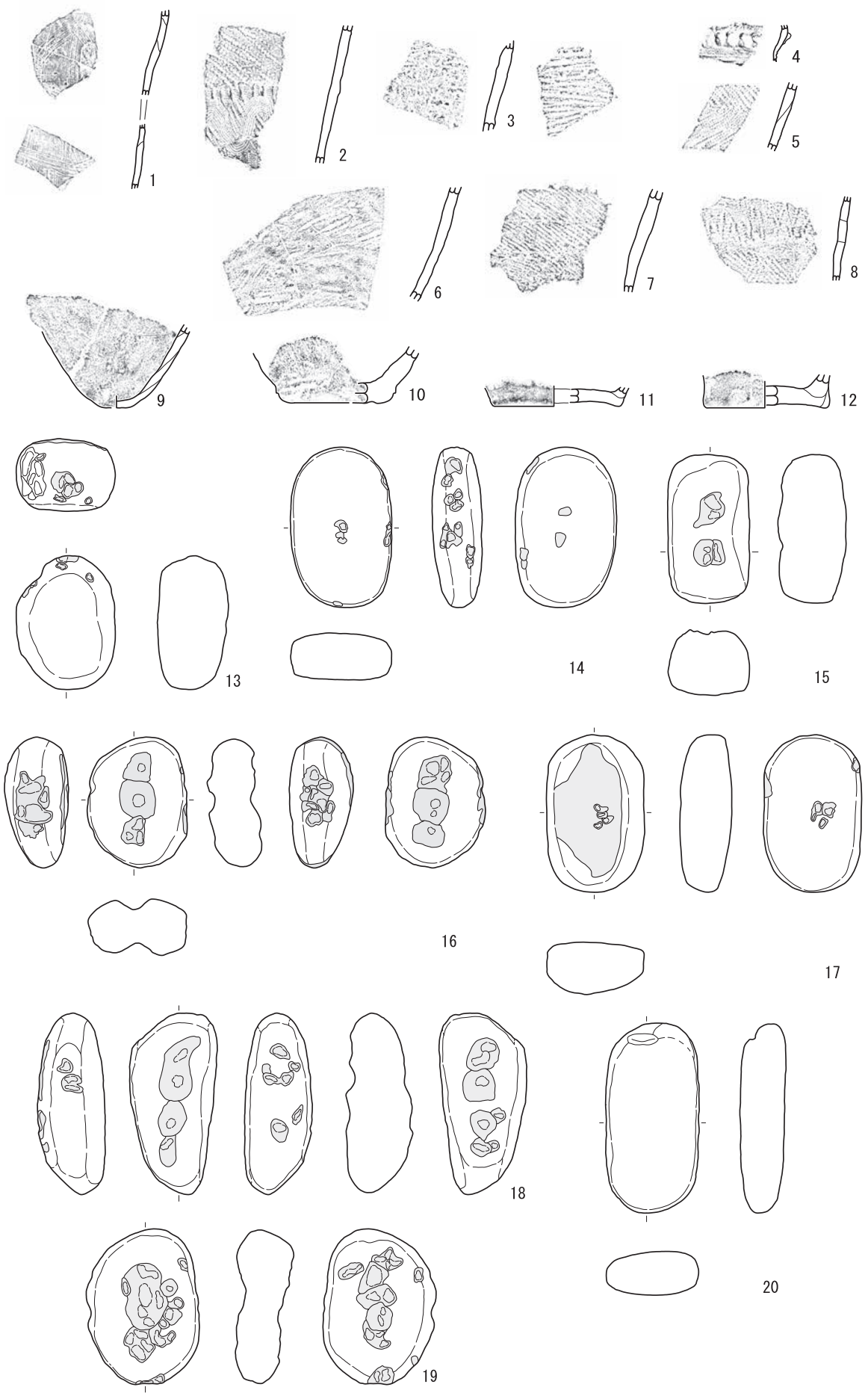
第76図　29号・30号住居跡炉、出土遺物(1・7・8は1/6、2は1/4、3～5は1/1、6は1/2)



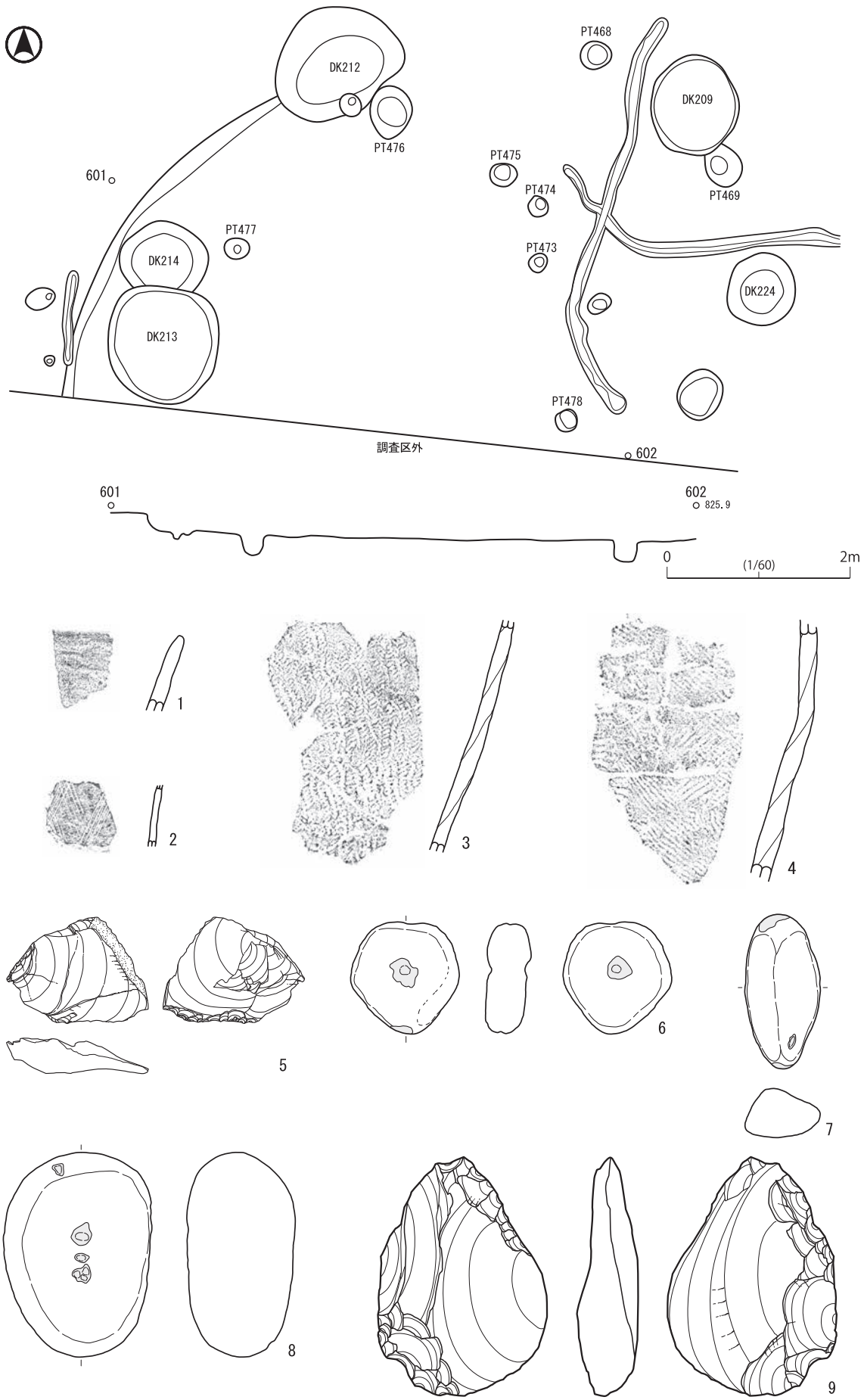
31号住居跡
1層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が35%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
2層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が10%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子3%、焼土粒子1%混じる。しまる。
4層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が5%混じる。しまる。
5層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が10%、炭化粒子1%混じる。しまる。
6層　10YR2/3(黒褐)に10YR4/4(褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子1%混じる。ややしまる。
7層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が15%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
8層　10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が3%、炭化粒子1%混じる。しまる。
9層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/4(にぶい黄褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子5%混じる。しまる。
10層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化物10%混じる。ややしまる。
11層　10YR3/3(暗褐)シルト粒土に10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。ややしまる。
12層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/4(褐)シルト粒土が10%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が1%、炭化粒子3%、焼土粒子5%混じる。しまる。
13層　10YR4/4(褐)シルト粒土に10YR3/3(暗褐)シルト粒土が20%、10YR5/6(黄褐)シルト粒土が3%、炭化粒子2%、焼土粒子1%混じる。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。
地山　床　10YR5/6(黄褐)シルト粒土。固くしまる。

第77図　31号住居跡

第 78 図　31 号住居跡出土遺物 (1)（1/4、但し 1・2 は 1/8、3・4 は 1/6）

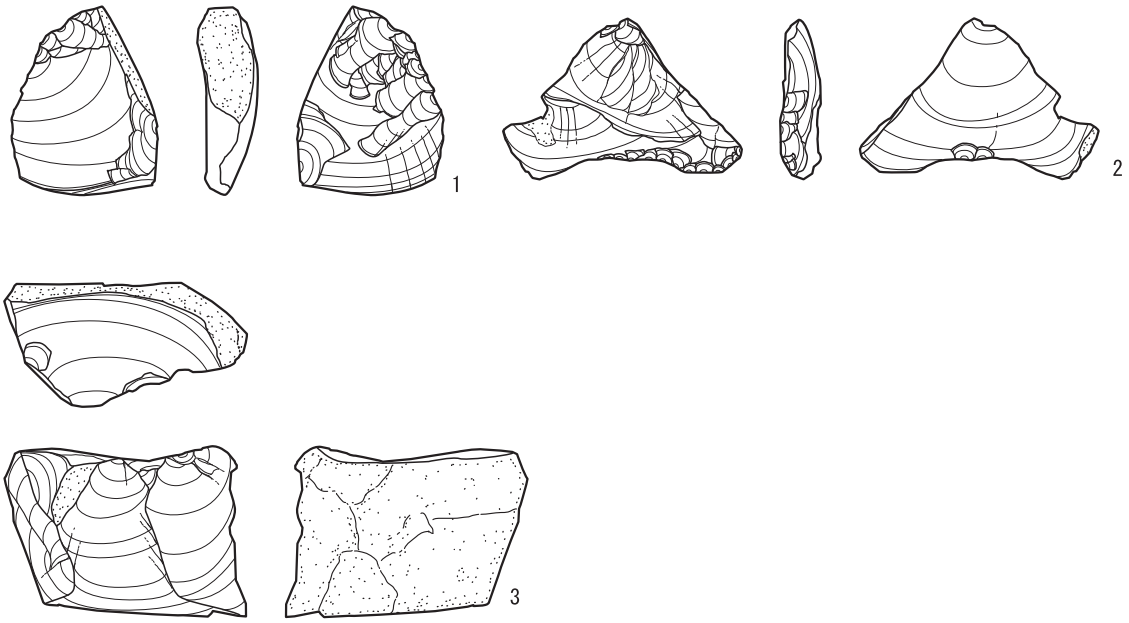


第 79 図　31 号住居跡出土遺物 (2) (1/4)

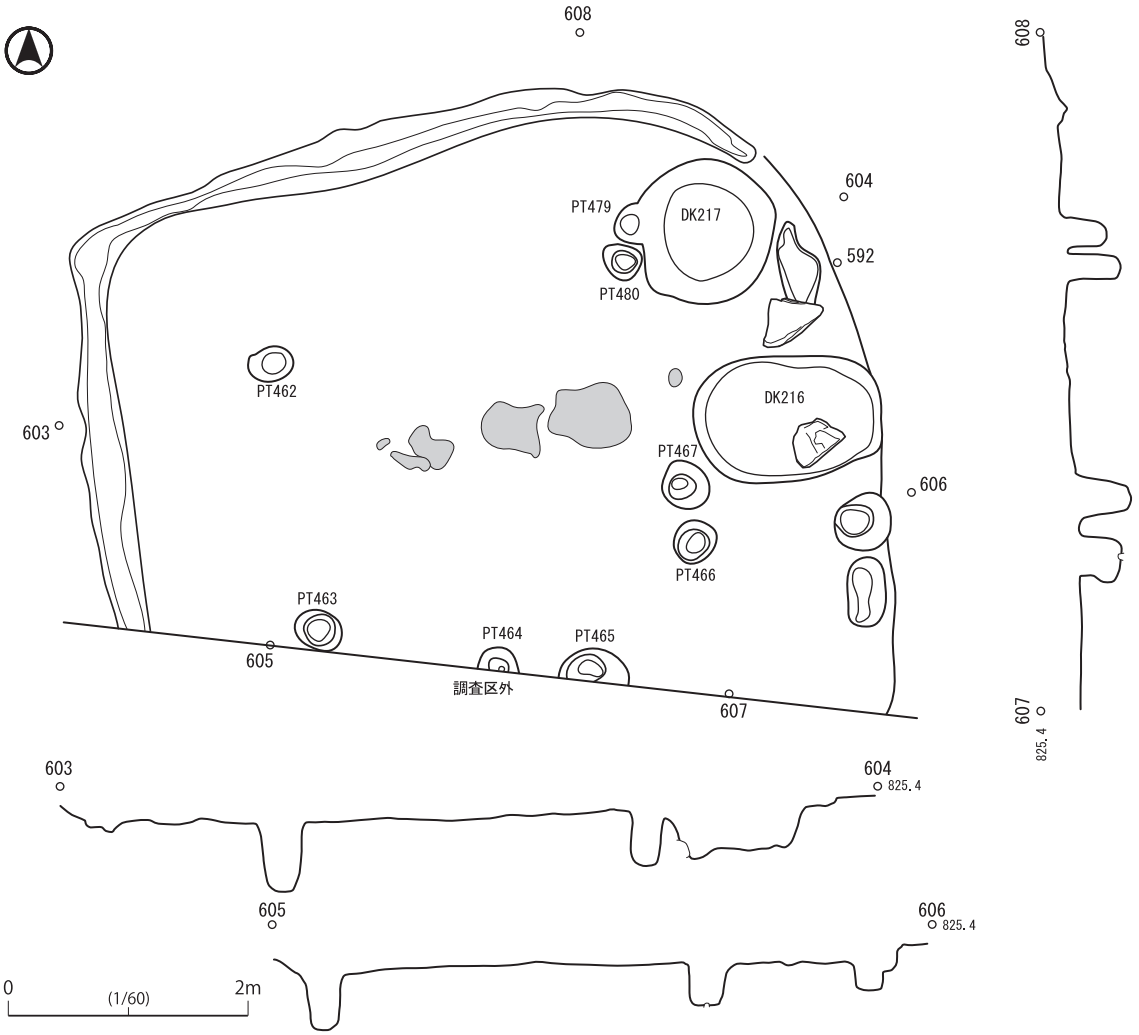


第 80 図　32 号住居跡、出土遺物 (1) (1/4、但し 5 は 1/2、9 は 1/1)

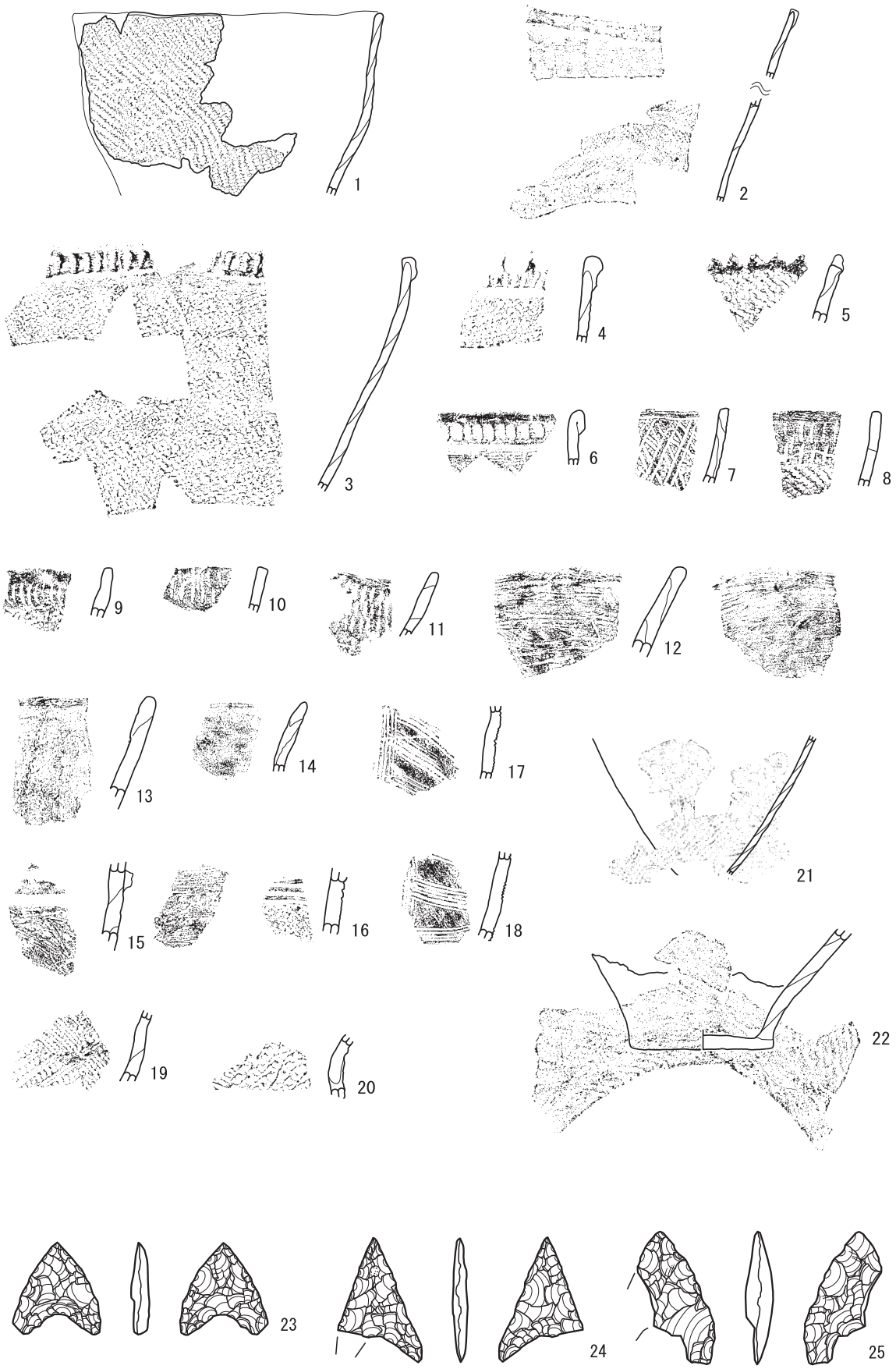
32号住居跡



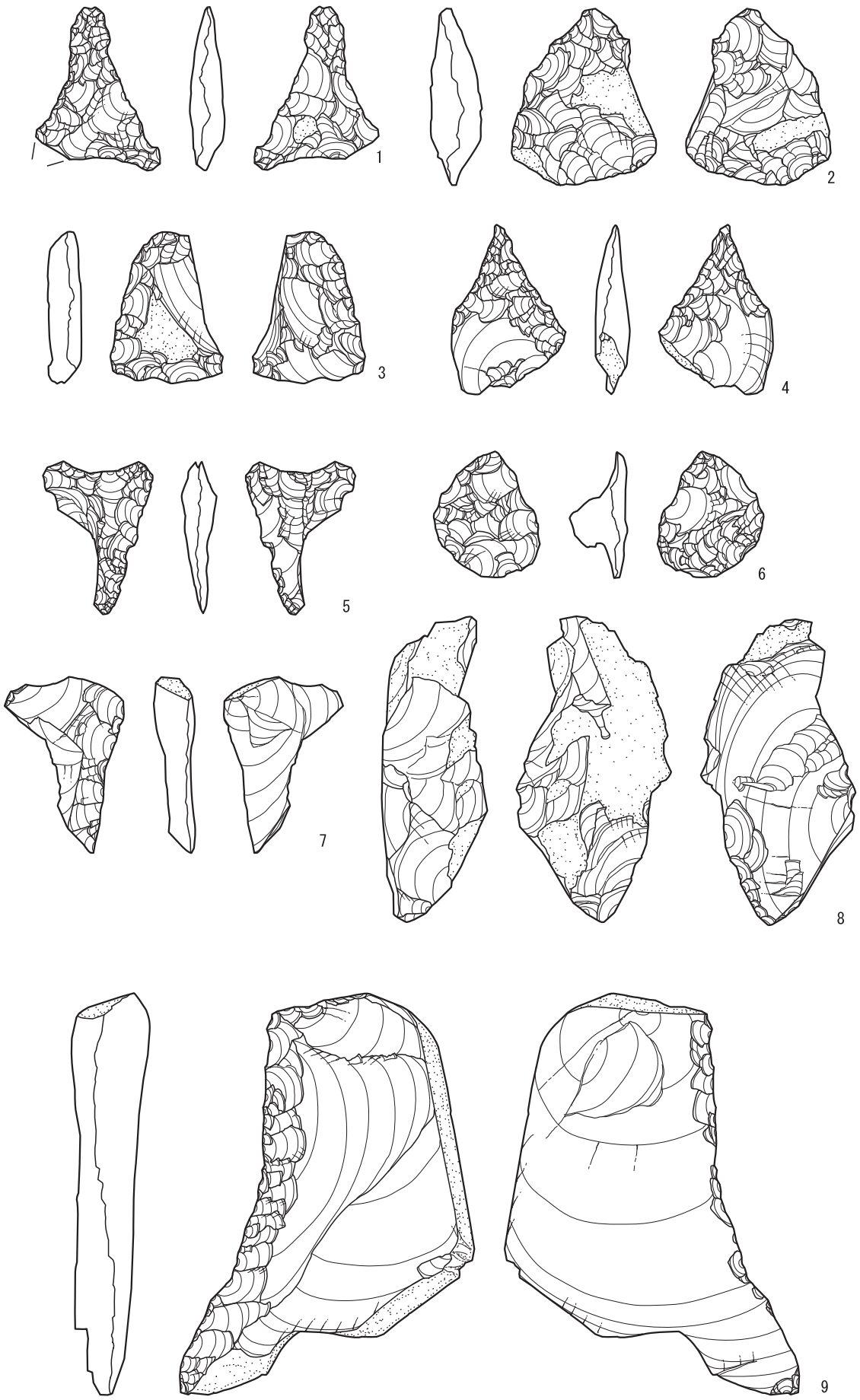
33号住居跡



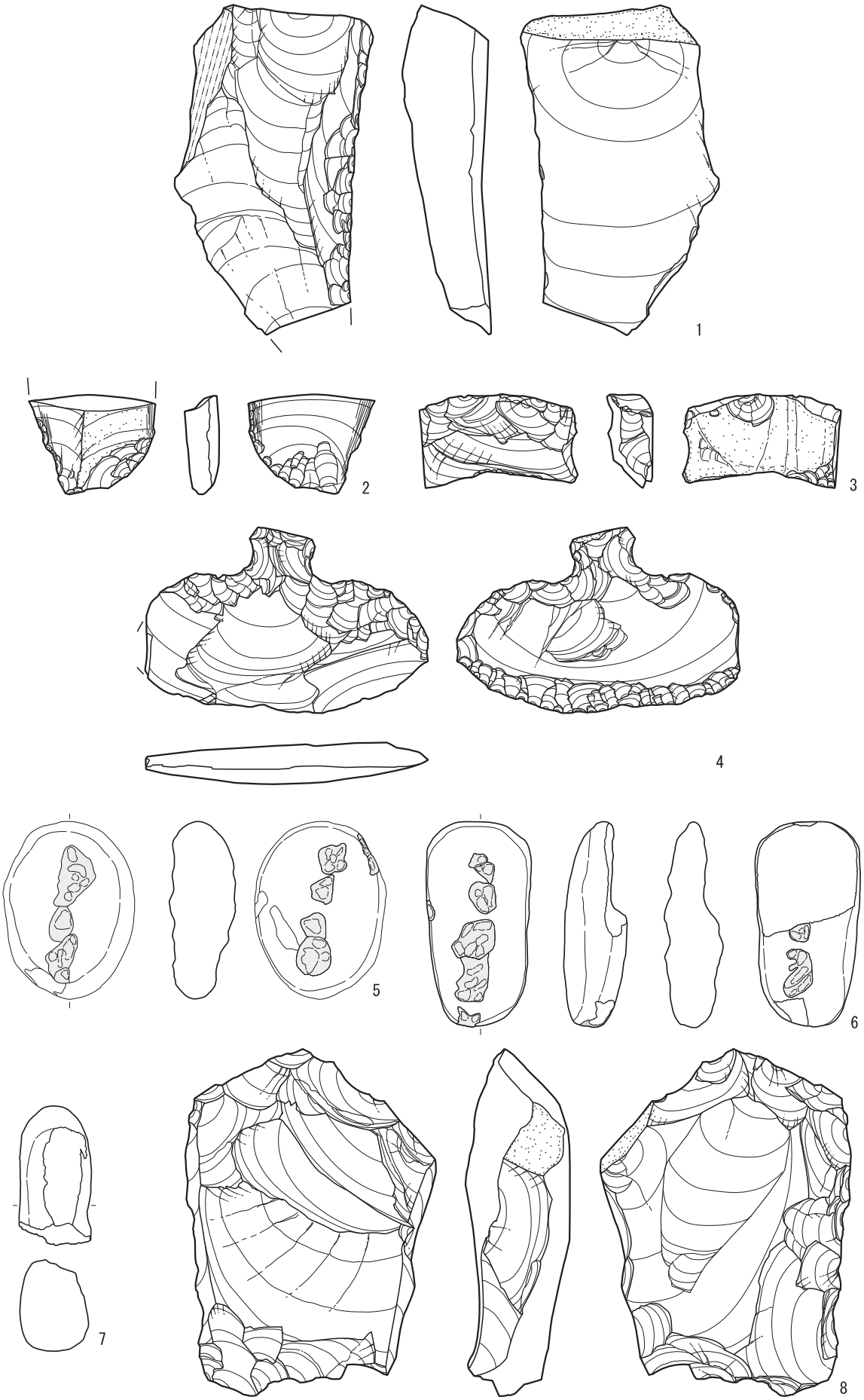
第 81 図　32 号住居跡出土遺物 (2) (1/1)、33 号住居跡



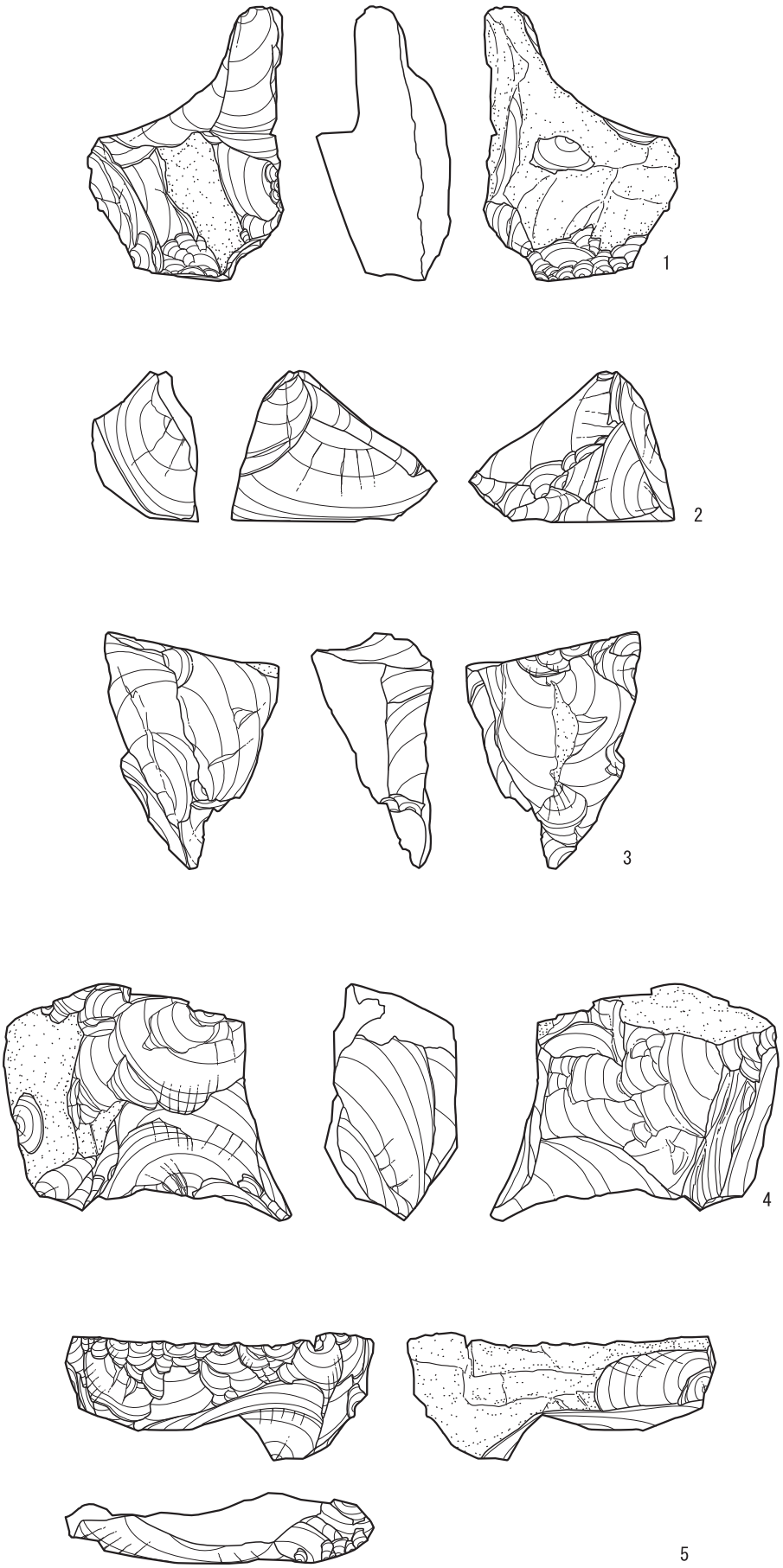
第 82 図　33 号住居跡出土遺物 (1)(1/4、但し 1・2 は 1/6、21 は 1/8、23 ～ 25 は 1/1)



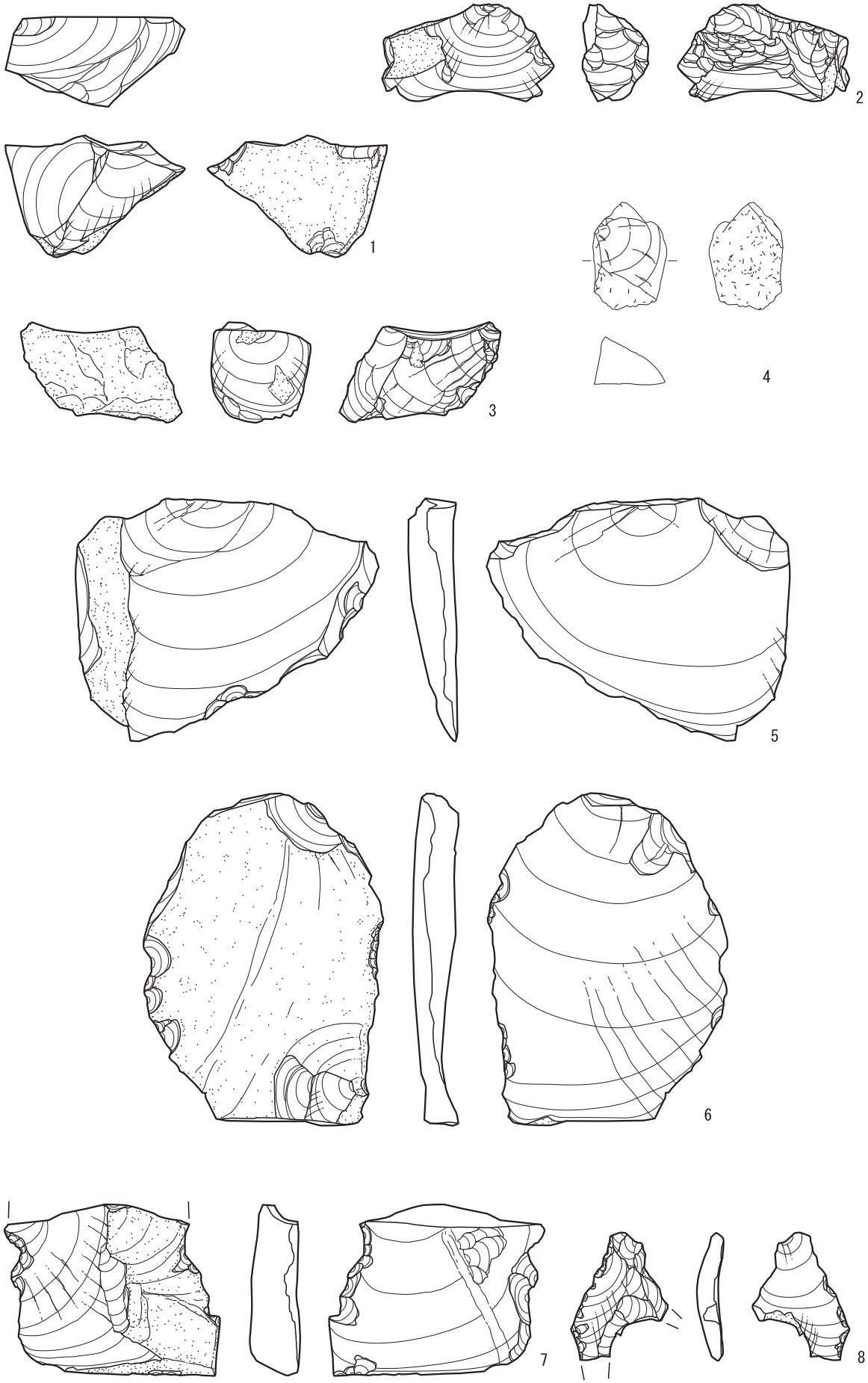
第 83 図　33 号住居跡出土遺物 (2) (1/1)



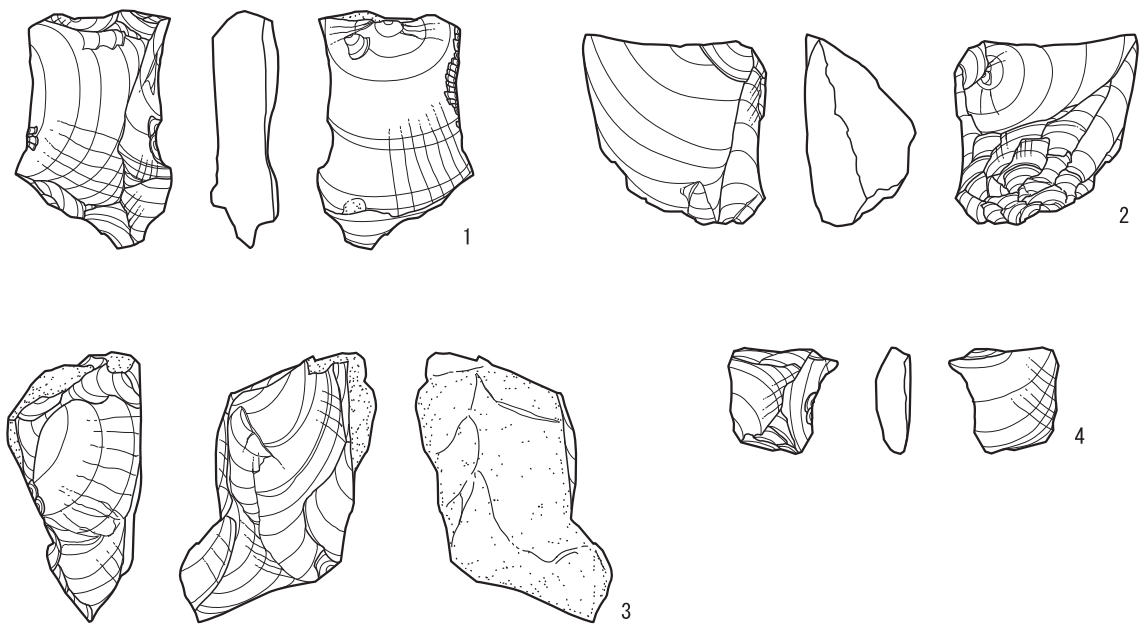
第 84 図　33 号住居跡出土遺物 (3)(1/1、但し 5 ～ 7 は 1/4)



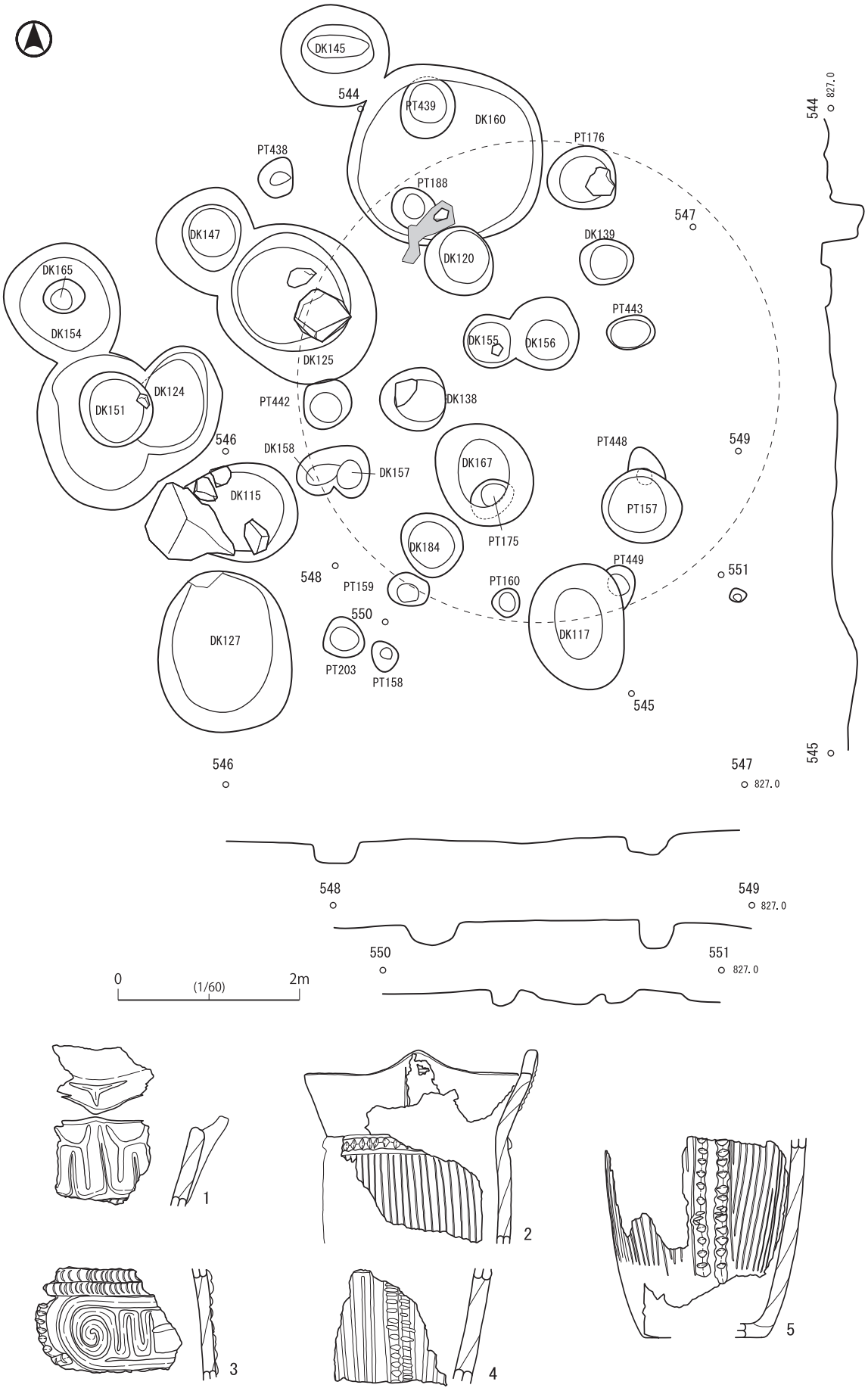
第 85 図　33 号住居跡出土遺物 (4) (1/1)



第 86 図　33 号住居跡出土遺物 (5)(1/1、但し 4 は 1/2)

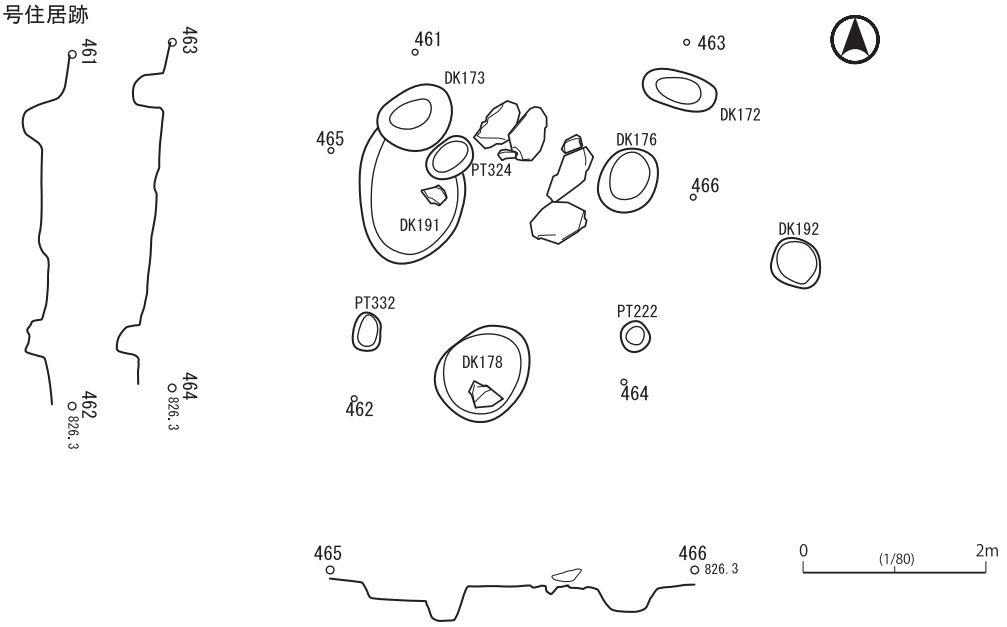


第 87 図　33 号住居跡出土遺物 (6) (1/1)

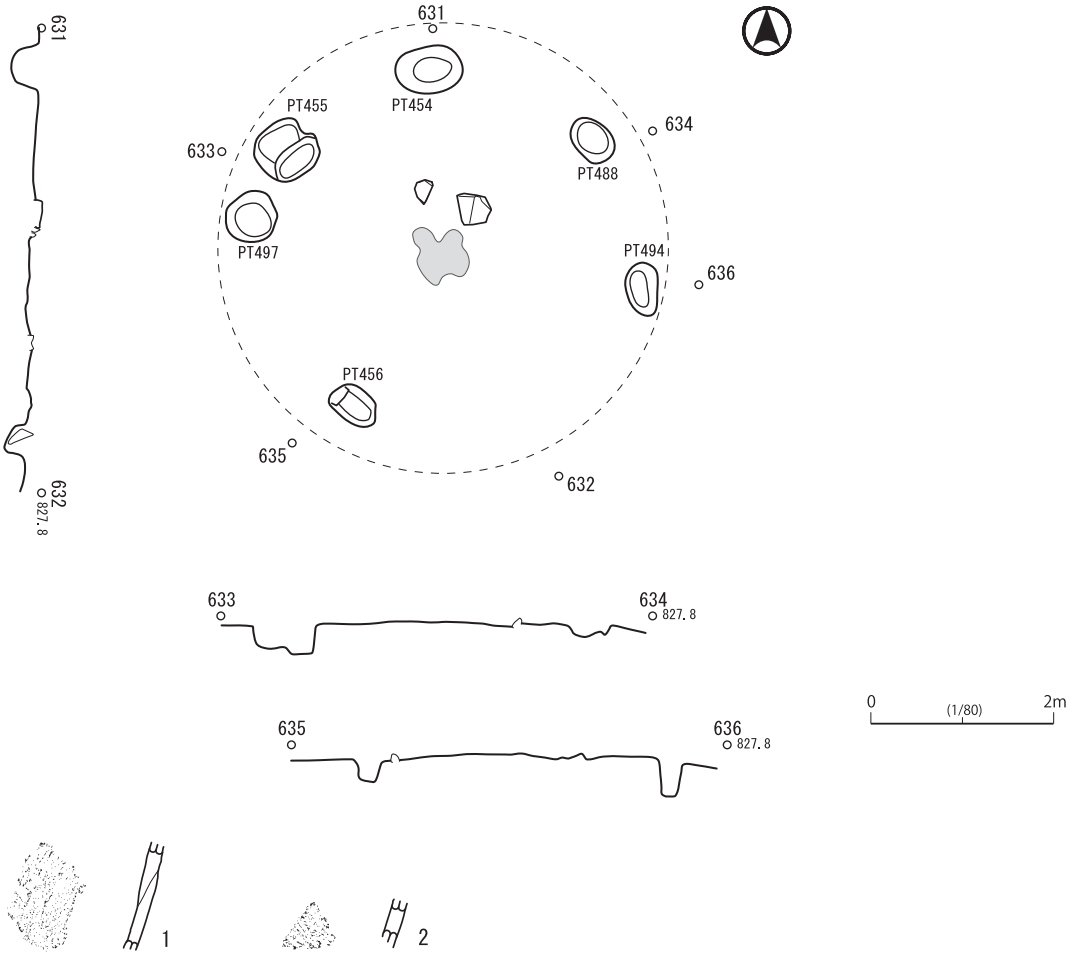


第 88 図　38 号住居跡、出土遺物 (1/4)

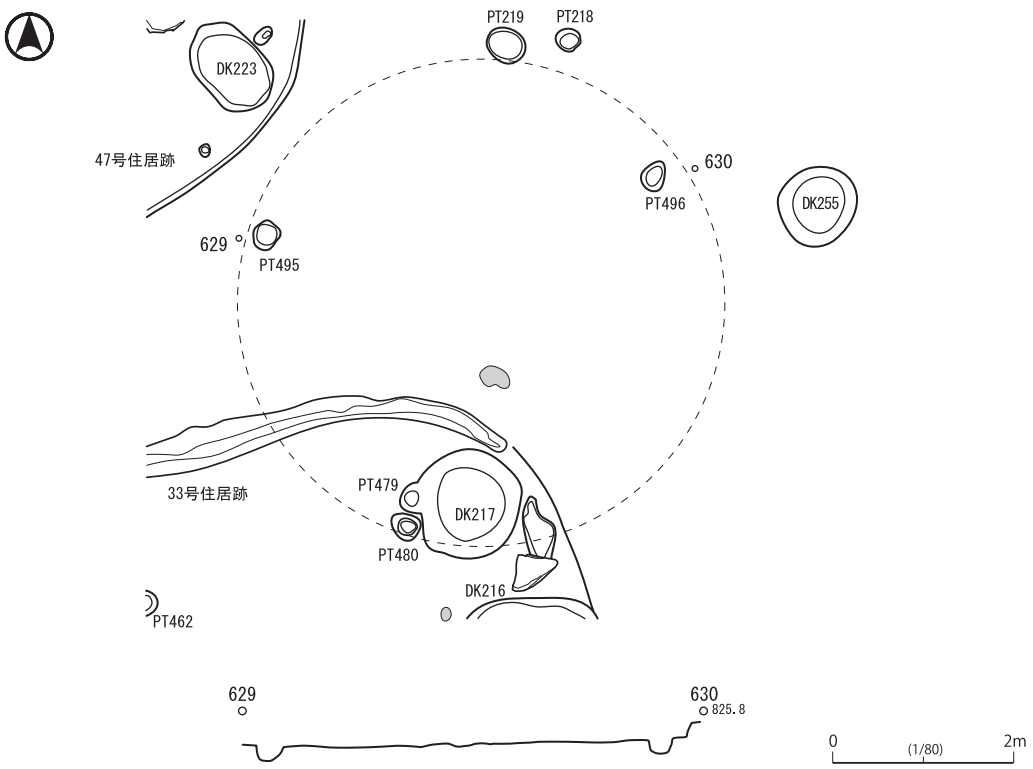
41号住居跡



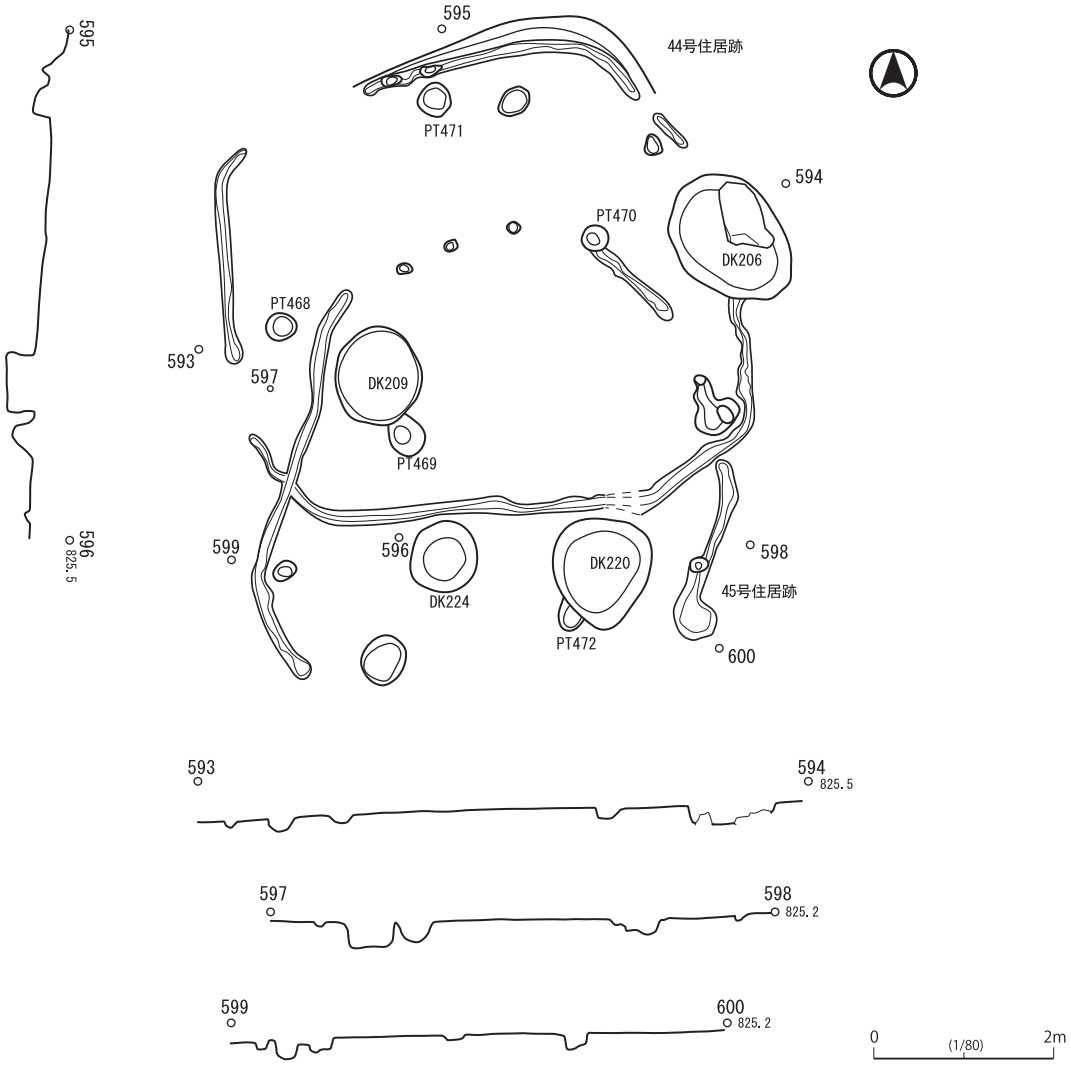
42号住居跡



第 89 図　41 号・42 号住居跡、42 号住居跡出土遺物 (1/4)



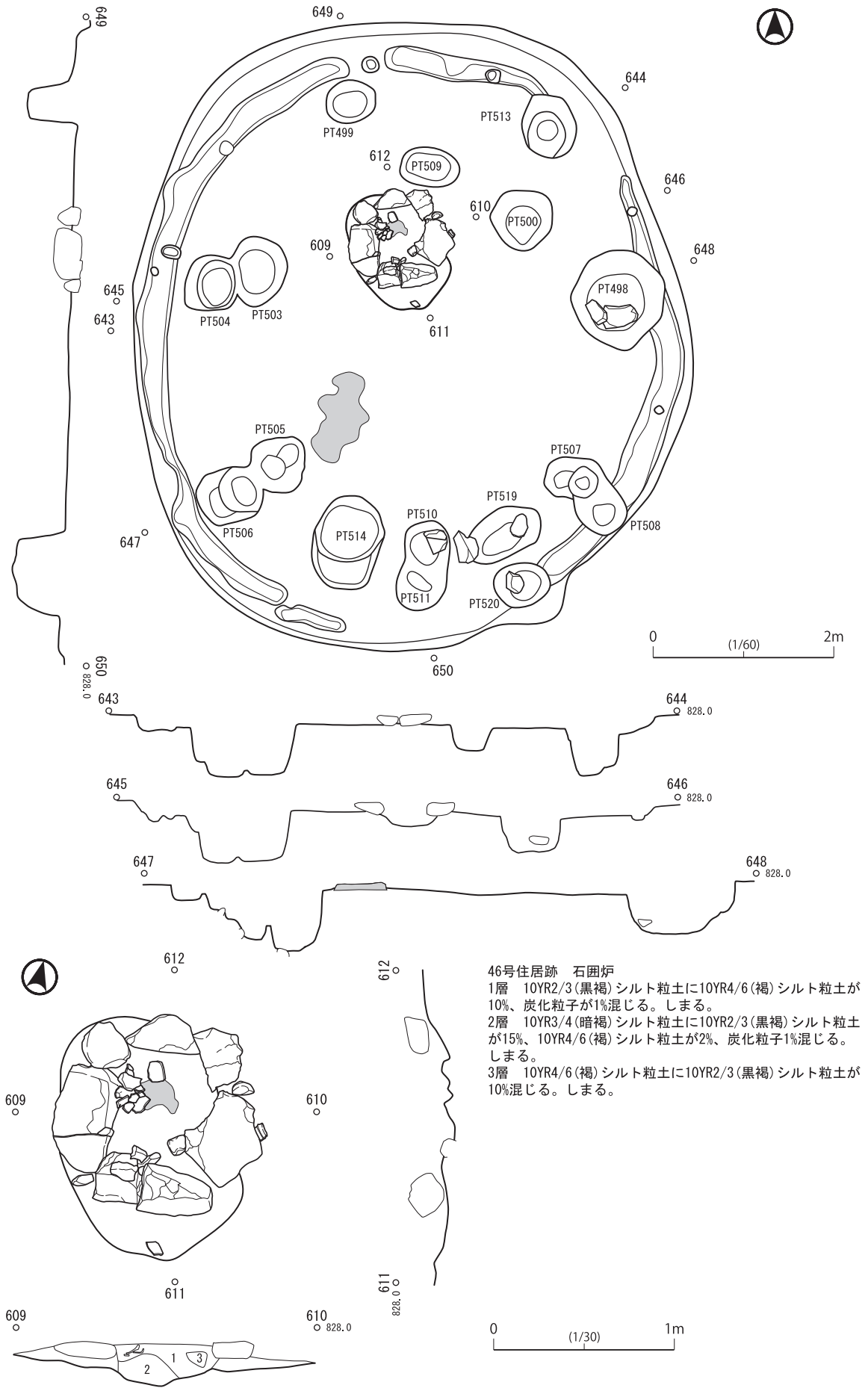
第 90 図　43 号住居跡、出土遺物 (1/6)



44号住居跡

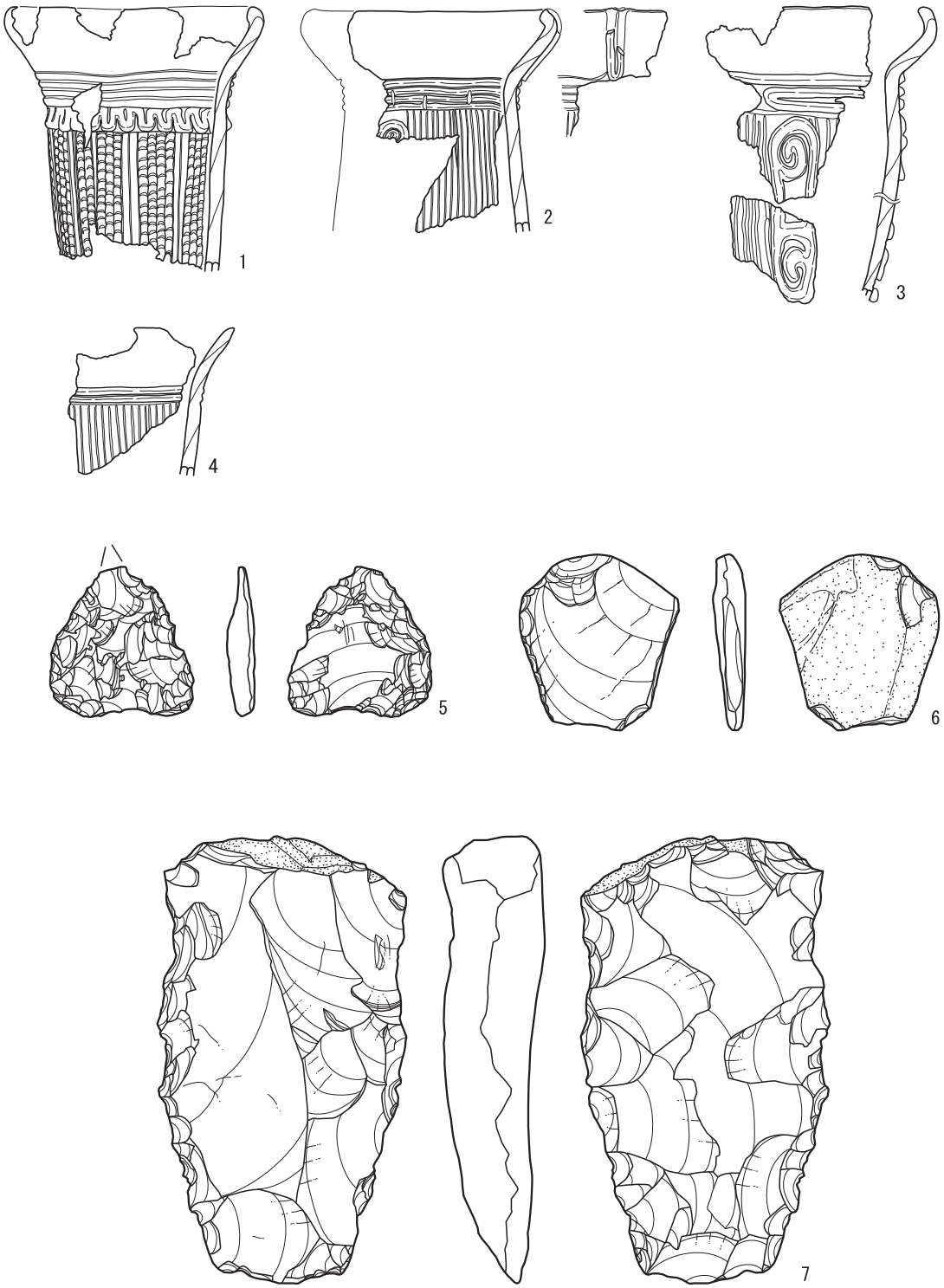
45号住居跡

第 91 図　44 号・45 号住居跡、出土遺物 (1/4)

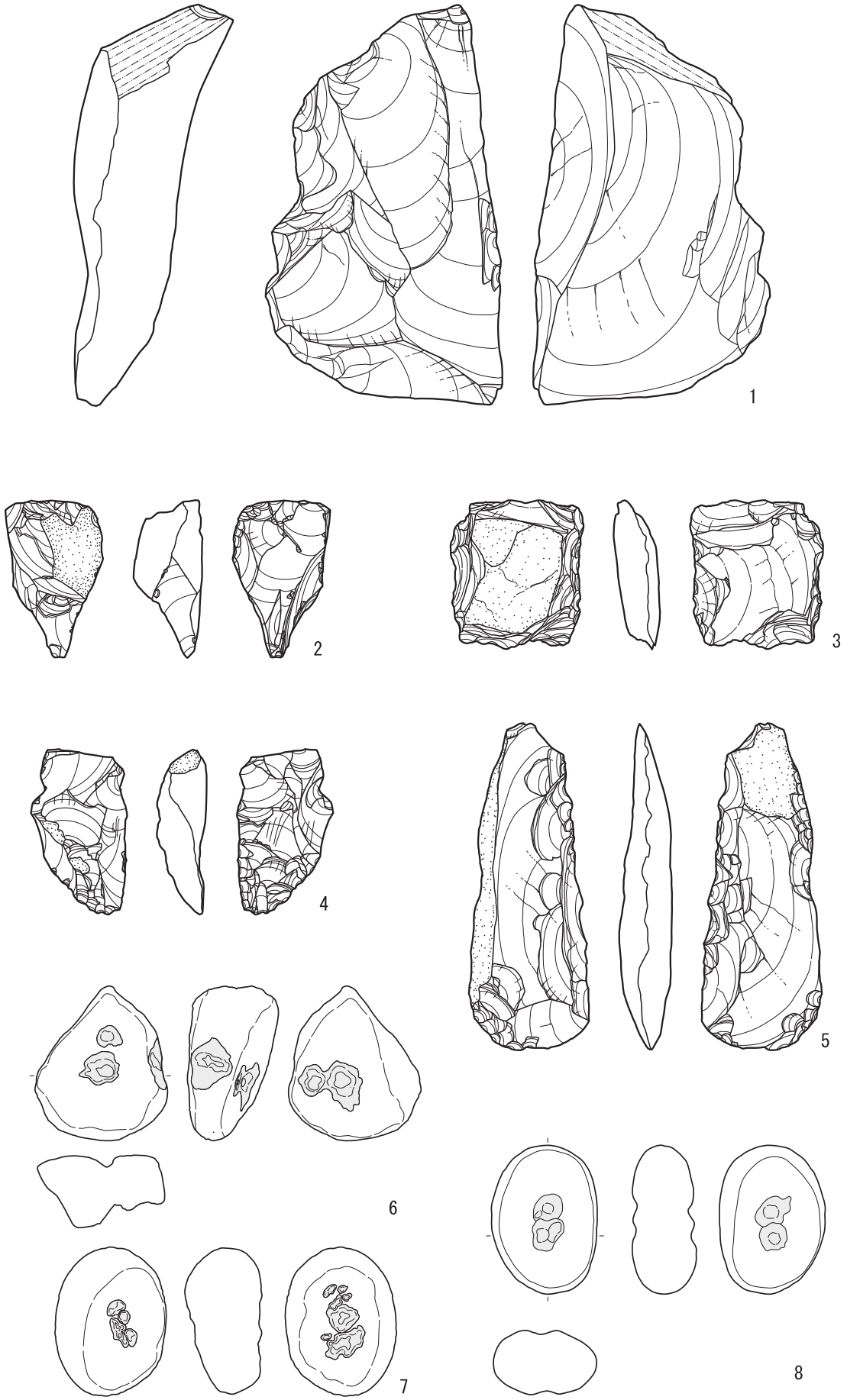


46号住居跡　石囲炉
1層　10YR2/3(黒褐)シルト粒土に10YR4/6(褐)シルト粒土が10%、炭化粒子が1%混じる。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が15%、10YR4/6(褐)シルト粒土が2%、炭化粒子1%混じる。しまる。
3層　10YR4/6(褐)シルト粒土に10YR2/3(黒褐)シルト粒土が10%混じる。しまる。

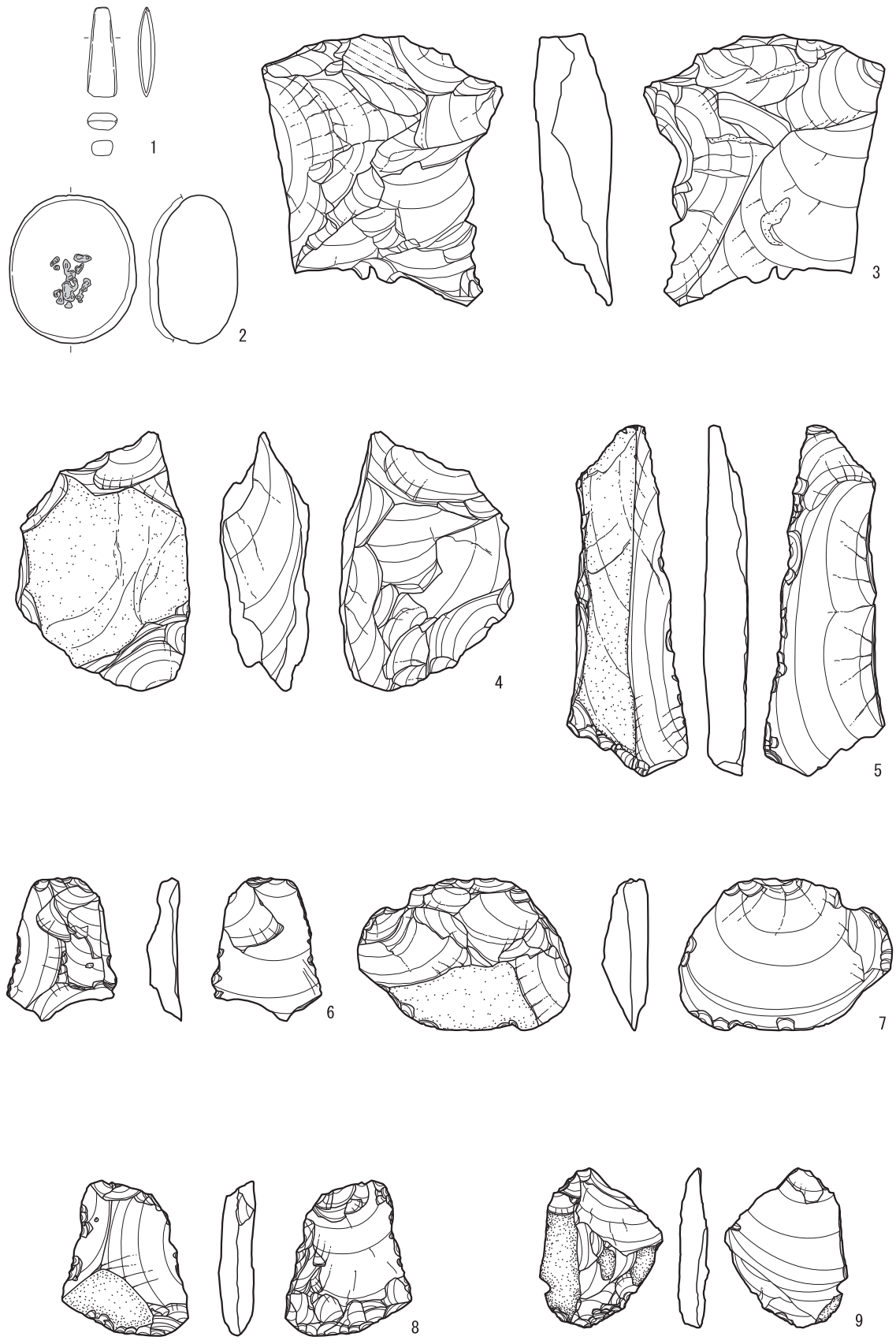
第 92 図　46 号住居跡、46 号住居跡炉



第 93 図　46 号住居跡出土遺物 (1) (1/4、但し 5・7 は 1/1、6 は 1/2)

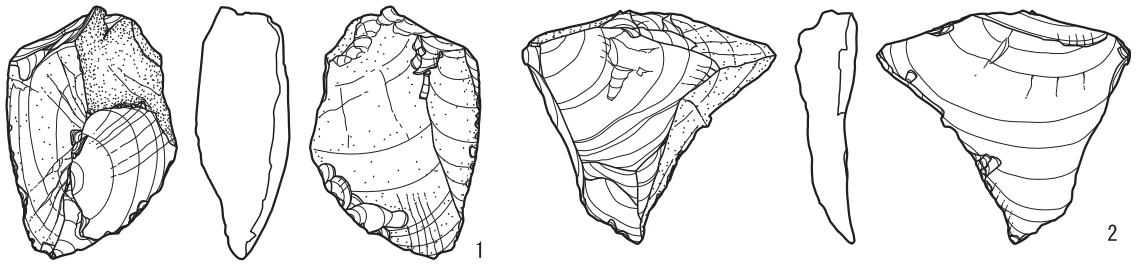


第 94 図　46 号住居跡出土遺物 (2)(1・2・4 は 1/1、3・5 は 1/2、6 ～ 8 は 1/4)

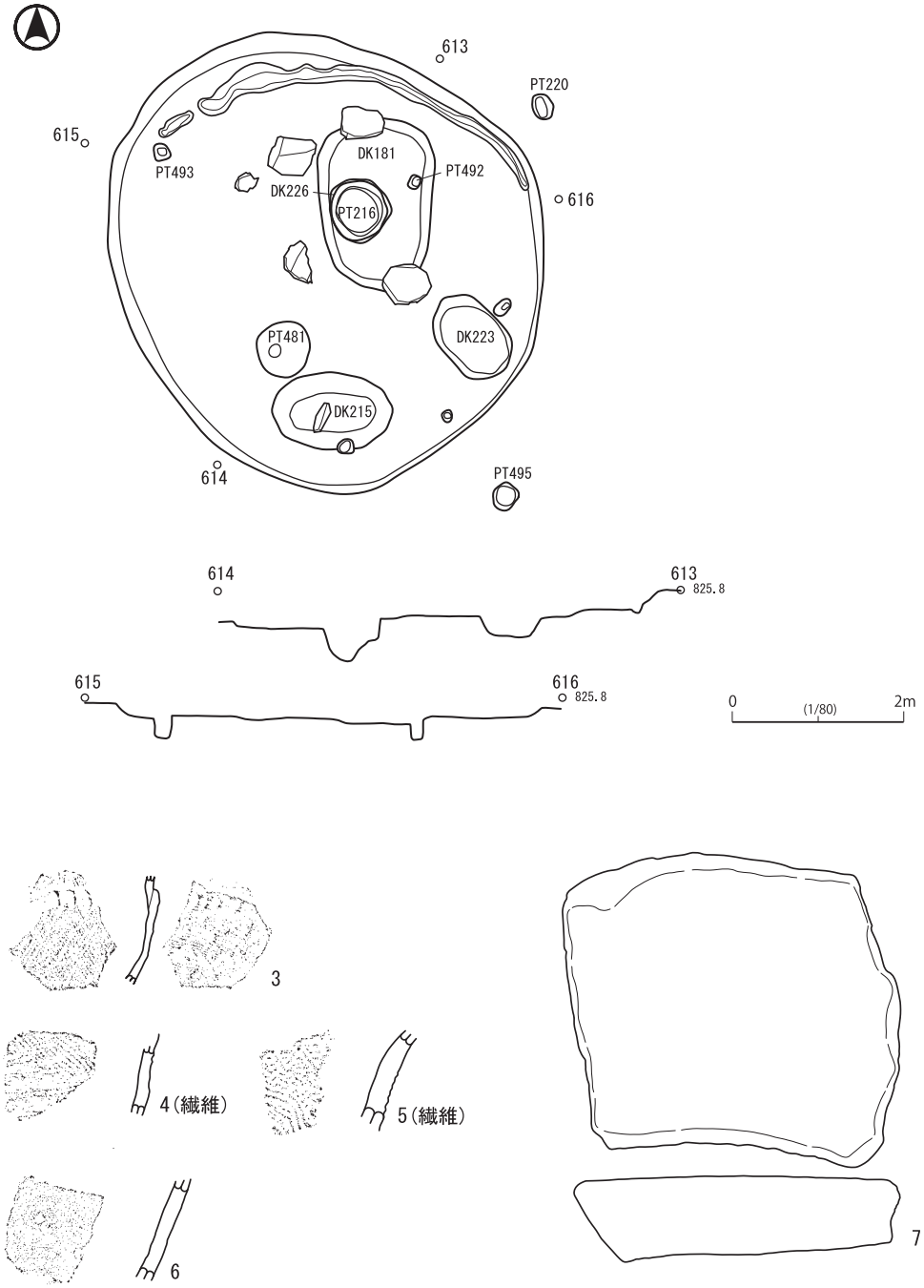


第 95 図　46 号住居跡出土遺物 (3)(1・2 は 1/4、3・6・8 は 1/1、4・5・7・9 は 1/2)

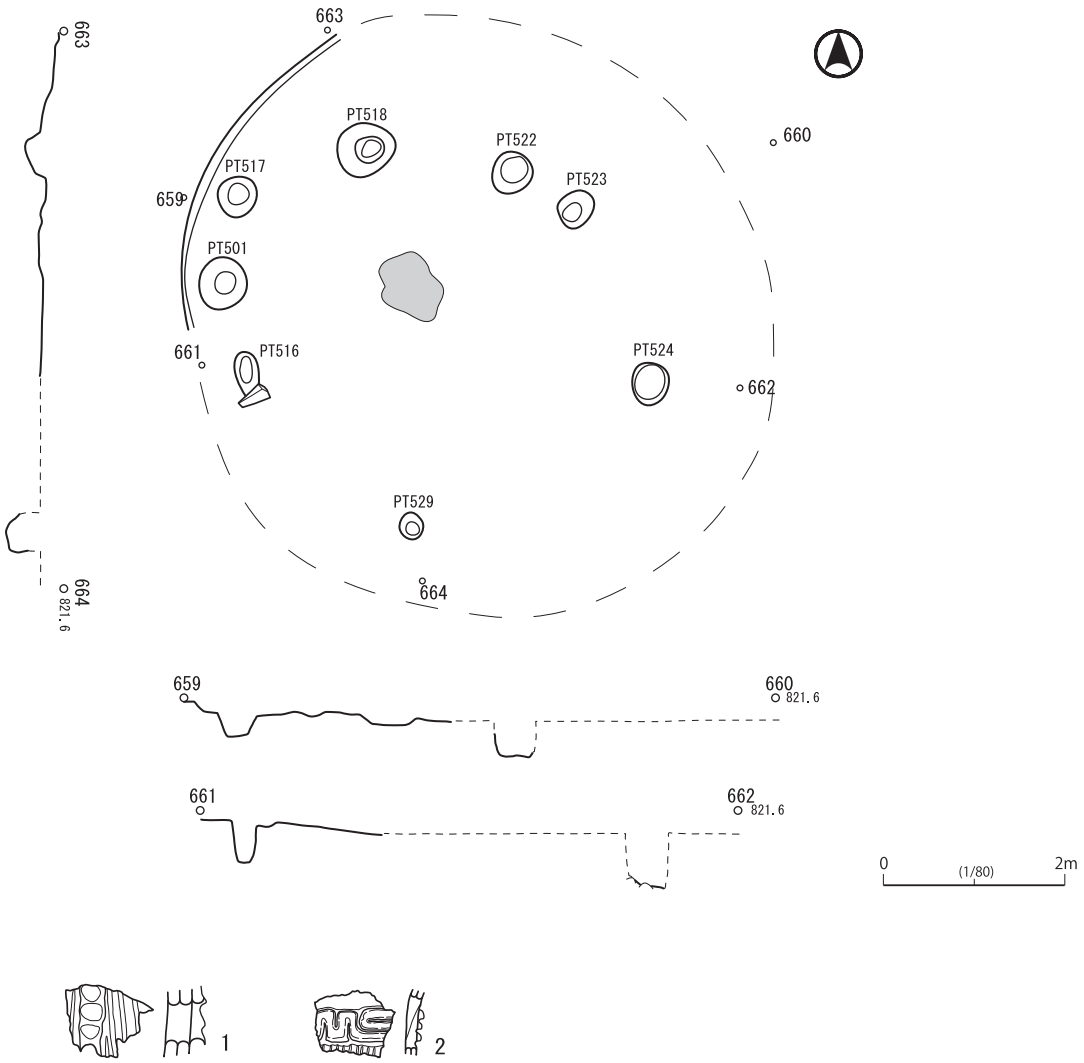
46号住居跡



47号住居跡

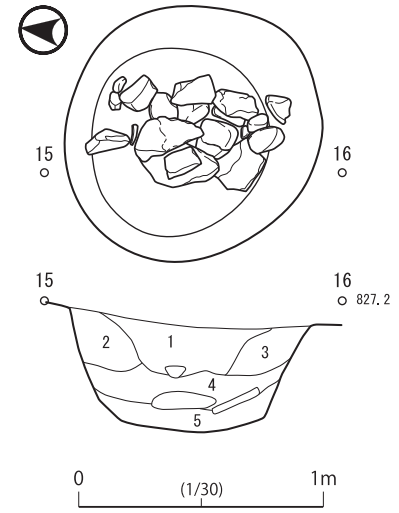


第 96 図　46 号住居跡出土遺物 (4) (1/2)、47 号住居跡、出土遺物 (1/4、但し 7 は 1/10)

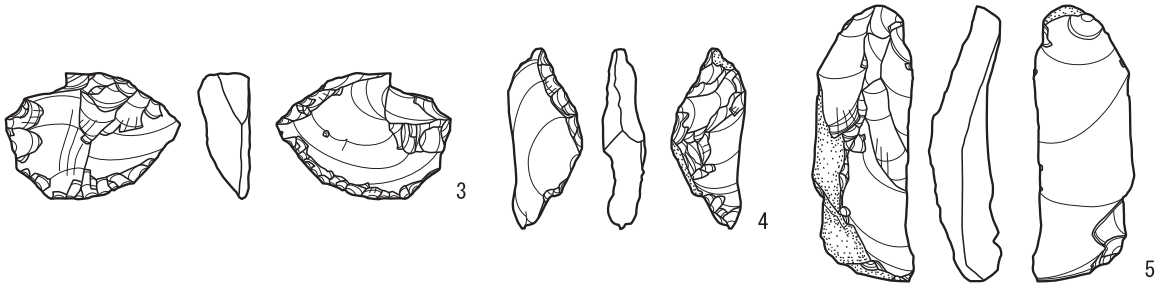


第 97 図　48 号住居跡、出土遺物 (1/4)

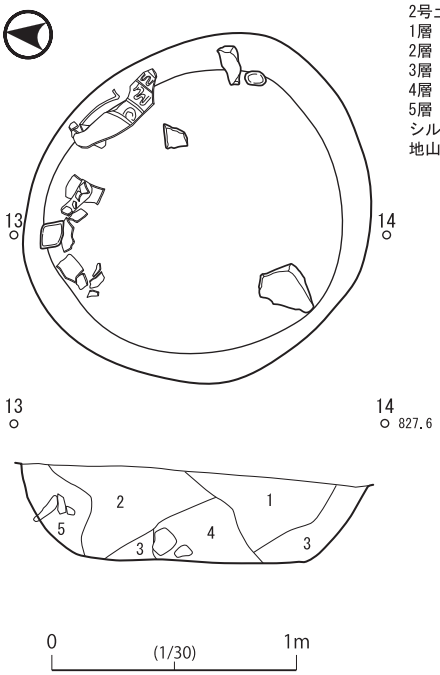
1号土坑



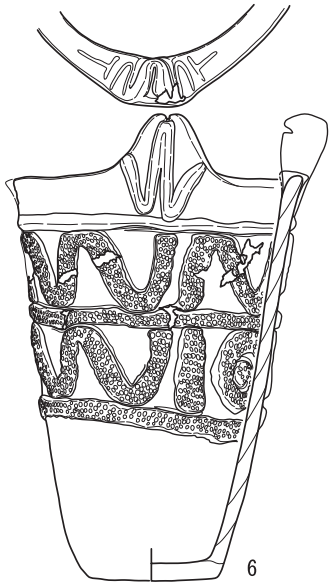
1号土坑
1層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR2/2(黒褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
5層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が4%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。固くしまる。



2号土坑

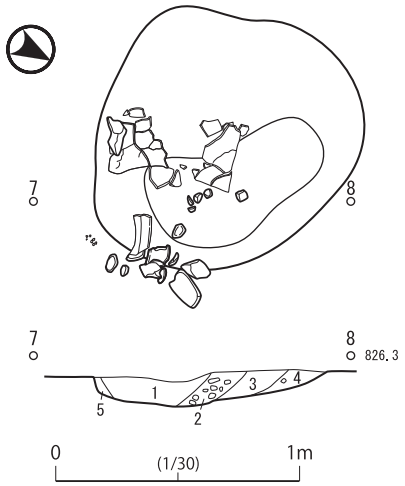


2号土坑
1層　10YR3/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が5%、炭化粒子が3%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が40%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。

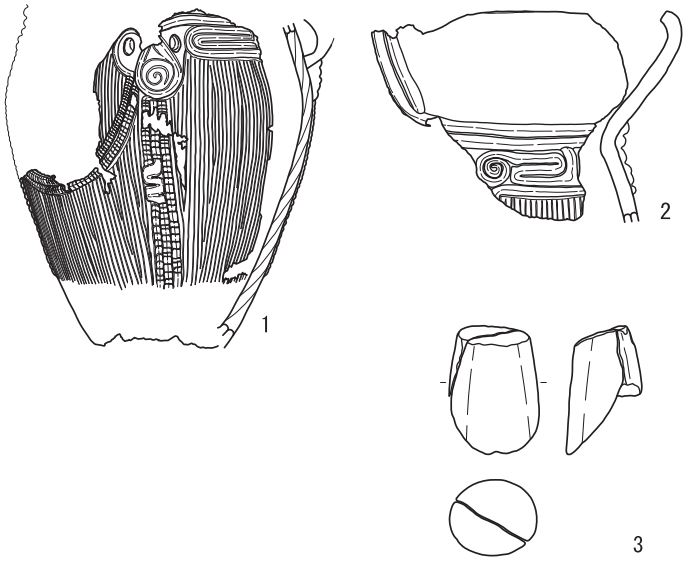


第98図　1号・2号土坑、出土遺物(1/1、但し1は1/4、6は1/6)

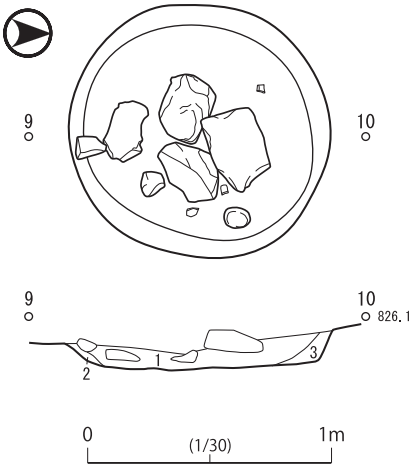
4号土坑



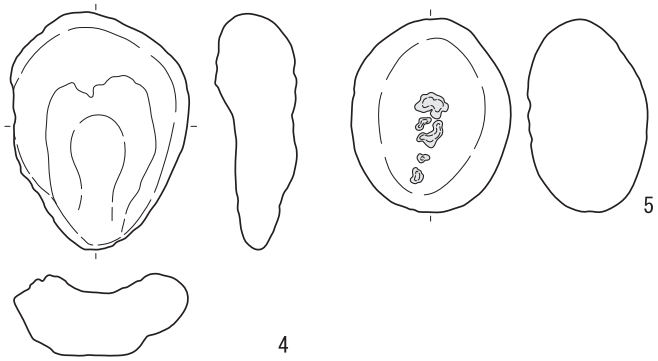
4号土坑
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。レキ。しまりなし。
3層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
4層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
5層　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。固くしまる。(掘りすぎ)
地山　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。しまる。



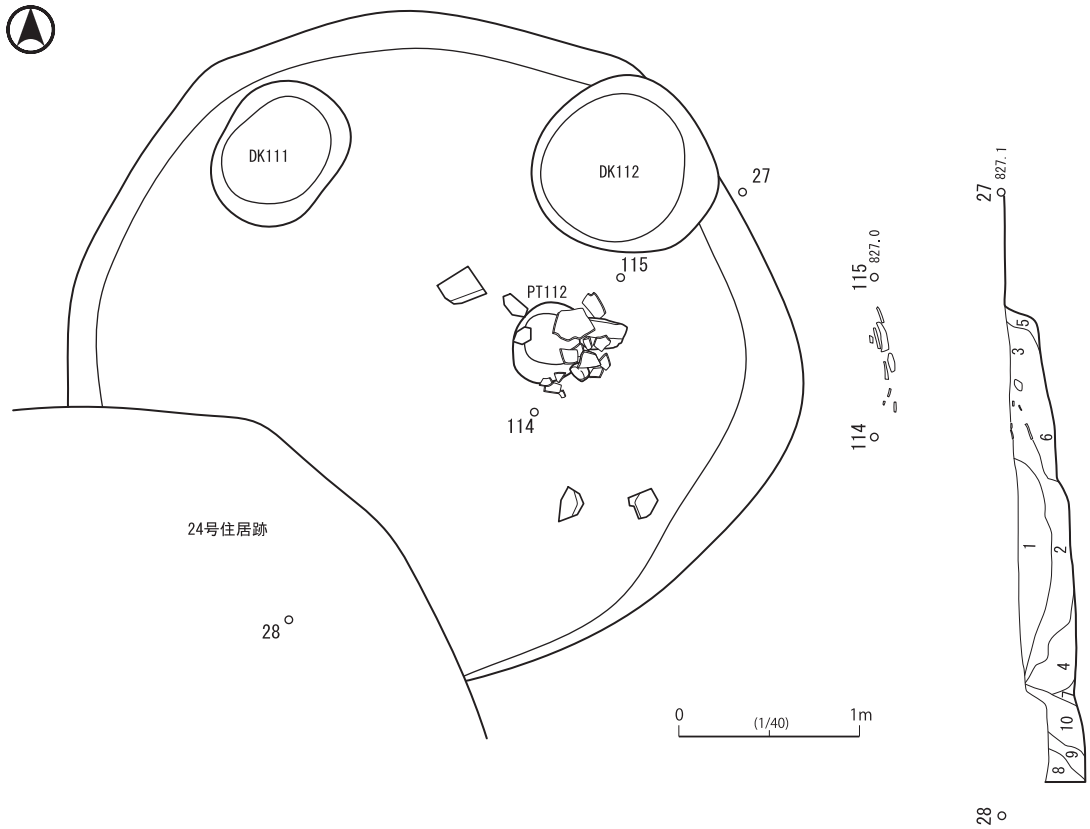
5号土坑



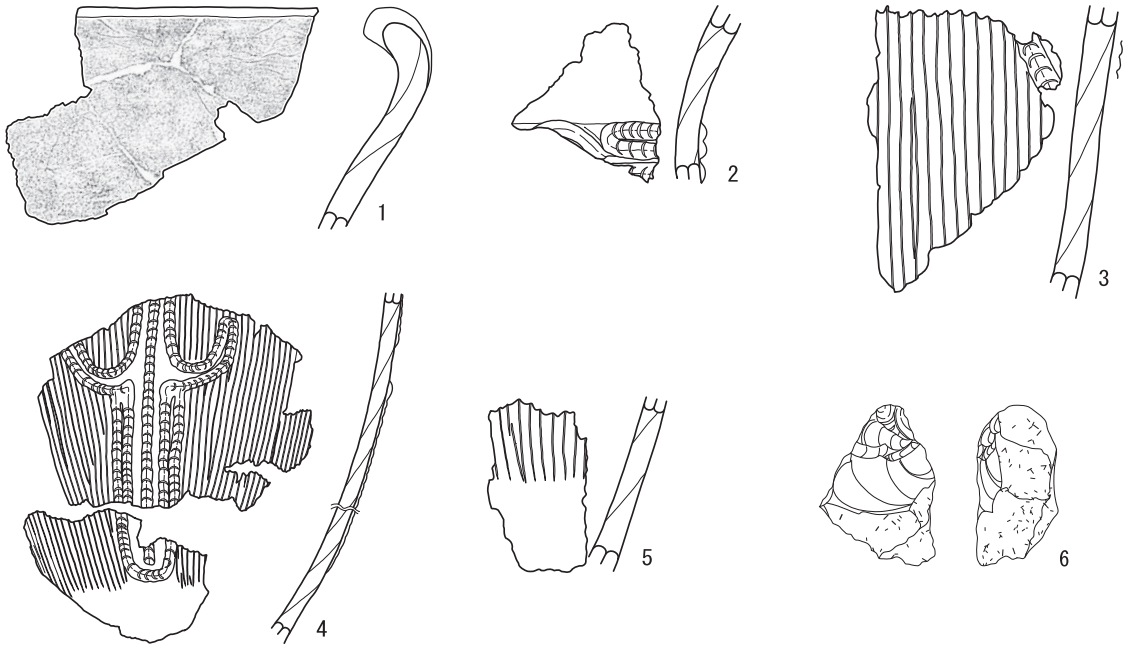
5号土坑
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/4(褐)に10YR5/8(黄褐)が7%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR4/6(褐)に10YR6/8(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。固くしまる。



第99図　4号・5号土坑、出土遺物(1/4、但し1は1/8、2は1/6)

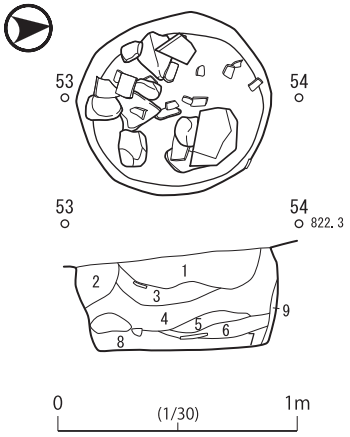


8号土坑・24号住居跡
1層(DK8)　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層(DK8)　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層(DK8)　10YR4/4(褐)に10YR3/3(暗褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層(DK8)　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
5層(DK8)　10YR4/4(黒褐)に10YR3/3(暗褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層(DK8)　10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
7層(DK8)　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
8層(PJ24)　10YR4/4(褐)に10YR4/4(にぶい黄褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
9層(PJ24)　10YR4/5(にぶい黄褐)に10YR4/4(褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
10層(PJ-24)　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁　10YR5/6(黄褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。シルト粒土。固くしまる。
地山　底　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

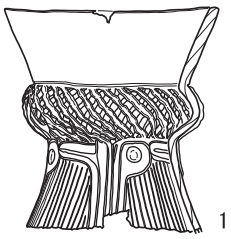


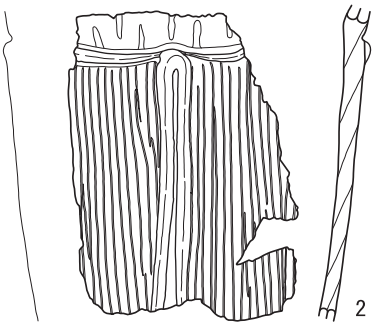
第100図　8号土坑、出土遺物(1/4、但し4は1/6、6は1/2)

39号土坑

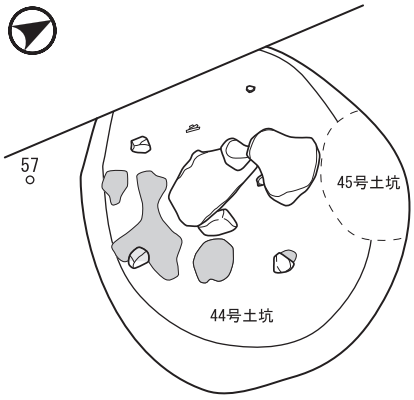


39号土坑
1層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
5層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が1%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
6層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
7層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
8層　10YR4/4(褐)に10YR6/6(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
9層　10YR4/6(褐)に10YR3/4(暗褐)が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁・底　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

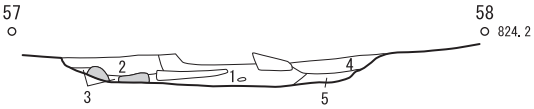


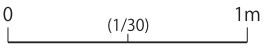


44号土坑

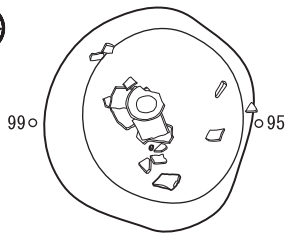


44号土坑
1層　10YR3/4(暗褐)に10YR6/8(明黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまりなし。
2層　7.5YR4/3(褐)に10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%、焼土が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　7.5YR4/4(褐)に焼土が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が10%混じる。シルト粒土。しまりなし。
5層　10YR4/4(褐)に10YR6/8(明黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
焼土　2.5YR6/8(橙)。シルト粒土。しまる。
地山　壁・底　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

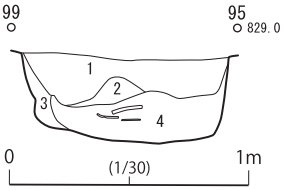


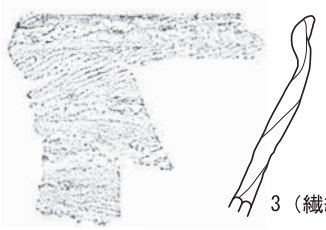


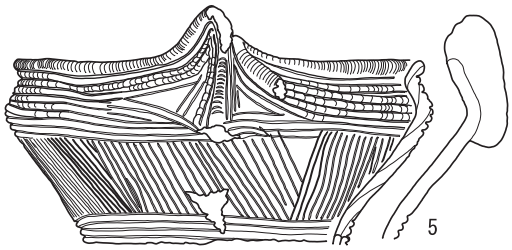
62号土坑



62号土坑
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が30%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR2/2(黒褐)に10YR4/4(褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
地山　壁　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　底　10YR6/8(明黄褐)に10YR4/4(褐)が10%混じる。シルト粒土。固くしまる。



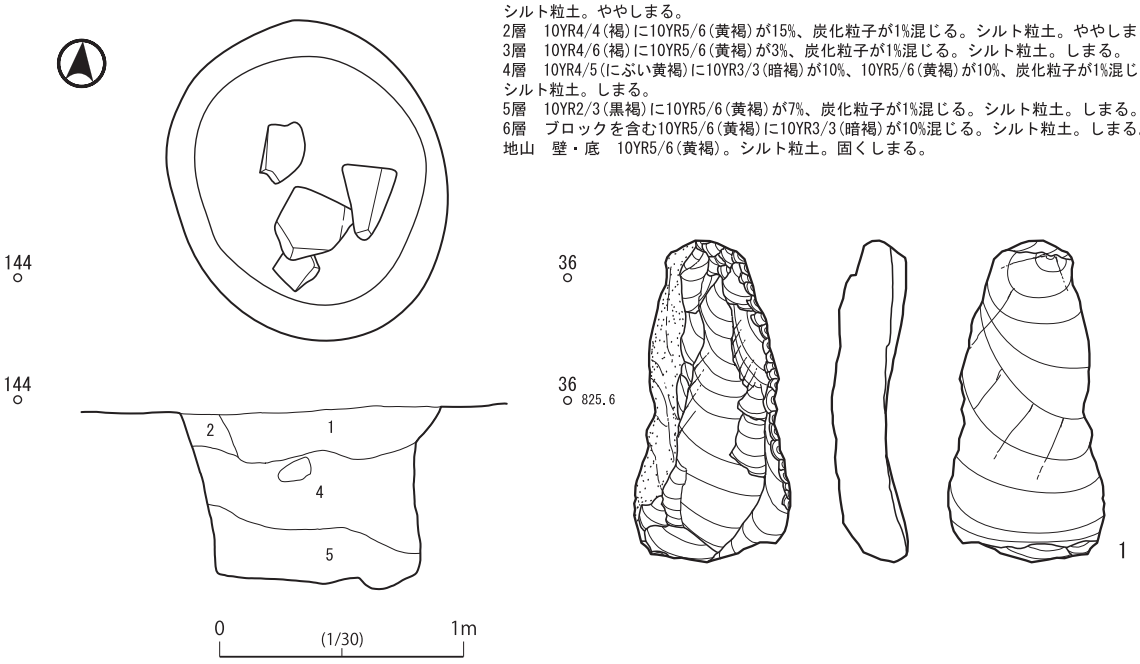




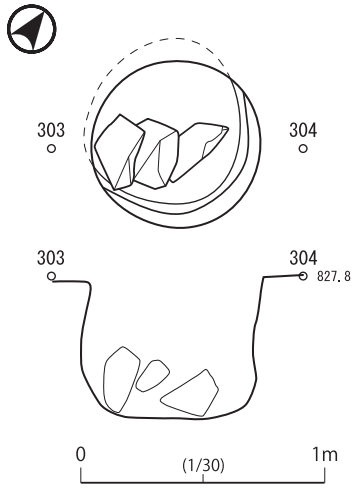
第101図　39号・44号・62号土坑、出土遺物(1/4、但し1は1/6)

72号土坑

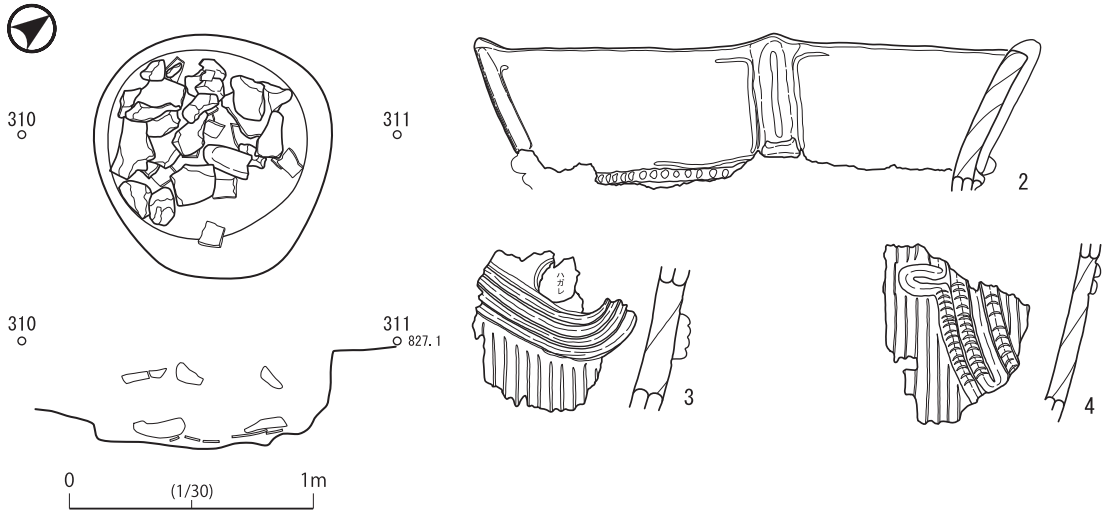
72号土坑
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/5(にぶい黄褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR4/4(褐)に10YR5/6(黄褐)が15%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR4/6(褐)に10YR5/6(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR4/5(にぶい黄褐)に10YR3/3(暗褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
5層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　ブロックを含む10YR5/6(黄褐)に10YR3/3(暗褐)が10%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁・底　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。



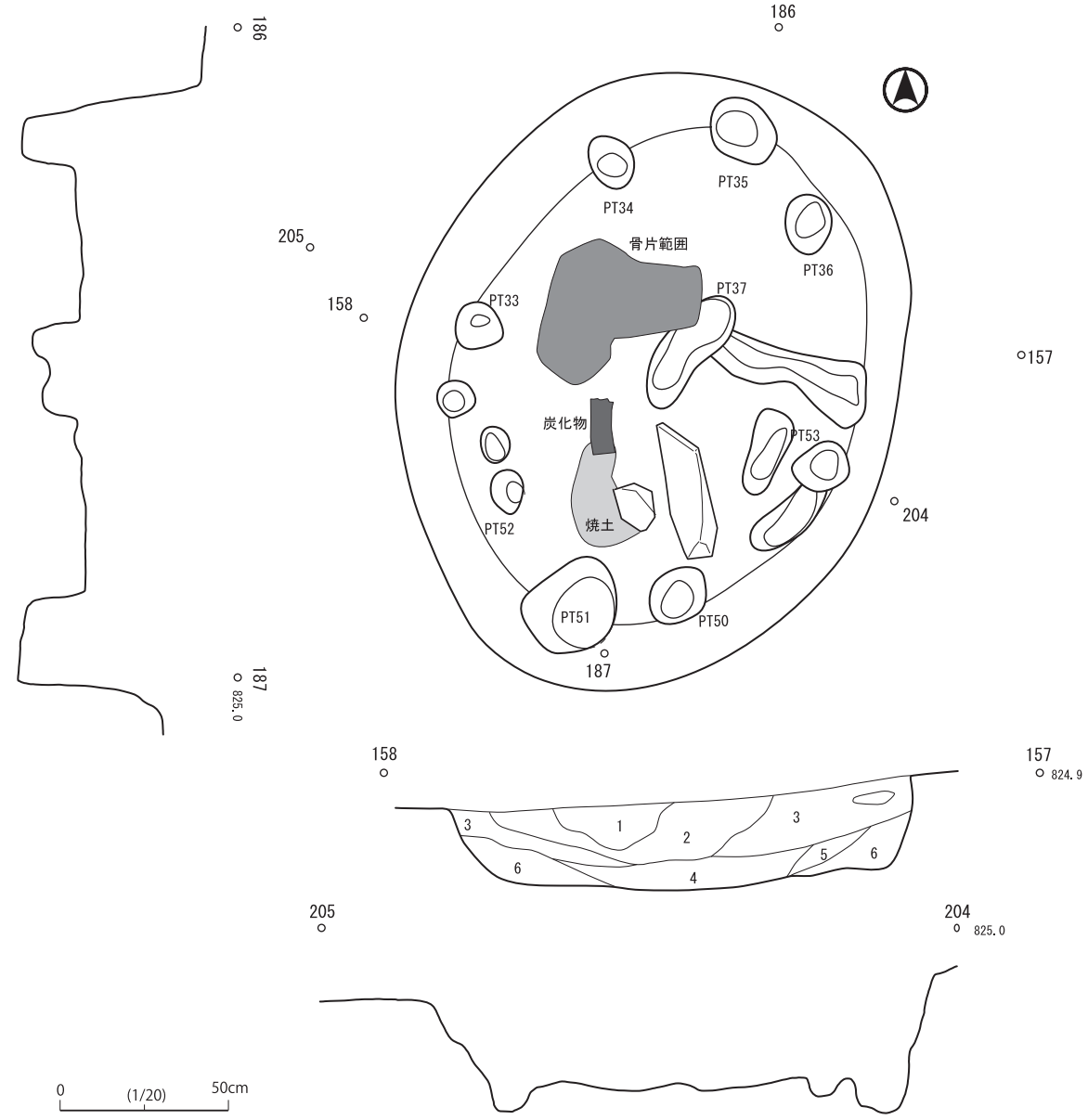
97号土坑

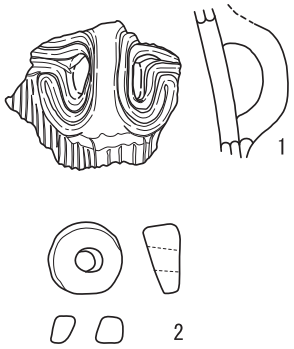


112号土坑



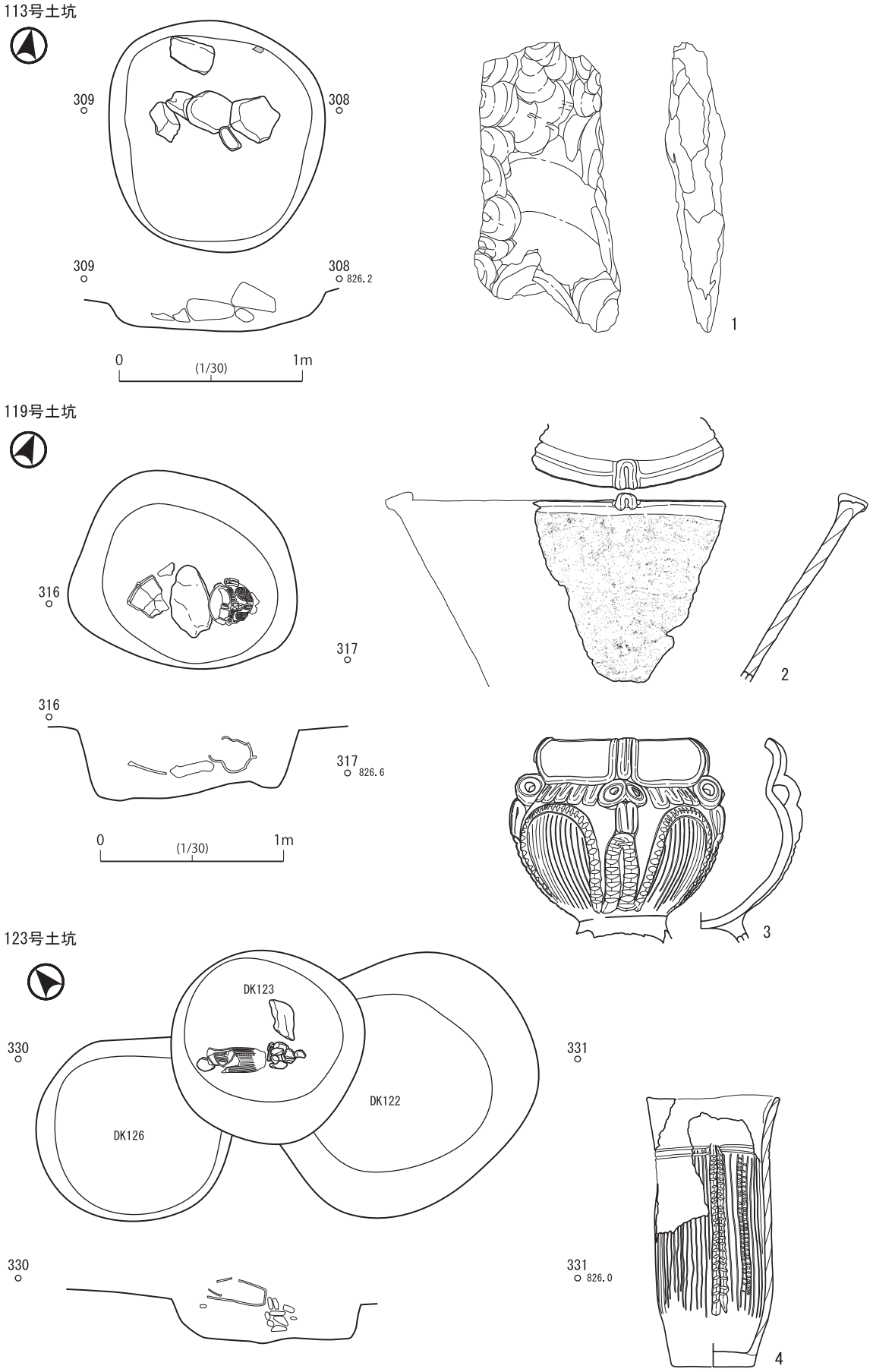
第102図　72号・97号・112号土坑、出土遺物(1は1/1、2は1/6、3・4は1/4)





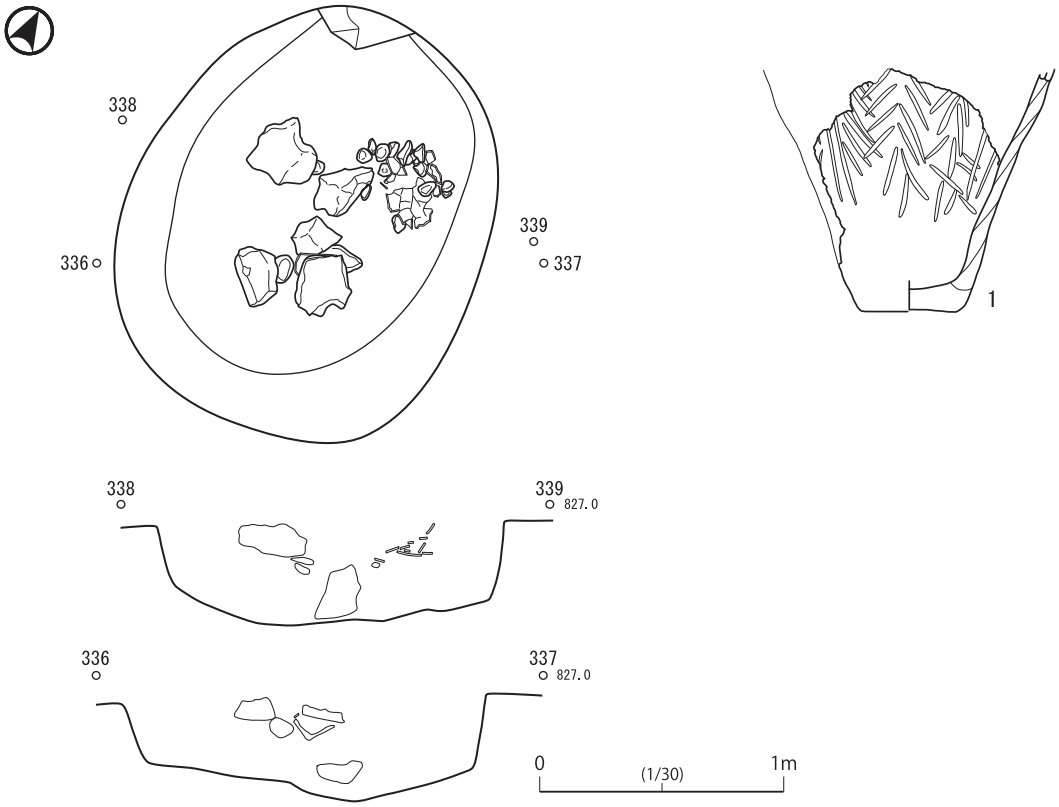
77号土坑
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/4(褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10YR4/4(褐)が20%、10YR5/6(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR3/3(暗褐)に10YR3/2(黒褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
5層　10YR3/2(黒褐)に10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
6層　10YR4/3(にぶい黄褐)に10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
7層　10YR5/6(黄褐)のブロック。
地山　壁・底　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

第103図　77号土坑、出土遺物(1は1/4、2は1/1)

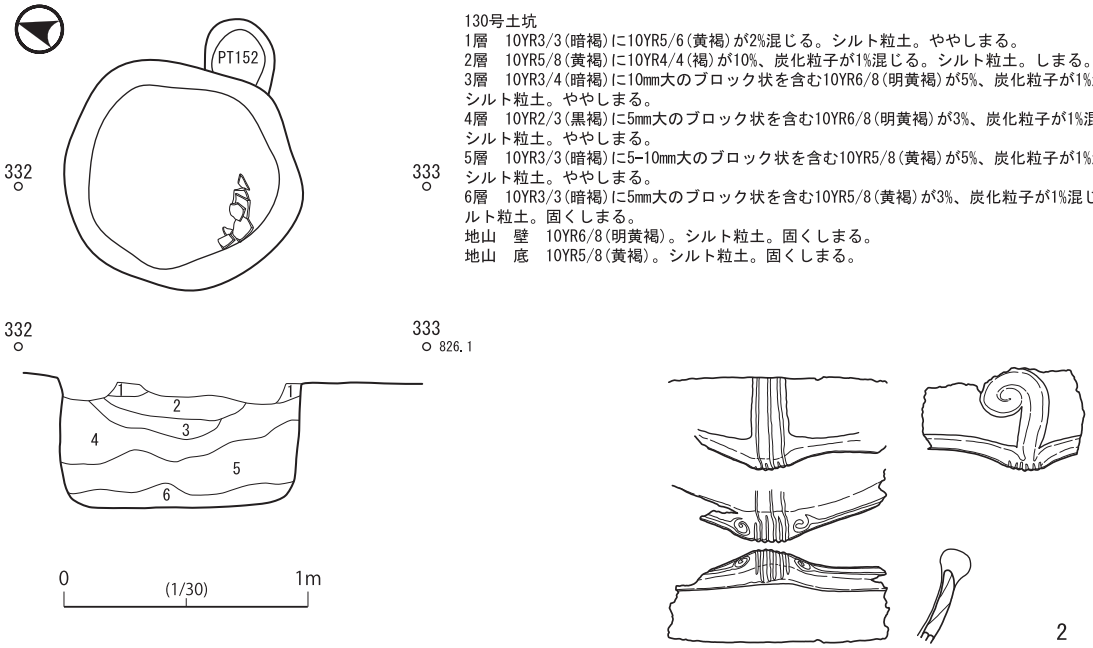


第 104 図　113 号・119 号・123 号土坑、出土遺物 (1/6、但し 1 は 1/2)

127号土坑

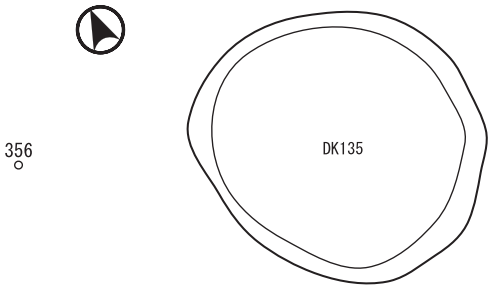


130号土坑

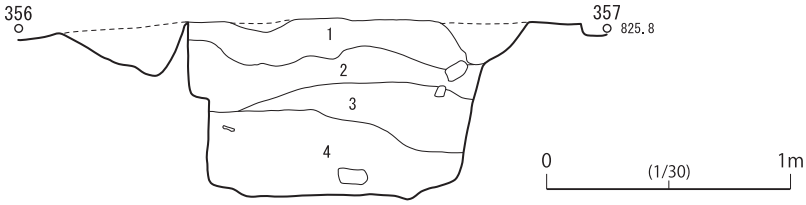


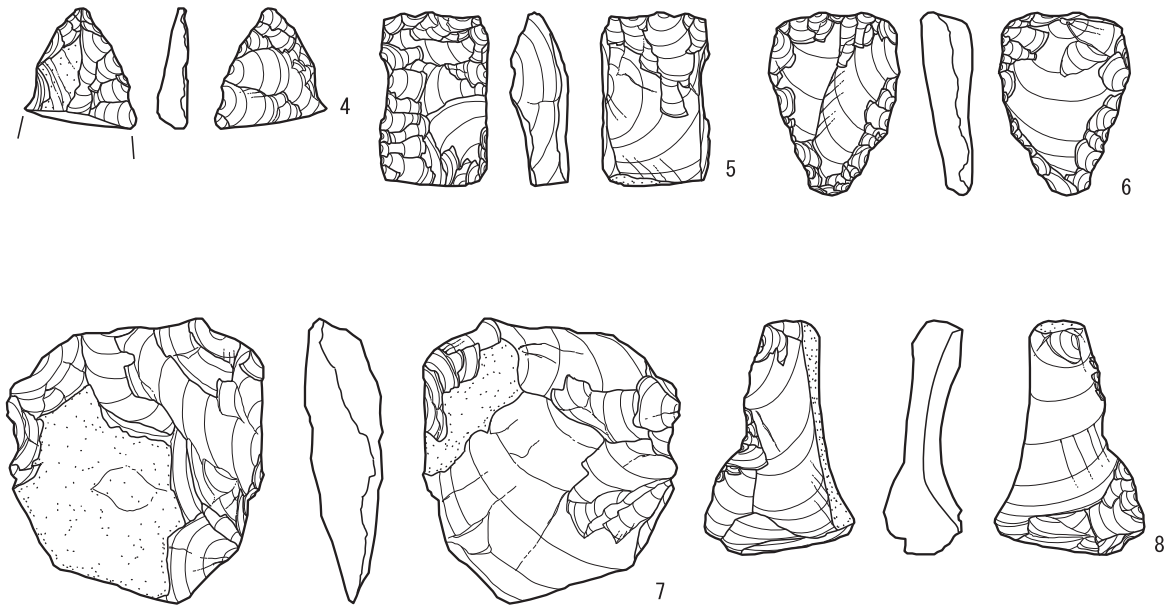
130号土坑
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/6(黄褐)が2%混じる。シルト粒土。ややしまる。
2層　10YR5/8(黄褐)に10YR4/4(褐)が10%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR3/4(暗褐)に10mm大のブロック状を含む10YR6/8(明黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に5mm大のブロック状を含む10YR6/8(明黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
5層　10YR3/3(暗褐)に5-10mm大のブロック状を含む10YR5/8(黄褐)が5%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。ややしまる。
6層　10YR3/3(暗褐)に5mm大のブロック状を含む10YR5/8(黄褐)が3%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。固くしまる。
地山　壁　10YR6/8(明黄褐)。シルト粒土。固くしまる。
地山　底　10YR5/8(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。

第105図　127号・130号土坑、出土遺物(1/6)



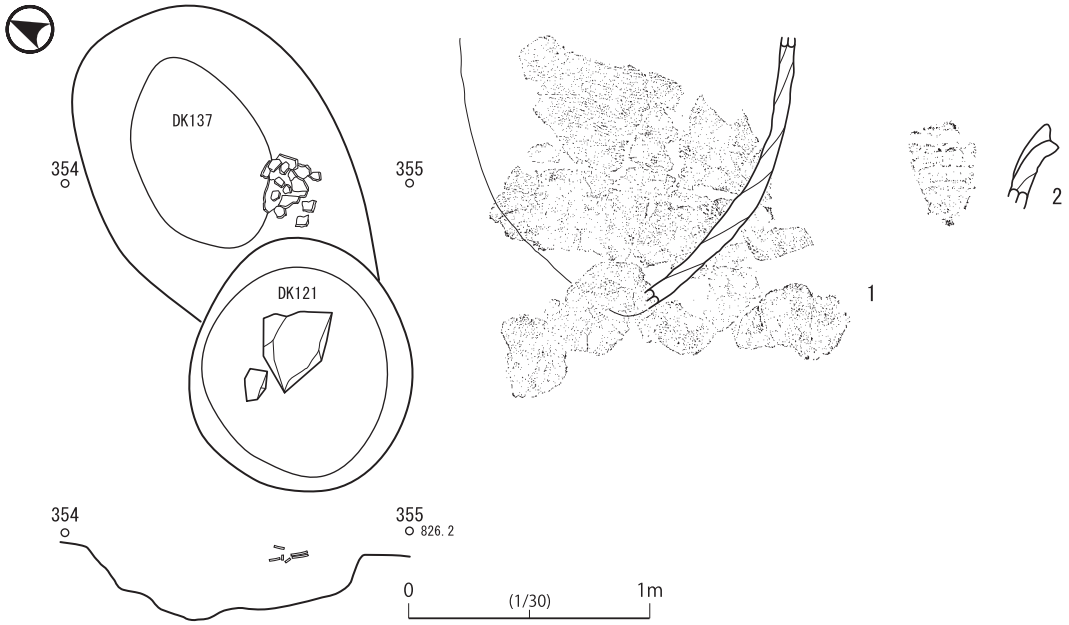
135号土坑
1層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
2層　10YR3/3(暗褐)に10YR4/3(にぶい黄褐)が30%、10YR5/6(黄褐)が7%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
3層　10YR3/3(暗褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が15%、10YR5/6(黄褐)が1%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
4層　10YR2/3(黒褐)に10YR5/4(にぶい黄褐)が10%、10YR5/6(黄褐)が2%、炭化粒子が1%混じる。シルト粒土。しまる。
地山　壁・底　10YR5/6(黄褐)。シルト粒土。固くしまる。



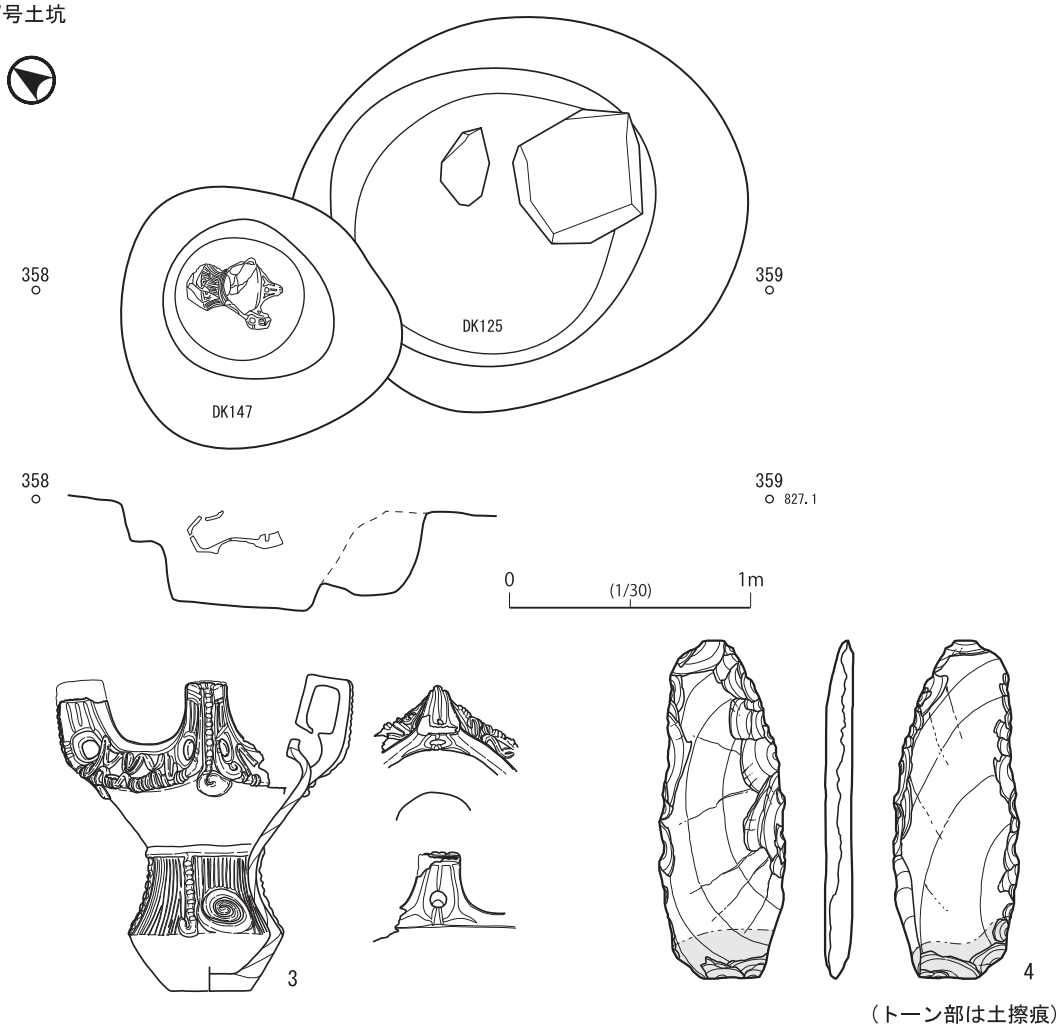


第106図　135号土坑、出土遺物(1～3は1/4、4～8は1/1)

137号土坑

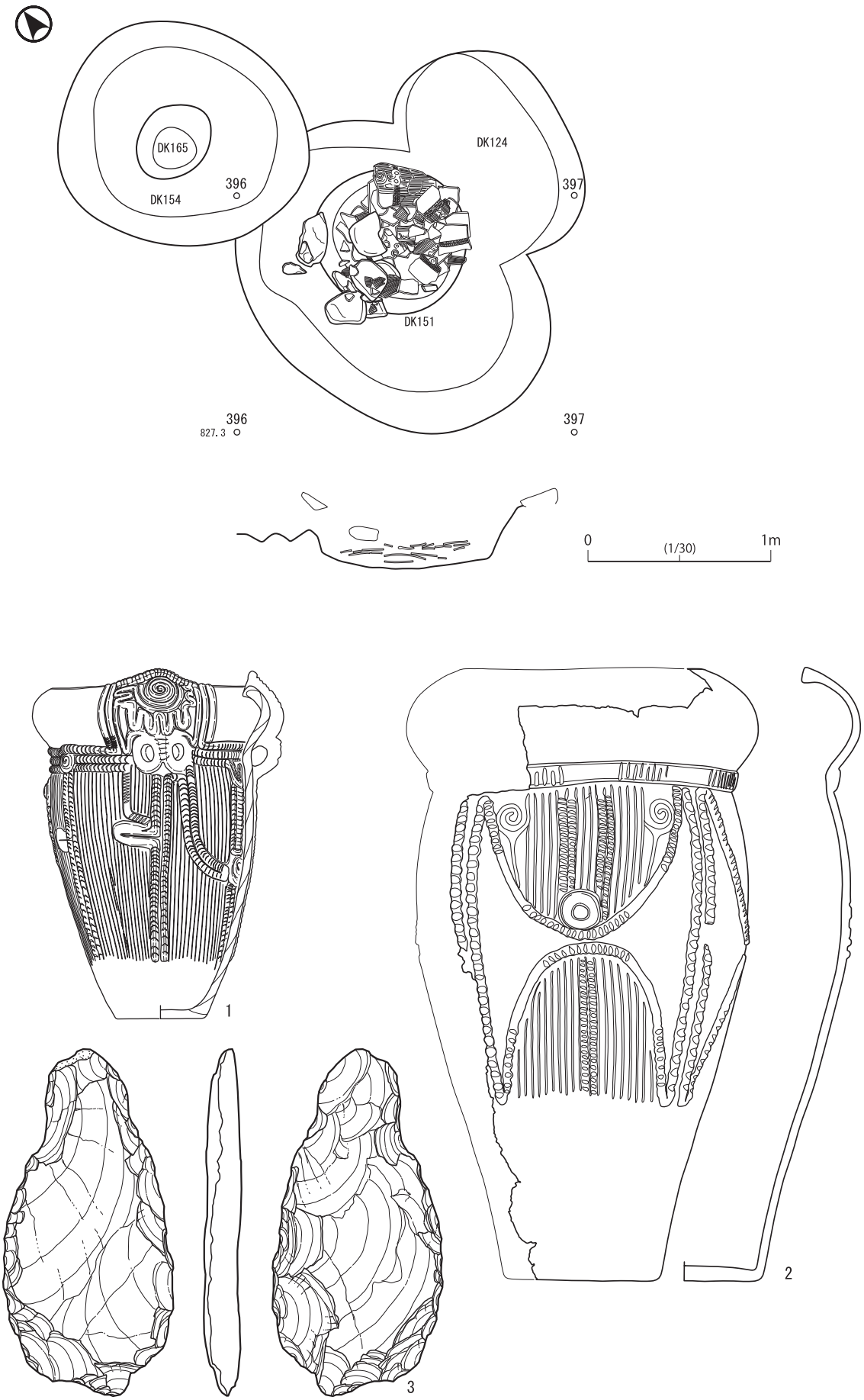


147号土坑



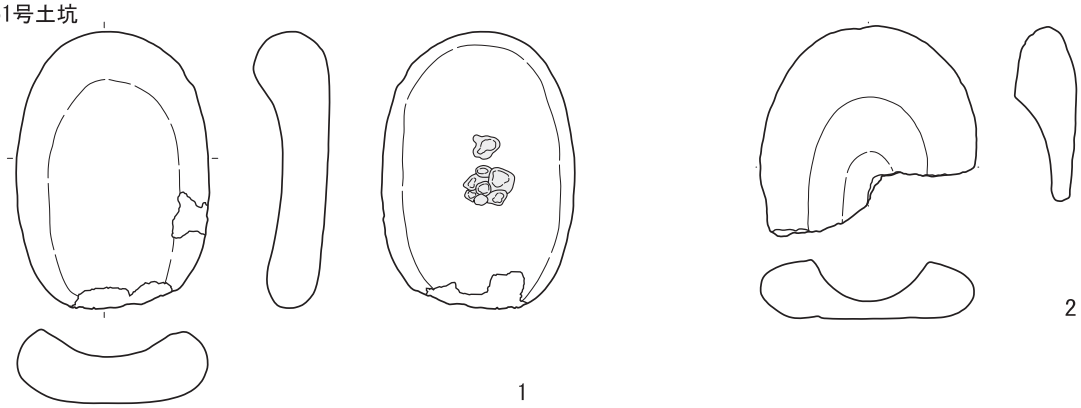
（トーン部は土擦痕）

第107図　137号・147号土坑、出土遺物（1は1/6、2は1/4、3は1/8、4は1/2）

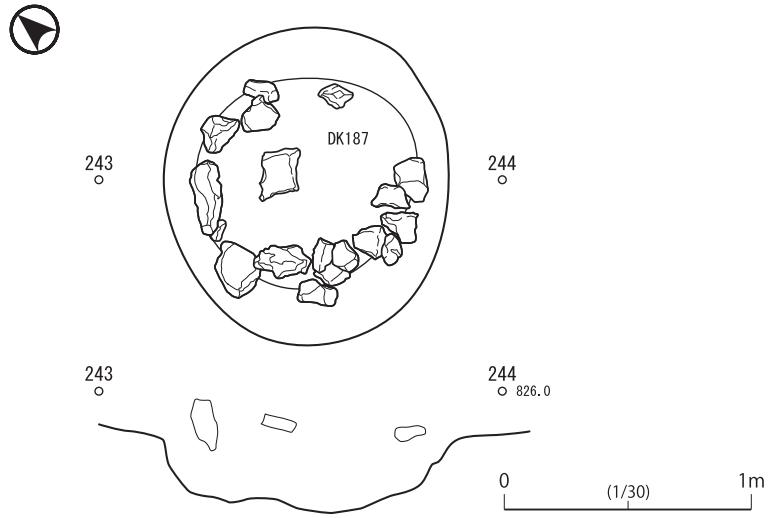


第 108 図　151 号土坑、出土遺物 (1/8、但し 3 は 1/2)

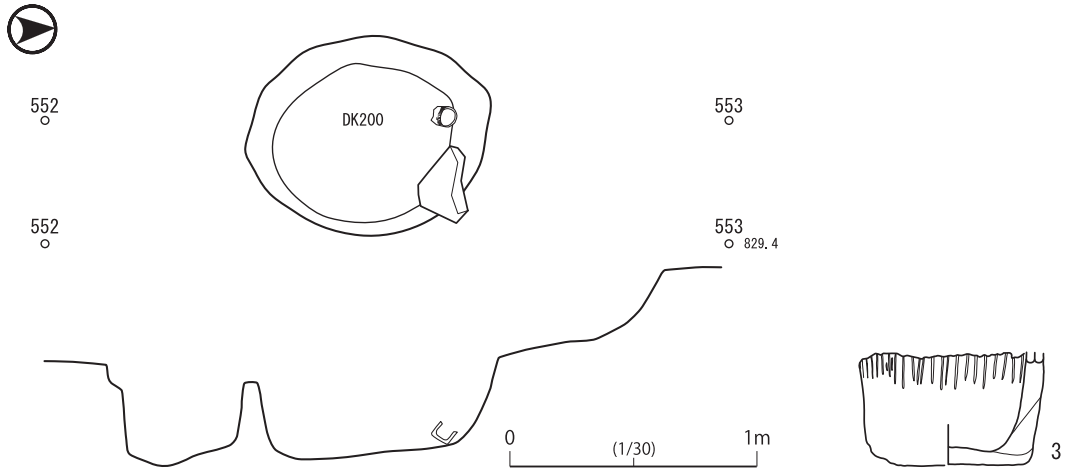
151号土坑



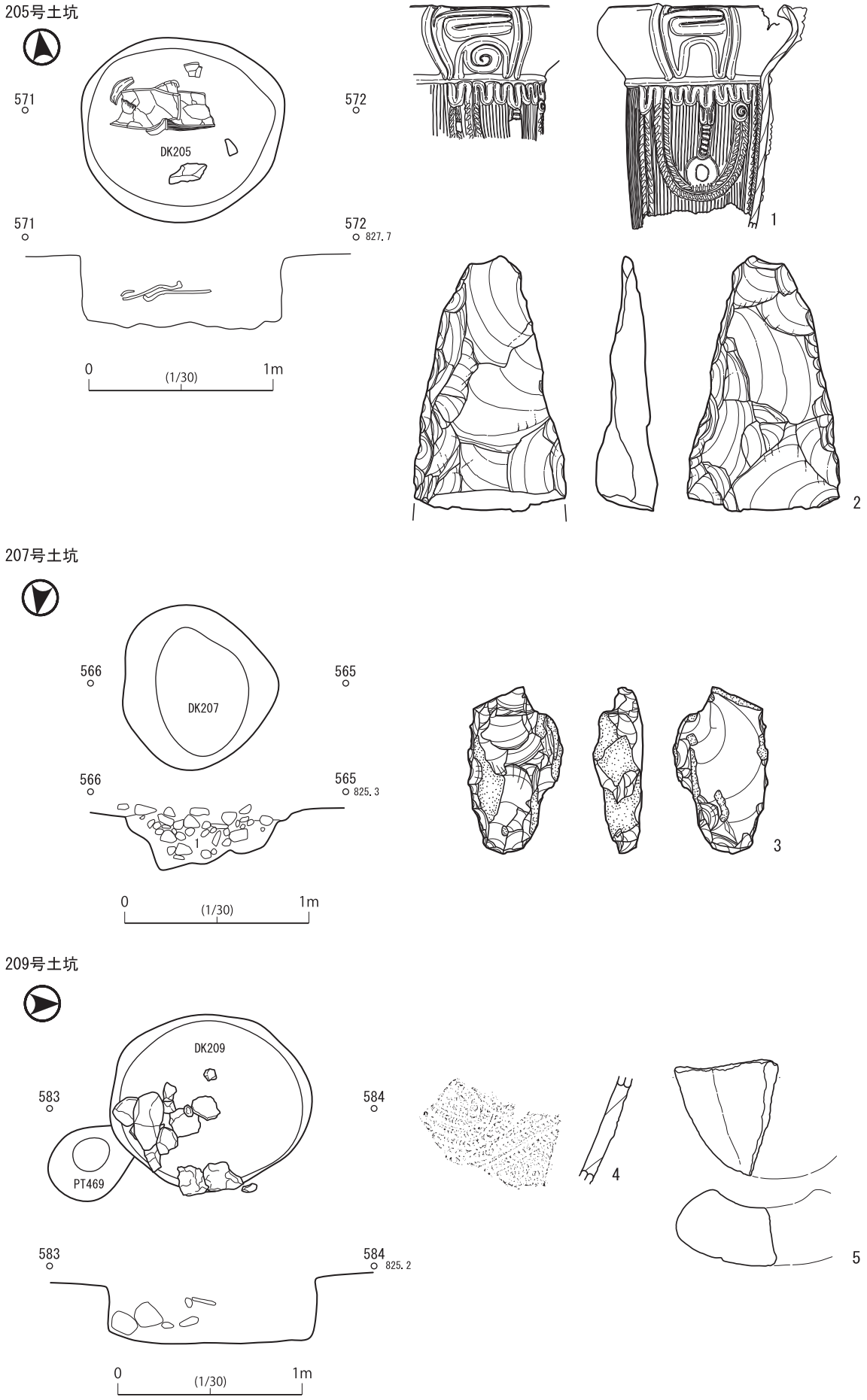
187号土坑



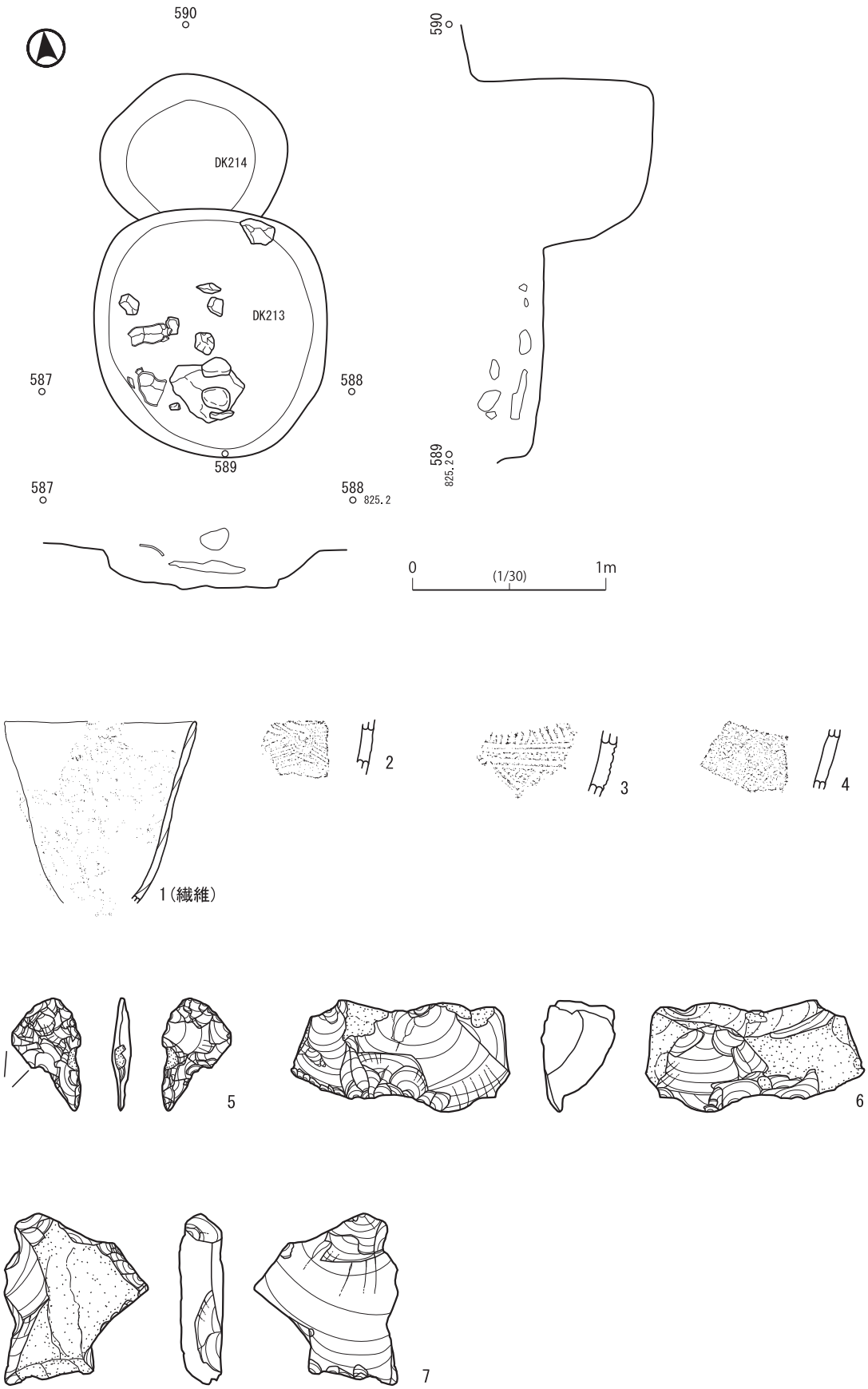
200号土坑



第109図　151号土坑出土遺物（1は1/4、2は1/8）、187号・200号土坑、出土遺物（1/4）

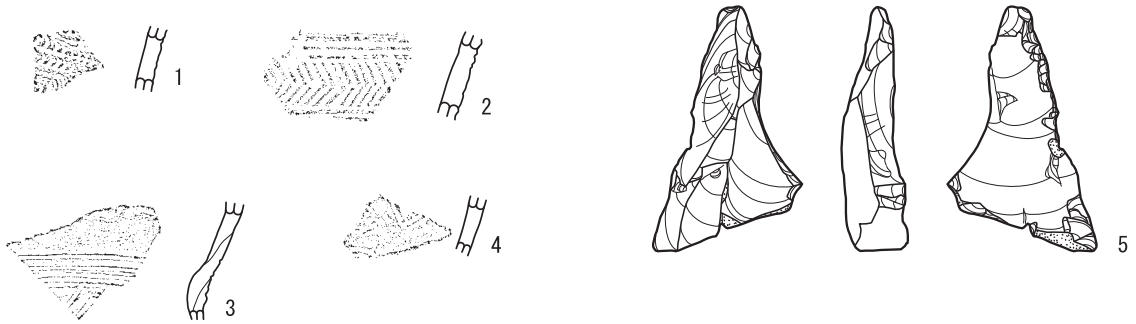


第 110 図　205 号・207 号・209 号土坑、出土遺物 (1/8、但し 2 は 1/2、3 は 1/1、4 は 1/4)

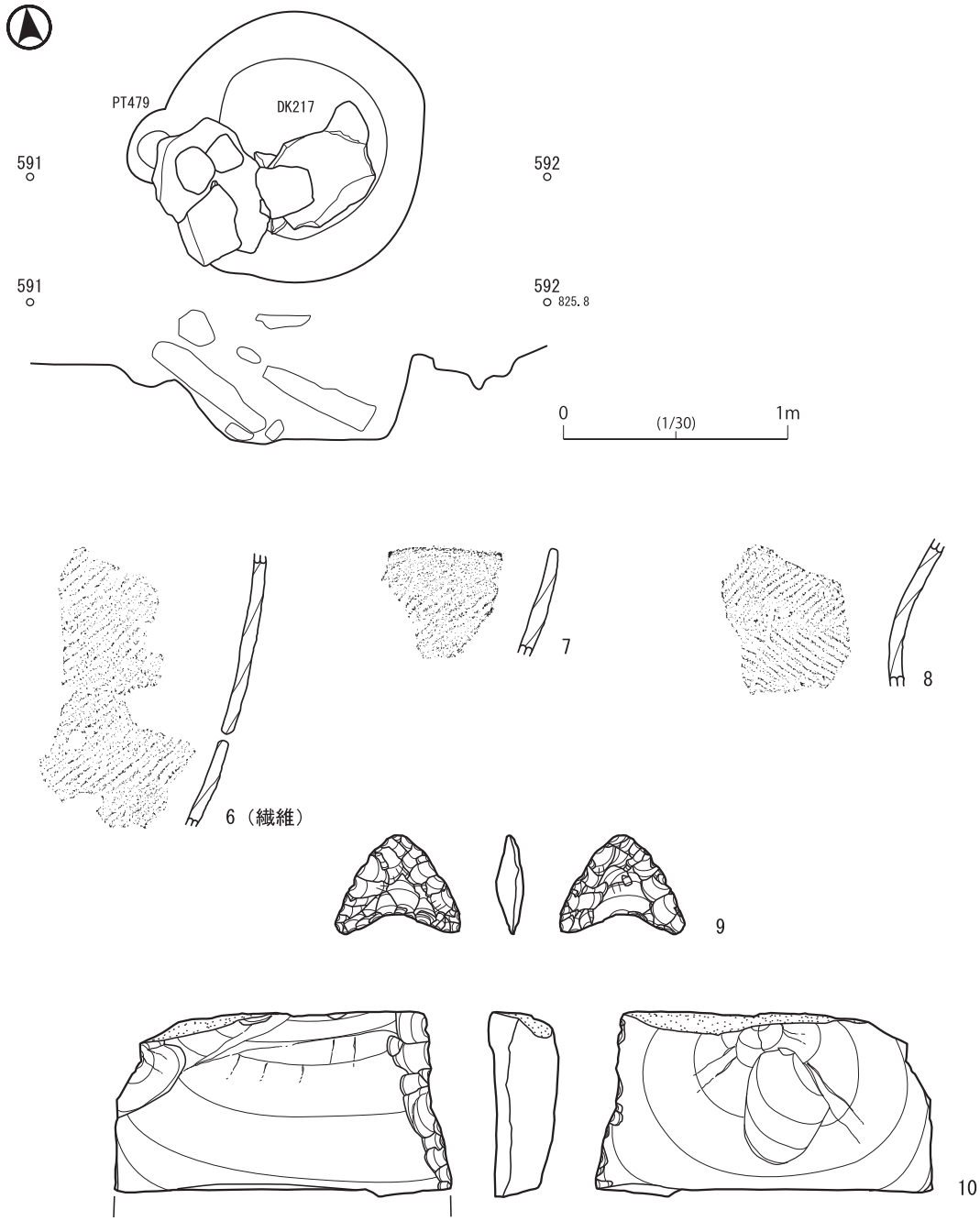


第 111 図　213 号・214 号土坑、213 号土坑出土遺物 (1 は 1/8、2 ～ 4 は 1/4、5 ～ 7 は 1/1)

214号土坑

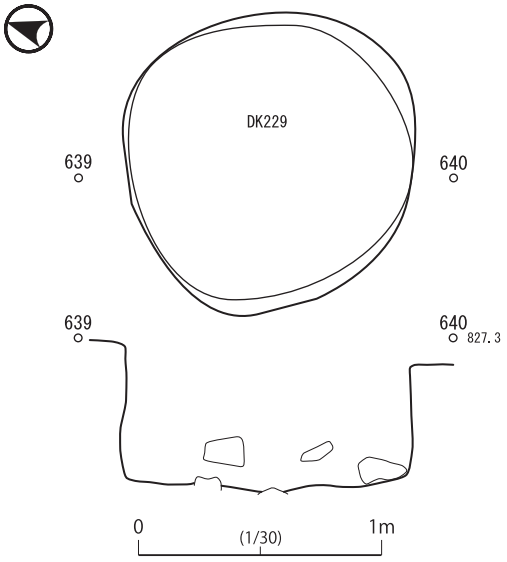


217号土坑

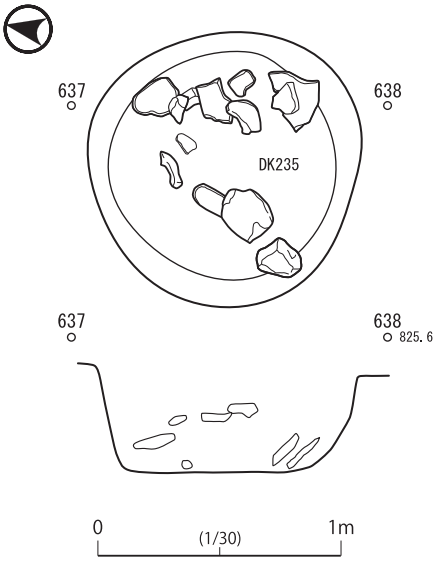


第112図　214号土坑出土遺物（1/4、但し5は1/1）、217号土坑、出土遺物（1/4、但し9・10は1/1）

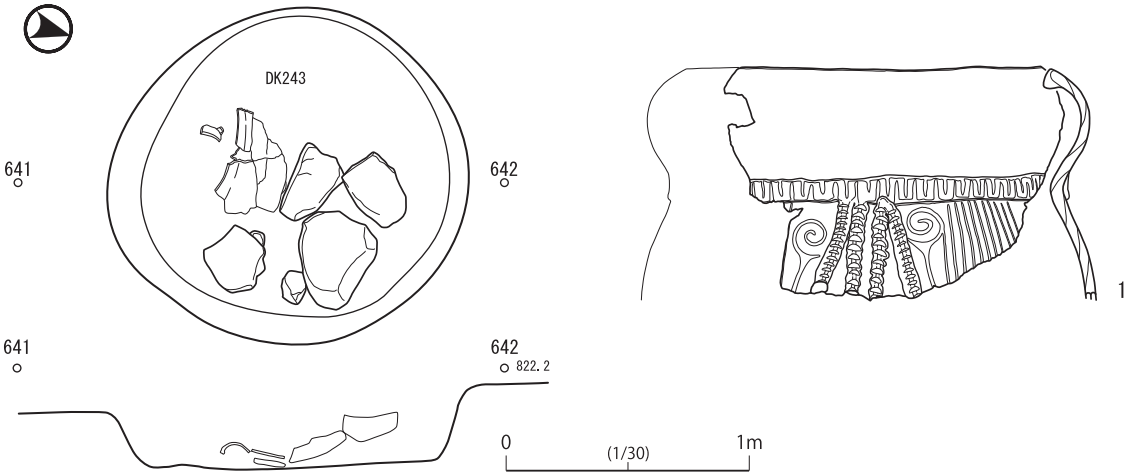
229号土坑



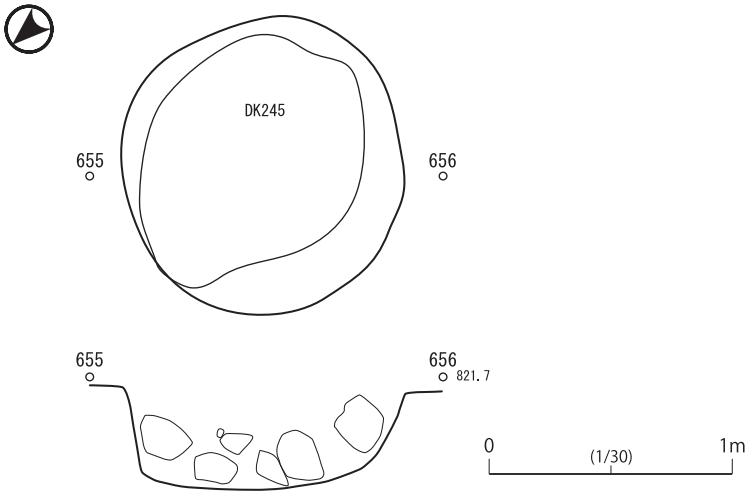
235号土坑



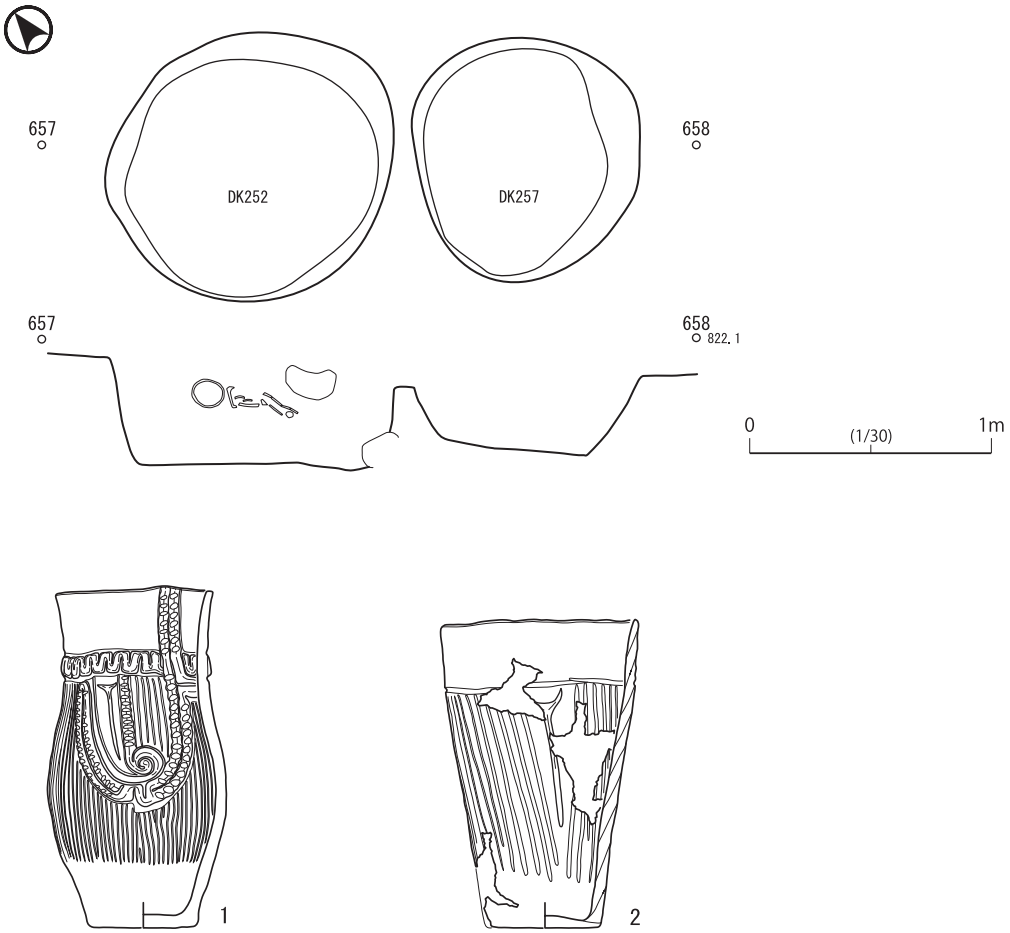
243号土坑



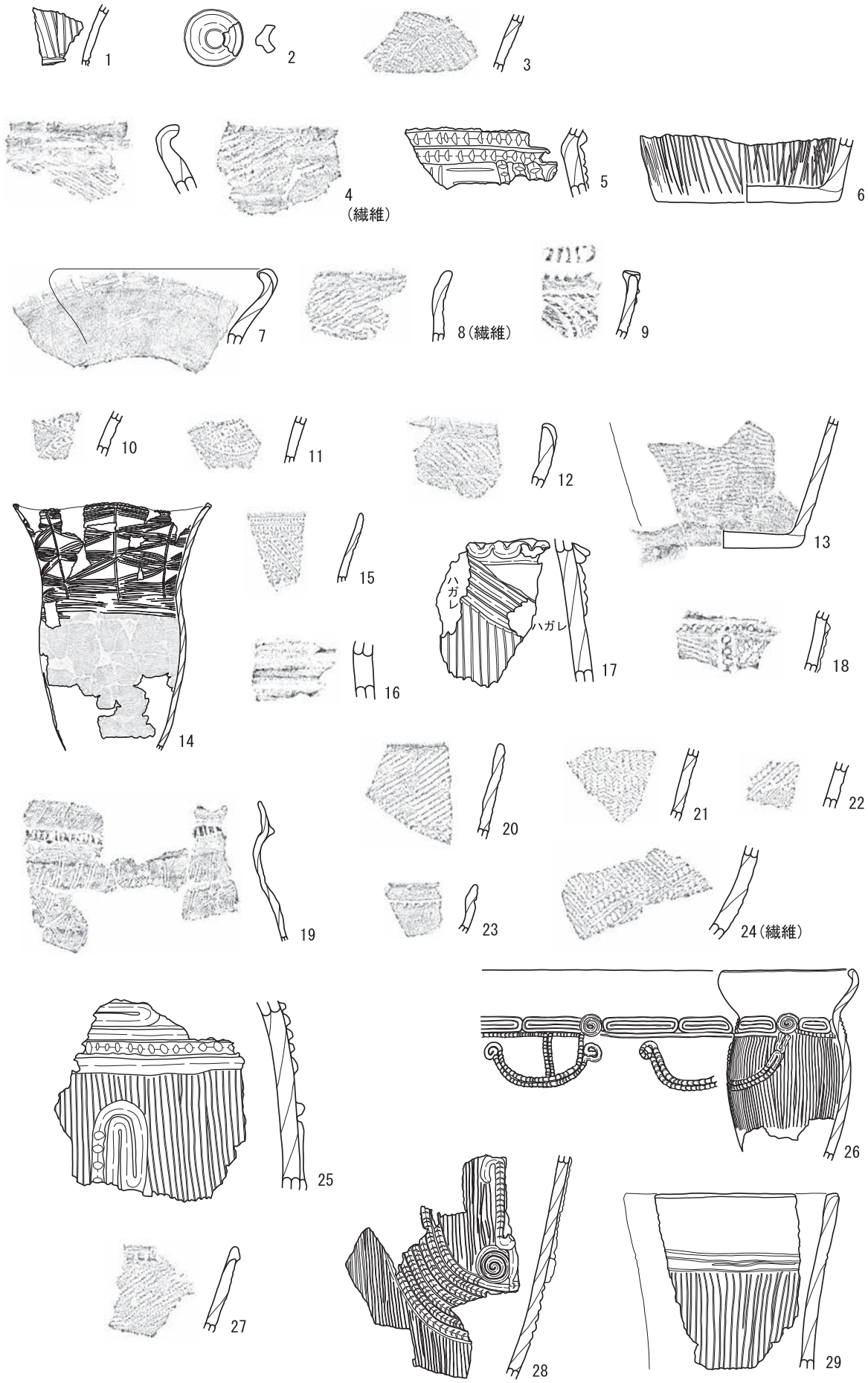
245号土坑



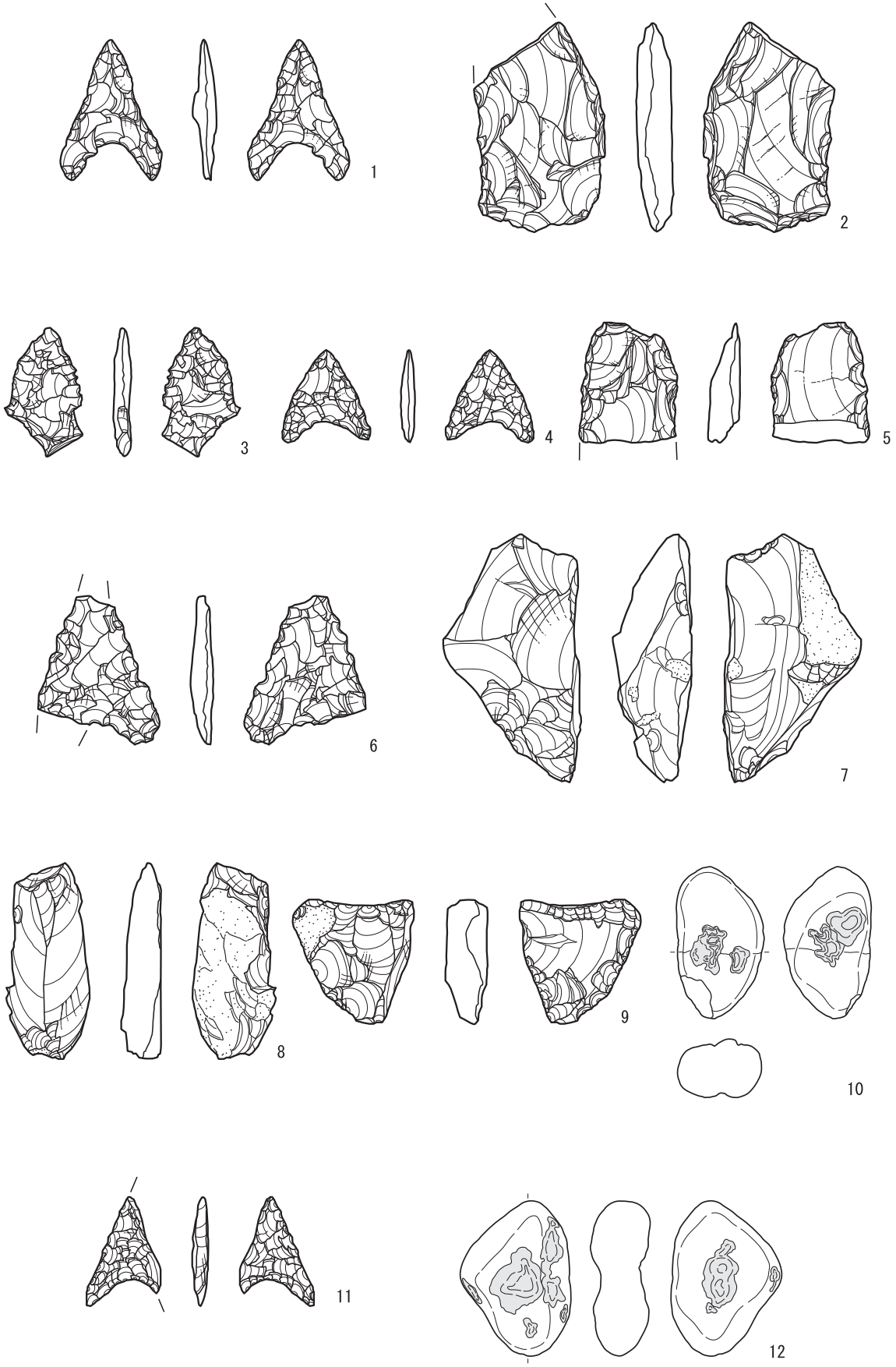
第 113 図　229 号・235 号・243 号・245 号土坑、出土遺物 (1/8)



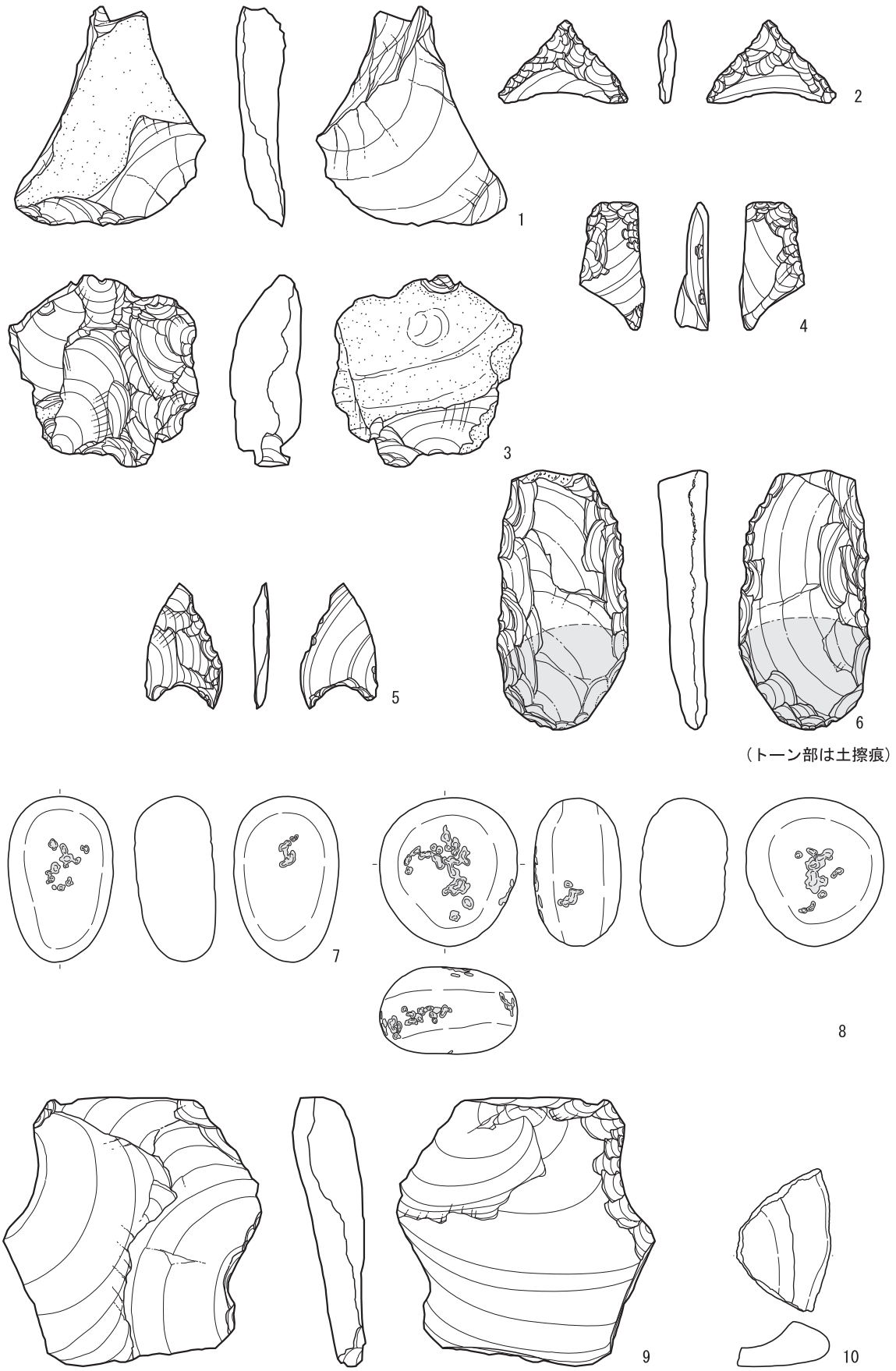
第 114 図　252 号土坑、出土遺物 (1/6)



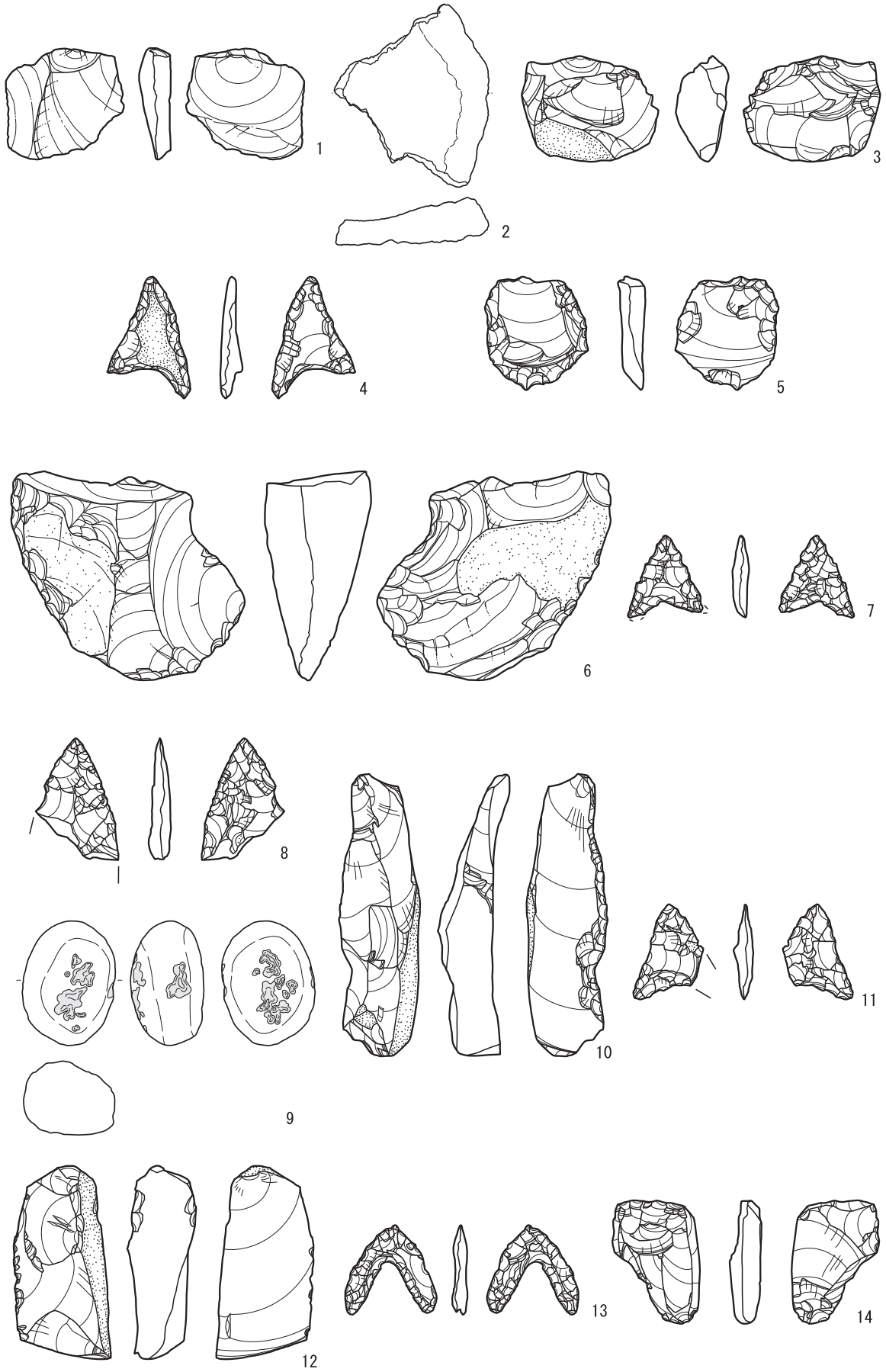
第 115 図　その他の土坑出土遺物(1)(1/4、但し 14 は 1/8、26・28 は 1/6)



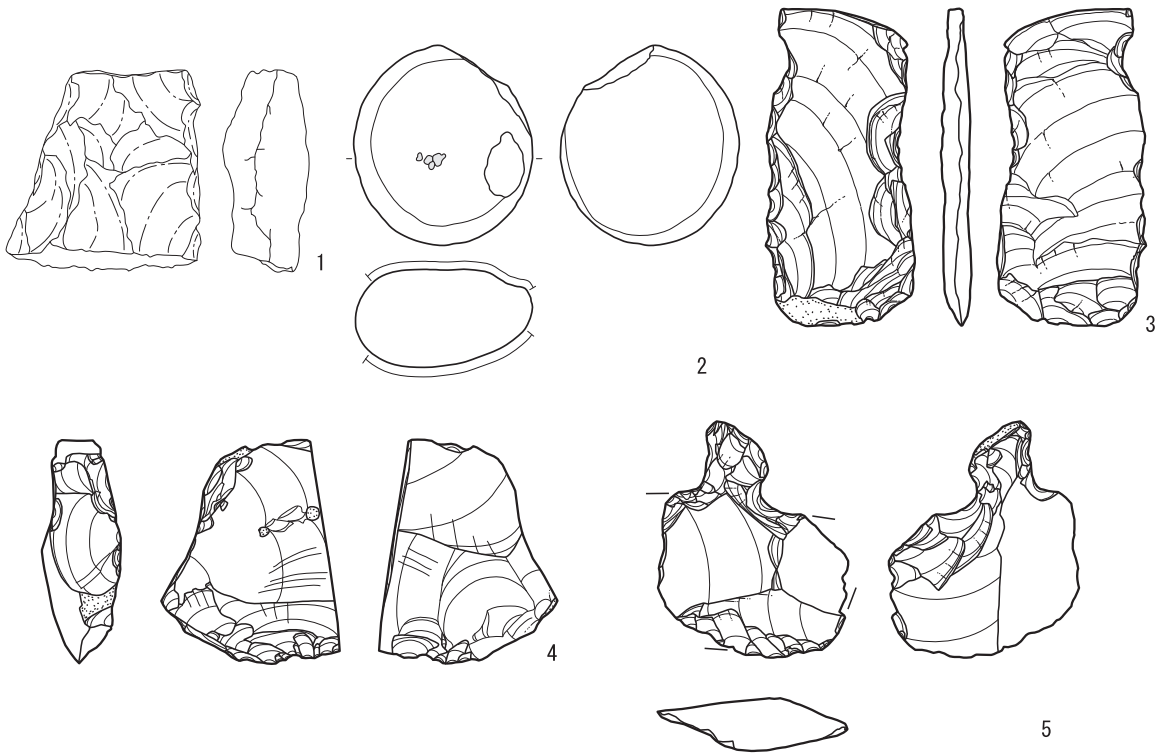
第 116 図　その他の土坑出土遺物(2)(1/1、但し 2・5 は 1/2、10・12 は 1/4)



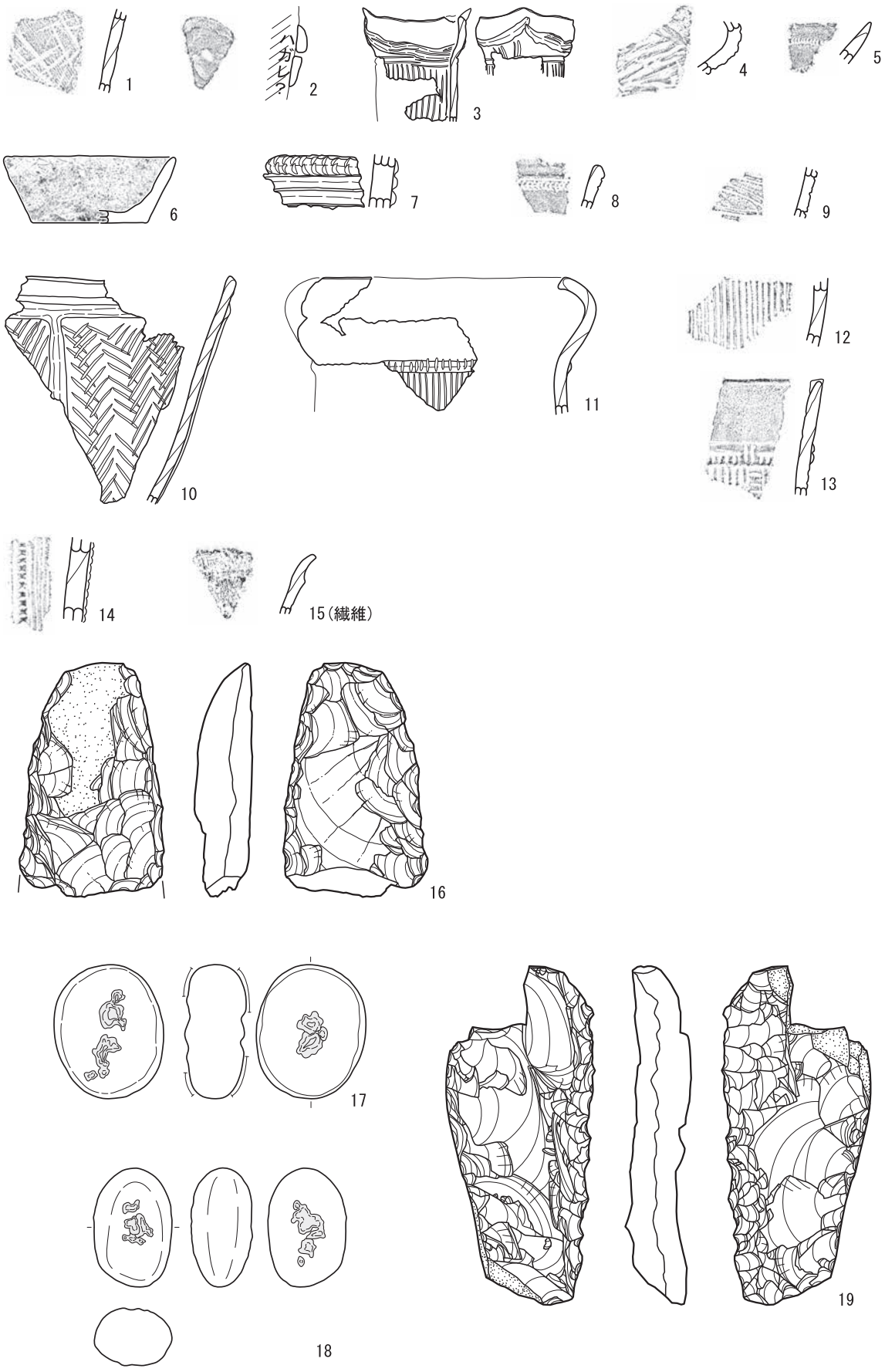
第 117 図　その他の土坑出土遺物(3)(1/1、但し 1・6 は 1/2、7・8 は 1/4、10 は 1/8)



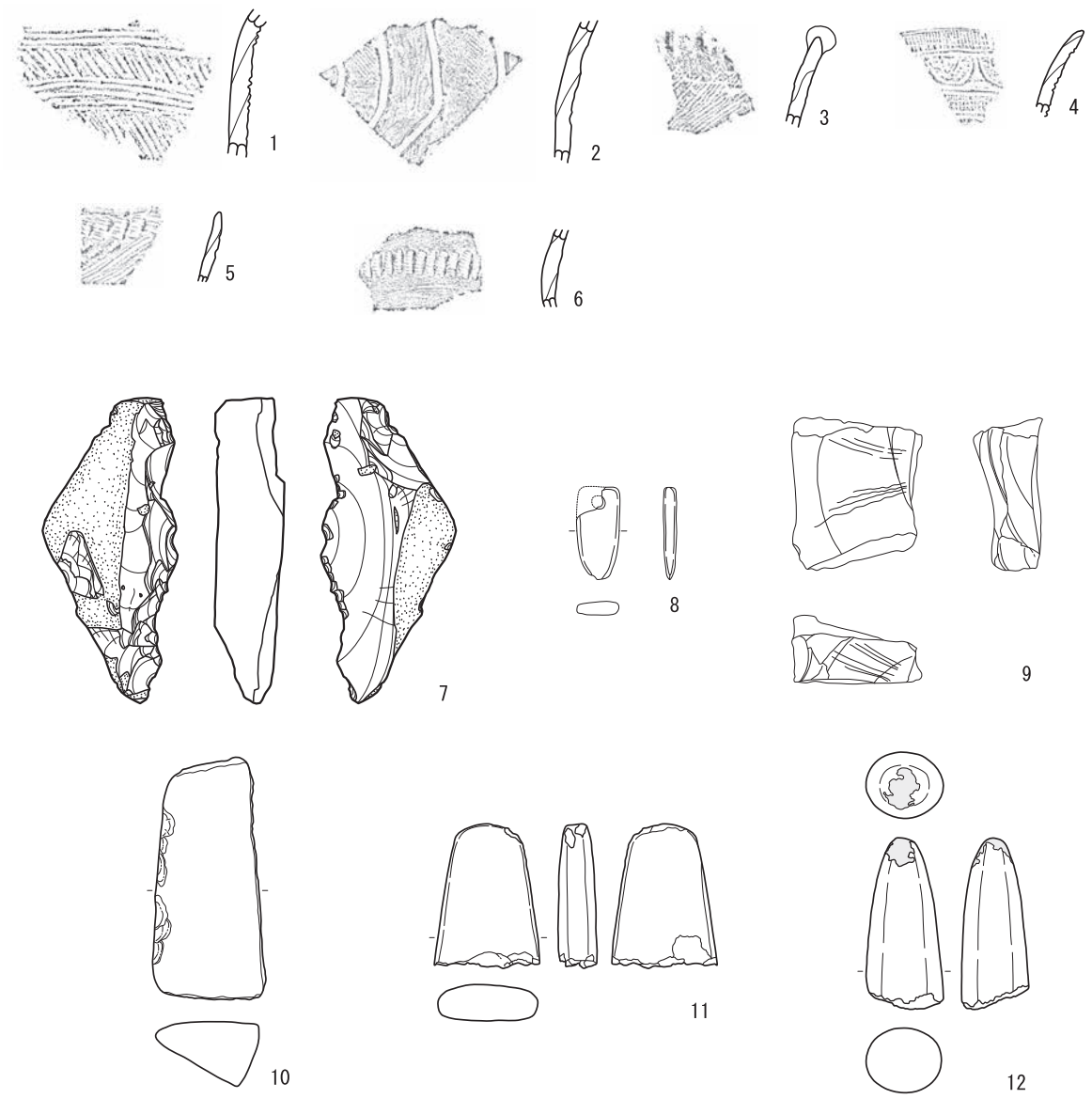
第 118 図　その他の土坑出土遺物(4)(1/1、但し 2 は 1/8、9 は 1/4)



第 119 図　その他の土坑出土遺物(5)(1・3 は 1/2、2 は 1/4、4・5 は 1/1)



第 120 図　ピット出土遺物（1/4、但し 10 は 1/6、16 は 1/2、19 は 1/1）



第 121 図　その他の遺構・試掘溝・遺構外出土遺物 (1/4、但し 7 は 1/1、8・9 は 1/2)

第 3 章　山崎第 4 遺跡出土石器の分析

株式会社アルカ　高橋　哲

第 1 節　対象資料と所見の記載方法

北杜市教育委員会より委託を受けた山崎第 4 遺跡の石器属性分析と観察所見を、以下に報告する。

分析対象としたのは、住居・土坑・ピットおよび遺構外から出土した剥片石器資料 698 点である。さらにその中から、時期が明瞭な 280 点を選別し図化した。属性表には非図化資料 418 点を含め、器種・石材・刃部加工と成形・整形加工を記入し、特記事項については所見に記述した。確認された器種は、石鏃、尖頭器、石錐、石匙、削器、使用痕剥片、石篦、両面加工石器、掻器、打製石斧、両極石器、石器未製品、石器断片、剥片、石核、原石、垂飾品である。小型剥片の内、押圧剥離による平坦剥離がみられる場合は、石鏃と認定し、所見に未製品と記載した。石匙は、明瞭な摘み部を有する石器である。縦形と横形石匙に大きく分かれる。不整形な摘み部が作出されていると判断した場合、粗製石匙として分類した。非常に小さな場合はミニチュア石匙とした。削器は連続的な加工で刃部が作出されている石器であるが、刃部が素材の鋭い辺で、微小剥離痕があり、加工が器体の整形の場合は、素刃削器とした。使用痕剥片は、微小剥離痕がみられ、加工が無い剥片である。微小剥離痕が顕著でない場合は剥片とした。両面加工石器は、正反方向の加工で全体を整形し、器種が特定できない場合を指す。両極石器は、第 1 表では統一して記載してあるが、属性表ではポジ面が残されている場合は両極剥片とした。加工がみられるが、形状が不明瞭な場合は石器未製品と分類した。

なお、土坑から出土した石器は表 3 のとおりである。特定の土坑に器種が偏る傾向は窺われなかった。

第 2 節　使用痕分析

【33 号住居跡】

33 号住居跡は中越式期の住居である。この住居から出土した剥片石器は、石鏃・石錐・石匙・削器・使用痕剥片・両極石器・剥片・石核である。

図版 1-1（第 2 章第 87 図 1、以下カッコ内は第 2 章の図版番号を示す）は、使用痕剥片である。左辺に微小剥離痕（写真 1）がみられる。高倍率下では、それほど顕著でないが、線状痕がみられる（写真 2、3）。ただし方向に一定性がなく、使用によって生じたかは判断できない。図版 1-2（第 84 図 4）は、削器である。両側辺に肉眼でも顕著な摩滅がみられる（写真 4、5）。高倍率下では黒曜石ガラス質本来の面が失せている（写真 6）。写真 7 はその境界部分であり、摩滅した部分とガラス質部分の差が明瞭にみられる。被加工物は、硬いもの、もしくは顕著な研磨を発生させる被加工物が想定される。線状痕は平行方向であるので、切断する操作が考えられる。図版 1-3（第 84 図 4）は、横形石匙である。反方向からの押圧剥離で刃部を整形し、縁辺には微小剥離痕がみられる（写真 8、9）。高倍率下では光沢と摩滅がみられた（写真 10、11、12）。顕著な摩滅でないので、被加工物はそれほど硬くないと思われる。図版 1-4（第 84 図 1）と 5（第 83 図 9）は、削器である。押圧剥離で刃部を整形し縁辺には微小剥離痕がみられる（写真 13、14）。質の粗い石材のため、高倍率下では使用痕は確認できなかった。

縄文時代前期前半が主体の住居（表 1）からは、石鏃が比較的多く、これに石匙・削器・使用痕が加わる。打製石斧の出土はほとんどない。石材（表 2）は黒曜石が大半で、石鏃に結びつく。頁岩・凝灰岩は比較的質の粗くないものが用いられている。

【1 号住居跡】

1 号住居跡は諸磯 a ～ b2 式期の住居である。この住居から出土した剥片石器は、石鏃・尖頭器・石錐・石匙・削器・使用痕剥片・石篦・両極石器・石器未製品・剥片・石核である。

図版 2-1（第 12 図 2）は、小型の横形石匙である。刃部は両面加工で、摘み部は急角度に加工している。刃部に平行方向の線状痕がみられる（写真 3）。2（第 11 図 7）は、両面加工石器である。押圧剥離と思わ

れる加工で刃部・形態が整形されている（写真 4、5）。形状から石篦と思われる。高倍率下では使用痕は確認できなかった。縁辺に微小剥離痕が顕著でないので、未使用もしくは製作途中であった可能性もある。3（第 12 図 3）は、粗製の石匙である。急角度の加工で不整の摘みが左辺に作出されている。加工のない素刃の刃部で、微小剥離痕も顕著でない。また刃部に平行方向の線状痕がみられるが（写真 6）、表面にはみられない（写真 7）。ここから比較的柔らかい被加工物を切断した用途が窺える。

諸磯式期が主体の住居からは、石鏃が比較的多く、これに石匙・削器・使用痕剥片が加わる（表 1）。また打製石斧の出土はみられなかった。石材（表 2）は黒曜石が大半で、石鏃に結びつく。頁岩・凝灰岩は比較的質の粗くないものが用いられている。

【17 号住居跡】

17 号住居跡は曽利Ⅰ・Ⅱ式期の住居である。この住居から出土した剥片石器は、石鏃・石匙・削器・使用痕剥片・打製石斧・両極石器・石器未製品・剥片・石核である。

図版 3-1（第 47 図 8）は、使用痕剥片である。刃部に平行方向の線状痕がみられる（写真 1）。図版 3-2（第 45 図 1）は、削器である。反方向からの押圧剥離で刃部を整形している（写真 2）。高倍率下では使用痕は確認できなかった（写真 3）。図版 3-3（第 45 図 4）は、削器である。押圧剥離で鋸歯状の刃部を整形している。高倍率下では光沢と摩滅が確認できた（写真 4）。表面にはこうした光沢などはみられなかった（写真 5）。図版 4-1（第 46 図 1）の打製石斧には、土擦痕が確認できた（写真 6）。図版 4-2（第 45 図 10）は、粗製石材の縦形石匙である。素刃であり、微小剥離痕がみられる（写真 7）。図版 4-3（第 45 図 11）は、粗製石材の横形石匙である。不明瞭な摘み部が作出されている。刃部は反方向からの押圧剥離で鋸歯状の刃部を整形している（写真 8）。図版 4-4（第 44 図 17）と 5（第 45 図 2）は、粗製石材の削器である。刃部は正反方向からの加工で整形している（写真 9、10）。ハードハンマーによる加工と思われ、部分的に刃部は鋸歯状を呈す。図版 4 の粗製石材製石器には高倍率では使用痕は確認できなかった。

縄文時代中期が主体の住居からは、石鏃の占める割合が前期に比較して減少する（表 1）。また削器・使用痕剥片の他に、打製石斧が加わる。ちなみに本遺跡で分析対象とした打製石斧全 45 点は、縄文時代前期前半の資料 3 点を除くと、残りすべてが中期に属する。45 点中 12 点は刃部が欠損しており、7 点の打製石斧に土擦痕が確認できた。1 点は図版 4 の資料、他に中越式～諸磯 a 式期の PJ31 出土資料が 1 点（非図化）、それ以外は遺構外の出土である。石材（表 2）は黒曜石が大半であるが、前期と比較すると器種は減少し、かわりにホルンフェルスなどの粗製石材製石器が多くなる。

【その他】

図版 5-1（4 号住居跡出土、非図化）は、黒曜石製の横形石匙である。刃部は両面加工である（写真 1、2）。高倍率下では刃部に対して平行方向の線状痕が顕著にみられる（写真 3）。両面摘み部の稜に摩滅が確認できた（写真 4）。紐擦れ痕であろう。図版 6-1（遺構外出土、非図化）は、黒曜石製の横形石匙である。刃部は両面加工である（写真 6、7）。高倍率下では刃部に対して平行方向の線状痕が顕著にみられる（写真 5）。黒曜石製石器には使用痕観察した限り、光沢は確認できず、刃部に平行方向の線状痕が確認できたのみである。図版 6-2（31 号住居跡出土、非図化）は、チャート製の横形石匙である。刃部は片面加工である（写真 8）。高倍率下では、刃部に明るく、縁辺に限定して広がる丸みを持たない光沢がみられる。D1 タイプ光沢と思われるが、あまり発達していない。光沢に伴い摩滅が確認できた（写真 9、10、11）。表面には、こうした光沢などは確認できなかった（写真 12）。図版 6-3（第 49 図 3）は、掻器である。基部は直接打撃で整形している。刃部は微小剥離痕である（写真 13）。刃部に対して直交方向の線状痕が顕著にみられ、摩滅が確認できた（写真 14）。線状痕は刃部に対して直交方向であるので、何らかの対象を掻き取る操作が想定される。他の縁辺には、部分的に光沢はあるものの摩滅はみられず（写真 15）、使用によるものとは思われない。図版 7-1（39 号住居跡出土、非図化）は、黒曜石製の使用痕剥片である。刃部に対して平行方向の線状痕が顕著にみられる（写真 17、18）。しかし写真 16 の部位には顕著でないので、写真 17、18 の部位が主たる刃

部であったと思われる。使用痕剥片の中で、肉眼でもはっきりと摩滅が確認できたのはこの資料である。図版 7-2（13 号住居跡出土、非図化）は、石箆である。押圧剥離で基部を整形している（写真 19、20、21）。全体に片面加工であるが、基部尖端の尖頭部は両面加工である。刃部は素材打面側にあり、大きな剥離があるが、素材打面を除去するためと思われる（写真 22）。刃部には微小剥離痕がみられる（写真 22）。高倍率下では使用痕は確認できなかった。この資料が出土した 13 号住居跡は曽利Ⅴ式期に比定され、剥片石器は、石鏃・石錐・削器・使用痕剥片・打製石斧・両極石器・石器未製品・剥片石核が出土している。石鏃 9 点の内、1 点は図版 7-4（13 号住居跡出土、非図化）の有茎鏃である。図版 7-3（34 号住居跡出土、非図化）は、凝灰岩製の大型石鏃である。細かな鋸歯状加工がみられる（写真 23、24、25）。他に黒曜石製石器の中に、数点鋸歯縁の石鏃が確認されている。また曽利Ⅰ式期に比定される 21 号住居跡から、図版 7-5（第 56 図 2）の滑石製の耳飾りが出土している。全面研磨で整形している。

参考文献

阿子島香　1981 「マイクロフレイキングの実験的研究(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その 1)」『考古学雑誌』第 66 巻第 4 号　1-27 頁

阿子島香　1989 『石器の使用痕』考古学ライブラリー 56　ニュー・サイエンス社

阿子島香・梶原洋　1984 「石器の使用痕分析と客観化(東北大学使用痕研究チームによる研究報告その 5)」『考古学ジャーナル』227 号　12-17 頁

角張淳一　1998 「石器研究についての感想」『東京考古』16　135-165 頁

角張淳一　2000 「続・石器研究についての感想」『東京考古』18　46-70 頁

角張淳一　2002 「石器研究の展望」『利根川』23　1-14 頁

角張淳一　2003 「剥片剥離技術の検討および石器実測図の評価」『平成 14 年度　愛知県埋蔵文化財センター年報』愛知県埋蔵文化財センター　pp. 78-84

角張淳一　2007a 「石器の製作」『考古学ハンドブック』親書館　104-105 頁

角張淳一　2007b 「先土器時代石器技法論」『列島の考古学Ⅱ　渡辺誠先生古希記念論文集』 263-276 頁

梶原洋・阿子島香　1981 「頁岩製石器の実験使用痕研究-ポリッシュを中心とした機能推定の試み-（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その 2)」『考古学雑誌』第 67 巻第 1 号　1-35 頁

芹沢長介・梶原洋・阿子島香　1982 「実験使用痕研究とその可能性（東北大学使用痕研究チームによる研究報告その 4)」『考古学と自然科学』第 14 号　67-87 頁

高橋哲　2003 「使用痕実験報告と使用痕研究の課題」『アルカ研究論集』第 1 号　54-59 頁

高橋哲　2008 「押圧剥離実験報告－ネガ面の研究－」『宮城考古学』第 10 号　129-144 頁

高橋哲　2011 「不定形石器の使用痕・剥離面分析－石器の技術・機能形態学の統合試論」『考古学研究』第 58 号第 3 号　69-79 頁　考古学研究会

竹岡俊樹　1989 『石器研究法』言叢社

御堂島正　1982 「エッジ・ダメージの形成に関する実験的研究-変数としての刃角」『中部高地の考古学』Ⅱ　66-98 頁

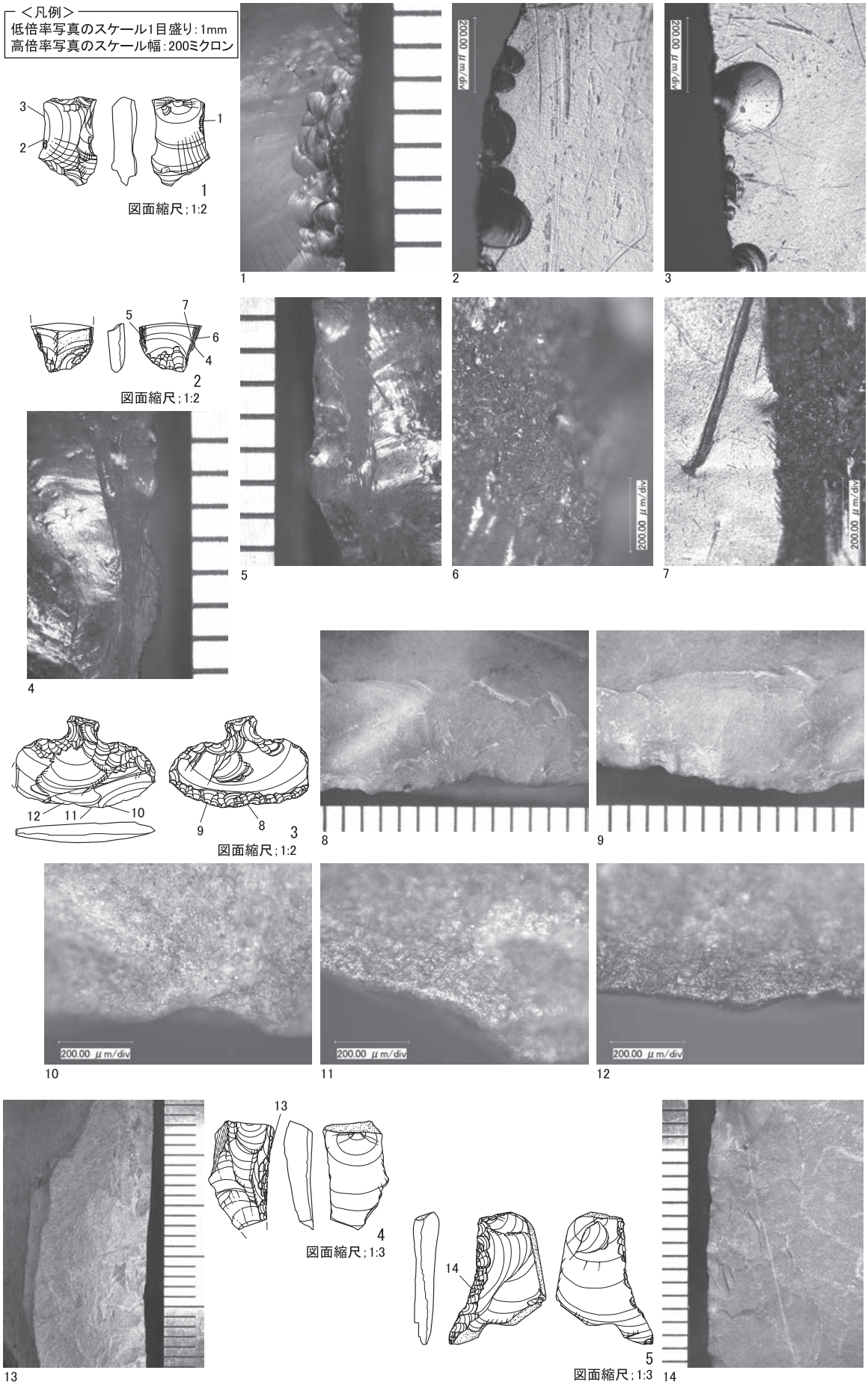
御堂島正　1986 「黒曜石製石器の使用痕－ポリッシュに関する実験的研究－」『神奈川考古』第 22 号　51-77 頁

御堂島正　1988 「使用痕と石材-チャート、サヌカイト、凝灰岩に形成されるポリッシュ-」『考古学雑誌』第 74 巻第 2 号　1-28 頁

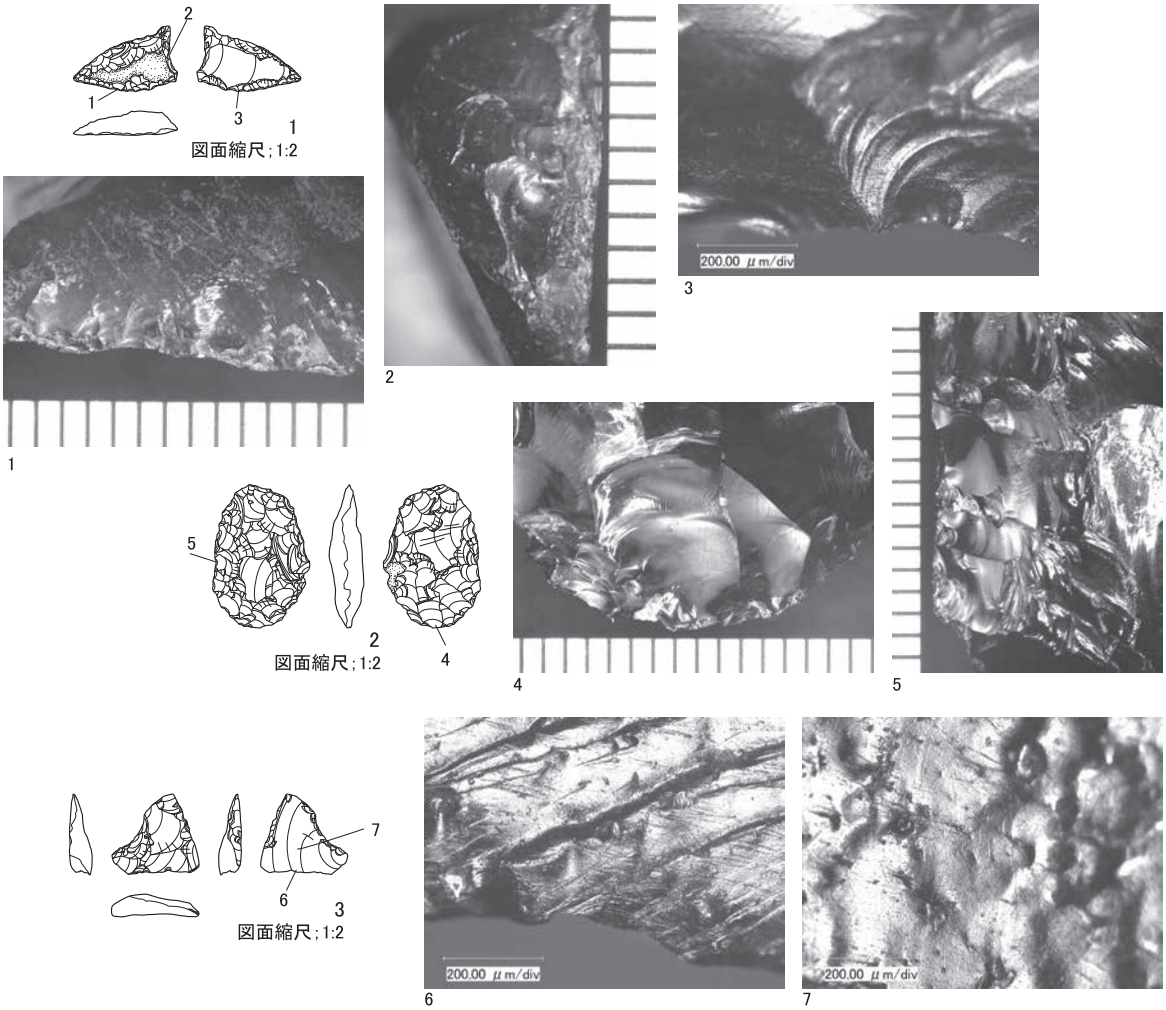
御堂島正　2005 『石器使用痕の研究』同成社

山田しょう・志村宗昭　1989a 「石器の破壊力学 (1)」『旧石器考古学』38　157-170 頁

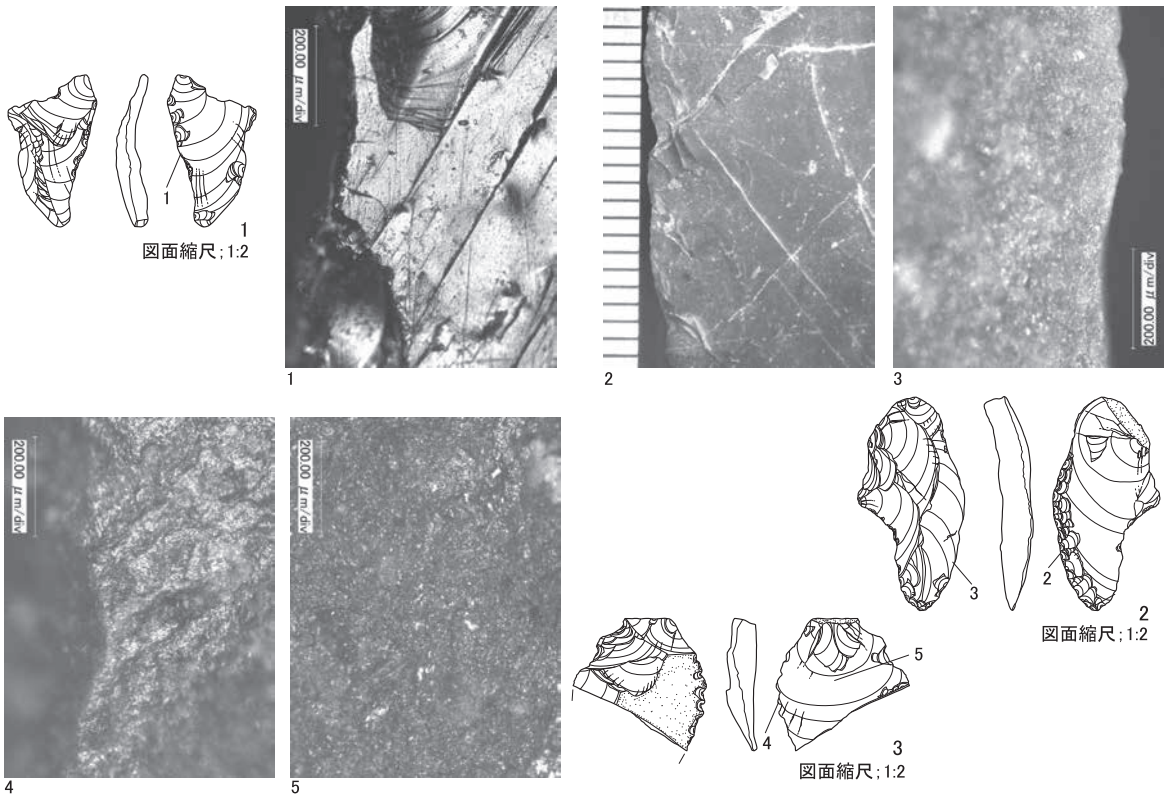
山田しょう・志村宗昭　1989b 「石器の破壊力学 (2)」『旧石器考古学』39　15-30 頁



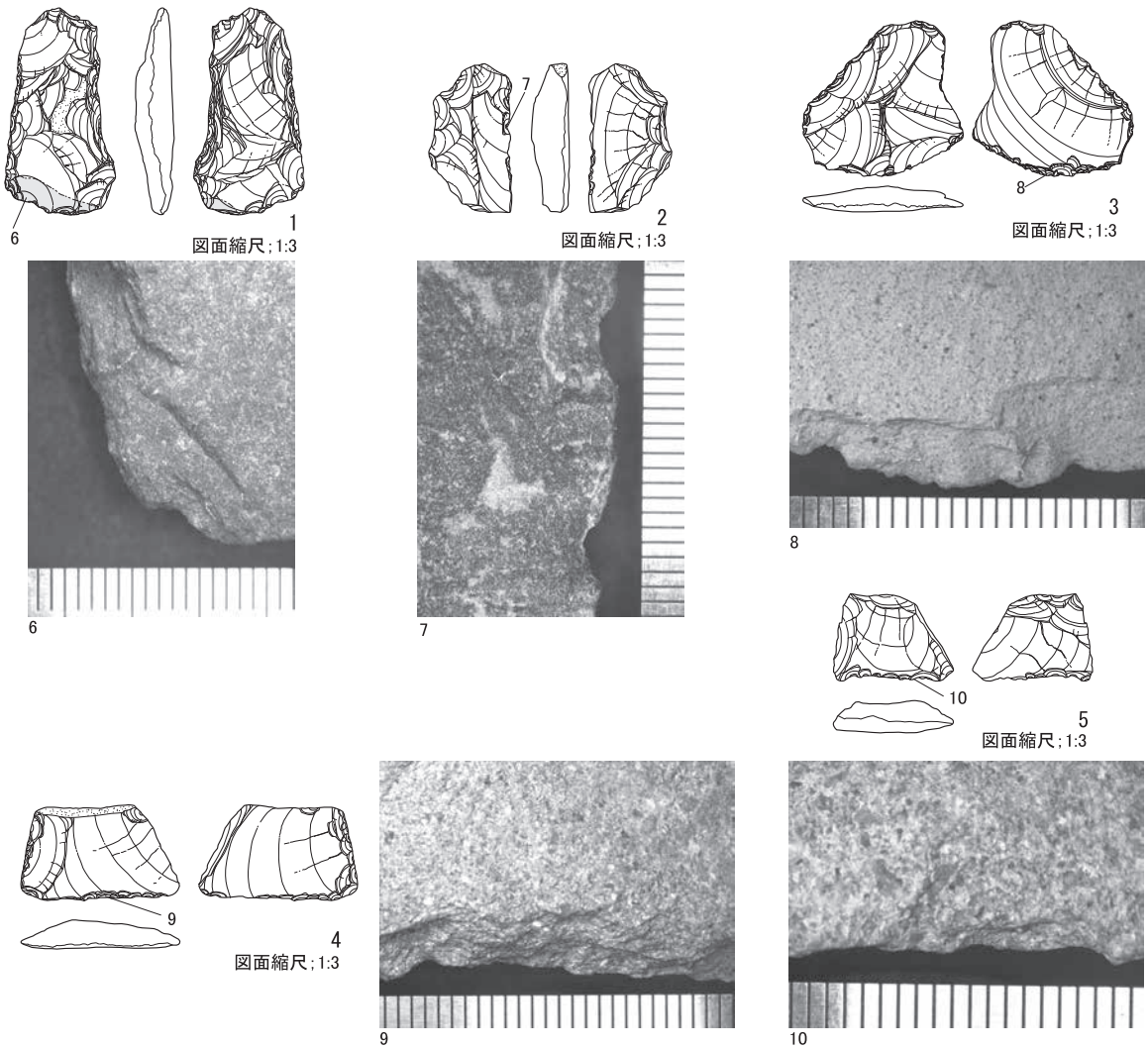
図版１　PJ33- 中越式期



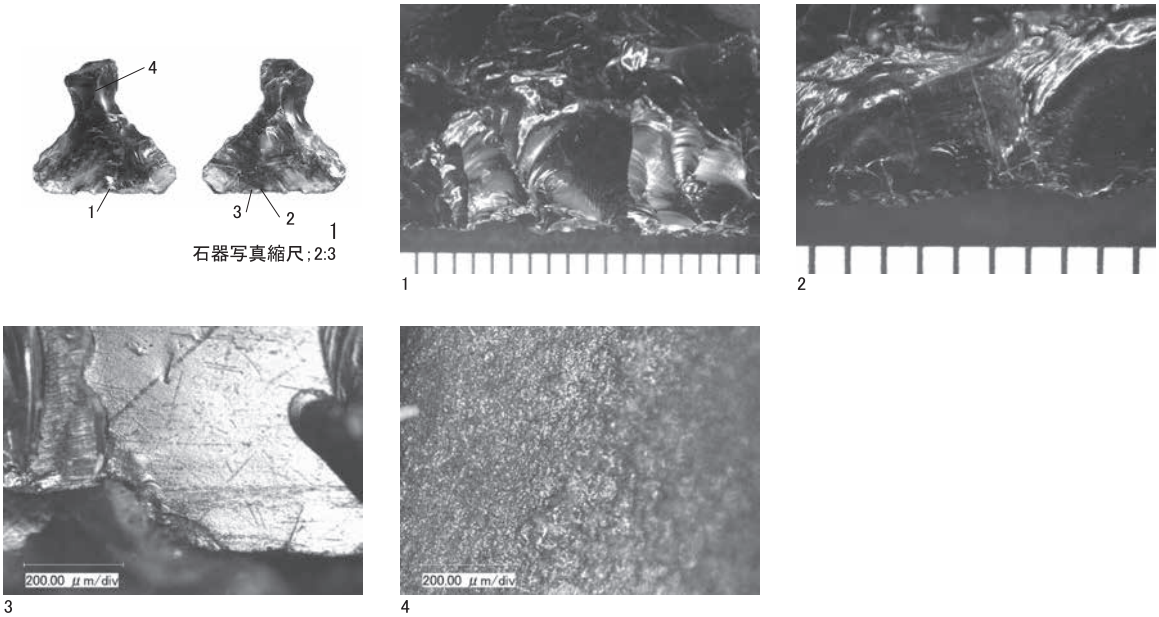
図版 2　PJ01- 諸磯 a から b2 式期



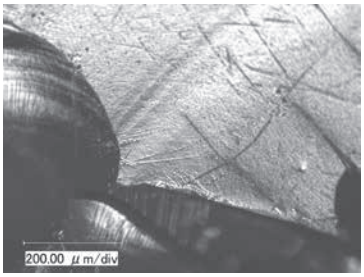
図版 3　PJ17- 曽利 I・II 式期 (1)



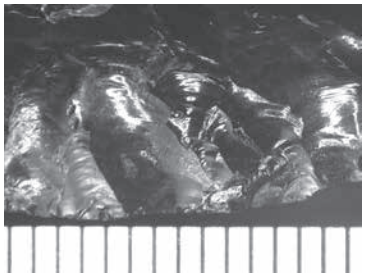
図版 4　PJ17- 曽利 I・II 式期 (2)

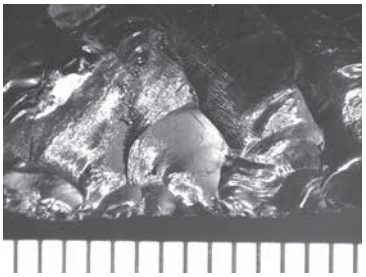


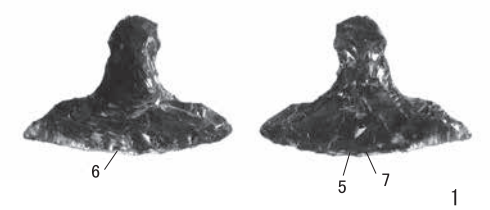
図版 5　その他 (1)



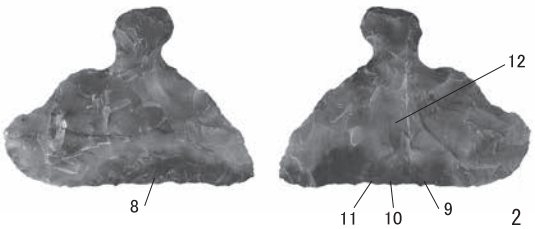
5


6

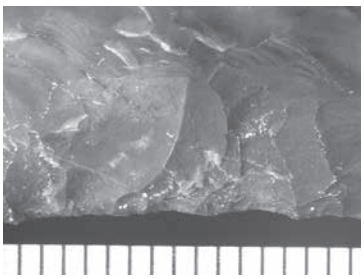

7

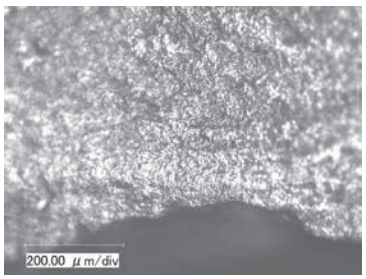


1
石器写真縮尺;2:3

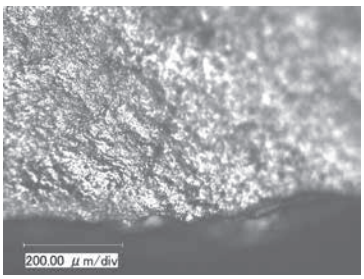


2
石器写真縮尺;2:3

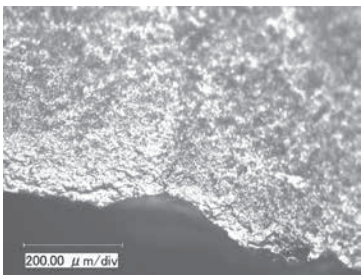

8



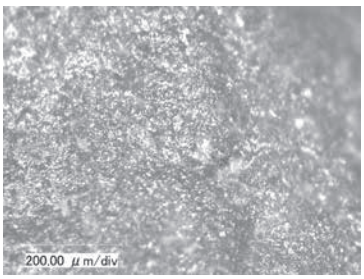
9



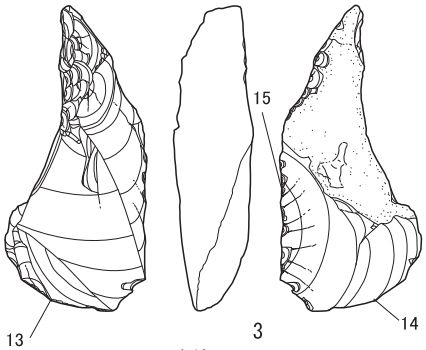
10



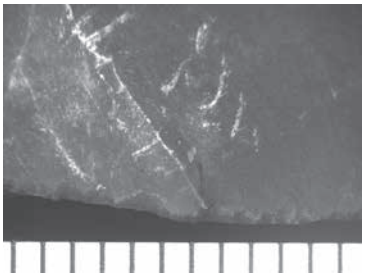
11

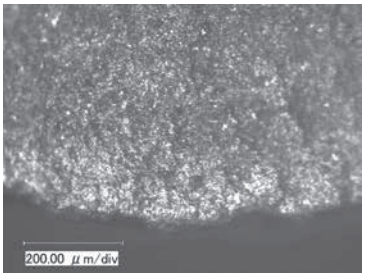


12

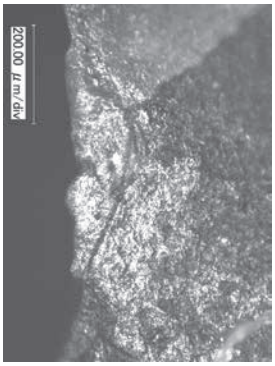


3
石器写真縮尺;2:3


13

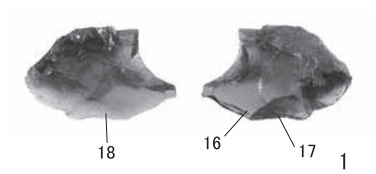


14

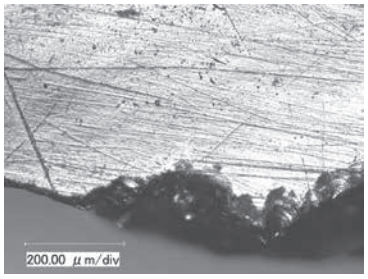


15

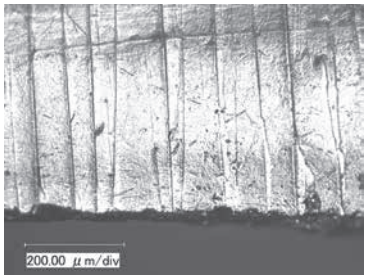
図版 6　その他 (2)



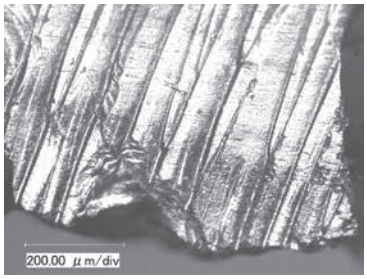
1
石器写真縮尺；2:3



18



16



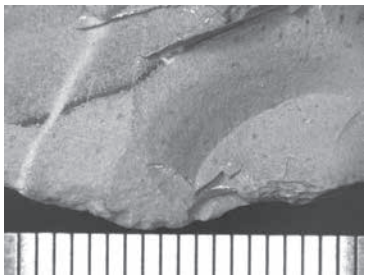
17

2
石器写真縮尺；2:3

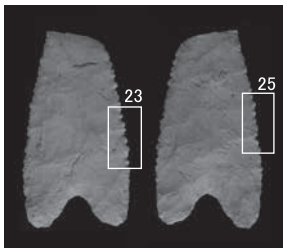
19

20

21

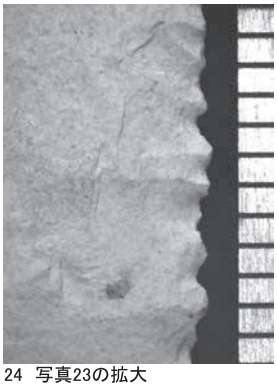


22

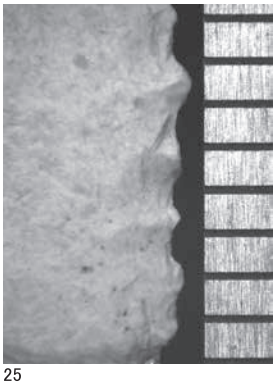


3
石器写真縮尺；2:3

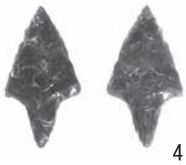
23



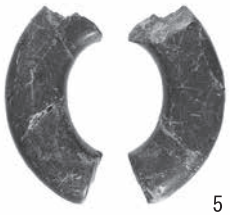
24 写真23の拡大



25



4
石器写真縮尺；2:3



5
石器写真縮尺；2:3

図版７　その他 (3)

表１　石器器種別集計表

器種記号	器種
a	石鏃
a2	尖頭器
b	石錐
c1	縦形石匙
c2	横形石匙
c3	粗製石匙
d	削器
e	使用痕剥片
f	石篦
f2	両面加工石器
g	掻器
h	打製石斧
I	両極石器
j	石器未製品
k	剥片
L	石核
o	原石
p	垂飾品

		a	a2	b	c1	c2	c3	d	e	f	f2	g	h	I	j	k	L	o	p	総計
PJ 28	早期末～前期初頭、坂平式	2												1		3	1			7
PJ 25	中越式	4							6				1	1	1	1	1			15
PJ 31	中越式	25		4		1		3	4				1	4	3	5	6			56
PJ 32	中越式							1	1						2		1			5
PJ 33	中越式	8		3		1		5	4					1		3	8			33
PJ 35	中越？					1														1
PJ 26	神ノ木式	8		1	1			1	3					3		7	1			25
PJ 36	神ノ木式	1											1							2
		48		8	1	3		10	18				3	10	6	19	18			144

		a	a2	b	c1	c2	c3	d	e	f	f2	g	h	I	j	k	L	o	p	総計
PJ 01	諸磯a～b2	5	1	2		1	1	4	3	1					3	3	9			33
PJ 02	諸磯b2	4		1					1					1	2		1			10
PJ 03	諸磯b2								2						1	1				4
PJ 06	諸磯a古～諸磯b1新	22		1	1	2	2	3	9		1			4	10	10	7			72
PJ 20	諸磯a	4	1			1		2	2						3	2				15
PJ 37	諸磯aか							1												1
		35	2	4	1	4	3	10	17	1	1			5	19	16	17			135

		a	a2	b	c1	c2	c3	d	e	f	f2	g	h	I	j	k	L	o	p	総計
PJ 27	中越式／諸磯	16		2	1	1		3	12					2	3	8	6			54
PJ 39	釈迦堂Z3（黒浜併行）～諸磯a	19		2				1	4						1	1				28
		35		4	1	1		4	16					2	4	9	6			82

		a	a2	b	c1	c2	c3	d	e	f	f2	g	h	I	j	k	L	o	p	総計
PJ 29	五領ヶ台式	1		1											1	1				4
PJ 18	井戸尻末～曽利Ⅰ					1	1		1			1	1			2	1			8
PJ 46	井戸尻末～曽利Ⅰ	1			1			3	3				1	3		2	2	1		17
PJ 04	曽利Ⅰ式？					1									1					2
PJ 05	曽利Ⅰ式	4	1	1	1	1		5	7			1	6		1	1	2			31
PJ 09	曽利Ⅰ	2		1		1		2				1	1		1					9
PJ 21	曽利Ⅰ新	1		1					3						1	2			1	9
PJ 12	曽利Ⅰ～Ⅱ	1						1	1		1		1	3	1					9
PJ 17	曽利Ⅰ～Ⅱ	6			1	1		5	2				6	5	1	1	1			29
PJ 34	曽利Ⅱ	11		3				3	6				1	5	2	2	1	1		35
PJ 24	曽利Ⅳ式	6		2				2	2				1	1	1	4				19
PJ 13	曽利Ⅴ式	9		4				2	6	1			1	1	8	1	2			35
		42	1	13	3	5	1	23	31	1	1	3	19	18	18	16	9	2	1	207

		a	a2	b	c1	c2	c3	d	e	f	f2	g	h	I	j	k	L	o	p	総計
PJ 22	－	2		1					1				1			1				6
PJ 47	－	1							2											3
土坑	－	16		1		1		8	3				7	4	5	4	3			52
ピット	－							1					1							2
トレンチ他	－				1			2					3	1		2				9
IG	－	7				2		3	6		1		10	3	4	4	4			44
遺跡一括	－	4						1	2		1		1	1	2	2				14
		30		2	1	3		15	14		2		23	9	11	13	7			130

	a	a2	b	c1	c2	c3	d	e	f	f2	g	h	I	j	k	L	o	p	総計
総計	190	3	31	7	16	4	62	96	2	4	3	45	44	58	73	57	2	1	698

住居出土石器図化資料

表 2　石器石材別集計表

		黒曜石	チャート	赤チャート	水晶	ホルンフェル	安山岩	頁岩	凝灰岩	砂岩	滑石	総計
早期末	a	45			1			2				48
前期前半	b	6						2				8
	c1							1				1
	c2		1					1	1			3
	d	6						2	2			10
	e	17							1			18
	h					2		1				3
	I	9				1						10
	j	5						1				6
	k	12						6	1			19
	L	17						1				18
計		117	1		1	3		17	5			144
前期後半	a	30		2	1			2				35
	a2	2										2
	b	3		1								4
	c1							1				1
	c2	1						2	1			4
	c3	1	1						1			3
	d	10										10
	e	17										17
	f	1										1
	f2	1										1
	I	5										5
	j	14	1			1		3				19
	k	12		1				3				16
	L	17										17
計		114	2	4	1	1		11	2			135
前期	a	33	1					1				35
	b	4										4
	c1							1				1
	c2					1						1
	d	3							1			4
	e	16										16
	I	2										2
	j	1						3				4
	k	8						1				9
	L	6										6
計		73	1			1		6	1			82
中期	a	38	1					2	1			42
	a2							1				1
	b	11	1			1						13
	c1	1	1			1						3
	c2	1				1	1	1	1			5
	c3					1						1
	d	11						7	5			23
	e	22				2		3	4			31
	f								1			1
	f2							1				1
	g	2						1				3
	h					4	2	5	7	1		19
	I	15				1		1		1		18
	j	12	5					1				18
	k	12				1		1	2			16
	L	4				2	1	2				9
	o	2										2
	p										1	1
計		131	8			14	4	26	21	2	1	207
総計		435	12	4	2	19	4	60	29	2	1	568

表 3　石器器種別集計表（土坑）

	a	b	c2	d	e	h	I	j	k	L	総計
DK 1	1			1				1	1		4
DK 12	1										1
DK 20						1					1
DK 21	1										1
DK 26	1										1
DK 43						1					1
DK 58	1										1
DK 59		1									1
DK 63							1				1
DK 71								1			1
DK 72				1							1
DK 75	1										1
DK 98									1		1
DK 114	1										1
DK 116										1	1
DK 125								1			1
DK 126	1					1					2
DK 131				1							1
DK 135	1				1		1	1		1	5
DK 147						1					1
DK 151						1					1
DK 152									1		1
DK 161							1				1
DK 171	1										1
DK 173								1			1
DK 178				1							1
DK 181	2			1							3
DK 182	1										1
DK 188					1						1
DK 205						1					1
DK 207				1							1
DK 208	1						1				2
DK 213	1								1	1	3
DK 214					1						1
DK 217	1			1							2
DK 231						1					1
DK 244				1							1
DK 251			1								1
総計	16	1	1	8	3	7	4	5	4	3	52

第４章　調査の成果と総括

発掘調査と整理作業の過程で気づいた点を記して、総括に代えたい。

第１章で触れたとおり、山崎第４遺跡がある北杜市大泉町は、縄文時代前期から中期の大規模集落遺跡が密集する地域である。天神遺跡では諸磯ｂ式からｃ式期の住居跡 49 軒、五領ヶ台式期の住居跡 12 軒が知られる。天神遺跡の南に隣接した寺所第２遺跡でも五領ヶ台式期の住居跡が少なからず検出されている。寺所第２遺跡は、中期を主体とした径 200m ほどの環状集落跡で、90 軒を超える住居跡が検出されている。その多くは中期前葉から中葉の集落跡である。甲ッ原遺跡は諸磯式期、中期中葉、曽利式期の環状集落跡が複合した遺跡で、北杜市域では遺跡面積、遺構数ともに最大規模と目される。こうした大規模遺跡のほか中小規模の縄文時代遺跡も多い。

山崎第４遺跡は、涸谷を挟んで天神遺跡と寺所第２遺跡に隣接する中規模集落遺跡と位置づけることができよう。継続期間から考えるとこれらの遺跡と密接に関連しながら営まれたものと思われる。ただし、前期では山崎第４遺跡に釈迦堂 Z3 式期から諸磯ａ式期の遺構が認められ、天神遺跡の先駆けとなって、この地で集落を経営したと考えることができる。

山梨県内では諸磯ｂ式期から遺跡数が増加するといわれている（山梨県 1999）。北杜市内でも諸磯ａ式期の遺跡は多くない。相反するように関東地方で遺跡数が減少し、遺跡の規模も縮小することから何らかの人口移動が想定されているが、山崎第４遺跡で土地利用の基礎を築いた集団が、やがてより広い尾根筋に集落を営み、天神遺跡へと連なったものであろう。

天神遺跡は、黒曜石の保有量が多いといわれている（大工原 2003）。八ヶ岳北麓、霧ヶ峰高原、諏訪湖周辺の黒曜石原産地から黒曜石を入手し、天神型石匙を製作して周辺地域へ供給したとされている。縄文時代前期から中期を通じて黒曜石交易は活発であるが、大泉町一帯が黒曜石流通に地の利があったために、大規模遺跡が継続して営まれた可能性もあろう。

大泉町一帯はちょうど標高 800m から 900m に位置する。八ヶ岳山麓を南麓の大泉町から西南麓、西麓へと等高線に沿うように移動すると古の甲信国境、立場川の深い河谷以外にはさしたる障害もなく移動することができる。これがもう少し標高の低い地点で移動しようとすると、八ヶ岳岩屑流の流山や小河川の谷筋に阻まれてしまう。八ヶ岳南麓から西麓に至る遺跡分布図をみると、やはり標高 900m ライン前後に、富士見町井戸尻遺跡群、原村の久保地尾根遺跡、前尾根遺跡、茅野市の茅野和田遺跡、棚畑遺跡、駒形遺跡などがほどよい間隔で分布していることが分かる（井戸尻考古館 2009）。継続性が長く規模も大きな遺跡群が営まれる拠点地域をつなぐようにして黒曜石が流通した可能性があり、山崎第４遺跡周辺は八ヶ岳南麓側の終着点にあたるのであろう。時代は下るが縄文時代晩期の著名な遺跡、史跡金生遺跡がこの地にあるのは偶然ではないように思われる。

山崎第４遺跡から南側には「大八田」と呼ばれる水田地帯が広がる。平安時代後半から中世にかけての八ヶ岳南麓の開発拠点となった土地柄で、甲斐源氏の祖、逸見冠者清光の居城と伝えられる史跡谷戸城跡は、山崎第４遺跡のすぐ西側にあたる。縄文時代と生業も自然環境も異なったであろうが、この地域の地理条件が、豊かで安全な自然環境を保証していたことが、大泉町の縄文時代遺跡の集中の第二の理由であろうか。

参考文献

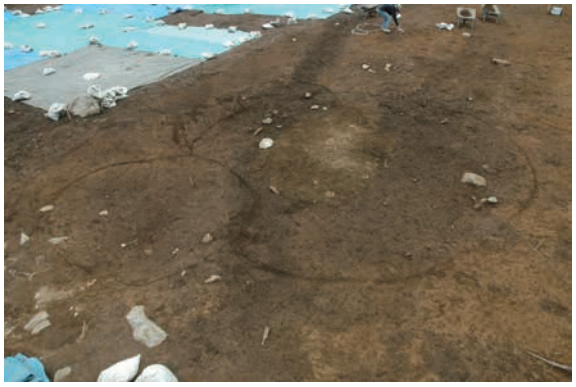
井戸尻考古館　2009 『井戸尻発掘五十周年記念講演録集』
大工原　豊　　2003 『ストーンロード　―縄文時代の黒曜石交易―』安中市ふるさと学習館
山　梨　県　　1999 『山梨県史資料編２　原始・古代２　考古(遺構・遺物)』

写真図版

調査地点遠景　南から

調査地点遠景　南から

調査地点遠景　西から



1 号～ 3 号住居　検出状況

1 号～ 3 号住居　埋土断面

1 号～ 3 号住居　埋甕炉検出状況

1 号～ 3 号住居　完掘状況　南から

4 号住居　完掘状況　南から

4 号住居　炉跡

5 号住居　検出状況

5 号住居　遺物出土状況

5 号住居　完掘状況　南から

6 号住居　検出状況　北東から

6 号住居　埋土断面

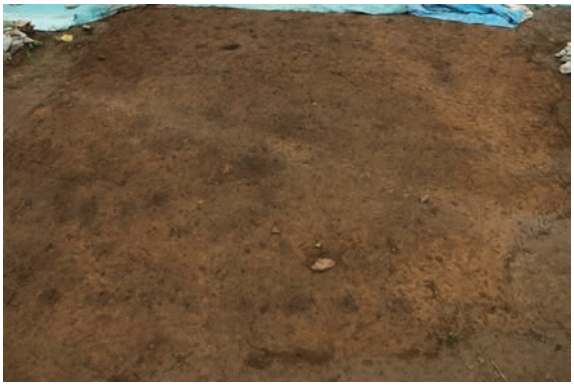
6b 号住居　埋土断面

6a 号・6b 号住居　検出状況

6 号住居　完掘状況　南東から

6 号・39 号・40 号住居　完掘状況　南から

13 号住居　炭化材検出状況



13 号住居　検出状況　南から

13 号住居　埋土断面　南から

13 号住居　炭化材・焼土検出状況　北東から

13 号住居　焼土と遺物の出土状況

13 号住居　焼土断面

13 号住居　埋甕と焼土

13 号住居　炉跡

13 号住居　埋甕検出状況

13 号住居　完掘状況　南から

9 号住居　検出状況　南から

9 号住居　埋土断面　南東から

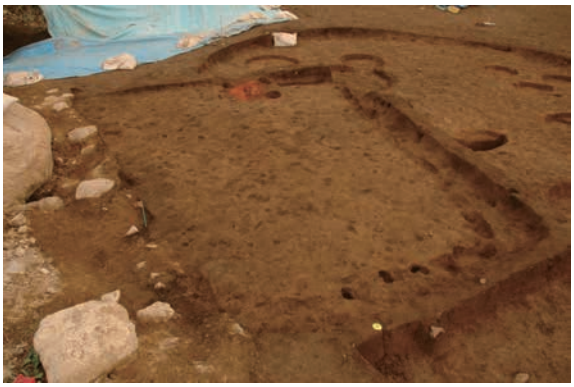
9 号住居　遺物出土状況　南東から

9 号住居　ヒスイ大珠出土状況

9 号住居　完掘状況

9 号住居　ヒスイ大珠出土状況

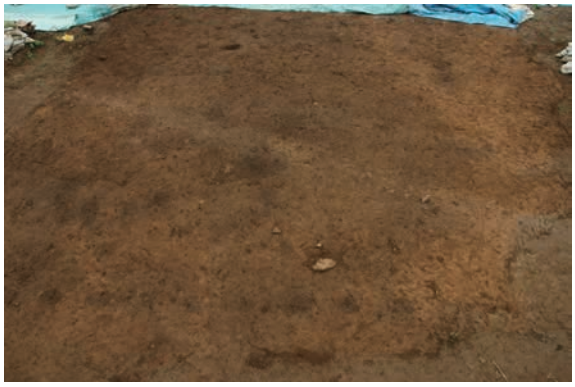
9 号住居　炉跡



10 号住居　完掘状況　西から

10 号住居　カマド検出状況

10 号住居　鉄鏃出土状況

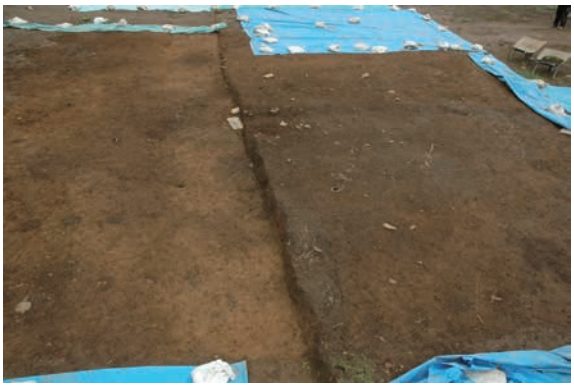


12 号住居　検出状況

12 号住居　炉跡

12 号住居　完掘状況

17 号住居　完掘状況　南から



17 号住居　検出状況　南から

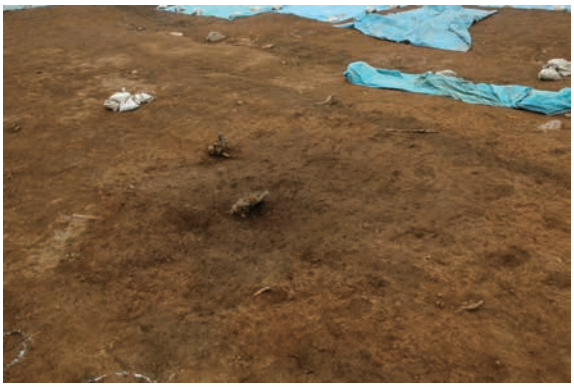
17 号住居　遺物出土状況　南から

17 号住居　炉跡　西から

18 号住居　検出状況　南から

18 号住居　炉跡　南から

18 号住居　完掘状況　南から



20 号住居　検出状況　南から

20 号住居　完掘状況　南から

21 号住居　検出状況　南から

21 号住居　炉跡

21 号住居　埋甕

21 号住居　完掘状況　南から

22 号住居　炉跡

24 号住居　検出状況　南東から

24 号住居　遺物出土状況　南東から

24 号住居　炉跡

24 号住居　地床炉

24 号住居　埋甕検出状況

24 号住居　完掘状況

25 号住居　検出状況　南から

25 号住居　検出状況　南から

25 号住居　完掘状況　南から

26 号住居　検出状況　南から

26 号住居　完掘状況　南から

34 号・36 号・37 号住居　検出状況　南から

36 号住居　完掘状況　東から

37 号住居　完掘状況　東から

34 号住居　埋甕上の遺物出土状況

34 号住居　確認時の状況　南から

34 号住居　焼土検出状況　東から

34 号住居　焼土断面　北から

34 号住居　炉跡と焼土

34 号住居　埋甕検出状況　北から

34 号住居　完掘状況　南東から

27 号住居　検出状況　南から

27 号住居　遺物出土状況

27・35 号住居　完掘状況　南から

28 号住居　検出状況　南東から

28 号住居　遺物出土状況　南西から

28 号住居　完掘状況　南西から

29 号・30 号住居　検出状況　北東から

29 号住居　埋甕炉　検出状況

30 号住居　埋甕炉　検出状況

30 号住居　西側の埋甕炉　検出状況

29 号・30 号住居　完掘状況　北東から

31 号住居検出状況　北から

31 号住居遺物出土状況　北東から

31 号住居地床炉

32 号住居　完掘状況　南東から

31 号住居　完掘状況　北西から

33 号住居　検出状況　北西から

33 号住居　完掘状況　西から

38 号住居　炉跡と遺物出土状況

38 号住居　完掘状況　南から

42 号住居　完掘状況　南から

43 号住居　完掘状況　西から

44 号住居　完掘状況　南から

45 号住居　完掘状況　南から

46 号住居　完掘状況　南から

46 号住居　炉跡

47 号住居　完掘状況　西から

48 号住居　完掘状況　南から

1 号土坑

2 号土坑　半截状況

2 号土坑

4 号土坑

5 号土坑

8 号土坑

39 号土坑　半截状況

39 号土坑

44 号土坑

62 号土坑　半截状況

62 号土坑　上層の遺物出土状況

62 号土坑　下層の遺物出土状況

71 号土坑　埋土断面

71 号土坑　完掘状況

72 号土坑

77 号土坑　検出状況　北西から

77 号土坑　半截状況　北から

77 号土坑　炭化物・骨片出土状況

77 号土坑　完掘状況　北西から

97 号土坑

112 号土坑　半截状況

112 号土坑　上層の礫出土状況

112 号土坑　下層の礫出土状況

112 号土坑　底面の土器出土状況

113 号土坑

119 号土坑

119 号土坑　半截状況

123 号土坑　半截状況

123 号土坑

127 号土坑　半截状況

127 号土坑

127 号土坑　礫と土器出土状況

130 号土坑　半截状況

130 号土坑

135 号土坑

137 号土坑

147 号土坑　半截状況

147 号土坑

151 号土坑　半截状況

151 号土坑　下層の遺物出土状況

151 号土坑　遺物出土状況

151 号土坑　下層の遺物出土状況

187 号土坑

200 号土坑

205 号土坑　半截状況

205 号土坑

207 号土坑　検出状況

207 号土坑　半截状況

207 号土坑より出土した焼礫

209 号土坑

213 号土坑

217 号土坑

229 号土坑

235 号土坑

243 号土坑

245 号土坑

252 号土坑

252 号土坑　半截状況

作業風景

作業風景

前期前葉の土器群

前期前葉から中葉の土器群

前期中葉の土器群

前期後葉の土器群（1）

前期後用の土器群（2）

前期末葉から中期初頭の土器群

中期中葉の土器群

9 号住居出土品

中期後葉の土器群

報告書抄録

ふりがな	やまざきだいよんいせき
書名	山崎第４遺跡
副題	公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告
シリーズ名	北杜市埋蔵文化財調査報告第 37 集
著者	佐野隆
発行機関	北杜市役所建設部・北杜市教育委員会
編集機関	北杜市教育委員会
所在地／電話	山梨県北杜市長坂町中丸 1996 番地　0551-42-1375
印刷所	株式会社サンニチ印刷　山梨県甲府市宮原町 608-1
発行日	2011（平成 23 年)年 3 月 31 日

ふりがな	やまなしけんほくとしおおいずみちょうにしいで
所在地	山梨県北杜市大泉町西井出 3000-2 番地ほか
位置	北緯 35°　51′　21″　東経 138°　23′　21″
調査原因	公営住宅建設
調査期間	平成 21 年 4 月 20 日から平成 21 年 11 月 27 日
調査機関	北杜市教育委員会
調査面積	4,940 ㎡
時期	縄文時代（前期・中期)、平安時代
主な遺構	縄文時代前期前葉から後葉の住居跡 20 軒、中期初頭から末葉の住居跡 15 軒、土坑 250 基、平安時代の住居跡 1 軒
主な遺物	縄文時代前期前葉中越式、神ノ木式、木島式、関山式、前期中葉釈迦堂 Z3 式、前期後葉諸磯式、北白川下層式、前期末葉十三菩提式併行、中期初頭五領ヶ台式～中期末葉曽利式の土器、石器、土偶、平安時代の土器、石器、金属製品
特記事項	天神遺跡に先行する諸磯式期の集落跡、小竪穴状の特異な墓坑 1 基、 ヒスイ大珠 1 点

北杜市埋蔵文化財調査報告第 37 集
山崎第４遺跡
公営住宅整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告

2011 年 3 月 25 日印刷
2011 年 3 月 31 日発行

発行　北杜市教育委員会
山梨県北杜市長坂町中丸 1996 番地
TEL（0551）42-1375

印刷　株式会社サンニチ印刷
山梨県甲府市宮原町 608-1